

取扱説明書

AMAZONE

UF 1002 **UF 1302**
UF 1602 **UF 2002**

コンフォートパッケージ CP 搭載の取り付け式スプレーヤー



MG6988
BAG00225.10 02.25
Printed in Germany

SmartLearning



初期設定を行う前に、
本取扱説明書をよくお読みください。
今後必要になる場合に備え、安全な場
所に保管してください。

ja



本書をよくお読みください

取扱説明書を読み、その内容を遵守することは面倒で余計なことだと思われるかもしれませんが、しかし、この機械が優良であると人から見聞きし、機械を購入し、後はすべて独りでうまくいくと信じるだけでは不十分です。それでは自分自身に損害を与えるだけでなく、意に反した作動が起きた場合の原因を自分ではなく機械のせいにもしかねません。良い成果を得るには、使い方を良く理解し、機械の各設備が持つ使用目的について知り、操作方法に精通する必要があります。そうすることで初めて、機械にも自分自身にも満足することができるのです。それを果たすことが、本取扱説明書の目的です。

ライプツィヒ

プラークヴィッツ、1872年



識別データ

メーカー: AMAZONEN-WERKE
H. DREYER SE & Co. KG

機械の識別番号:

タイプ: UF02

許容システム圧力 (bar) :

製造年:

工場:

基本重量 (kg) :

許容総重量 (kg) :

最大荷重 (kg) :

メーカーの所在地

AMAZONEN-WERKE
H. DREYER SE & Co. KG
Postfach 51
D-49202 Hasbergen/Germany
電話: + 49 (0) 5405 50 1-0
E-mail: amazone@amazone.de

交換部品の注文

交換部品のリストは、www.amazone.de の交換部品ポータルで自由に閲覧可能です。

担当の AMAZONE 代理店にご注文ください。



文書番号： MG6988

編集日： 02.25

© Copyright AMAZONEN-WERKE H. DREYER SE & Co. KG, 2025

All rights reserved.

AMAZONEN-WERKE H. DREYER SE & Co. KG の許可なく本書の一部または全部を複製することを禁じます。

本取扱説明書は、機械の全バージョンに対して有効です。

全ての装備が、追加装備との区別無く記載されています。

このため、お客様の機械に取り付けられていない装備や特定の国・地域でしか入手できない装備についても、記載されている可能性があります。お客様の機械の装備については、納品書を確認するか、販売店に詳細をお問い合わせください。

本取扱説明書の内容は、全て締め切り時点の情報に基づいています。機械の開発は継続されているため、機械と本取扱説明書の内容に相違が生じることがあります。

内容や図、記述が異なるという理由では、いかなる請求も行うことはできません。

掲載図は概略を示すものであり、模式図とお考えください。

お客様が機械を売却する際は、機械に取扱説明書が付属していることをご確認ください。

はじめに

顧客の皆様

このたびは、弊社 AMAZONEN-WERKE, H. DREYER SE & Co. KG の高品質で豊富な製品の中から当機をお選びいただき、ありがとうございます。そのご信頼に対し深く御礼申し上げます。

機械を受け取ったら、輸送中に損傷を受けていないか、また部品がすべて揃っているか確認してください。納品書と照らし合わせ、注文した特殊装備も含め、すべてが機械に備わっていることを確認してください。ただちに問題を指摘していただかないと、不具合を修正することができません。

初期設定を行う前に、本取扱説明書（特に安全に関する注意事項）をよく読み、十分に理解してください。注意深くお読みいただき初めて、ご購入いただいた機械のすべての長所が活用可能になります。

初期設定を行う前に、機械を操作する人が全員、本取扱説明書を読んだことを確認してください。

不明点や疑問点がある場合は、本取扱説明書を参照するか、担当の弊社サービスパートナーまでお問い合わせください。

定期的にメンテナンスを実施し、磨耗部品や損傷部品を適宜交換することで、機械の寿命を伸ばすことができます。

ユーザーからの評価

読者の皆様

弊社では定期的に取り扱説明書をアップデートしております。よりユーザー本位の取扱説明書に改良していくため、皆様からのご意見は大変参考になります。

AMAZONEN-WERKE

H. DREYER SE & Co. KG

Postfach 51

D-49202 Hasbergen / Germany

電話： + 49 (0) 5405 50 1-0

E-mail: amazone@amazone.de

1	ユーザー向けの情報	12
1.1	本書の目的	12
1.2	本取扱説明書での位置の記載	12
1.3	使用している記号	12
2	一般的な安全上の注意事項	13
2.1	義務と責任	13
2.2	安全に関する記号の意味	16
2.3	組織としての対策	17
2.4	安全・保護装置	17
2.5	通常の安全対策	17
2.6	ユーザートレーニング	18
2.7	通常の操作時の安全対策	19
2.8	残留エネルギーによる危険	19
2.9	メンテナンス 修理作業、不具合の修正	19
2.10	設計変更	20
2.10.1	交換 磨耗部品および補助装置	20
2.11	清掃および廃棄処分	21
2.12	ユーザーの操作場所	21
2.13	機械上の警告マークとその他の記号	22
2.13.1	警告マークとその他の記号の位置	23
2.14	安全上の注意事項を守らないことによる潜在的な危険	33
2.15	安全を重視した作業	33
2.16	ユーザーのための安全上の注意事項	34
2.16.1	安全および事故防止のための一般的な注意事項	34
2.16.2	油圧系統	38
2.16.3	電気系統	39
2.16.4	PTO の運転	40
2.16.5	スプレーヤーの操作	42
2.16.6	清掃、メンテナンス、修理	44
3	機械を積載する	46
3.1	クレーンで機械を積載する	46
3.2	機械をラッシングする	47
4	製品の説明	48
4.1	各種アセンブリの概要	48
4.2	安全・保護装置	50
4.3	トラクターと機械の間の供給ライン	51
4.4	走行用の装備	51

4.5	使用目的	52
4.6	定期的な装置の点検	53
4.7	ある種の農薬を使用することの影響	53
4.8	危険区域と危険箇所	54
4.9	銘板と	55
4.10	適合	55
4.11	技術的に最大可能な散布量	55
4.12	最大許容散布量	56
4.13	技術データ	57
4.13.1	機械本体	57
4.13.2	散布システム	58
4.13.3	残留物	60
4.13.4	積載重量	62
4.14	必要なトラクター装備	63
4.15	騒音発生データ	64
5	機械本体の構造と機能	65
5.1	機能	65
5.2	制御装置	67
5.2.1	混入容器	73
5.2.2	混入容器の切り替え栓	74
5.3	パーキングサポート	75
5.4	3点結合	76
5.5	クイックカップリングシステム	78
5.6	プロペラシャフト	79
5.6.1	プロペラシャフトの連結	82
5.6.2	プロペラシャフトの連結解除	83
5.7	油圧接続	84
5.7.1	油圧ホースラインの連結	86
5.7.2	油圧ホースラインの連結解除	87
5.8	操作端末/操作コンピュータ	88
5.8.1	AMASPRAY+	89
5.9	マルチファンクションハンドル AmaPilot+	89
5.10	散布液タンク	90
5.10.1	散布液タンク充填用の吸引ホース	91
5.11	洗浄水タンク	92
5.12	ハンドウォッシュ装置	93
5.13	ポンプ装置	94
5.14	フィルター装置	96
5.14.1	吸引フィルター	96

5.14.2	自浄式圧力フィルター	97
5.14.3	ノズルフィルター	98
5.15	外部洗浄装置	99
5.16	作業灯	100
5.17	フロントタンク FT 1001 / FT1502	100
5.18	カメラシステム	101
5.19	個人用保護具 Safety Kit	102
6	スプレーヤーブームの構造と機能.....	103
6.1	Super S ブーム	109
6.1.1	走行安全用留め具のロックおよびロック解除	110
6.1.2	Super S ブーム、トラクター制御装置による展開・折り畳み	111
6.2	Q plus ブーム	113
6.2.1	走行安全用留め具のロックおよびロック解除	114
6.2.2	Q plus ブーム、トラクター制御装置による折り畳み・展開	115
6.2.3	右側のサイドアームによる片側での作業	116
6.3	外側サイドアームの削減用ジョイント	117
6.4	ブーム幅縮小	118
6.5	延長ブーム	119
6.6	油圧式の傾き調節	120
6.7	DistanceControl / ContourControl	120
6.8	散布ライン	121
6.9	ノズル	123
6.9.1	マルチノズル	124
6.9.2	境界ノズル	126
6.10	自動の個別ノズル切り替え	127
6.10.1	個別ノズル切り替え AmaSwitch	127
6.11	液体肥料についての特別オプション装備	128
6.11.1	3 線ノズル	128
6.11.2	7 穴ノズル / FD ノズル	129
6.11.3	液体肥料用のドラッグホースユニット	130
7	初期設定.....	131
7.1	散布液タンク内の不凍液	132
7.2	トラクターの適正を確認	132
7.2.1	トラクターの総重量、軸荷重、タイヤの許容負荷、必要な最小パラスト値の実際の値の計算	133
7.3	プロペラシャフトの取り付け	138
7.4	トラクターにプロペラシャフトの長さを適合させる	139
7.5	トラクター/機械が意図せず作動したり、走り出すことのないように固定してください	142
7.6	油圧系統の設定	144

8	機械の連結と連結解除	146
8.1	機械の連結.....	146
8.1.1	クイックカップリングシステム搭載の機械を連結.....	149
8.2	機械の連結解除.....	152
8.2.1	クイックカップリングシステム搭載の機械を連結解除.....	153
9	輸送走行	154
10	制御装置のコンフォートパッケージ用ツインターミナル	156
11	機械の使用	159
11.1	散布作業の準備.....	162
11.2	散布液を準備.....	163
11.2.1	充填/補充量の計算.....	167
11.2.2	残り散布範囲のための充填表.....	169
11.3	散布液の充填.....	170
11.3.1	ツインターミナル充填スキーム.....	170
11.3.2	吸込口からの散布液タンク充填.....	171
11.3.3	圧力接続部による散布液タンクの充填.....	176
11.3.4	アジテーターの設定.....	177
11.4	薬剤の混入.....	178
11.5	容器から散布剤を吸引（Closed Transfer System）.....	181
11.6	圧力接続部による洗浄水タンクの充填.....	182
11.7	散布作業.....	183
11.7.1	散布液の散布.....	186
11.7.2	アジテーターを ON にした状態での圃場への走行.....	187
11.7.3	ドリフト低減対策.....	187
11.7.4	洗浄水を用いた散布液の希釈.....	187
11.7.5	連続内部清掃.....	188
11.8	残留物.....	189
11.8.1	散布作業終了時における、希釈した残留物の散布.....	190
11.8.2	ポンプによる散布液タンクの排出.....	191
12	使用後の機械清掃	192
12.1	空のスプレーヤーのクイック清掃.....	193
12.2	空のスプレーヤーの集中清掃.....	194
12.2.1	最終残留物の排出.....	196
12.3	化学清掃の実施.....	197
12.4	吸引フィルターの清掃.....	198
12.5	圧力フィルターの清掃.....	200
12.6	散布液タンクが一杯の状態です散布ブームを洗浄する.....	202
12.7	外部の清掃.....	203

13	不具合	204
13.1	ノズルやノズルフィルターの詰まりを取り除く	206
13.2	ノズルの液だれを解決する	207
13.3	システム内の石灰化を除去	208
14	清掃、メンテナンス、修理	210
14.1	清掃	212
14.2	冬季の保管および長期間使用しない場合	213
14.3	注油規定	217
14.4	上昇させたブームの固定	218
14.5	メンテナンス計画 – 概要	219
14.6	油圧系統	221
14.6.1	油圧ホースラインの記号	223
14.6.2	メンテナンス間隔	223
14.6.3	油圧ホースライン用の検査基準	224
14.6.4	油圧ホースラインの取り付けと取り外し	224
14.6.5	油圧オイルフィルターの点検	226
14.6.6	マグネット弁の清掃	227
14.6.7	油圧プラグのフィルター の清掃 / 交換	228
14.7	油圧スロットルバルブの調整	229
14.7.1	Q Plus ブーム	230
14.7.2	Super S ブーム	231
14.8	展開したスプレーヤーブームでの設定	233
14.9	ポンプ	234
14.9.1	オイル量の点検	234
14.9.2	オイル交換	235
14.9.3	吸引側および圧力側のバルブの点検と交換	236
14.9.4	ピストンダイヤフラムの点検と交換	237
14.10	スプレーヤーのキャリブレーション	240
14.11	ラインフィルター	242
14.12	個別ノズル切り替えのダイヤフラムを交換する	243
14.13	スプレーヤーのテストに関する注意事項	244
14.14	上側リンクピンおよび下側リンクピンのチェック	247
14.15	ボルト締め付けトルク	248
14.16	スプレーヤーの廃棄	249
15	液体回路	250
16	散布表	254
16.1	各種ノズル（フラットファン、ドリフト防止、インジェクタ、空気混合の各タイプ）につ いての散布表、散布高さ 50 cm	254
16.2	液体肥料向けの散布ノズル	258
16.2.1	3 線ノズルについての散布表、散布高さ 120 cm	258
16.2.2	7 穴ノズルの散布表	260
16.2.3	FD ノズルの散布表	262



16.2.4	ドラッグホースユニットの散布表	264
16.3	硝酸アンモニウム/尿素溶液 (AUS) 液体肥料噴霧換算表	267

1 ユーザー向けの情報

この「ユーザー向けの情報」の章では、本取扱説明書の使い方について説明します。

1.1 本書の目的

本取扱説明書について

- 本書には機械の操作方法・メンテナンスが記載されています。
- 本書には機械の安全で効率的な操作方法が記載されています。
- 本書は機械を構成する一部です。つねに機械または牽引車両と一緒に保管する必要があります。
- 今後必要になる場合に備え、安全な場所に保管してください。

1.2 本取扱説明書での位置の記載

本取扱説明書に書かれている方向は、すべて進行方向を基準としています。

1.3 使用している記号

操作手順と操作結果

ユーザーが実施しなければならない操作手順には、番号が振られています。記載されている順序を必ず守ってください。操作結果は、矢印で示されています。例：

1. 操作手順 1

→ 操作手順 1 に対する操作結果

2. 操作手順 2

リスト

順番が重要ではないリストは、黒丸で箇条書きになっています。例：

- ポイント 1
- ポイント 2

図中の番号

丸カッコに入った数字は、図中のアイテム番号を示しています。

例：(6) = 位置 6

2 一般的な安全上の注意事項

本章では、機械の安全な操作に関する重要な情報が記載されています。

2.1 義務と責任

本取扱説明書の指示をお守りください

機械を安全に、かつ正常に操作するためには、基本的な安全上の注意事項と安全規則に関する知識が基本条件となります。

オペレーターの義務

オペレーターは、機械を使って作業する人々が以下の行動を取るように管理する義務を負います。

- 基本的な作業場での安全上の注意事項と事故防止規則を守ること。
- 機械を使った作業方法について訓練を受けること。
- 本取扱説明書を読み、理解すること。

オペレーターは以下の義務を負います。

- 機械に取り付けられているすべての警告マークを判読可能な状態に維持すること。
- 損傷した警告マークは交換すること。
- ご不明な点があればメーカーまでお問い合わせください。

ユーザーの義務

機械を使って作業する人は全員、作業を開始する前に以下の行動を取る義務を負います。

- 基本的な作業場での安全上の注意事項と事故防止規則を守ること。
- 本取扱説明書の「一般的な安全上の注意事項」の章を読み、守ること。
- 本取扱説明書の「機械上の警告マークとその他の記号」の章（22 ページ）を読み、機械を操作するときは警告マークが表している安全上の注意事項を守ること。
- ご不明な点がありましたら、メーカーまでお問い合わせくだ

さい。

- 本取扱説明書での、与えられた作業義務の遂行に重要となる章を読むこと。

ユーザーが設備に安全技術上の不備があると気づいた場合は、これをすみやかに取り除いてください。ユーザーの作業義務の範囲を超える場合、またはユーザーが相応の専門知識を有していない場合は、管理者（オペレーター）にこの不備を通知してください。

機械取り扱い時の危険

本機械は最先端技術を駆使し、広く認められている安全規則を踏まえて製造されています。しかし、機械の操作は潜在的な危険を伴うものであり、以下のものに損害を与える可能性があります。

- ユーザーまたは第三者の健康と安全
- 機械
- その他の所有物

本機械を使用する場合は必ず、

- 本来の使用目的で使用してください。
- 完璧に修理された状態で使用してください。

安全性を損なう恐れのある不具合はただちに修理してください。

保証と賠償

弊社の「販売および納入の一般条件」が常に適用されます。これは遅くとも契約締結時までにオペレーターに提示されます。以下の1つ以上の事由に原因が求められる場合は、人的および物的損害に対する保証および賠償請求は無効となります。

- 機械の不適切な使用
- 機械の不適切な取り付け、初期設定、操作およびメンテナンス
- 安全装置に不具合がある状態または不適切に取り付けた状態、もしくは安全装置が機能しない状態で、機械を操作した場合
- 初期設定、操作およびメンテナンスに関する本取扱説明書の指示を無視した場合
- 無許可での機械の設計変更
- 磨耗する可能性のある機械部品を十分に監視していなかった場合
- 不適切に修理を実施した場合
- 不可抗力または異物の衝突による災害

2.2 安全に関する記号の意味

安全上の注意事項は、三角形の安全マークと目立つ警告文字によって表示されています。警告文字（危険、警告、注意）は、危険の度合いを表し、以下の意味があります。



危険

回避しなければ死亡または重傷（体の一部の損失または長期の傷害）を招くことになる、差し迫った高い危険を示します。

指示に従わなかった場合、ただちに死亡または重傷を負うことになります。



警告

回避しなければ死亡または（命にかかわる）重い怪我を招く可能性がある、中程度の危険を示します。

指示に従わなかった場合、死亡または命にかかわる重い怪我を負う可能性があります。



注意

回避しなければ軽傷または中程度の怪我や物的損害を招く恐れのある低い危険を示します。



重要

機械を正しく操作するために必要な行動や、義務付けられる特別な行為を示します。

これらの指示に従わないと、機械の不具合や環境への悪影響を招く恐れがあります。



注記

操作のヒントや特に役立つ情報を示します。

これらの指示は、お使いの機械のすべての機能を最大限に活用するのに役立ちます。

2.3 組織としての対策

オペレーターは、使用する農薬についてメーカーが提供する情報に基づき、以下のような必要な個人用保護具を提供する必要があります。

- 耐薬品性の手袋
- 耐薬品性のオーバーオール
- 耐水性のある靴
- 安全マスク
- 呼吸保護
- 保護メガネ
- 皮膚の保護剤、その他



本取扱説明書は、

- 必ず機械を操作する場所に保管してください。
- つねにユーザーとメンテナンス補助者が容易に閲覧できるようにしてください。

すべての安全装置を定期的に点検してください。

2.4 安全・保護装置

機械を作動させる前に毎回、すべての安全・保護装置が正しく取り付けられ、完全に機能することを確認してください。すべての安全・保護装置を定期的に点検してください。

故障した安全装置

安全・保護装置が故障していたり、取り外されていると、危険な状況を招く恐れがあります。

2.5 通常の安全対策

本取扱説明書に記載のすべての安全上の注意事項に加え、一般的な各国の事故防止および環境保護に関する規則を順守してください。

公道を走行する場合は、各国の道路交通法を守ってください。

2.6 ユーザートレーニング

トレーニングを受け、指示を受けた人だけが、機械を使って作業することができます。操作およびメンテナンス作業を担当する人の責任を明確にする必要があります。

現在トレーニング中の人は、必ず経験を積んだ人の監督のもとで、機械を使った作業を行ってください。

作業	人	当該作業について専門的なトレーニングを受けた人 ¹⁾	訓練を受けたユーザー ²⁾	専門トレーニングを受けた人(専門工場*) ³⁾
積載/運搬		X	X	X
初期設定		--	X	--
セットアップ、部品の設置		--	--	X
操作		--	X	--
メンテナンス		--	--	X
故障解決 不具合の修正		X	--	X
廃棄処分		X	--	--
記号の意味：		X..可能	--..禁止	

1) 特定の作業を引き受けることができ、しかるべき資格のある会社のためにこの作業を実施することができる人。

2) 使い方を教わった人とは、割り当てられた作業の内容や、不適切な行動を取った場合に起こりうる危険について教わり、必要に応じてトレーニングを受け、必要な保護具と保護対策についての知識を持った人のことです。

3) 専門家としての技術トレーニングを受けた人は、専門家と見なされます。専門トレーニングを受け、該当する規則についての知識を持っているため、担当する作業について判断し、潜在的な危険を察知することができます。

備考：

専門トレーニングは、該当する分野での数年間に及ぶ経験から得られる能力に匹敵します。



機械のメンテナンス・修理作業について「工場での作業」と書かれている場合は、その作業は専門工場だけが実施可能です。専門工場の作業者は、適切かつ安全な方法で機械のメンテナンス・修理作業を実施するための、適切な知識と最適な補助装置（工具、リフトおよびサポート機器）を所有しています。

2.7 通常の操作時の安全対策

機械の操作は、すべての安全・保護装置が完全に機能する場合のみ、行ってください。

少なくとも毎日1回、外観上、機械に損傷がないか点検し、安全保護装置の機能を点検してください。

2.8 残留エネルギーによる危険

機械には、機械、油圧、空気圧、電気/電子的な残留エネルギーが残っている場合がありますので、注意してください。

適切な手段を使って、操作補助者に周知してください。詳細については、本取扱説明書の該当する章を参照してください。

2.9 メンテナンス 修理作業、不具合の修正

指定された設定、メンテナンス検査作業を適切な時期に実施してください。

コンプレッサや油圧系統などのすべての媒体が不意に作動しないよう、安全を確保してください。

交換作業を実施する際には、大型のアセンブリは入念にリフト装置に固定してください。

ボルトの締め付けを定期的に点検し、必要に応じて締め直してください。

メンテナンス作業の終了後、安全装置が正しく機能するか点検してください。

2.10 設計変更

AMAZONEN-WERKE による許可なく、機械を変更、拡張または改造してはなりません。このことは、支持部品を溶接する場合にも当てはまります。

一切の拡張または改造作業は、AMAZONEN-WERKE の書面による承認が必要です。AMAZONEN-WERKE が承認した改造および付属部品だけを使用してください。これは、例えば、国内および国際規制に準拠して型式承認が有効であり続けるようにするためです。

正式な型式承認を得ている車両、または有効な型式承認もしくはドイツ道路交通法に基づく道路交通の承認を得た車両に取り付けられる装置は、当該承認により指定された状態でなければなりません。



警告

支持部品の故障による、つぶれ、切断、閉じ込め、引き込まれ、または衝撃の危険。

以下のことは固く禁止されています。

- フレームやシャシーにドリルで穴を開けること
- フレームやシャシーの既存の穴のサイズを拡大すること
- 支持部品を溶接すること

2.10.1 交換 磨耗部品および補助装置

完璧な状態ではない機械部品は、ただちに交換してください。

AMAZONEN-WERKE による純正部品、または AMAZONEN-WERKE が許可した交換部品および消耗部品以外は使用しないでください。第三者による交換部品や消耗部品を使用した場合、要求に即しかつ安全上正しく設計され製造された保証はなくなります。

AMAZONEN-WERKE は、未承認の交換・磨耗部品または補助装置を使用したことで生じた損害については、一切責任を負うことができません。

2.11 清掃および廃棄処分

使用済み物質の取り扱いと廃棄処分については、慎重に行ってください。特に、

- 潤滑システムのシステムおよび装備について作業を行うとき、および
- 溶剤を使って清掃を行うとき

2.12 ユーザーの操作場所

本機械は、トラクターの運転席に座っている 1 人の人だけが操作可能です。

2.13 機械上の警告マークとその他の記号



機械に取り付けられている警告マークはすべて、常に清潔で判読可能な状態に維持してください。判読できない警告マークは交換してください。警告マークは、注文番号（例：MD075）を使って代理店から取り寄せてください。

警告マーク - 構成

警告マークは、機械の危険エリアを示し、残されている危険について警告するためのものです。これらのエリアでは、たえまない危険や予期せぬ危険があります。

警告マークは次の2つの欄で構成されます。



欄 1

三角形の安全マークで囲まれた、どのような危険かを示すマークです。

欄 2

危険回避の方法を示したマークです。

警告マーク - 説明

注文番号と説明の欄は、隣の警告マークに対する説明です。警告マークの説明は、つねに以下の順になっています。

1. 危険の説明。

例：切断の危険！

2. 危険回避に対する指示を守らないことによる影響。

例：手や指に重傷を負う原因となります。

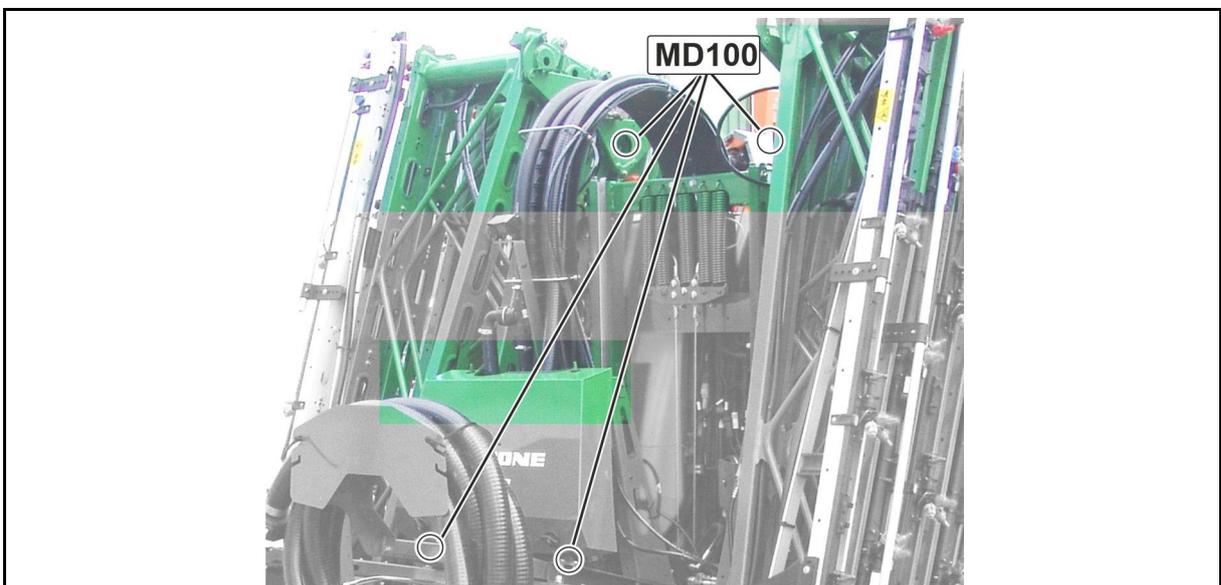
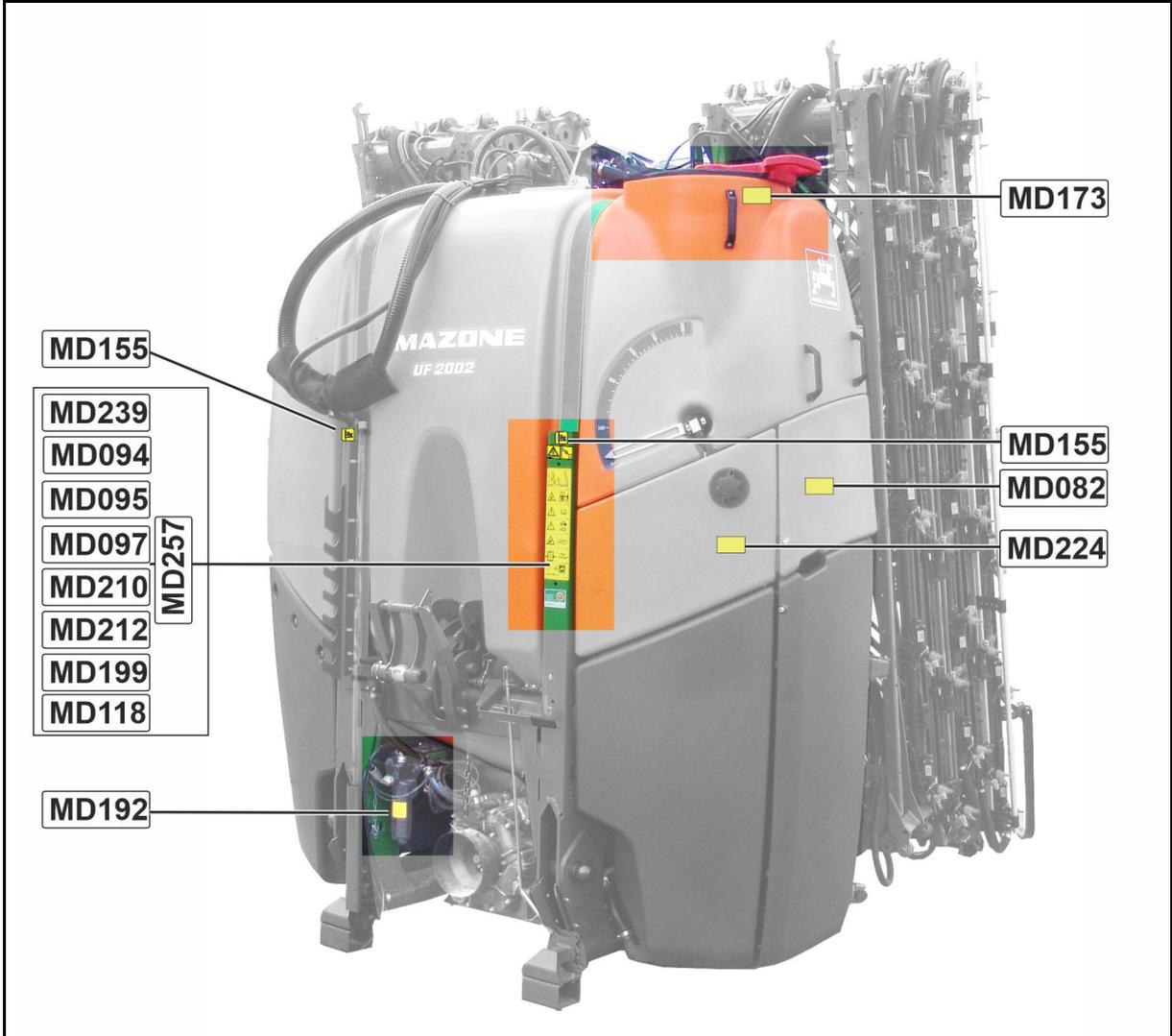
3. 危険回避のための指示。

例：機械部品に触れるときは、完全に動かなくなるまで待ってください。

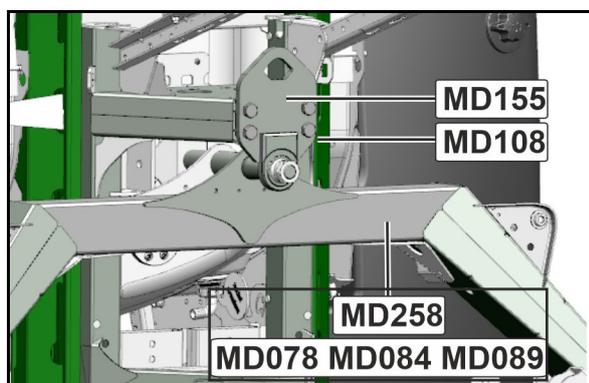
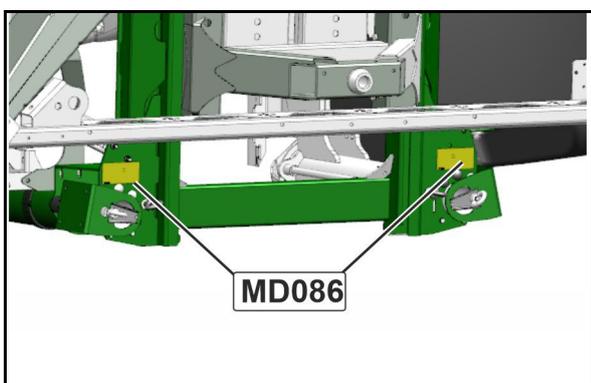
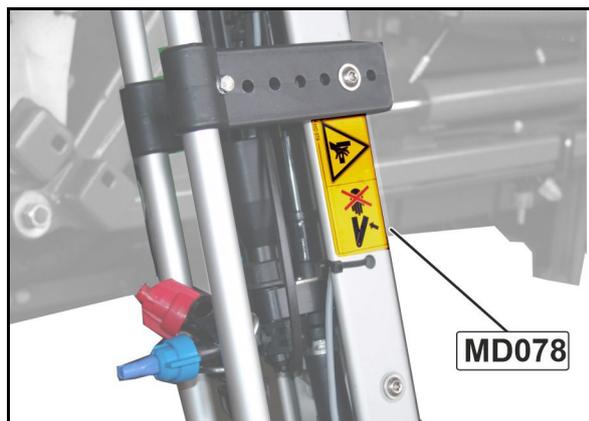
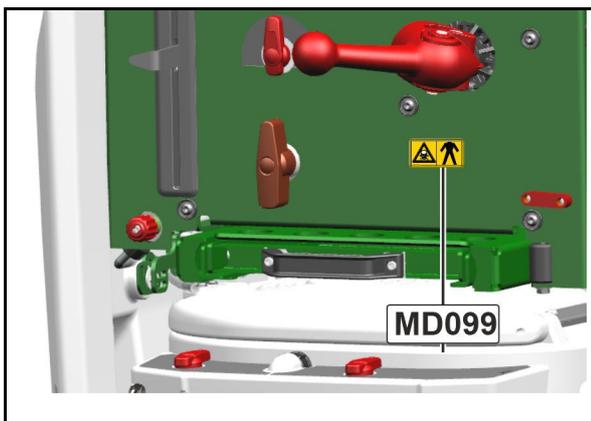
2.13.1 警告マークとその他の記号の位置

警告マーク

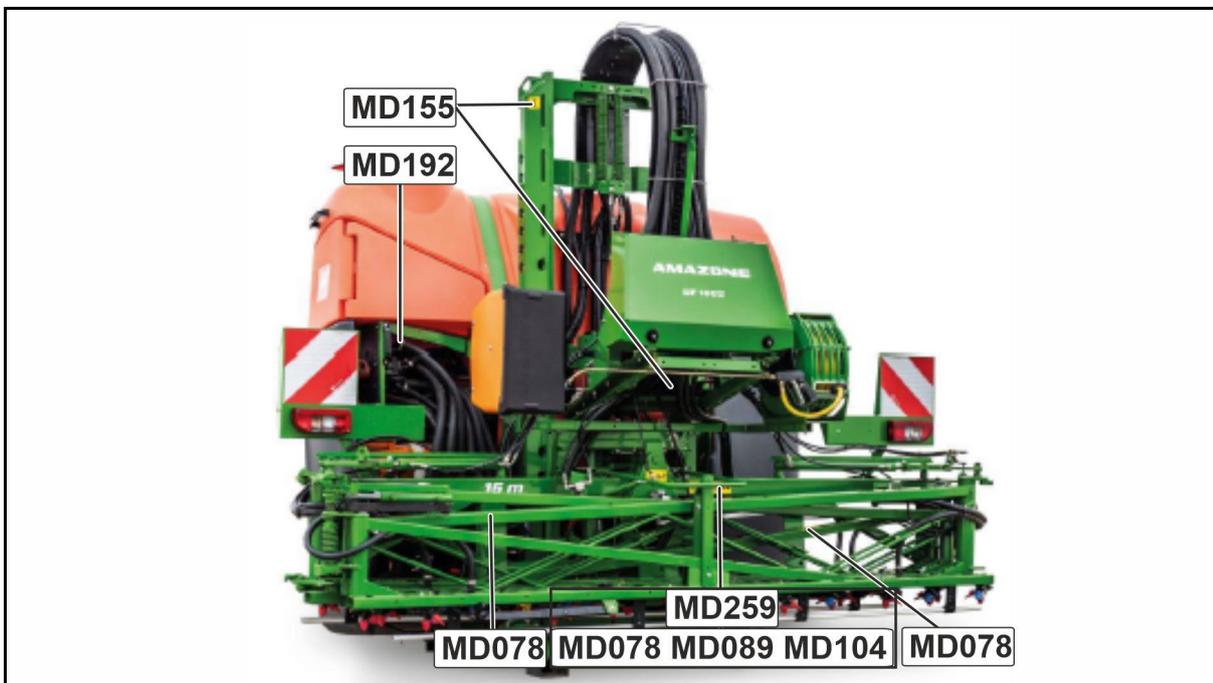
次の図は、機械における警告マークの設置場所を示したものです。



Super S ブーム



Q-Plus- ブーム



注文番号と説明

警告マーク

MD 078

機械の接近可能な可動部品による、指または手をつぶしてしまう危険。

この危険は、深刻な重傷を負い、手足を失う原因となる可能性があります。

トラクターのエンジンの作動中およびプロペラシャフト/油圧系統/電子系統が接続されている間は、絶対に危険区域には手を伸ばさないでください。



MD 082

踏み台や台に乗って移動するときに、落下する危険があります。

体の一部に重傷や場合によっては致命傷を負う原因となります。

機械の上に乗って移動したり、走行している機械の上に乗ることは禁じられています。踏み板または台が装備された機械の場合も同様です。

機械の上に誰も乗っていないことを確認してください。



MD084

機械部品の下降中に旋回範囲内に立っていることにより、体全体が押しつぶされる危険。

体の一部に重傷や場合によっては致命傷を負う原因となります。

- 機械部品の下降中に機械の旋回範囲内に立っていることは禁止されています。
- 部品を下降する前に、下降する可能性のある機械部品の旋回範囲から外に出るように補助者に指示してください。



MD086

上昇させた機械部品を固定しないまま、その下に立ち入る場合、体全体が押しつぶされる危険があります。

体の一部に重傷や場合によっては致命傷を負う原因となります。

上昇させた機械部品の下の危険エリアに立ち入る前に、不意に降下することがないように、上昇させた機械部品を固定してください。

このために機械的な支持装置または油圧式の遮断装置を使用してください。

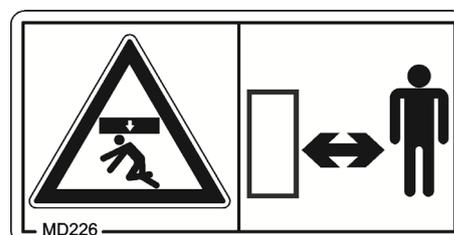


MD 089

吊り下げた物や上昇した機械部品の下に立っていることにより、体全体が押しつぶされる危険。

体の一部に重傷や場合によっては致命傷を負う原因となります。

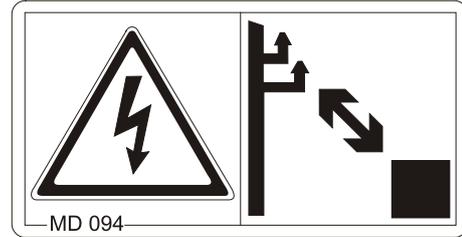
- 吊り下げた物や上昇した機械部品の下に立つことは禁止されています。
- 吊り下げた物や上昇した機械部品からは十分に安全な距離を取って離れてください。
- 吊り下げた物や上昇した機械部品から補助者全員が十分に安全な距離を取って離れていることを確認してください。



MD094

架空送電線による危険

- 機械が決して架空送電線に触れないようにしてください。
- 特に機械部分を折り畳んだり展開する際には、架空送電線から十分な安全距離を保ってください。
- 距離が近すぎる場合にも、電圧がフラッシュオーバーする可能性があることに注意してください。
- 事前に現場の架空送電線とそれに伴う危険を確認してください。

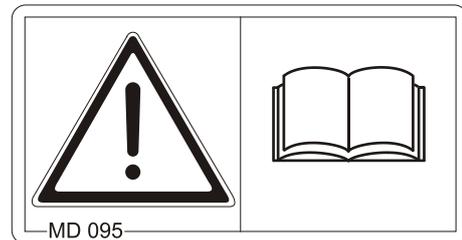


定格電圧 送電線からの安全な距離

～ 1 kV	1 m
1 ～ 110 kV	2 m
110 ～ 220 kV	3 m
220 ～ 380 kV	4 m

MD095

機械を作動させる前に、本取扱説明書と安全に関する注意事項をよく読み、指示を守ってください！



MD 097

3点式油圧システムを操作する際に、3点式吊り上げシステムの後部エリアに留まることにより、体全体が押しつぶされる危険があります。

体の一部に重傷や場合によっては致命傷を負う原因となります。



- 3点式油圧システムを作動させる際に、3点式吊り上げシステムの後部エリアに立ち入ることは禁じられています。
- トラクターの3点式油圧システム用操作部での操作は以下に従ってください。
 - 所定の操作場所でのみ操作
 - トラクターと機械間のリフトエリアにいる場合には、絶対に操作しないでください。

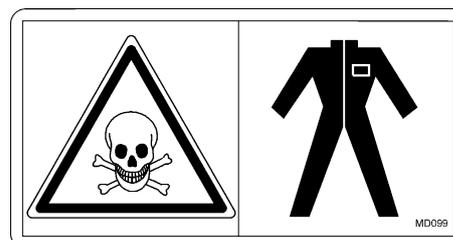
MD099

不適切な取り扱いにより、危険物質に触れる危険。

体の一部に重傷や場合によっては致命傷を負う原因となります。

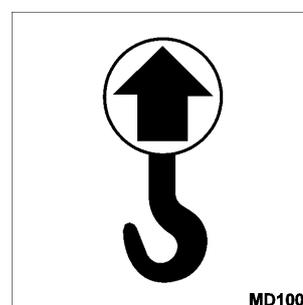
個人用保護具を着用してください

危険物質に触れる前に、防護服を着用してください。取り扱う物質に関するメーカーによる安全上の注意事項を守ってください。



MD100

このマークは、機械積載時に固定具を固定するためのポイントを示します。

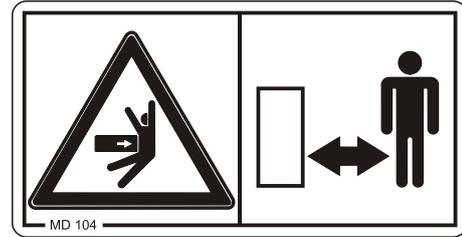


MD 104

機械側面の可動部品の旋回範囲内に立っていることにより、体全体が押しつぶされたり衝撃を受けたりする危険があります。

この危険は、深刻な重傷や場合によっては致命傷の原因となる可能性があります。

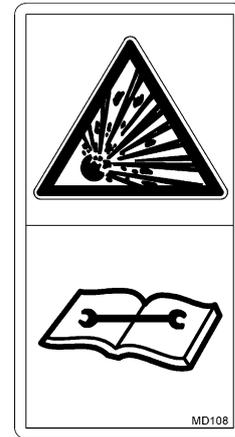
- トラクターのエンジンの作動中は、可動機械部品から十分に安全な距離を取って離れてください。
- 可動機械部品からスタッフ全員が十分に安全な距離を取って離れていることを確認してください。



MD108

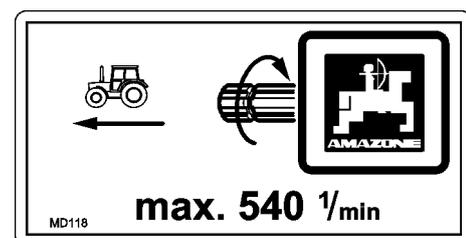
加圧された油圧アキュムレータの不適切な取り扱いによる、深刻な負傷

- 加圧された油圧アキュムレータは、必ず資格を有する専門工場での点検および修理してください。



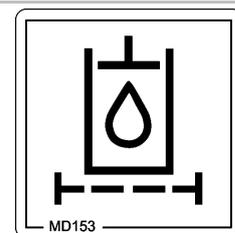
MD 118

このマークは、最大ドライブ回転数（最大 540 min⁻¹）と機械側ドライブシャフトの回転方向を示します。



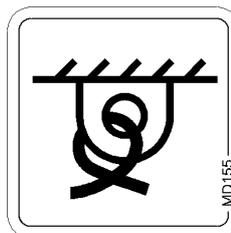
MD 153

このマークは油圧オイルフィルターを示します。



MD155

このマークは、本機械を安全に運搬できるように、本機械を運搬車両につなぎ留めておくための固定ポイントを示します。

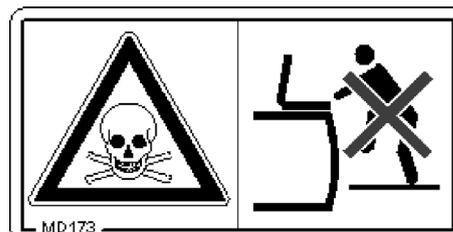


MD173

散布液タンク内の有毒な蒸気が原因となる、健康に有害な物質を吸い込む危険。

体の一部に重傷や場合によっては致命傷を負う原因となります。

決して散布液タンクの中に入らないでください。



MD 192

圧力がかかるラインや接続部で作業する場合、高圧で流れ出る液体による危険があります。

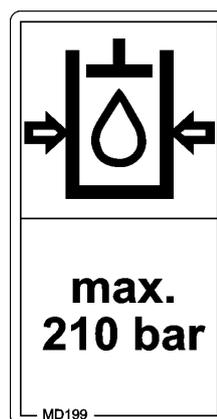
この危険は、全身における深刻な重傷の原因となる可能性があります。

この部品における作業は禁じられています。



MD199

油圧系統の最大運転圧力は 210 bar です。

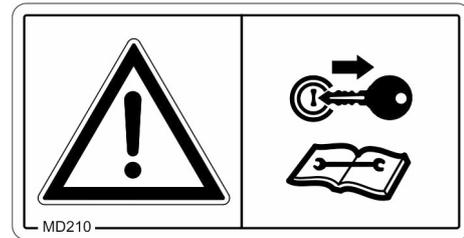


MD 210

機械に対する作業（例：取り付け、調整、故障解決、清掃、メンテナンス、修理）時に、不意にトラクターと機械が作動して走り出すことによる危険。

この危険は、深刻な重傷や場合によっては致命傷の原因となる可能性があります。

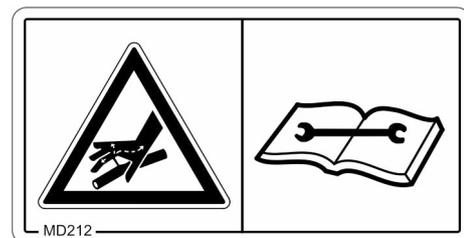
- 機械に対する作業を始める前に、不意に作動して走り出すことがないように、トラクターと機械を固定してください。
- 作業のタイプに応じて、本取扱説明書の該当する章をよく読み、指示を守ってください。



MD212

高圧で流れ出る油圧オイルによる、感染の危険

- 油圧システムは、必ず資格を有する専門工場での点検および修理してください。
- 油圧システムの漏れがある箇所から離れてください。
- 油圧オイルによって負傷した場合は、直ちに医師の診察を受けてください。



MD 224

ハンドウォッシュタンク内の清潔で新鮮な水の誤使用による、危険物質との接触の危険。

この危険は、深刻な重傷や場合によっては致命傷の原因となる可能性があります。

ハンドウォッシュタンク内の清潔で新鮮な水は、絶対に飲用水としては使用しないでください。

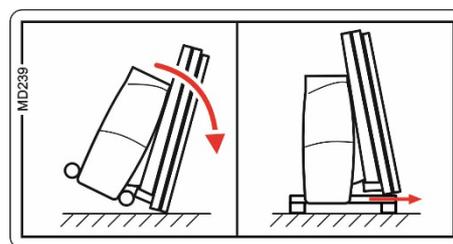


MD 239

連結解除が適切に行われなかった場合、連結解除した取り付け式スプレーヤーが不安定であることによる危険があります。

この危険は、深刻な重傷や場合によっては致命傷の原因となる可能性があります。

取り付け型スプレーヤーを連結解除する前に、パーキングサポートを走行位置からパーキング位置に必ず引き出してください。



2.14 安全上の注意事項を守らないことによる潜在的な危険

安全上の注意事項を守らないと、

- 人に対しても、機械や環境に対しても危険となる可能性があります。
- すべての保証規定が適用されないことがあります。

特に、安全上の注意事項を守らないと、以下の危険が生じる恐れがあります。

- 作業区域の安全を確保しないことによる、人への危険。
- 機械の重要な機能の故障。
- 所定のメンテナンス・修理方法の不履行。
- 機械的・化学的影響による、人への危険。
- 油圧油の漏れによる環境への危険。

2.15 安全を重視した作業

本取扱説明書に記載の安全上の注意事項に加え、各国で一般に適用される作業場での安全および事故防止規則を順守してください。

警告マークによる事故防止の指示を守ってください。

公道を走行する場合は、該当する各国の道路交通法を守ってください。

2.16 ユーザーのための安全上の注意事項



警告

走行可能性と運転安全性が不完全であることによる、つぶれ、切断、閉じ込め、引き込まれ、または衝撃の危険。

機械とトラクターを作動させる前に、必ず走行可能性と運転安全性を点検してください。

2.16.1 安全および事故防止のための一般的な注意事項

- これらの指示のほかに、一般に適用可能な各国の安全および事故防止規則を守ってください。
- 機械上の警告マークとその他の記号には、安全な機械の操作についての重要な情報が記載されています。これらの情報を守ることは、あなたの安全に役立ちます！
- 機械を作動させて発進する前に、機械の周囲を点検してください（子供がいないか）。はっきり見渡せることを確認してください！
- 機械の上に乗って移動したり、機械に物を載せて移動させたりしてはいけません。
- 機械を取り付けた、あるいは機械を牽引するトラクターを、つねに完全に制御できる状態で運転してください。
そのためには、あなた個人の能力、路面 交通 視界 天候の諸条件、さらにはトラクターの走行特性および取り付けた機械または牽引する機械の影響を考慮に入れてください。

機械の連結と連結解除

- 機械の連結と輸送には、必ず適切なトラクターを使用してください。
- 機械をトラクターの3点式油圧システムに連結する場合には、トラクターと機械の接続カテゴリは必ず一致しなければなりません。
- 規則に従い、機械を指定の装置に連結してください。
- 機械をトラクターのフロント側および/またはリア側に連結することにより、以下を超過してはいけません。
 - トラクターの許容総重量
 - トラクターの許容軸荷重
 - トラクターのタイヤの許容負荷

- 機械を連結または連結解除する前に、トラクターと機械が不意に走り出さないように固定してください。
- トラクターを機械に近づける最中に、連結する機械とトラクターの間に人がいてはいけません。
誘導して手伝う人は、車両の横にいて、車両の間には停車しているときだけ立ち入ることができます。
- 機械をトラクターの3点式油圧システムに取り付けるか、トラクターの3点式油圧システムから取り外す前に、トラクター油圧システムの操作レバーを不意に上昇または降下することがない位置に固定してください。
- 機械の連結および連結解除時には、（備わっている場合には）支持装置を各位置に置いてください（安定性を確保してください）。
- 支持装置の作動時には、つぶれや切断による負傷の危険があります。
- 機械をトラクターに連結する際、またはトラクターから連結解除する際には、特に注意してください。トラクターと機械の間の連結箇所にはつぶれや切断の危険があります。
- 3点式油圧システムの作動時には、トラクターと機械の間に人がいてはいけません。
- 連結された供給ラインは
 - すこしたるみがある状態で、カーブ走行時に引っ張られたり、折れたり、あるいは擦れることがないようにしなければなりません。
 - 他の物体で擦れることがあってはいけません。
- クイックカップリング用のリリースロープはゆるく垂れ下がっていないかならず、機械を降下したときに勝手に作動してはいけません。
- 連結解除した機械は、必ず倒れることがないようにして置いてください。

機械の使用

- 作業を開始する前に、機械のすべての装備と作動エレメント、およびそれらの機能を理解していることを確認してください。機械が作動し始めてから理解しようと思っても、間に合いません！
- 体にフィットしない、ルーズな服は着用しないでください。ルーズな服は、ドライブシャフトに引き込まれる危険が高くなります！
- すべての安全装置が取り付けられており、安全位置にある場合のみ、機械を作動させてください。
- 取り付けた機械または牽引する機械の最大荷重と、トラクターの許容軸荷重および許容ドロアー荷重を遵守してください。必要に応じて、タンクを満タンにせずに使用してください。
- 機械の作業区域内に立つことは禁止されています。
- 機械の回転・旋回範囲内に立つことは禁止されています。
- 人力を超えた力（例：油圧）で作動させる機械部分には、つぶれや切断の危険があります。
- 人力を超えた力で作動する機械部品を操作するときは、必ず指定された安全な距離の内側には誰もいないことを確認してください。
- トラクターから離れる前に
 - 機械を地面に置いてください。
 - トラクターのエンジンを停止してください。
 - イグニッションキーを抜いてください。

機械の輸送

- 公道を走行する際は、各国の道路交通法を守ってください。
- 輸送走行前に、以下のことを確認してください。
 - 供給ラインが正しく接続されているか
 - 照明システムが損傷していないか、正しく作動するか、汚れていないか
 - ブレーキおよび油圧系統に明らかな故障がないか
 - パーキングブレーキが完全に解除されているか
 - ブレーキシステムの機能
- トラクターの操舵力と制動力が常に十分に発揮されるようにしてください。

トラクターに取り付けた、またはトラクターで牽引している機械と、フロントバラストおよびリアバラストは、トラクターの走行挙動と操舵力および制動力に影響します。
- 必要な場合にはフロントバラストを使用してください。

十分な操舵力を保証するためには、常にトラクターの自重の20%以上がトラクター前輪軸にかかっていなければなりません。

- フロントバラストとリアバラストは、規則に従い必ず所定の固定箇所に固定してください。
- 取り付けしている/牽引している機械の最大積載荷重と、トラクターの許容軸荷重および許容ドロアー荷重を遵守してください。
- トラクターは、かかる力（トラクターと取り付けた機械/牽引している機械）に対して指定されている制動減速度を守れなければなりません。
- 走行開始前に、ブレーキが正しく作動するか確認してください。
- 機械を取り付けているか牽引している場合には、カーブを走行する際に機械の幅が突出していることと回転質量を考慮してください。
- 機械を3点式油圧システムまたはトラクターのリフトアームに固定している場合には、輸送走行前にトラクターのリフトアームの側面のロックを十分に行ってください。
- 輸送走行前に、旋回式の機械パーツはすべて走行位置にセットしてください。
- 輸送走行前に、旋回式の機械パーツが動いて危険が発生することのないように、旋回式の機械パーツを走行位置で固定してください。固定には、所定の走行安全用留め具を使用してください。
- 輸送走行前に、取り付けた機械または牽引している機械が不意に上昇したり降下したりすることのないように、3点式油圧システムの操作レバーをロックしてください。
- 輸送走行前に、照明、警告設備、保護装置などの必要な輸送装備が機械に正しく取り付けられているか確認してください。
- 輸送走行前に、上側リンクピンと下側リンクピンが不意に外れることがないように、リンチピンでしっかり固定されているかどうか、目視検査してください。
- 走行速度は、周囲の交通の流れに合わせて調節してください。
- 山の斜面を走る前に、低いギアに切り替えてください。
- 輸送走行の前に原則として各ホイールブレーキをオフにしてください（ペダルをロック）。

2.16.2 油圧系統

- 油圧系統には高圧がかかっています。
- 油圧ホースラインが正しく接続されていることを確認してください。
- 油圧ホースラインを接続するときは、機械とトラクターの両方の油圧系統の圧力を抜いてください。
- 折り畳んだり、旋回させたり、押したりするなどの、構成部品の油圧または電気による動作を直接操作するためのトラクターの操作部をブロックしてはいけません。該当する操作部を離すと、各動作は自動停止しなければなりません。これは以下のような装置の動作には当てはまりません。
 - 継続して行われる動作
 - 自動制御される動作
 - 機能に応じてフロート位置または圧力位置を要求
- 油圧系統の作業を行う前に、
 - 機械を置いてください。
 - 油圧系統の圧力を抜いてください。
 - トラクターのエンジンを停止してください。
 - パーキングブレーキをかけてください。
 - イグニッションキーを抜いてください。
- 油圧ホースラインは、少なくとも毎年1回、正しく作動するかどうか専門工場での点検を受けてください。損傷・磨耗が見つかった場合、油圧ホースラインを交換してください。必ず AMAZONE 純正油圧ホースラインを使用してください。
- 油圧ホースラインは、場合によっては最大2年間の保管期間を含む、6年間の使用限度を超過してはなりません。正しく保管・使用した場合でも、ホースおよびホース接続部は経年劣化するため、使用期間の制限が設けられています。ただし、経験値から使用期間を特定することも可能です（特に、潜在的な危険を考慮に入れる場合）。熱可塑性プラスチック製のホースおよびホース接続部の場合は、他の指針値が決め手となる可能性があります。
- 油圧ホースラインの漏れは、絶対に手や指でふさごうとしないでください。

漏れ出た高圧の油圧オイルが皮膚から体内に入り、重傷の原因となる可能性があります！

油圧油によって怪我を負った場合は、ただちに医師の診察を受

けてください。感染の危険があります。

- 漏れている箇所を探すときは、深刻な感染の危険を防ぐため、適切な補助装置を使用してください。

2.16.3 電気系統

- 電気系統の作業を行うときは、必ずバッテリー（マイナス端子）の接続を外してください。
- 必ず指定のヒューズを使用してください。定格の大きいヒューズを使用すると、電気系統が破損して、火災が生じる危険があります。
- バッテリーは必ず正しい順序で接続してください。まずプラス端子を接続してから、マイナス端子を接続します。バッテリーの接続を外すときは、まずマイナス端子の接続を外してから、プラス端子の接続を外します。
- バッテリーのプラス端子には、必ず適切な覆いを取り付けてください。間違えてアースと接触すると、爆発する危険があります。
- 爆発の危険。バッテリーの近くでは火花や裸火は避けてください！
- 本機械には、他の装置から電磁妨害の影響を受ける電子部品が装備されている可能性があります。この電磁妨害は、以下の安全上の注意事項を守らないと、人に危険を及ぼす可能性があります。
 - 電気装置を後付けして車載電源に接続する場合は、ユーザーの責任のもとで、設置することによって車両の電子機器その他の装置に不具合が生じないかどうか確認してください。
 - 後付けする電気・電子機器が EMC 指令 2004/108/EC の適切なバージョンに適合しており、CE マークが付いていることを確認してください。

2.16.4 PTO の運転

- AMAZONEN-WERKE によって指定されている、規定に準拠した保護装置を備えたプロペラシャフトだけを使用できます。
- プロペラシャフトメーカーの取扱説明書の記載も守ってください。
- プロペラシャフトの保護パイプと保護カバーは損傷があってはならず、またトラクターと機械の PTO の保護板が取り付けられており、正常な状態でなければなりません。
- 保護装置が損傷している状態での作業は禁じられています。
- プロペラシャフトの連結および連結解除は、以下の場合にのみ認められます。
 - PTO が OFF になっている
 - トラクターのエンジンを切っている
 - パーキングブレーキを引いている
 - イグニッションキーを抜いた状態
- プロペラシャフトの取り付けと固定を必ず正しく行うようにしてください。
- ワイドアングルプロペラシャフトを使用する場合は、ワイドアングルジョイントを常にトラクターと機械の間の回旋点に取り付けてください。
- プロペラシャフト保護パーツはチェーンをかけて固定し、連動することを防いでください。
- プロペラシャフトでは、走行位置および作業位置において、所定のパイプカバーが付けられていることを確認してください！（プロペラシャフトメーカーの取扱説明書の記載を守ってください！）
- カーブを走行する際には、プロペラシャフトの許容曲がり角度とスライド幅を遵守してください。
- PTO をオンにする前に、選択したトラクターの PTO 回転数が機械の許容ドライブ回転数と一致するか確認してください。
- PTO を ON にする前に、現場にいる人に機械の危険エリアの外へ出るよう指示してください。
- PTO を用いる場合、回転する PTO またはプロペラシャフトのエリアには誰も立ち入ってはいけません。
- トラクターのエンジンが OFF になっている場合、PTO は絶対にオンにしないでください。

- 曲がり角度が大きすぎる場合、または必要ない場合には、PTO を OFF にしてください。
- 警告！ PTO を OFF にした後、まだ回り続ける機械パーツの回転質量により負傷する危険があります。
機械パーツが完全に停止するまで、機械に近づき過ぎないようにしてください。すべての機械パーツが完全に停止してから、機械で作業することができます。
- PTO で駆動する機械またはプロペラシャフトを清掃、注油あるいは設定する前に、不意に始動したり走り出したりすることがないように、トラクターと機械を固定してください。
- 連結解除したプロペラシャフトは、所定のホルダ上に置いてください。
- プロペラシャフトを取り外した後、取り外した場所に保護スリーブを差し込んでください。
- 位置依存型の PTO を使用する際には、PTO 回転数が走行速度に比例し、逆走時には回転方向も逆になることに注意してください。

2.16.5 スプレーヤーの操作

- 次に関して、農薬メーカーの推奨事項を遵守してください
 - 個人用保護具
 - 農薬の取り扱いについての警告
 - 計量と使用、清掃についての規定
- 植物保護法の指示を遵守してください！
- 汚染された保護具や散布剤キャニスター、使用済みフィルターを、トラクターキャビン内に保管してはなりません。
- 保護具は、トラクターキャビンに入る前に、脱いで外してください。
- 圧力がかかっているラインは、決して開かないでください！
- 充填の際に、散布液タンクの定格容量を超えてはなりません！



- 農薬を取り扱う際は、使用されている有効成分の安全データシートの要件と個人用保護具の規定を遵守してください。使用されている有効成分の安全データシートの要件によっては、次が個人用保護具に含まれます：
 - DIN 32781 準拠の防護服
 - EN 14605 準拠のゴム製エプロン
 - EN 166 準拠の保護ゴーグル
 - DIN EN 143/149/405/14387 準拠の呼吸保護マスク、粒子フィルターとガスフィルター A1-P2（カラーコード: 茶色/白）を組み合わせた少なくとも半面のマスク
 - DIN 347/388/420 準拠のカフ付き保護手袋
 - 保護ブーツ
- 次のいずれかの作業中に農薬または肥料と接触する可能性がある場合は、個人用保護具を使用してください：
 - 散布液タンクの充填および薬品の追加
 - 散布およびスプレー
 - 機械の設定
 - タンクを空にして洗浄
 - 様々な薬品の使用
 - メンテナンス
- トラクターキャビン内では、使用されている有効成分の安全データシートの要件に応じて、個人用保護具を着用してください。
- 散布する散布剤によっては、カテゴリー 4 のキャビンを備えるトラクターが必須です。
- スプレーヤーの材質と農薬の適合性についての情報に注意してください！
- 付着しやすい農薬や凝固しやすい農薬は、散布しないでください！
- 人や動物、環境を保護するため、水を公共の水域からスプレーヤーに充填しないでください！
- スプレーヤーの充填には、必ず **AMAZONE 純正充填装置** を使用してください！

2.16.6 清掃、メンテナンス、修理

- 散布液タンクには毒性のある蒸気が生じるため、散布液タンク内に入ることを原則的に禁じます。
- 散布液タンクの修理作業は、必ず専門工場に依頼してください！
- 原則として、メンテナンス・修理作業または清掃は、以下の状態で実施してください。
 - 駆動システム OFF
 - トラクターのエンジンは停止
 - イグニッションキーを抜いた状態
 - ボードコンピュータから機械プラグが抜かれている
- ナットとボルトの締め付けを定期的に点検し、必要に応じて締め直してください。
- 清掃、メンテナンス、修理作業を実施する前に、上昇した機械や機械部品が不意に降下しないよう、固定してください。
- コールタが付いた装置を交換する場合は、適切な工具と手袋を使用してください。
- オイル、グリース、フィルターを廃棄処分にするときは、適切な方法で実施してください。

- トラクターと取り付けられている機械に対して電気溶接作業を実行する前に、トラクターのオルタネータとバッテリーのケーブル接続を外してください。
- 交換部品は、少なくとも AMAZONEN-WERKE が決定した技術要件に相応している必要があります。AMAZONEN 純正交換部品ではこれが満たされています。

- 硝酸アンモニウム/尿素溶液を用いた液体肥料の散布のために使用したスプレーヤーを修理する場合は、以下の点を守ってください。

散布液タンク内外の水分が蒸発すると、硝酸アンモニウム/尿素溶液の残留物により、塩が形成されることがあります。この結果、純粋な硝酸アンモニウムと尿素が生じます。未希釈の硝酸アンモニウムは、有機物（例：尿素）と混ざって、修理作業（例：溶接、研削、やすりかけ）中に高温にさらされると、爆発する危険があります。

この危険を回避するために、硝酸アンモニウム/尿素溶液の塩は水に溶けるので、散布液タンクまたは修理箇所を水で念入りに洗い流してください。そのため、修理作業を行う場合は事前にスプレーヤーを水でしっかりと洗浄してください。

3 機械を積載する

3.1 クレーンで機械を積載する

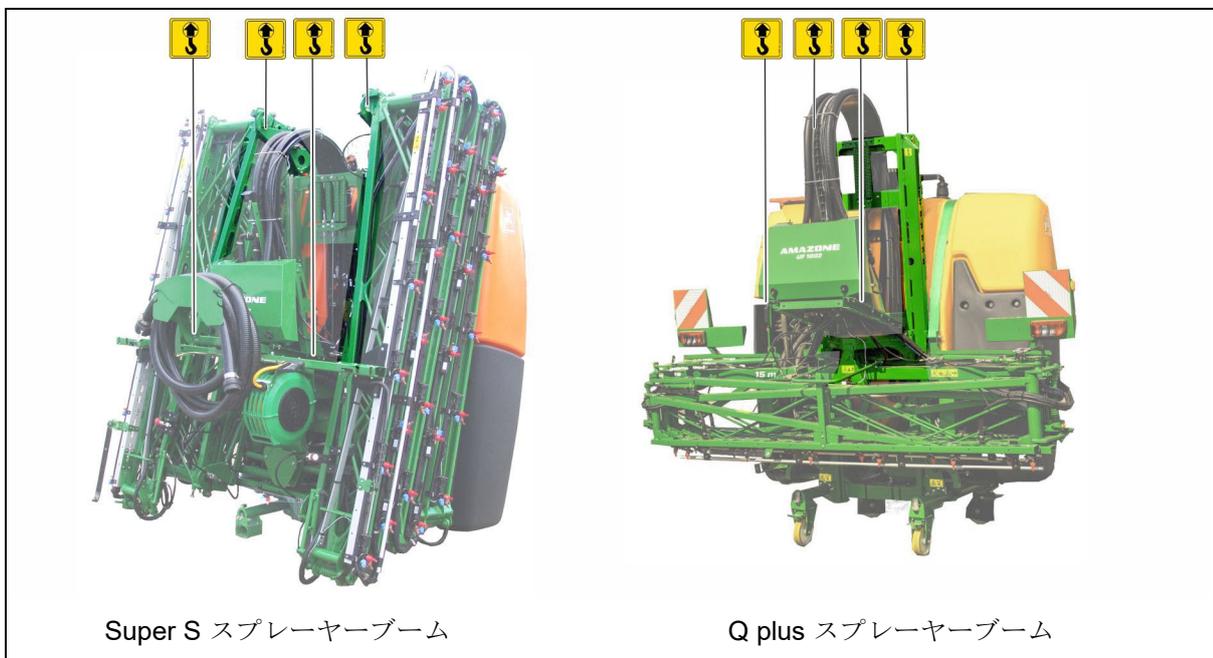


図 1

機械には、リフト固定具が 4 つあります。



警告

不適切に取り付けたリフト固定具による事故の危険。

マークされていない固定箇所に取り付けると、リフト時に機械が損傷したり、安全性が損なわれる恐れがあります。

- リフト固定具は、必ずマークされている固定ポイントに取り付けてください。

3.2 機械をラッシングする

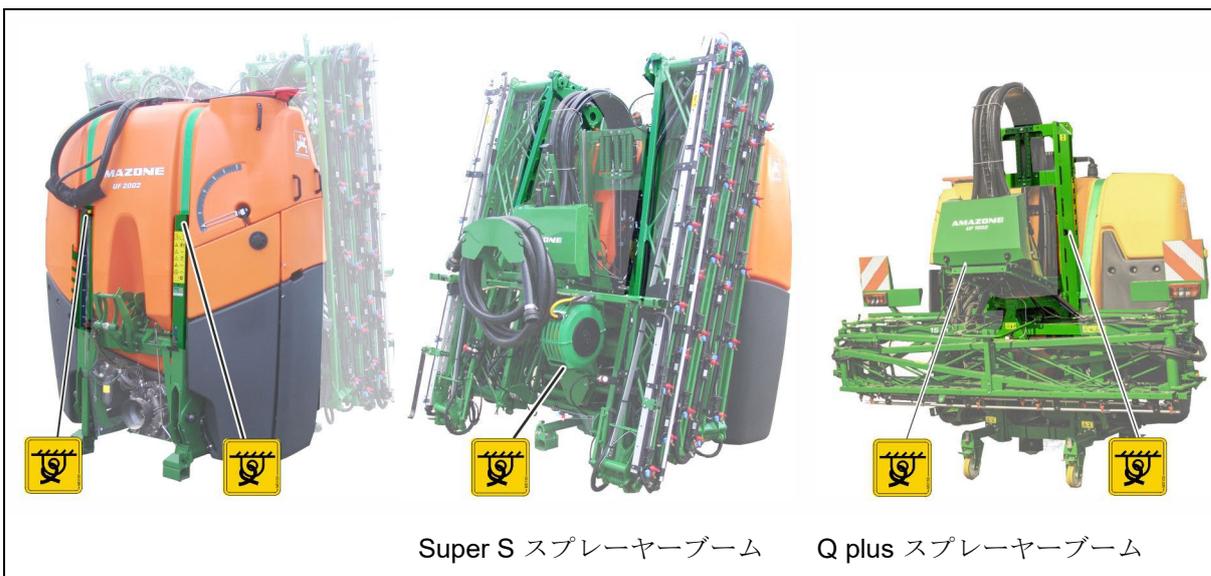


図 2

機械は、ラッシング用具を固定するためのラッシングポイントを、装備に応じて 3 つまたは 4 つ備えています。



警告

不適切に取り付けられたラッシング用具による事故の危険

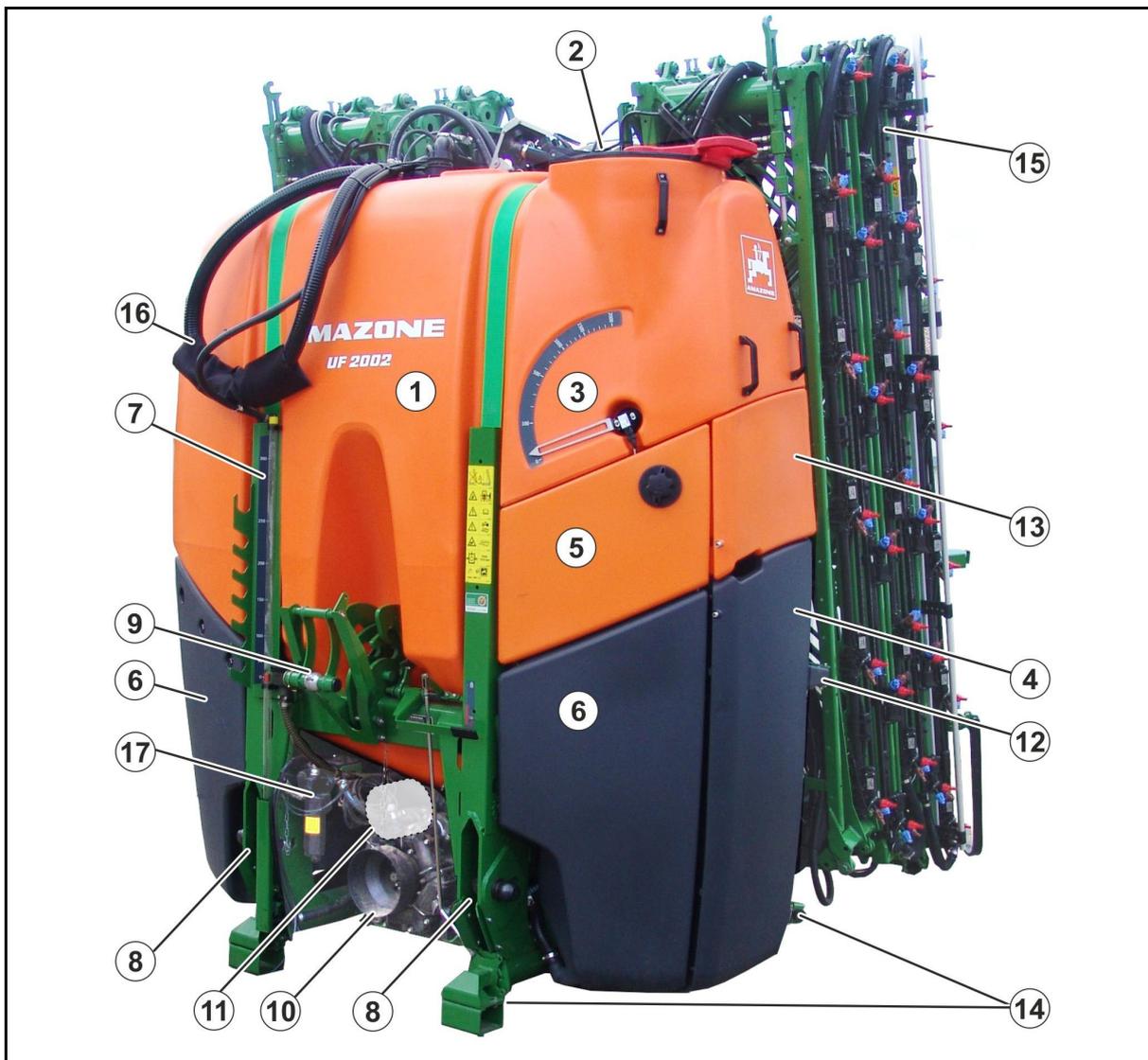
ラッシング用具をマークされていないラッシングポイントに取り付けると、ラッシング時に機械が損傷したり、安全性が損なわれる恐れがあります。

- ラッシング用具は、必ずマークされているラッシングポイントに取り付けてください。

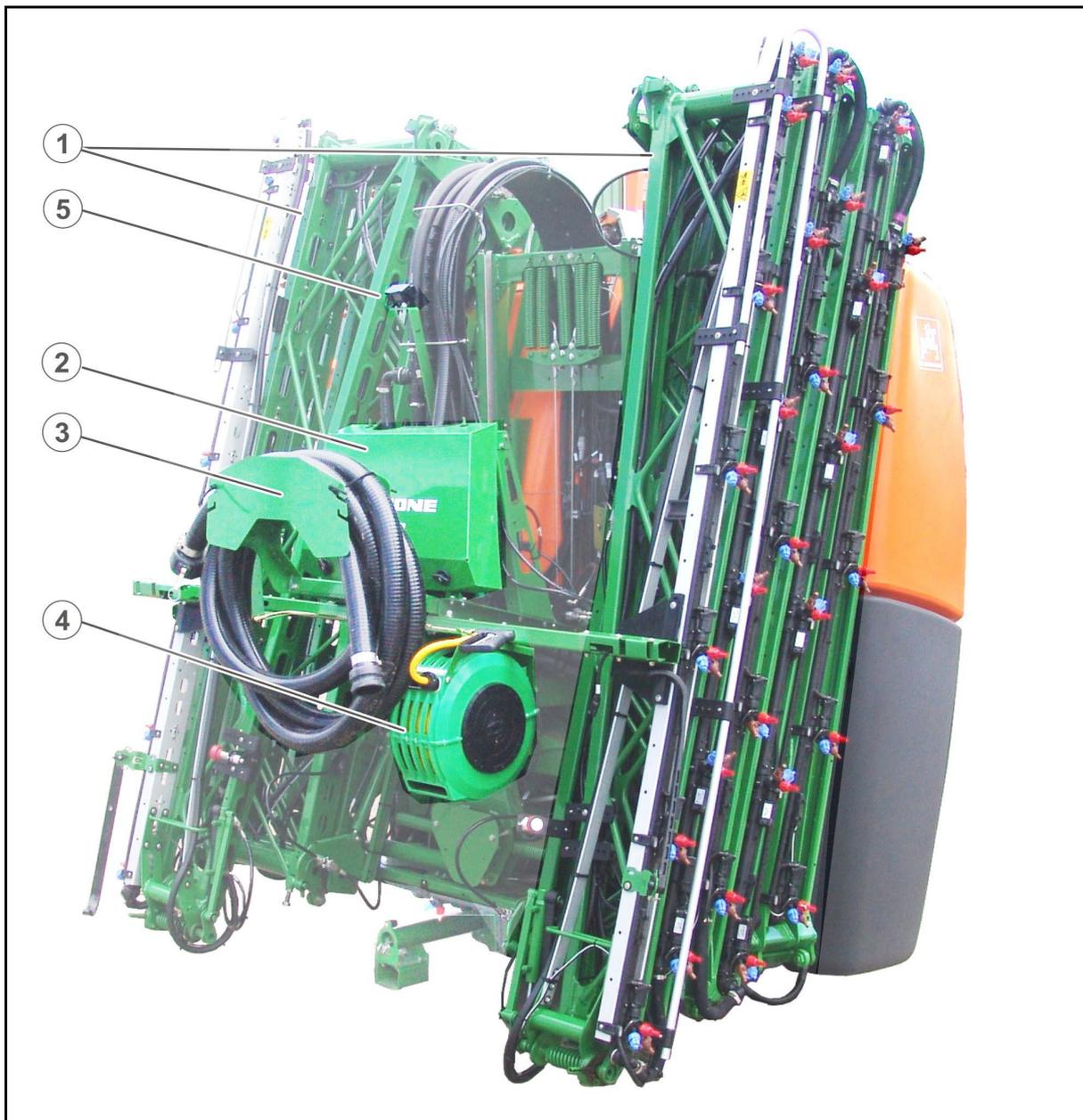
1. 機械を運搬車両に乗せます。
2. マークされたラッシングポイントに、ラッシング用具を取り付けます。
3. 荷物固定に関する国内規制に従って、機械をラッシングします。

4 製品の説明

4.1 各種アセンブリの概要



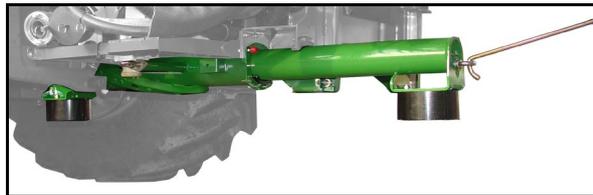
- | | |
|---------------------------|---|
| (1) 散布液タンク | (10) 散布・攪拌ポンプ |
| (2) 散布液タンクを目視検査するための検査ハッチ | (11) 洗浄水ポンプ |
| (3) 散布液タンクの充填量インジケータ | (12) パーキングサポート・フックツールのパーキング位置 |
| (4) カバー付き操作装置 | (13) 汚染された保護具と汚染されていない保護具を、別々に収納するための運搬ボックス |
| (5) ハンドウォッシュタンク | (14) 伸縮可能なパーキング装置 |
| (6) 2槽式の洗浄水タンク | (15) 折り畳み可能なスプレーヤーブーム |
| (7) 洗浄水タンクの充填量インジケータ | (16) フロントタンク/FlowControl 接続ホース |
| (8) 下部連結点 | (17) 油圧ブロックとオイルフィルター |
| (9) 上部連結点/クイックカップリングシステム | |



- (1) 折り畳み可能なスプレーヤーboom
- (2) セクションコントロール
- (3) 吸引ホースホルダー
- (4) 外部洗浄装置
- (5) リアビューカメラ

4.2 安全・保護装置

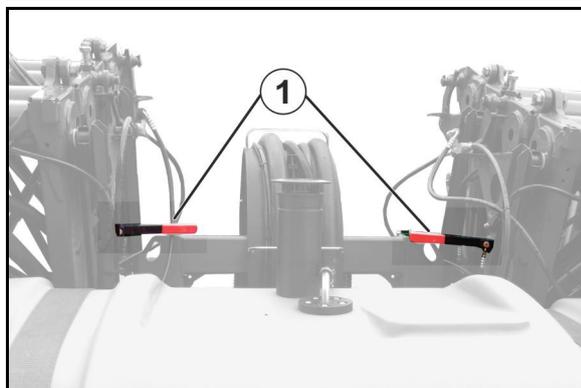
- 地面に置いた機械の転倒を防ぐために、左右に設けられたパーキングサポート



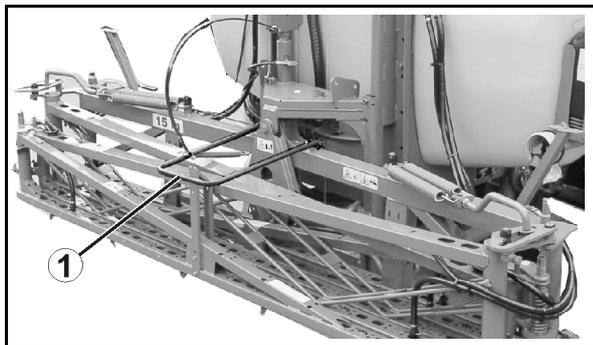
- **Super S** ブームが不意に展開するのを防ぐための移動用ロック



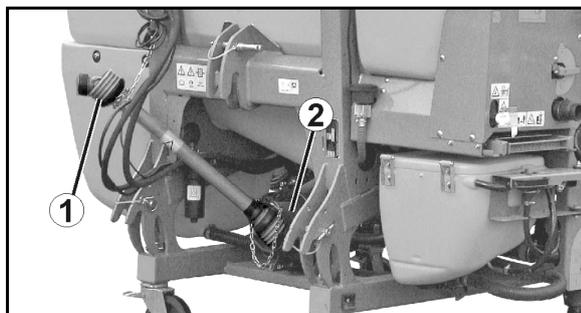
- (1) **Super S** ブームのロックの目視検査



- (1) Q plus ブームが不意に展開するのを防ぐための移動用ロック機構



- (1) プロペラシャフト保護パーツ
- (2) 機械側の保護カバー



4.3 トラクターと機械の間の供給ライン

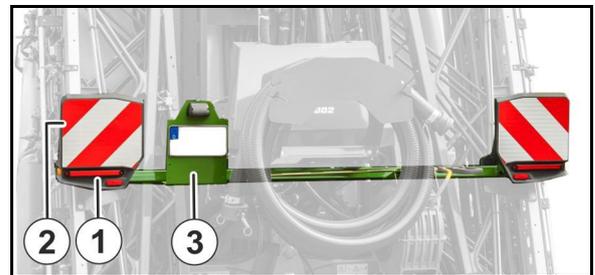
パーキング位置の供給ライン:

- (1) 油圧ホースライン (装備により異なる)
- (2) 照明用コネクタ付きケーブル
- (3) 機械プラグ付きのコンピュータケーブル/
ISOBUS 接続

4.4 走行用の装備

リア側の照明

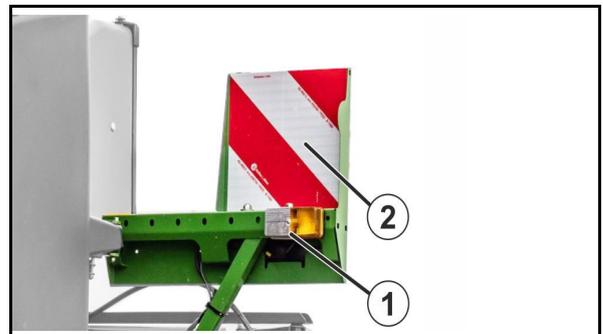
- (1) テールライト、ブレーキライトおよびターンインジケータ (トラクターのターンインジケータが隠れてしまう場合に必要)
- (2) 警告板 2 枚
- (3) 照明付きライセンスプレートホルダー 1 個 (トラクターのライセンスプレートが隠れてしまう場合に必要)



前方用の照明

(Q plus スプレーヤーブームのみ)

- (1) パーキングライト、; 前方用のターンインジケータ
- (2) 警告板 2 枚



照明設備のプラグをトラクターの 7 極ソケットに接続してください。



フランス仕様では、追加で側面の警告板もあります。

4.5 使用目的

スプレーヤーは

- 懸濁液・乳濁液・混合液・液体肥料の形を取る農薬（殺虫剤、殺菌剤、除草剤その他）を運搬・散布するために使用することを意図しています。
- 農業分野において、圃場の作物に対して使用することのみを目的に設計されています。
- トラクターの3点式油圧システムに取り付け、1人で操作します。

散布する散布液（特に液体肥料）の pH 値は、1.5 より大きくなければなりません。

傾斜した地形での使用制限

- (1) 散布液タンクを完全充填した状態で、傾斜した地形を走行
- (2) 散布液タンクを一部充填した状態で、傾斜した地形を走行
- (3) 残量の散布
- (4) 方向転換
- (5) スプレーヤーブームの折り畳み・展開

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
等高線沿いに走行時	15%	15%	15%	15%	20%
傾斜を上昇/傾斜を下降	15%	30%	15%	15%	20%

「使用目的」には以下のことも含まれます:

- 本取扱説明書のすべての指示を守ること。
- 検査およびメンテナンス作業の実施。
- AMAZONE 純正交換部品以外は使用しないこと。

以上で指定されたのとは異なる使い方は、禁止されており、不適切なものと見なされます。

不適切な使用によって生じた一切の損害については、

- オペレーターだけが責任を負います。
- メーカーは一切責任を負いません。

4.6 定期的な装置の点検

本機械には、欧州連合全域で有効な、装置の定期点検義務が課せられます

(植物保護指令 2009/128/EC および EN ISO 16122)。

資格を有する公認の整備工場による点検を、装置に対して定期的に行ってください。

装置点検実施の時期については、機械の検査票に記載されています。

点検済証 (ドイツ)



4.7 ある種の農薬を使用することの影響

よく使われる農薬 (例: Lasso、Betanal & Tramet、Stomp、Iloxan、

Mudecan、Elancolan、Teridox) に長時間 (20 時間) 曝露されると、ポンプのダイヤフラム、ホース、散布ライン、タンクの損傷の原因となる可能性がありますので、ご注意ください。ここで言及したものは、あくまで例にすぎず、これだけにとどまりません。

特に、2 種類以上の農薬を無許可で混合することはおやめください。

こびりつきやすい、または凝固しやすい物質は散布しないでください。

このような強力な農薬を使用する際は、散布液をセットしたら速やかに散布し、使用後は水を用いて念入りにスプレーヤーを洗浄するように推奨します。

ポンプのダイヤフラムの代わりに Desmopan ダイヤフラムを納品可能です。これは溶剤を含む農薬にも耐性があります。ただし、低温で使用すると寿命が短くなります (例: 霜が降りる中で AUS を使用した場合)。

AMAZONE スプレーヤーに使用されている素材とコンポーネントは、液体肥料に対し耐性があります。

4.8 危険区域と危険箇所

危険区域とは、以下のものにより人が怪我を負う可能性のある機械の周辺区域を指します。

- 作業による機械と装置の動き
- 機械から投げ出される物質または異物
- 不意に上昇・下降する装置
- 不意に走り出すトラクターと機械

機械の危険区域の中には、永続的な危険または予期しない危険がひそんだ、危険箇所が存在します。警告マークは、これらの危険箇所を示し、実際上取り除くことができない、残されている危険について警告します。この場合、該当する章に記載されている特別な安全規則が有効です。

以下の場合には、機械の危険区域内には誰も立ち入ってはなりません。

- プロペラシャフト/油圧系統が接続された状態でトラクターのエンジンが稼動している場合。
- トラクターと機械が不意に作動して走り出すことがないような対策が取られていない場合。

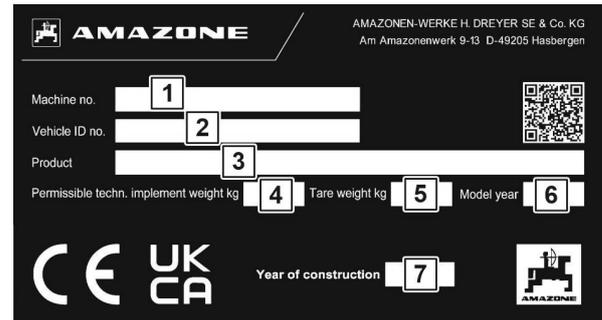
操作する人が機械や装置を動かしたり、装置を走行位置から作業位置に（またはその逆に）切り替えることができるのは、機械の危険区域内に誰もいないときだけです。

危険箇所が存在する場所：

- トラクターと取り付け型スプレーヤーの間。特に連結および連結解除時。
- 可動部品がある場所。
- 機械の上に乗る場合。
- スプレーヤーブームの旋回範囲内。
- 有毒な蒸気が発生する散布液タンク内。
- 上昇した、固定していない機械または機械部品の下。
- 高架送電線の近くでスプレーヤーブームを展開する/折り畳むとき（送電線との接触による）。

4.9 銘板と

- (1) 機械番号
- (2) 車両識別番号
- (3) 製品
- (4) 許容テクニカル機械重量
- (5) 自重 kg
- (6) モデルイヤー
- (7) 製造年



4.10 適合

指令/規格

- 本機械は次のものに適合しています。
- 機械指令 2006/42/EC
 - EMC 指令 2004/108/EC

4.11 技術的に最大可能な散布量



機械の散布量は、以下の係数により制限されます：

- スプレーヤーブームへの最大流量 200 l/min (HighFlow で 400 l/min)。
- 各ブームセクションの最大流量 25 l/min (散布ラインが 2 本の場合：各ブームセクション 40 l/min)。
- ノズル本体の最大流量 4 l/min。

4.12 最大許容散布量



最大許容散布量は、最低限必要な攪拌出力により制限されます：
 毎分の攪拌出力は、タンク容量の 5 % である必要があります。
 これは、とりわけ均整を保つのが難しい作用物質の場合に当てはまります。
 溶解する作用物質の場合は、攪拌出力を低減できます。

攪拌出力に応じた許容散布量を検出

散布量の算出公式 (l/min) :

(毎分の攪拌出力=タンク容量の 5 %)

$$\text{許容散布量 [L/min]} = \text{ポンプの定格出力 [L/min]} - 0.05 \times \text{タンクの定格容量 [L]}$$

(主要諸元を参照)

散布量の換算 (l/ha) :

1. ノズルごとの散布量を検出します (許可されている散布量をノズルの数で分けます)。
2. 散布表で、速度により異なるヘクタールごとの散布量を読み取ります (257 ページを参照)。

例 : UF1602、ポンプ BP 235、Super S 20 m、40 ノズル、10 km/h

$$\text{許可されている散布量} = 202 \text{ l/min} - 0.05 \times 1600 \text{ l} = 122 \text{ l/min}$$

$$\rightarrow \text{ノズルごとの散布量} = 3.1 \text{ l/min}$$

AMAZONE														50 cm		ME1320
km/h														l/min		
6	6,5	7	7,5	8	8,5	10	11	12	14	16	18			100	50	
l/ha H ₂ O														bar		
540	499	463	432	405	381	360	344	295	270	231	203	180	2,7			
560	517	480	448	420	395	373	356	305	280	240	210	187	2,8			
580	535	497	464	435	409	387	368	316	290	249	218	193	2,9			
600	554	514	480	450	424	400	380	327	300	257	225	200	3,0			
620	572	531	496	465	438	413	372	318	288	244	211	186	3,1			
640	591	549	512	480	452	427	384	329	320	274	240	213	3,2			
660	609	566	528	495	466	440	396	340	330	283	248	221	3,3			
680	628	583	544	510	480	453	408	351	340	291	255	227	3,4			
700	646	600	559	525	494	467	420	362	350	300	263	234	3,5			

→ ヘクタールごとに許可されている散布量 = 372 l/ha

4.13 技術データ

4.13.1 機械本体

タイプ	UF 1002	UF 1302	UF 1602	UF 2002
散布液タンク				
実際の容量	1100 L	1400 L	1680 L	2125 L
定格容量	1000 L	1300 L	1600 L	2000 L
洗浄水タンク	160 L または 260 L	160 L または 260 L	200 L または 350 L	200 L または 350 L
許容システム圧力	10 bar			
全長*	800 mm		1000 mm	
重心の間隔 d	0.85 mm			
3 点式接続	カテゴリー 2		カテゴリー 3、3N	
	カテゴリー 3 の上側リンクピンを備えるクイックカップリングシステム			
散布圧の調節	電動			
散布圧の設定範囲	0.8 ~ 10 bar			
散布圧の表示	散布圧のデジタル表示			
吸引フィルタ	50 (80.100) メッシュ			
アジテーター	無段階			

* 下側リンク接続点からの寸法

Super-S1-スプレーヤーブーム

作業幅[m]	15	18	21/15
輸送幅	2400 mm		
全長	900 mm		
機械を置いたときの 高さ	3300 mm		
ノズル高さ 最小 / 最大	500 mm - 2100 mm		500 mm - 2200 mm



Super-S2-スプレーヤーブーム

作業幅[m]	15	16	18	20	21	24	27/23/18	27/21/15	28	30
輸送幅	2400 mm									
全長	900 mm					1000 mm				
機械を置いたときの 高さ	2900 mm							2980 mm	2900 mm	2980 mm
	2900 mm									
ノズル高さ 最小 / 最大	500 mm - 2100 mm				500 mm - 2200 mm					

Q Plus スプレーヤーブーム

作業幅 [m]	12	12.5	15
輸送幅	2560 mm	2560 mm	2998 mm
全長	850 mm		
機械を置いた場合の高さ	2800 mm		
ノズル高さ 最小 / 最大	500 mm / 2100 mm		

4.13.2 散布システム

作業幅に応じたブームセクション

Super-S1-スプレーヤーブーム

作業幅	数	ブームセクションごとのノズル数
15 m	5	7-5-6-5-7
	7	3-4-5-6-5-4-3
18/15 m	5	6-8-8-8-6
	7	5-5-5-6-5-5-5
	9	3-3-4-5-6-5-4-3-3
21/15 m	7	6-6-6-6-6-6-6
	9	2-4-6-6-6-6-6-4-2
21/15 m / DUS	5	9-8-8-8-9
	7	6-6-6-6-6-6-6
	9	2-4-6-6-6-6-6-4-2

Super-S2-スプレーヤーブーム

作業幅	数	ブームセクションごとのノズル数
15 m	5	6-6-6-6-6
	7	3-5-5-4-5-5-3
16 m	5	7-6-6-6-7
18 m	5	6-8-8-8-6
	7	5-6-5-4-5-6-5
	9	2-3-6-5-4-5-6-3-2
20 m	5	8-8-8-8-8
	7	5-5-6-8-6-5-5
	9	3-4-6-5-4-5-6-4-3
21 m	5	9-8-8-8-9
	7	6-6-6-6-6-6-6
	9	4-4-6-5-4-5-6-4-4
	11	4-4-3-3-5-4-5-3-3-4-4
21/15 m	7	6-6-6-6-6-6-6
	9	6-4-4-5-4-5-4-4-6
	11	3-3-4-4-5-4-5-4-4-3-3
24 m	5	9-10-10-10-9
	7	6-6-8-8-8-6-6
	9	6-5-6-5-4-5-6-5-6
	11	4-4-5-4-5-4-5-4-5-4-4
27 m 27/21/15 m	7	9-6-8-8-8-6-9
	9	6-6-6-6-6-6-6-6-6
	11	6-6-4-4-5-4-5-4-4-6-6
28 m	7	8-8-8-8-8-8-8
	9	7-6-6-6-6-6-6-7
	11	5-5-5-6-5-4-5-6-5-5-5

作業幅	数	ブームセクションごとのノズル数
30 m	7	8-9-8-10-8-9-8
	9	6-6-7-7-8-7-7-6-6
	11	6-6-5-6-5-4-5-6-5-6-6

Q Plus スプレーヤーブーム

作業幅	数	ブームセクションごとのノズル数
12 m	5	5-4-6-4-5
12.5 m	5	5-5-5-5-5
15 m	5	6-6-6-6-6
	7	2-4-6-6-6-4-2

主要諸元：ポンプ装置

		散布／攪拌				洗浄水
ポンプタイプ		BPS160	BPS200	BPS260	BPS300	Hypro 6500N-CR
540 分-1 での吐出量	0 bar	162 l/分	199 l/分	249 l/分	299 l/分	82,5 l/分 (1200 分-1)
	10 bar	156 l/分	199 l/分	249 l/分	298 l/分	68,9 l/分 (1200 分-1)
電力消費量		3,6 kW	4,2 kW	5,3 kW	6,3 kW	1,6 kW
構造		ピストンダイヤフラム式ポンプ				ローラーポンプ
脈動減衰		油圧減衰		---		---
最大許容ポンプ回転数		540 分-1				

4.13.3 残留物

技術的残留物

平らな場所	8 L
等高線に沿って	
20% 進行方向左側に	10 L
20% 進行方向右側に	11 L
傾斜方向に	
20% 傾斜を上って	9 L
20% 傾斜を下って	9 L
ポンプ	6 L

ブームの技術的残留物

作業幅 m	ブームセクション切り替え							個別ノズル切り替え		
	ブームセクション数	DUS なし			DUS あり			DUS pro あり		
		A	B	C	A	B	C	A	B	C
15	5	4.5	7.0	11.5	12.5	1.0	13.5	14.5	1.0	15.5
	7	4.5	7.5	12.0	13.0	1.0	14.0			
16	5	4.5	7.5	12.0	13.0	1.0	14.0	14.8	1.0	15.8
18	5	4.5	8.0	12.5	13.5	1.0	14.5	15.7	1.0	16.7
	7	4.5	8.5	13.0	14.0	1.0	15.0			
20	5	4.5	8.5	13.0	14.0	1.0	15.5	18.1	1.0	19.1
	7	4.5	9.5	14.0	15.0	1.0	16.0			
21	5	4.5	9.0	13.5	14.0	1.5	16.0	18	1.5	19.5
	7	5.0	10.0	15.0	16.0	1.5	17.5			
	9	5.0	11.0	16.0	17.0	1.5	18.5			
	11	5.5	15.5	21.0	17.5	1.5	19.0			
21/15	7	5.0	10.0	15.0	16.0	1.5	17.5	18.8	1.5	20.3
	9	5.0	11.0	16.0	17.0	1.5	18.5			
	11	5.5	15.5	21.0	17.5	1.5	19.0			
24	5	5.0	10.0	15.0	16.0	1.5	17.5	20.6	1.5	22.1
	7	5.0	11.5	16.5	17.5	1.5	19.0			
	9	5.0	12.0	17.0	18.0	1.5	19.5			
	11	5.5	16.5	22.0	23.5	1.5	25.0			
27	7	5.0	12.5	17.5	18.5	2.0	20.5	22.2	2.0	24.2
	9	5.5	17.5	23.0	24.0	2.0	26.0			
	11	5.5	21.5	27.0	28.0	2.0	30.0			
28	7	5.0	13.0	18.0	19.0	2.0	21.0	22.4	2.0	24.4
	9	5.5	17.5	23.0	24.0	2.0	26.0			
	11	5.5	22.5	28.0	29.0	2.0	31.0			
30	7	5.0	13.5	18.5	19.5	2.5	22.0	26.4	2.5	28.9
	9	5.0	18.0	23.5	24.5	2.5	27.0			
	11	5.0	23.0	28.5	29.5	2.5	32.0			

DUS： 圧力循環システム

A： 希釈可能

B： 希釈不可能

C： 全体

4.13.4 積載重量

最大積載重量	=	許容テクニカル機械重量	-	自重
--------	---	-------------	---	----



危険

最大積載重量を超えてはなりません。

走行条件が不安定になり、事故の危険があります。

積載重量を慎重に計算し、使用する機械で充填可能な量を決めてください。タンクを満タンにするために、すべての充填媒体が使用可能なわけではありません。



許容テクニカル機械重量と自重の値を、機械銘板から読み取ってください。

4.14 必要なトラクター装備

機械と組み合わせて使用するトラクターは、性能が要件を満たしており、必要な油圧・電子接続部およびブレーキ装置用のブレーキ接続部を備えていなければなりません。

トラクターエンジン出力

UF 1002	55 kW (75 PS) 以上
UF 1302	66 kW (90 PS) 以上
UF 1602	90 kW (125 PS) 以上
UF 2002	110 kW (150 PS) 以上

電気系統

バッテリー電圧:	• 12 V (ボルト)
照明用電気ソケット:	• 7 極

油圧系統

最大作業圧力:	• 210 bar
トラクターポンプ出力:	• ブームの展開・折り畳み : 25 l/min • 散布ポンプの油圧ドライブ : 50 l/min • ContourControl 10 l/min

機械の油圧オイル:	• HLP68 DIN 51524
-----------	-------------------

機械の油圧オイルは、市場に流通しているあらゆるトラクターのコンビ型油圧オイル回路に適しています。

制御装置:	• 装備に応じて異なります (84 ページ参照)。
-------	---------------------------

PTO

必要回転数:	• 540 min ⁻¹
回転方向:	• 後側からトラクターを見た場合の時計回り方向。

3 点結合

- トラクターのリフトアームには下側リンクフックが備わっていません。
- トラクターのアップアームには上側リンクフックが備わっていません。

4.15 騒音発生データ

作業に関わる発生値（音圧レベル）は 74 dB (A) です。この値は運転時にキャビンのドアを閉じた状態で、トラクターの運転手の耳の位置で測定しました。

測定装置: OPTAC SLM 5

音圧レベルの高さは、基本的に使用する車両により異なります。

5 機械本体の構造と機能

5.1 機能

散布ポンプ（1）は、吸引装置および吸引フィルター（2）を介して、以下を吸い上げます。

- 散布液を、散布液タンクから。
- 清浄水を、外部吸込口（3）から。
- 洗浄水を、洗浄水タンクから。

吸い上げられた液体は、以下に送られます。

- 圧力フィルター（4）を介して、ブームセクションバルブ（5）に。散布ラインへの分配は、ブームセクションバルブが行います。
もしくは：

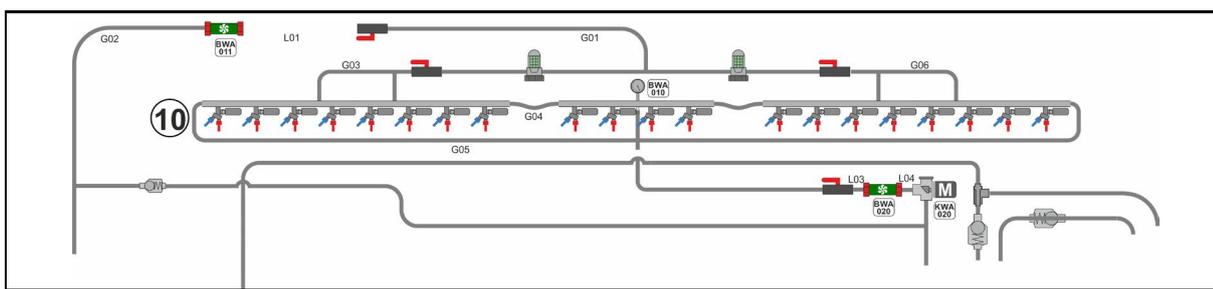
圧力フィルター（4）を介して、個々のバルブ切り替え（10）に。

- インジェクタ（6）および混入容器（7）に。
散布液をセットするには、必要な量の薬剤を混入容器に入れ、散布液タンクに吸引します。
- 直接散布液タンクに。
- 内部（8）または外部（9）の清掃に。

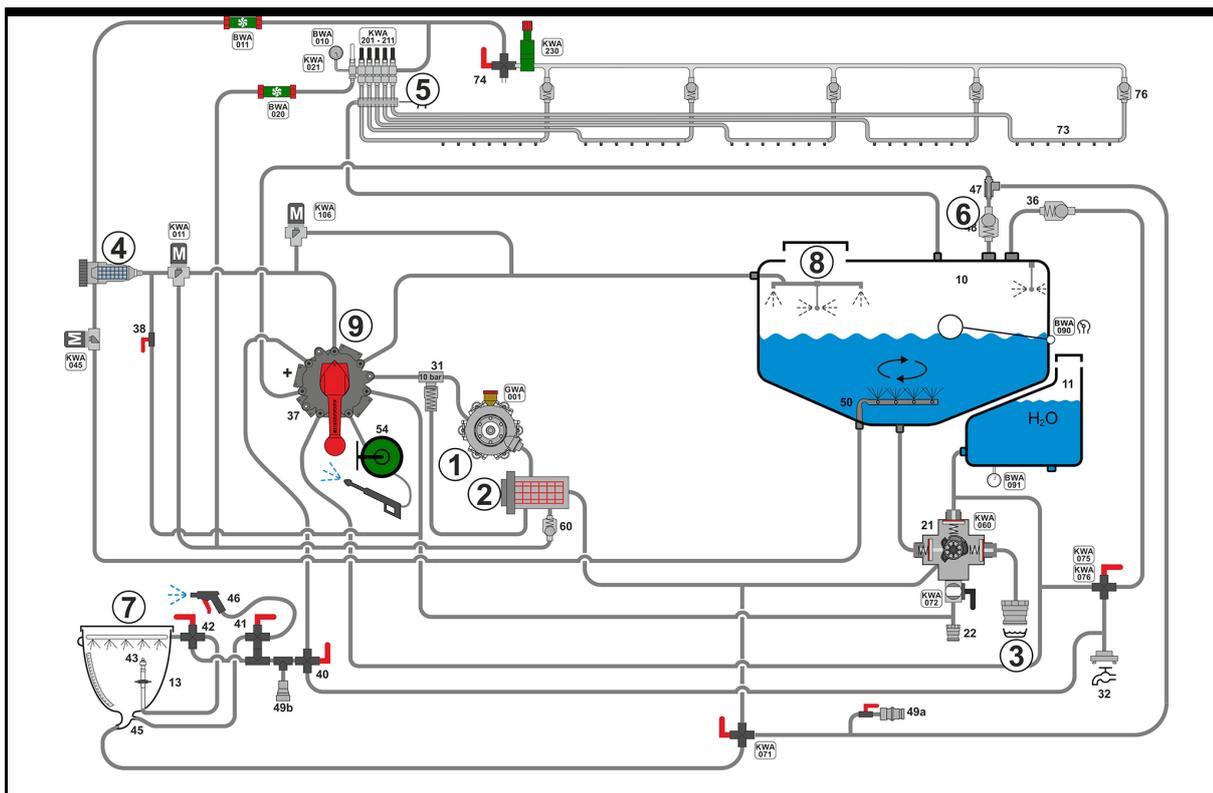
アジテーターは、散布液タンク内で散布液を均質にします。

機械本体の構造と機能

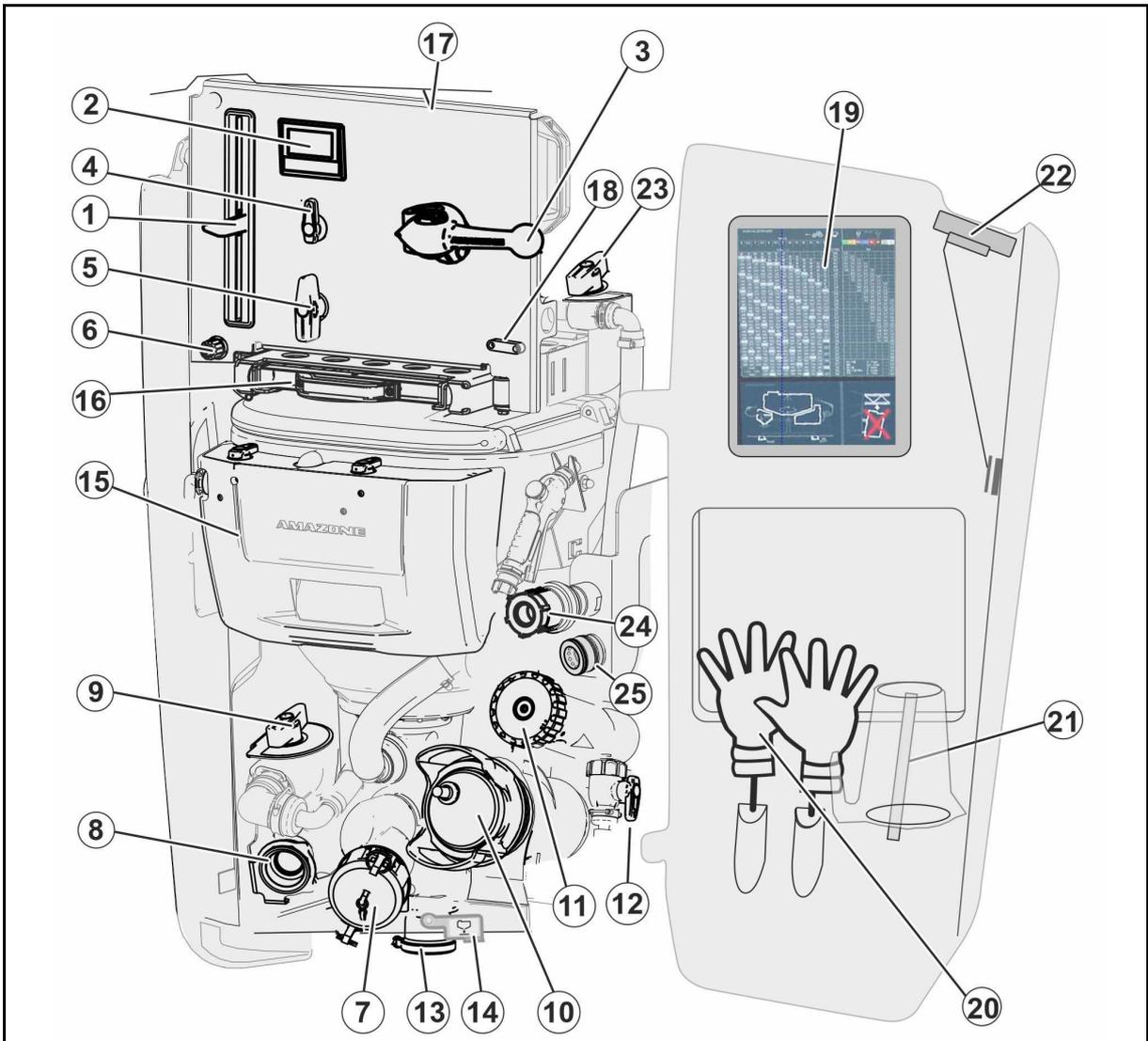
個別ノズル切り替え



ブームセクション切り替え



5.2 制御装置



- | | |
|--------------------------------------|----------------------------------|
| (1) ツインターミナルによる吸引側切り替え | (13) 散布液タンクと圧力フィルター、高速排出器の残留物排出口 |
| (2) ツインターミナル | (14) 残留物 (EW) 用の停止栓 |
| (3) 圧力側 (DA) 切り替え | (15) 混入容器 |
| (4) 混入容器 (QU) のソース切り替え栓 | (16) 踏み台 |
| (5) インジェクタ (IJ) 切り替え栓 | (17) 照明 |
| (6) 手洗い水停止栓 | (18) 水準器 |
| (7) 充填接続部 (吸引部) | (19) 散布表 |
| (8) 散布液タンク (オプション) と洗浄水タンクの充填接続 (圧力) | (20) 保護手袋ホルダー |
| (9) 圧力充填の切り替え栓 (FD) | (21) 測定カップホルダー |
| (10) 吸引フィルター | (22) カバーフードのオープナー |
| (11) 圧力フィルター | (23) 容器吸引 (CTS) の切り替え栓 |
| (12) 圧力フィルター排出口 (DE) の停止栓 | (24) CTS 接続 |
| | (25) CTS すすぎ接続 |

制御装置の切り替え栓

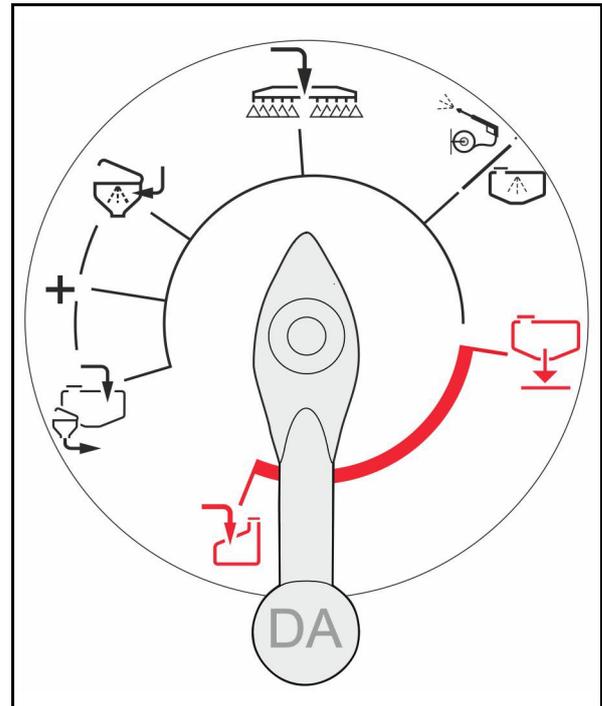
圧力装置 (DA) の切り替え栓

- 
 吸込口／混入容器吸引による、散布液タンクの充填
- 
 混入容器への供給
- + ( + ) 機能を同時に切り替えま
す。
- 
 散布
- 
 内部清掃



赤くマークされた機能を使用する場合は、取扱説明書の対応する章に特に注意してください。

- 
 高速排出
- 
 外部清掃
- 
 洗浄水タンクの充填



機械本体の構造と機能

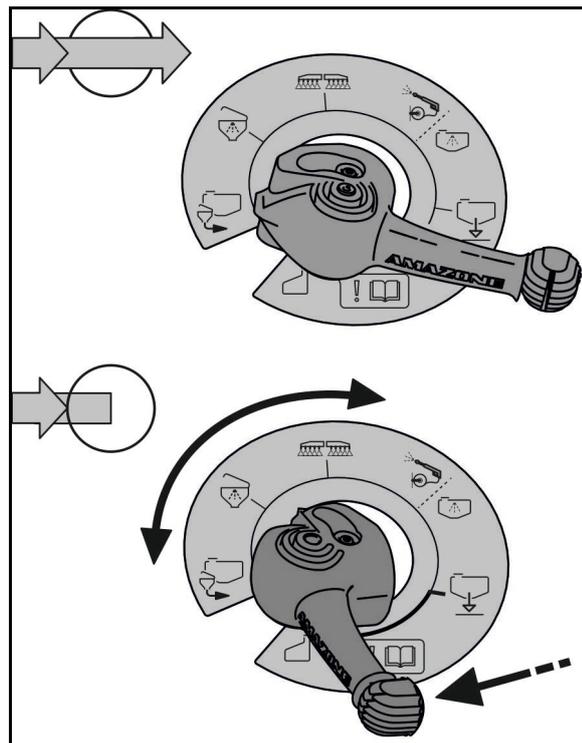
圧力装置の操作：

- 液体の流れ  が圧力側で解放されました。
- 散布液が流れます。

- 切り替え栓をロックします。
- ハンドレバーを回すことができず、機能選択ができません。

- 液体の流れが圧力側でロックされました。
- 散布液は流れません。

- 切り替え栓がロック解除されました。
- ハンドレバーを回すことができ、機能選択が可能です。



吸引装置 (SA) の表示

- 
 吸引ホースを介して吸引
- 
 散布液タンクから吸引
- 
 洗浄水タンクから吸引

ツインターミナル

吸引装置は、ツインターミナルを介して、電動で切り替えられます

混入容器 (QU) のソース切り替え栓

- 
 混入容器の吸引装置からの液体を使用
- 
 混入容器の圧力接続部の充填水を使用

インジェクタ (IJ) 切り替え栓

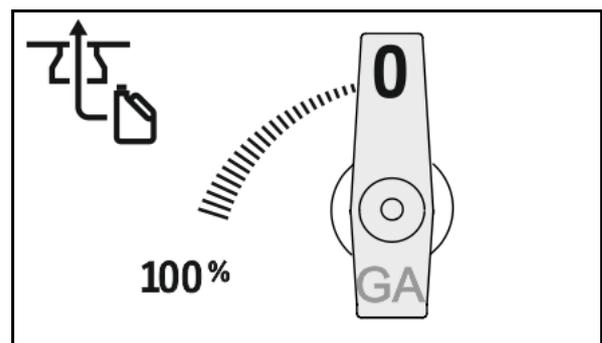
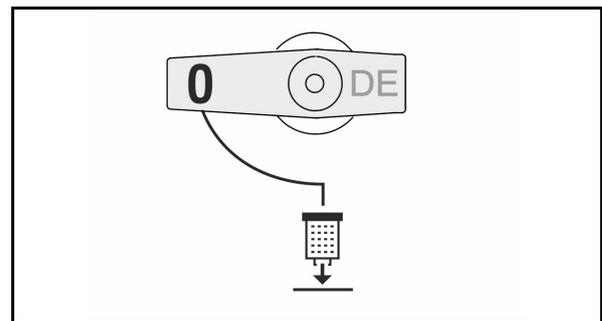
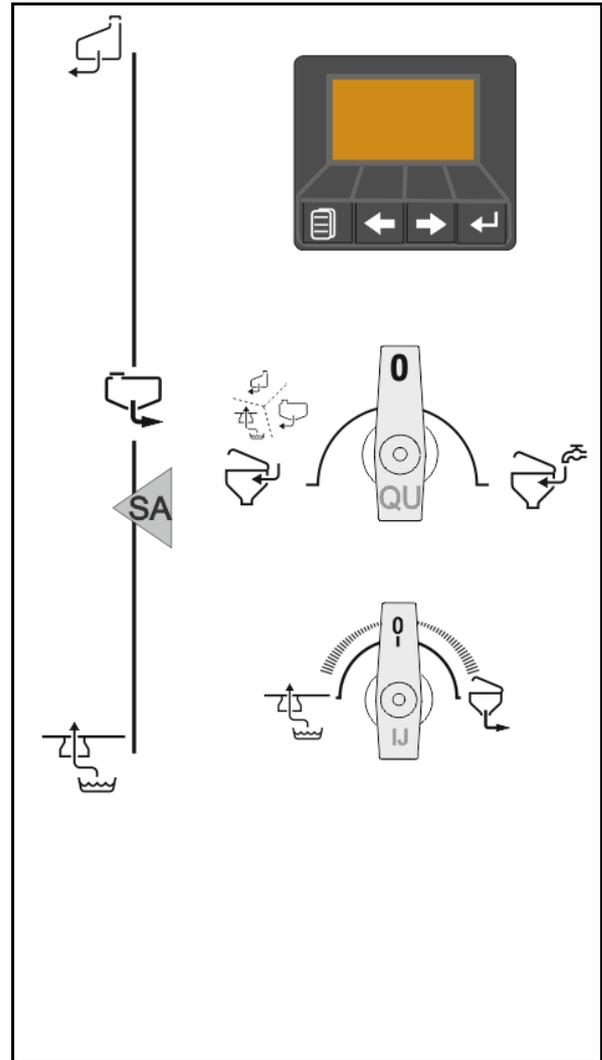
- 
 混入容器から吸引
- 
 インジェクタで充填能力を高めます

圧力フィルター (DE) 切り替え栓

- 
 圧力フィルターの液体を排出

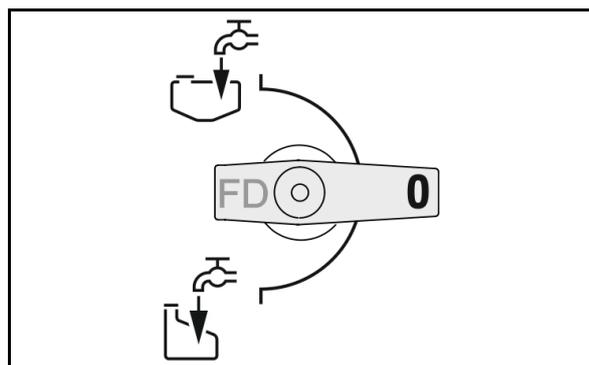
容器吸引 (GA) 切り替え栓

- 100% 最大吸引力

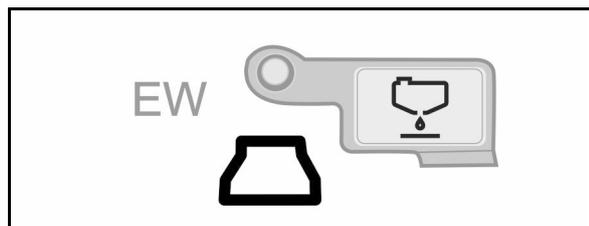


- 圧力充填 (FD) 切り替え栓

-  散布液タンクの充填
-  洗浄水タンクの充填

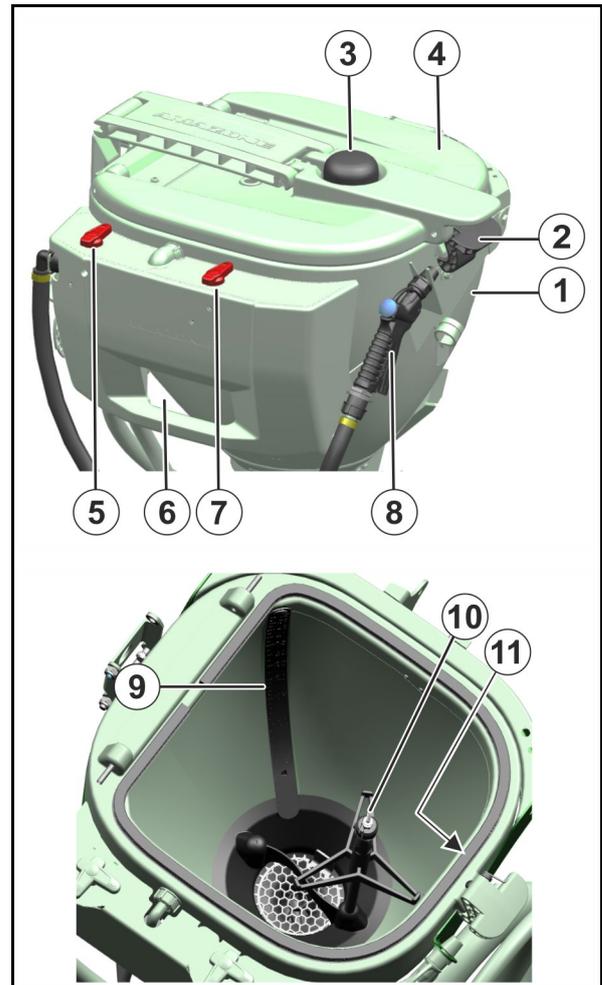


- 散布液タンク排出の停止栓



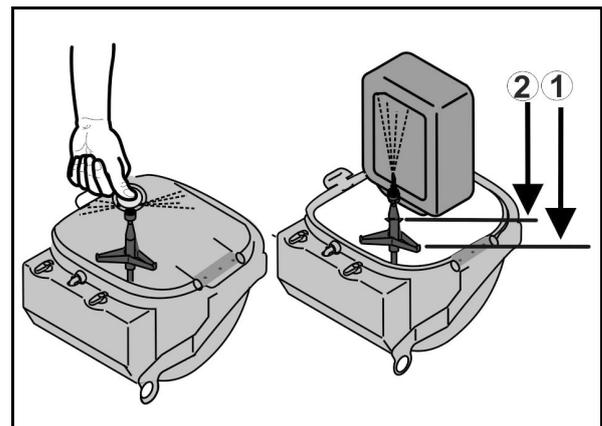
5.2.1 混入容器

- (1) 農薬および尿素を注入・溶解・吸引するための、旋回可能な混入容器。
容量は約 60 l
- (2) ヒンジ式フタのロック
- (3) 缶洗浄ノズルのプッシュボタン
- (4) ヒンジ式フタ、開けばトレイとして利用可能
- (5) 切り替え栓 EA
- (6) 混入容器を使用／走行位置に旋回するためのハンドル
- (7) 切り替え栓 EB
- (8) 制御装置を清掃するためのスプレーガン
- (9) 内容量表示用の目盛り
- (10) 圧力プレート付き缶のための清掃ノズル
- (11) 混入容器の清掃ノズル



以下の場合には、缶洗浄ノズルから水が漏れます。

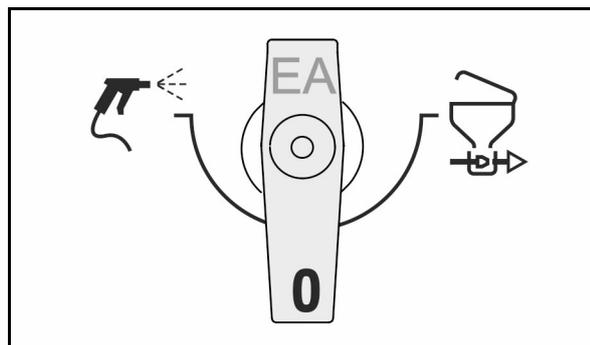
- 圧力プレートが下方に押された場合。
- 閉じたヒンジ式フタによって、缶洗浄ノズルが下方に押された場合。



5.2.2 混入容器の切り替え栓

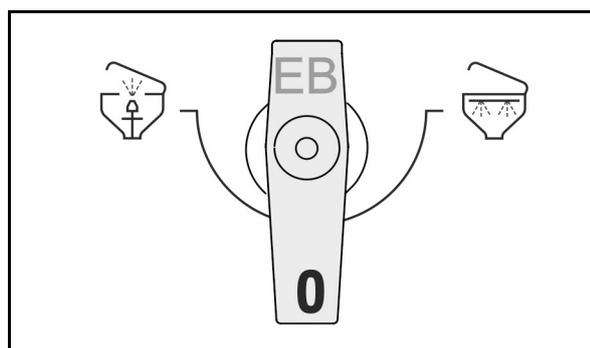
- 切り替え栓 (EA)

- 
 - 混入容器の外部清掃
- 
 - ミキシングノズルを用いて薬品を混入



- 切り替え栓 (EB)

- 
 - 缶を清掃／混入容器を清掃
- 
 - リングラインを介しての洗浄



5.3 パーキングサポート

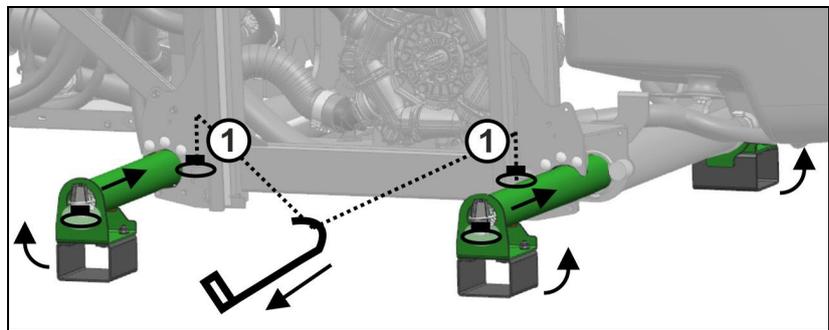
機械は、伸縮式のパーキングサポートを2つ装備しています。

機械は、両方のパーキングサポートを引き出して、パーキング位置に設定した状態でのみ、地面に置くことができます。

パーキングサポートは、プルロッドを用いて手で引いて、パーキング位置または走行位置にします。

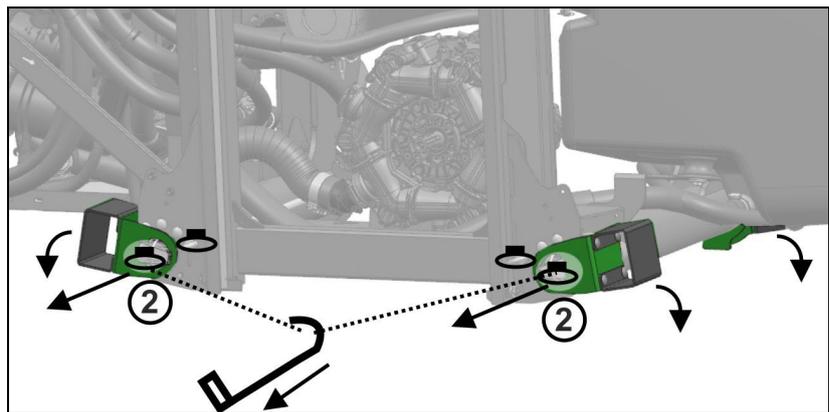
- パーキング位置のパーキングサポート

パーキングサポートを走行位置にするために、アイレット (1) にプルロッドを掛けて引きます。



- 走行位置のパーキングサポート

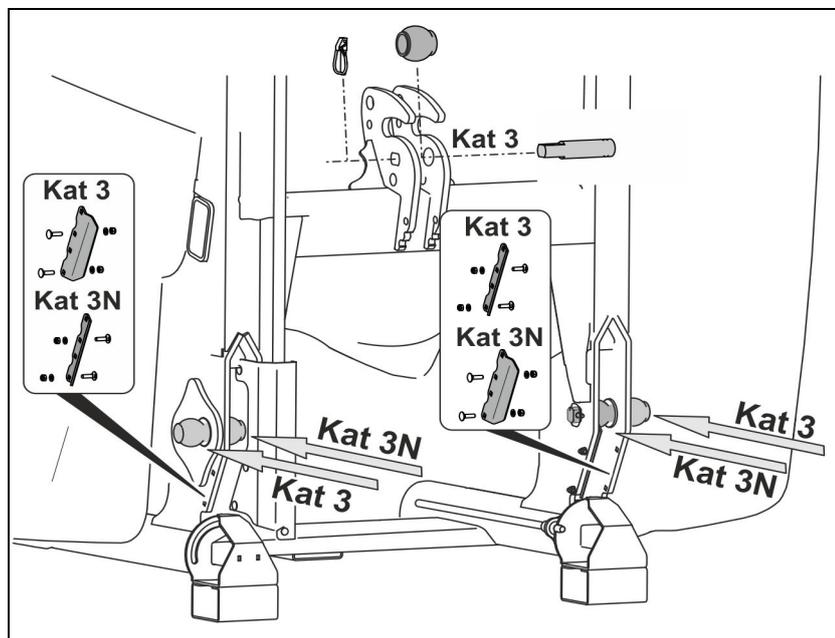
パーキングサポートをパーキング位置にするために、アイレット (2) にプルロッドを掛けて引きます。



プルロッドのパーキング位置は、制御装置の右側にあります。

5.4 3点結合

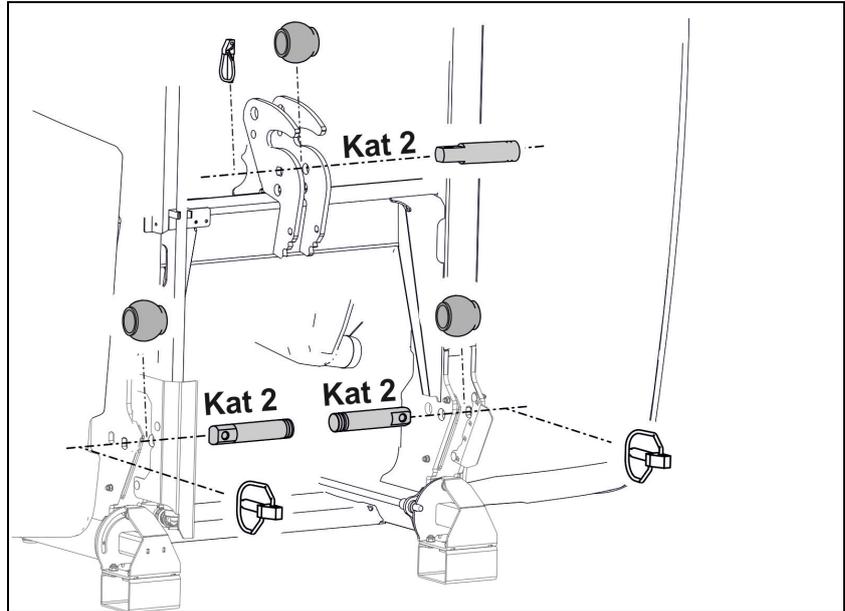
UF1602、UF2002



接続カテゴリーは 3N または 3 のいずれか

- カテゴリー 3 の上側リンクピンは、カテゴリー 3 のボールスリーブを装備
- カテゴリー 3N：カテゴリー 3 の下側リンクボール内側に連結。
- カテゴリー 3：カテゴリー 3 の下側リンクボール外側に連結。
- 選択した接続カテゴリーに応じて、トラクター下側リンクのバツフルをねじで固定します。

UF1002、UF1302



接続カテゴリ 2

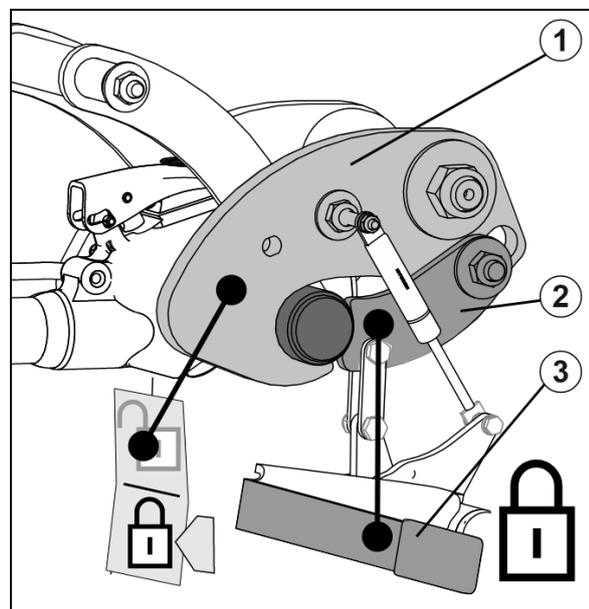
カテゴリ 2 の下側リンクピンおよび上側リンクピンは、カテゴリ 2 のボールスリーブを装備。

5.5 クイックカップリングシステム

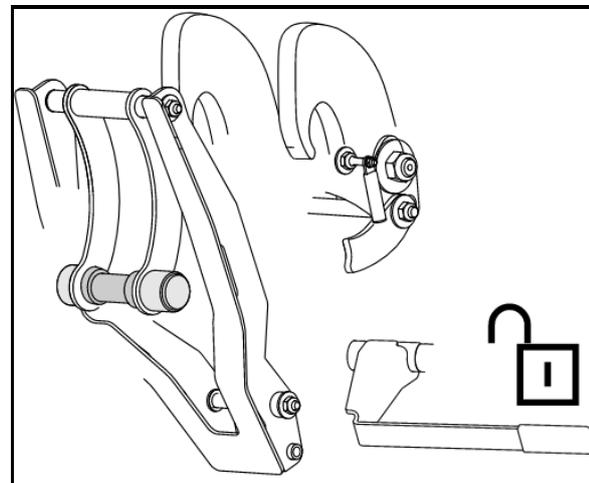
クイックカップリングシステムは、スプレーヤーをトラクターに快適に連結するためのものです。

上側リンクをクイックカップリングシステムに連結およびロックします。

- (1) 上側リンクが、ハンドルで前方に固定されます。固定位置が、矢印で示されます
- (2) 上側リンクが、安全ラッチで後方に固定されます。
パーキングサポートが走行位置になると、直ちに安全ラッチが上側リンクを後方に固定します。
- (3) ハンドレバーによる、追加の後方固定



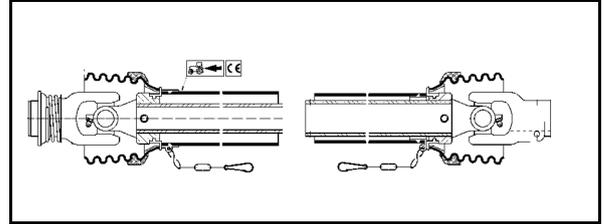
クイックカップリングシステムは、連結の準備ができています。



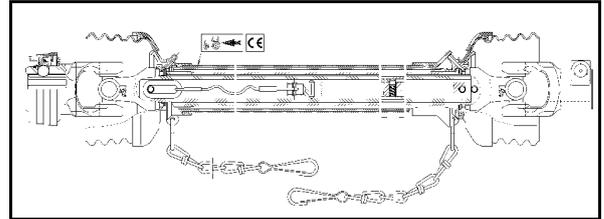
5.6 プロペラシャフト

プロペラシャフトにより、トラクターと機械の間で動力が伝達されます。

- プロペラシャフト



- テレスペース（伸縮式）プロペラシャフト



警告

トラクターと機械が不意に作動して走り出すことにより、押しつぶされる危険があります！

トラクターと機械が不意に作動して走り出すことのないように固定している場合にのみ、プロペラシャフトとトラクターの連結および連結解除を実行してください。



警告

プロペラシャフトが固定されていないか、保護装置が損傷していることにより、閉じ込めと巻き込まれの危険があります。

- 保護装置がない場合、保護装置が損傷している場合、またはチェーンを正しく使用していない場合には、プロペラシャフトを使用しないでください。
- 使用する前に、必ず以下について点検してください。
 - プロペラシャフトのすべての保護装置が取り付けられ、正しく機能するかどうか。
 - どの運転状態でもプロペラシャフトの周りに十分な空きスペースがあるかどうか。空きスペースがないとプロペラシャフトが損傷します。
- プロペラシャフトがどの位置においても、十分な旋回スペースが確保されるように、チェーンをかけてください。チェーンは機械やトラクターのパーツにからまってははいけません。
- プロペラシャフトの損傷したパーツまたは欠落したパーツは、プロペラシャフトメーカーの純正パーツとすぐに交換してください。
プロペラシャフトの修理は必ず専門工場に依頼してください。
- 連結解除した機械において、プロペラシャフトを所定のホルダ内に置いてください。これによりプロペラシャフトを損傷や汚れから保護できます。
 - プロペラシャフトのチェーンで連結解除したプロペラシャフトを吊るさないでください。



警告

トラクターと駆動する機械の間の動力伝達エリアで、プロペラシャフトの保護されていない部分により閉じ込めと巻き込まれの危険があります。

トラクターと駆動している機械の間でドライブを完全に保護している場合にのみ、作業をしてください。

- プロペラシャフトの保護されていない部分は、トラクターの保護板や機械の保護カバーで常に保護していなければなりません。
- トラクターの保護板または機械の保護カバーが差し込まれているプロペラシャフトの安全装置および保護装置と 50 mm 以上重なっているかどうか確認してください。重なっていない場合には、機械をプロペラシャフトで駆動しないでください。



- 同梱のプロペラシャフトまたは同梱のプロペラシャフトのタイプを必ず使用してください。
- 同梱のプロペラシャフト取扱説明書を読み、これにしたがってください。プロペラシャフトを正しく使用し、メンテナンスを適切に行うことで、重大事故の発生を防いでください。
- プロペラシャフトの連結は、
 - 同梱のプロペラシャフト取扱説明書にしたがって行ってください。
 - 機械の許容駆動回転数を遵守して行ってください。
 - プロペラシャフトの正しい取り付け位置を守ってください。これについては「トラクターにプロペラシャフトの長さを適合させる」の章（139 ページ）を参照してください。
 - プロペラシャフトの正しい取り付け位置を守ってください。プロペラシャフトの保護パイプにあるトラクターマークは、プロペラシャフトのトラクター側の接続部を表します。
- プロペラシャフトに過負荷クラッチまたはオーバーランクラッチが備わっている場合、この過負荷クラッチまたはオーバーランクラッチは常に機械側に取り付けなければなりません。
- PTO を ON にする前に、PTO 稼動についての安全上の注意事項を遵守してください（「ユーザーのための安全上の注意事項」の章（40 ページ）を参照）。

5.6.1 プロペラシャフトの連結



警告

プロペラシャフト連結時に空きスペースがないことにより、押しつぶされる危険や衝突する危険があります。

機械をトラクターに連結する前に、プロペラシャフトとトラクターを連結してください。これにより必要な空きスペースが確保され、プロペラシャフトを安全に連結できます。

1. トラクターと機械の間に空きスペース（およそ 25 cm）が残る程度に、トラクターを機械に接近させてください。
2. これについては「トラクターが不意に始動して走り出すことがないように固定する」の章（142 ページ以降）を参照してください。
3. トラクターの PTO が OFF になっているか確認してください。
4. トラクターの PTO を清掃し、グリースを塗布してください。
5. プロペラシャフトのロック部分を、カチッと音を立ててはまるまで、トラクターの PTO に押し込んでください。
プロペラシャフトを連結する際には、同梱のプロペラシャフト取扱説明書の内容および機械の許容 PTO 回転数を遵守してください。
6. プロペラシャフト保護パーツと一緒に回転しないように、チェーンで固定してください。
 - 6.1 チェーンはプロペラシャフトに対してできるだけ直角になるように固定してください。
 - 6.2 チェーンは、どのような運転状態でもプロペラシャフトの旋回範囲が十分に確保されるように固定してください。



注意

チェーンは機械やトラクターのパーツにからまってはいけません。

7. どのような運転状態においてもプロペラシャフトの周りに十分な空きスペースがあるか確認してください。空きスペースがないとプロペラシャフトが損傷します。
8. 空きスペースがなければ、これを確保してください（必要な場合）。

5.6.2 プロペラシャフトの連結解除



警告

プロペラシャフト連結解除時に空きスペースがないことにより、押しつぶされたり衝突したりする危険があります。

プロペラシャフトをトラクターから連結解除する前に、まず機械をトラクターから連結解除してください。これにより必要な空きスペースが確保され、プロペラシャフトの連結を安全に解除できます。



注意

プロペラシャフトの高熱の構成部品によってやけどする危険があります。

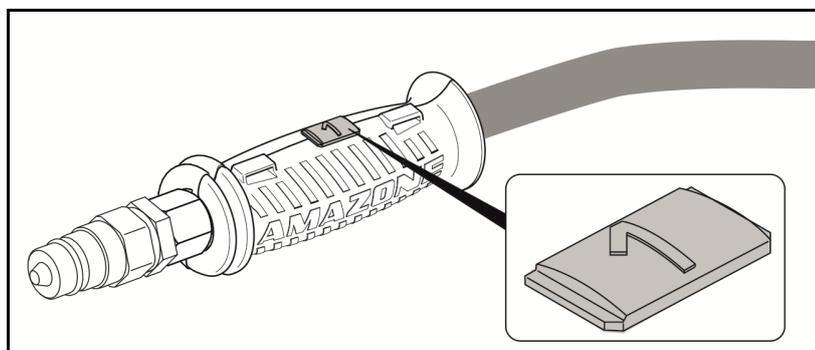
この危険は、手の軽傷または重傷の原因となります。

プロペラシャフトの高熱を帯びた部分に触れないでください（特にカップリングに注意してください）。

1. 機械をトラクターから連結解除します。これについては「機械の連結解除」の章、152 を参照してください。
2. トラクターと機械の間に空きスペース（およそ 25 cm）が生まれる程度に、トラクターを前進させます。
3. これについては「トラクターが不意に始動して走り出すことがないように固定する」の章（142 ページ以降）を参照してください。
4. トラクターの PTO からプロペラシャフトのロック部品を引き抜いてください。プロペラシャフトを連結解除する際には、同梱のプロペラシャフト取扱説明書の内容を遵守してください。
5. プロペラシャフトを所定のホルダーにセットしてください。
6. プロペラシャフトを長期間使用しない場合には、その前にプロペラシャフトを清掃・注油してください。

5.7 油圧接続

- すべての油圧ホースラインにはグリップが備わっています。
各油圧機能をトラクター制御装置の圧力ホースに割り当てるために、グリップには識別番号または文字がついたカラーマークがあります。



機械には該当する油圧機能を識別するためのフォイルが貼り付けられています。

- 油圧機能に応じて、トラクター制御装置は様々な操作モードで使用できます。

ラッチ式、オイルの常時循環用	
ばね復帰式、アクションが実行されるまで操作	
フロート位置、制御装置内でオイルの自由な流れ	

マーク		機能			トラクター制御装置	
黄色	1		高さ調節	上昇	複動式	
	2			下降		
緑色	1		ブームの折り畳み・展開	展開	複動式	
	2			折り畳み		
ベージュ	1		傾き調節	ブーム	複動式	
	2			ブーム 左側上昇 ブーム 右側上昇		

Profi-folding :

マーク		機能	トラクター制御装置	
赤色		オイルの常時循環	単動式	
赤色		無圧での逆流		
赤色		負荷感知型制御ライン (オプション)		


警告

高圧で流れ出る油圧油による感染の危険。

油圧ホースラインを接続するとき、および接続解除するときは、機械とトラクターの両方の油圧システムの圧力を抜いてください。

油圧油によって怪我を負った場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

オイルリターン流

Profi-folding:

逆流でのオイル最大許容圧力: 5 bar

従ってオイルの逆流ラインはトラクター制御装置に接続せず、大型のプラグカップリングで無圧の逆流ラインに接続します。


警告

オイルの逆流ラインには DN16 準拠のラインのみを使用し、ラインの長さは短くしてください。

空いている逆流ラインが正しく連結されている場合にのみ、油圧装置に圧力をかけてください。

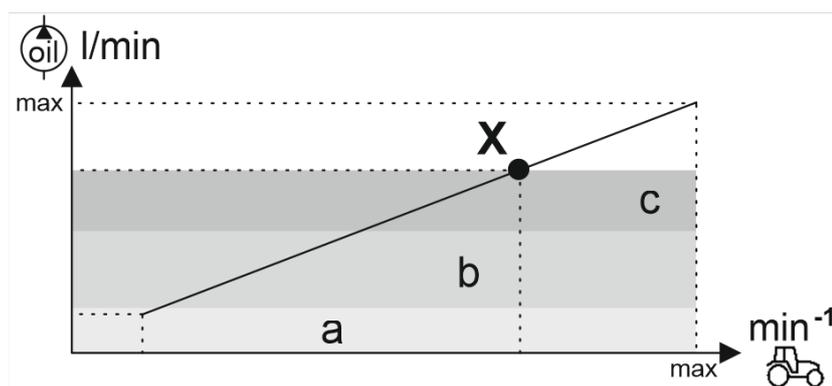
一緒に納品されたカップリングスリーブを、圧力を抜いたオイルの逆流ラインに設置してください。

オイル流量

機械装備（装備 a、b、c）に応じて、機械は特定のオイル流量を必要とし、トラクターがこれを提供しなければなりません。

トラクターが圃場の動作点 X と枕地において、適度なエンジン回転数で必要なオイル流量を提供するように、トラクターを選択してください。トラクター自体の要件にも注意してください。

 オイルの供給不足は、機械の機能を損ない、機械の損傷につながる可能性があります。



5.7.1 油圧ホースラインの連結



警告

油圧ホースラインを正しく接続していないため油圧機能が正しく働かないことにより、つぶれ、切断、閉じ込め、引き込まれ、および衝撃の危険があります。

油圧ホースラインを連結する際には、油圧プラグにあるカラーマークに注意してください。



- 機械をトラクターの油圧系に接続する前に、油圧オイルの適合性を確認してください。
鋳油は生物油と混合しないでください。
- 油圧オイルの最大許容圧力 210 bar を遵守してください。
- 清潔な油圧プラグだけを連結してください。
- 油圧コネクタがカチッとロックされるまで、油圧コネクタを油圧スリーブに差し込んでください。
- 油圧ホースラインが正しく連結され、連結箇所で漏れが発生していないか確認します。

1. トラクターの制御弁にある操作レバーをフロート位置（ニュートラル位置）にしてください。
2. 油圧ホースラインをトラクターと連結する前に、油圧ホースラインの油圧プラグを清掃してください。
3. 油圧ホースラインをトラクター制御装置に連結してください。

5.7.2 油圧ホースラインの連結解除

1. トラクターの制御装置にある操作レバーをフロート位置（ニュートラル位置）にしてください。
2. 油圧スリーブから油圧プラグを外してください。
3. 油圧プラグと油圧ソケットに塵防止キャップをはめて、汚れを防いでください。
4. 油圧ホースラインをホースホルダーに留めてください。

5.8 操作端末／操作コンピュータ

ISOBUS 操作端末または AMASPRAY+ を搭載したスプレーヤー UF は、流量計を備えています。

散布量は操作端末で設定します。

操作端末はジョブコンピュータを制御します。制御時にはジョブコンピュータが必要な情報をすべて受信し、入力された散布量（規定量）と現在の走行速度[km/h]に応じて、散布面積に基づく散布量制御 [l/ha]を行います。

操作端末

操作端末を介して、以下の操作が行われます：

- 機械固有データの入力。
- 作業関連データの入力。
- スプレーヤーの制御（散布作業で使用する散布量の変更）。
- スプレーヤーブームの全機能の操作（Profi-folding の場合のみ）。
- 特別機能の操作。
- 散布作業中のスプレーヤーの監視。

操作端末は、開始したジョブのために検出データを保存します。



ISOBUS ソフトウェアの取扱説明書を参照してください！

AmaTron 4



AmaPad 2



5.8.1 AMASPRAY+

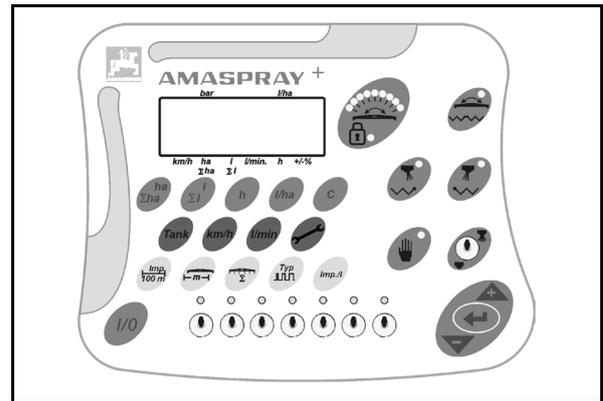
AMASPRAY+ を介して、以下の操作が行われます：

- 機械固有データの入力。
- スプレーヤーの制御（散布作業で使用する散布量の変更）。
- トラクター制御装置を操作することによる、油圧機能の事前選択。
- 特別機能の操作。
- 散布作業中のスプレーヤーの監視。
- ブームセクションの ON/OFF。

その時点の規定散布量、速度、処理済み面積、総面積、散布済みの量、総量、作業時間および移動距離が常に検出されます。



AMASPRAY+ の取扱説明書も参照してください。



5.9 マルチファンクションハンドル AmaPilot+

AmaPilot+ を介して、機械の機能を実行できます。

AmaPilot+ は、キーを自由に割り当てられる、AUX-N 操作エレメントです。

標準のキー割り当てが、各 Amazone ISOBUS 機械に予め割り当てられています。

機能は 3 つの階層に分散されており、親指で押して選択できます。

標準階層の他に、2 つの操作階層への切り替えが可能です。



5.10 散布液タンク

(1) 散布液タンク

散布液タンクの充填は、以下を介して行われます。

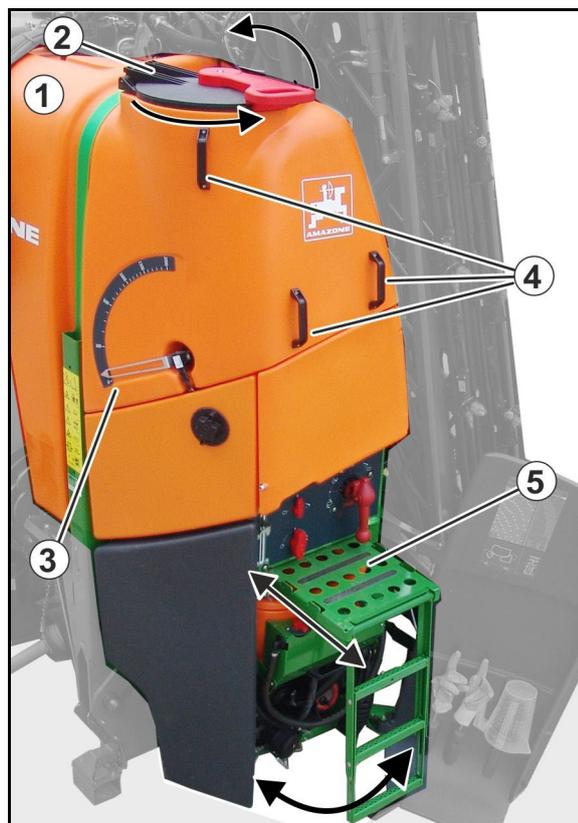
- 吸込口の吸引ホース
- 圧力接続部

(2) メンテナンスカバー

(3) 充填量インジケータ

(4) 踏み台用の手すり

(5) ステップ付きメンテナンスプラットフォーム



メンテナンスカバー

- フタを開くには左に回し、上に開きます。
- フタを閉めるには下に降ろし、右に回して締め付けます。

i メンテナンスカバーは、散布液の確認専用であり、タンクの充填には適していません。

ステップ付きメンテナンスプラットフォーム

- 踏み台を使用するには、梯子付きの台を引き出し、梯子を下に降ろします。
- 使用しない場合には、梯子を上に戻し、台と一緒に操作装置の下に押し込みます。

! 押し込んだ踏み台が、各終端位置でロックされていることを必ず確認してください。



危険

- 散布液タンクには決して入らないでください。
→ 有毒な蒸気が害を及ぼす危険があります！
- スプレーヤーの上に乗ることは固く禁止されています！
→ 機械の上に乗ると、落下する危険があります！

5.10.1 散布液タンク充填用の吸引ホース



公共の取水場所から吸引ホースを用いて散布液タンクに充填する場合は、該当する規則を遵守してください（これについては「機械の使用」の章、164 ページの ページも参照）。

- (1) 吸引ホース
- (2) クイックカップリング
- (3) 吸引した水を濾過するための吸引フィルター
- (4) 逆止バルブ。充填中に突然負圧がなくなった場合に、散布液タンク内の液体が流出するのを防止します。

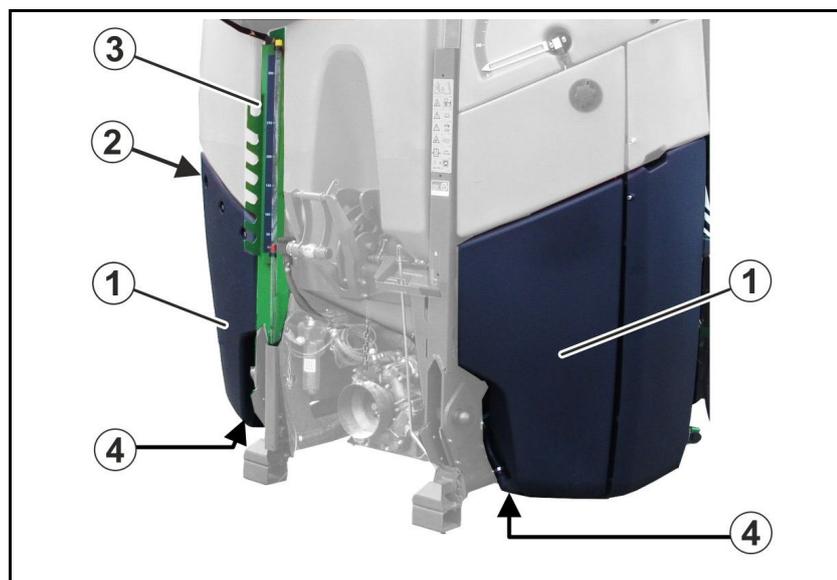


Super S ブームの吸引ホースホルダー

- 吸引ホースは、使用しないときは、ホルダーに固定します。
- 吸引ホースは、散布剤で汚れていたら、使用前に清掃します。



5.11 洗浄水タンク



- (1) 洗浄水タンク
- (2) 充填口、換気
- (3) 充填量インジケータ
- (4) 排水

洗浄水タンクには、清潔な水が入れます。この水は以下の用途に使われます。

- 散布作業終了時に散布液タンク内に残っている残留物の希釈。
- 圃場で、スプレーヤー全体を清掃（洗浄）すること。
- タンク満タン時に、吸引装置と散布ラインを清掃すること。

充填口用の換気バルブ付きのねじ式フタ。



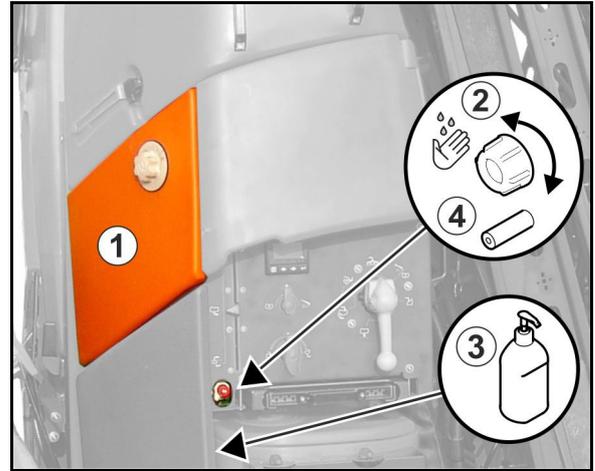
洗浄水タンクには、清潔な水だけを入れてください。

5.12 ハンドウォッシュ装置

ハンドウォッシュ装置（18 L）は、手や散布ノズルを洗浄する、清潔な水のためのものです。

- (1) ハンドウォッシュタンク
- (2) 停止栓
- (3) ソープディスペンサー
- (4) 排出口

ハンドウォッシュ装置を使用する前には、洗浄水を溜めるために、混入容器を下げて、フタを開いてください。



清浄水タンクには、清潔で新鮮な水だけを入れてください。



警告

清浄水タンク内の不潔な水を使用することによる中毒の危険。

清浄水タンク内の水は、絶対に飲用水としては使用しないでください。清浄水タンクを製造するために使われる材料は、食品安全基準を満たしていません。

5.13 ポンプ装置

散布ポンプ

散布ポンプは、散布液または水を提供するもので、次の機能があります：

- 散布液の散布
- 散布液の攪拌
- スプレーヤーの清掃
- 散布剤の混入
- 水の吸引
- 高速排出

- **トラクター PTO のカルダンシャフトを介したポンプ駆動**

ポンプ駆動のためのトラクター PTO の最大許容回転数は 540 min^{-1} です。

- **油圧ポンプ駆動**

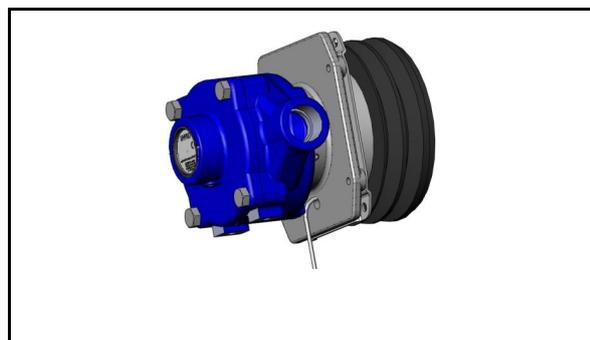
最大許容ポンプ回転数は 540 min^{-1} です。
このポンプ回転数には、 43 l/min のオイル流量で達します。



連続内部清掃のための洗浄水ポンプ

連続内部清掃は、トラクターで切り替えられます：

- トグルスイッチで



-  ISOBUS 操作端末を介して

洗浄水ポンプは、ベルトドライブを介して、散布ポンプで駆動されます。

このポンプは、非自吸式でドライランニングに対応しておらず、冬季には水抜きしなければなりません。

このポンプは、洗浄水タンクが充填された状態でのみ運転できます。これは、フロートスイッチで監視されます。

5.14 フィルター装置

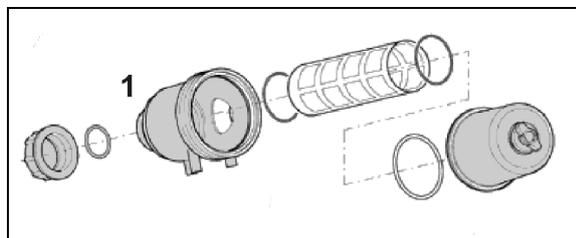


- 供給されるすべてのフィルターを使用してください。フィルターは定期的に清掃してください（これについては「清掃」の章、212 ページの ページを参照）。散布液を適切に濾過することによってのみ、故障のないスプレーヤー作業が可能になります。作物保護対策を成功させる上で、適切な濾過は非常に重要となります。
- フィルターとメッシュサイズの許容される組み合わせに注意してください。自浄式圧力フィルターおよびノズルフィルターのメッシュサイズは、つねに該当するノズルのノズル開口部よりも小さくなければなりません。
- 使用する農薬を確実に濾過できるよう、ある種の農薬については、80 または 100 メッシュ/インチの圧力フィルターインサートを使用してください。個別のケースについては、農薬のメーカーにお問い合わせください。

5.14.1 吸引フィルター

吸引フィルター (1) は、次のものを濾過します。

- 散布液（散布作業中）。
- 水（吸引ホースを用いて散布液タンクを充填する場合）。
- 水（洗浄プロセス時）。



ろ過面積: 660 mm²

メッシュサイズ: 0.60 mm

5.14.2 自浄式圧力フィルター

自浄式圧力フィルター

- 散布ノズルの上流にあるノズルフィルター
の目詰まりを防止します。
- 吸引フィルターよりもメッシュ数/インチ
が多いフィルターが使われています。

油圧式アジテーターが作動していると、圧力フィルターインサートの内面は洗い流され続け、散布剤の溶け残りの粒子や汚れが散布液タンクに戻されます。

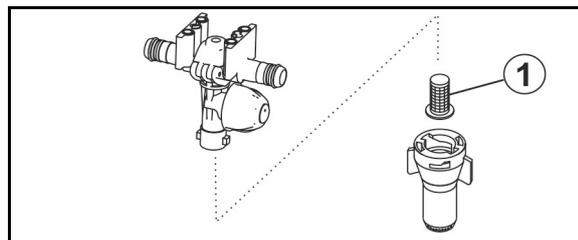
圧力フィルターインサートの概要

- 50 メッシュ/インチ（標準）、青
ノズルサイズ「03」以上向け
ろ過面積： 216 mm²
メッシュサイズ： 0.35 mm
- 80 メッシュ/インチ、黄色
ノズルサイズ「02」向け
ろ過面積： 216 mm²
メッシュサイズ： 0.20 mm
- 100 メッシュ/インチ、緑
ノズルサイズ「015」以下向け
ろ過面積： 216 mm²
メッシュサイズ： 0.15 mm

5.14.3 ノズルフィルター

ノズルフィルター (1) は、散布ノズルの目詰まりを防止します。

ノズルフィルターの概要



- 24 メッシュ/インチ
ノズルサイズ「06」以上向け
ろ過面積： 5.00 mm²
メッシュサイズ： 0.50 mm
- 50 メッシュ/インチ (標準)
ノズルサイズ「02」～「05」向け
ろ過面積： 5.07 mm²
メッシュサイズ： 0.35 mm
- 100 メッシュ/インチ
ノズルサイズ「015」以下向け
ろ過面積： 5.07 mm²
メッシュサイズ： 0.15 mm

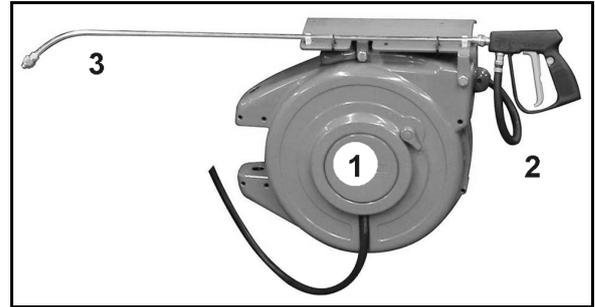
5.15 外部洗浄装置

外部洗浄装置は、スプレーヤーおよび以下のコンポーネントを清掃するためのものです。

- (1) ホースリール
- (2) 20 m 圧力ホース
- (3) スプレーガン

作業圧力：10 bar

水発射量：18 L/min



警告

スプレーガンの意図しない操作により、圧力のかかった液体が漏れたり、散布液で汚染される危険。

意図しない散布が行われないように、以下の際にはスプレーガンをロック(1)してください。

- 散布を一時停止する前に毎回
- 清掃作業後に散布スプレーガンをホルダーに置く前

5.16 作業灯



2つのタイプ：

- トラクターからの個別の電力供給が必要、スイッチボックスで操作。
- ISOBUS を介して電力供給および操作を行います。

作業用投光器：



個々のノズル用の LED 照明：



5.17 フロントタンク FT 1001 / FT1502

フロントタンクは、トラクターのフロント油圧装置に取り付けられます。

- FT1001 の容量は 1000 L です。
- FT1502 の容量は 1500 L です。



5.18 カメラシステム



警告

最悪で死に至る負傷の危険

カメラディスプレイを用いただけで操車を行うと、人やものを見損なってしまうことがあります。カメラシステムはひとつの補助手段です。カメラシステムは、オペレーターが極近の周囲に向ける注意に代わるものではありません。

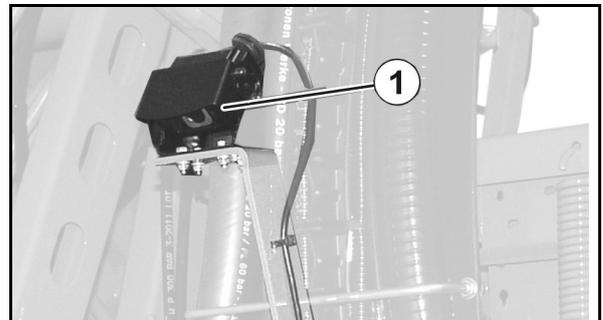
- 操車前に直接目を向けて、進行方向に人や物が存在しないことを確認してください。

機械には、カメラ（1）を1台装備できます。

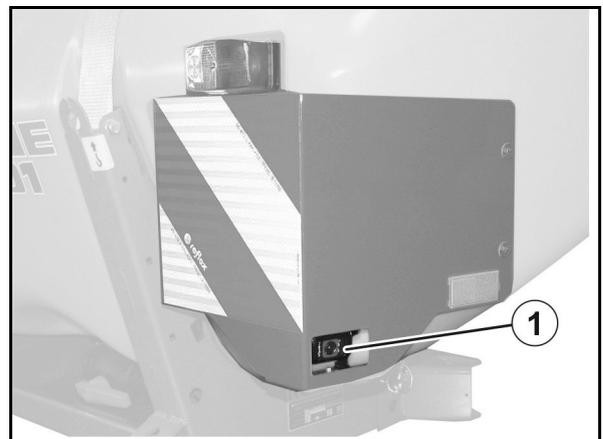
特性：

- 視角は 135°
- ヒーターおよびロータスコーティング
- 赤外線ナイトビジョンテクノロジー
- 自動バックライト機能

- (1) 後退時の安全のための、スプレーヤーブームにあるカメラ。



- (1) 取り回しを確実にを行うためのフロントタンクのカメラ。



5.19 個人用保護具 Safety Kit

Safety Kit は、農薬を取り扱う際の個人用保護具で、扱いやすい AMAZONE の安全キットケースに入っています。



6 スプレーヤーブームの構造と機能



警告

以下によりスプレーヤーブームに巻き込まれて怪我をする危険

- 展開・折り畳みの際にサイドアームが横方向に旋回
- 傾きや上昇、下降

スプレーヤーブームを操作する前に、現場にいる人に機械の危険エリアの外へ出るように指示してください。

スプレーヤーブームの状態およびサスペンションは、散布液の正確な分布に大きな影響を及ぼします。作物に対して適正な散布高さにスプレーヤーブームを設定すると、完全なオーバーラップを実現できます。ノズルは 50 cm (あるいは 25 cm>) 間隔でブームに取り付けられています。

Profi-folding :

ブームの操作は、操作端末を介して行われます。

→ この理由から使用中は、トラクター制御装置赤色を固定してください。

スプレーヤーブームの操作は、ISOBUS 操作端末を介して行われません。



機械の装備によっては、以下の機能は機能グループ・ブーム動作を介して行うことができます :

- スプレーヤーブームの折り畳み・展開
- 油圧式の高さ調節
- 油圧式の傾き調節
- スプレーヤーブームの片側折り畳み・展開
- スプレーヤーブームのサイドアームの片側を個別に立てる・倒す (Profi-folding II のみ)

トラクター制御装置による折り畳み・展開

ブームはトラクター制御装置で操作します。

- 装備に応じて、スプレーヤーブームの折り畳みと展開を操作端末で事前選択し、トラクター制御装置緑色で実行できます（事前選択による折り畳みと展開）。

ISOBUS ソフトウェアの取扱説明書を参照してください！

- 高さ設定はトラクター制御装置緑色で行います。

折り畳み/展開



注意

走行中は、スプレーヤーブームの折り畳み/展開を行うことは禁止されています。



危険

スプレーヤーブームの折り畳み/展開は、常に高架送電線から十分に離れた場所で行ってください。高架送電線と接触すると、致命傷を負う場合があります。



警告

横方向に回転する機械部品にスタッフが捕らえられ、体全体が衝撃を受けたり押しつぶされる危険。

この危険は、深刻な重傷や場合によっては致命傷の原因となる可能性があります。

トラクターのエンジンの作動中は、可動機械部品から十分に安全な距離を取って離れてください。

可動機械部品からスタッフ全員が十分に安全な距離を取って離れていることを確認してください。

部品を旋回させる前に、可動機械部品の旋回範囲から外に出るようにスタッフに指示してください。



警告

折り畳み/展開中に第三者がブームの旋回範囲に立っている場合、衝撃を受けたり、ブーム可動部品に捕らえられ、押しつぶされたり引き込まれたりする危険。

- ブームの折り畳み/展開を行う前に、ブームの旋回範囲から外に出るようにスタッフに指示してください。
- 誰かが旋回範囲内に立ち入ったら、ただちにブームの折り畳み/展開操作を中断してください。



ブーム折り畳み/展開用の油圧シリンダーは、ブームを折り畳んだ状態と広げた状態の両方で、各終端位置（走行位置と作業位置）を維持します。

スプレーヤーブームを片側だけ展開した状態での作業



スプレーヤーブームを片側だけ展開した状態での作業は、次の場合のみ許容できます。

- スイング補正をロックした状態でのみ。
- 別のサイドアームが走行位置から下に畳まれている場合のみ（Super S ブーム）。
- 障害物（木、送電用鉄塔など）の脇を通るために一時的に。



- スプレーヤーブームを片側だけ折り畳む前に、スイング補正をロックしてください。

スイング補正をロックしていないと、スプレーヤーブームが片側に揺れる場合があります。展開したサイドアームが地面に当たると、スプレーヤーブームが損傷する恐れがあります。

- スイング補正がロックされている状態での、スプレーヤーブームの揺れや地面との衝突を防ぐために、散布作業時には走行速度を十分に下げてください。スプレーヤーブームのガイド時に騒々しい音がするようだと、横方向の分布が均等にならない恐れがあります。

散布高さの調節



警告

スプレーヤーブームを上昇/下降させているときに、スタッフが引き込まれて衝撃を受けたり押しつぶされる危険。

高さ調節を使ってスプレーヤーブームを上昇/下降させる前に、機械の危険区域から離れるように周囲の人々に指示してください。

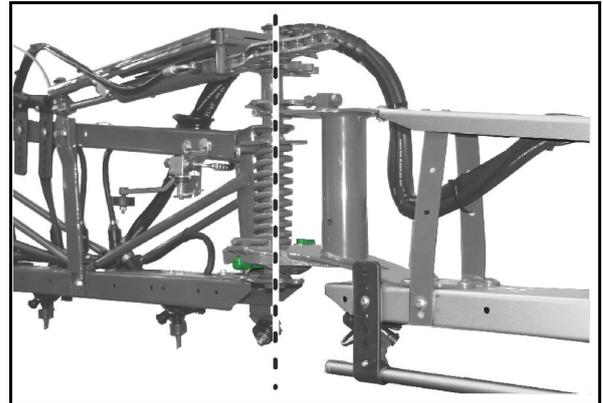
1. 現場にいる人に、機械の危険エリアの外へ出るように指示してください。
2. 以下を用いて、散布表に従い散布高さを設定します。
 - トラクター制御装置 黄色
 - 操作端末（Profi-folding の場合）



スプレーヤーブームは、常に地面と平行にしてください。そうして初めて全てのノズルが指定された散布高さになります。

衝突保護装置

衝突保護装置は、外側サイドアームが硬い障害物にぶつかった場合に、スプレーヤーブームの損傷を防ぎます。樹脂製クラッチは、外側サイドアームが関節軸のまわりを進行方向または逆方向に動くことで、損傷を回避できるようになります。その後、自動的に作業位置に戻ります。

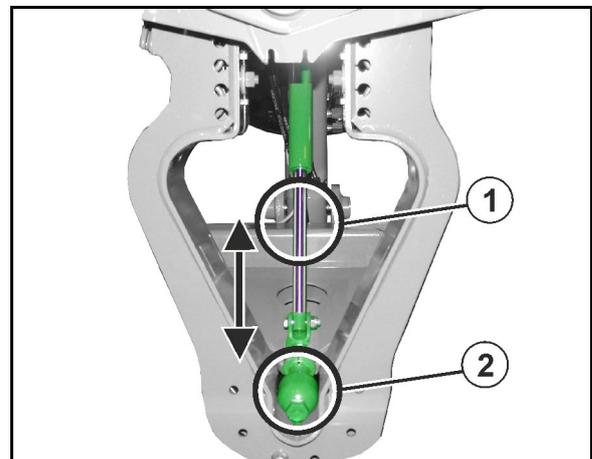


スイング補正

- (1) スイング補正ロック解除
- (2) スイング補正ロック

この図では見やすくするため、スイング補正から保護装置を取り外しています。

スイング補正のロックは、操作端末に表示されます。



スイング補正のロック解除:



均一な横方向の分布は、スイング補正をロック解除した状態でのみ実現されます。

スプレーヤーブームを完全に展開した後、さらに 5 秒間操作レバーを操作し続けてください。

→ スイング補正がロック解除され、展開されたスプレーヤーブームはブームキャリアの方向に自由に動くようになります。

スイング補正をロックします:



- 道路を走行する場合！
- ブームの折り畳み/展開を行う場合！



トラクター制御装置緑色による折り畳み・展開：スイング補正はサイドアームを折り畳む前に自動的にロックされます。

スペーサー

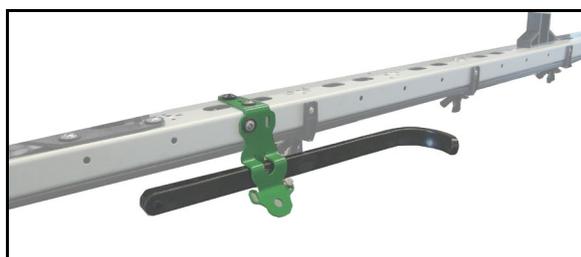
スペーサーは、ブームが地面に衝突するのを防ぎます。



いくつかノズルを使用する際には、スペーサーはスプレーコーンの中に設置されます。

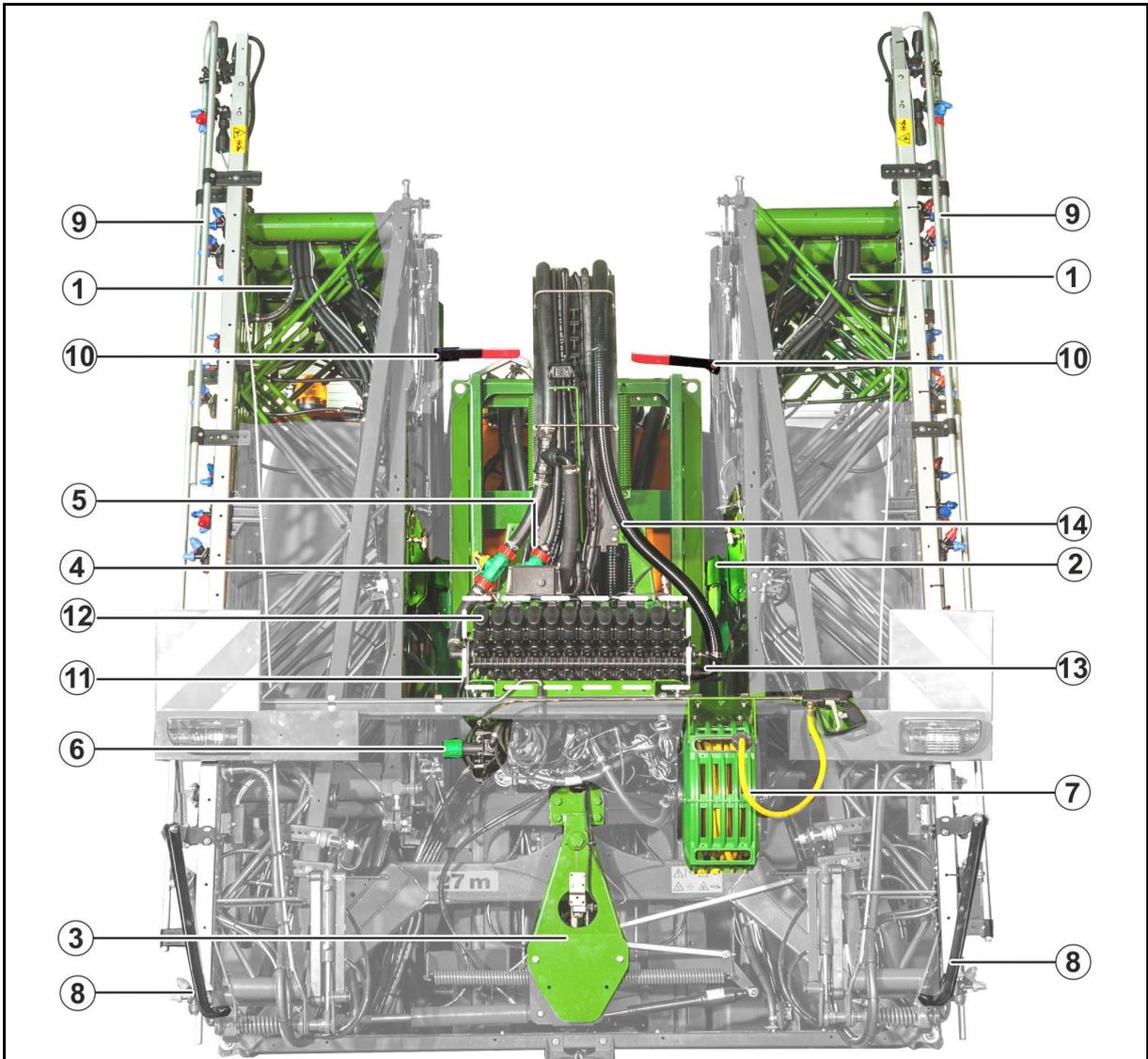
この場合スペーサーは、水平にキャリアに固定します。

蝶ネジを使用します。



6.1 Super S ブーム

一覧 - Super S ブーム



- | | |
|---|--|
| (1) 散布ライン | (9) ノズルパイプ保護部 |
| (2) 移動用ロック機構 | (10) Super S ブームの
ロックの目視検査 ブームセクション
切り替え (あるいは個別 ノズル切り替え) |
| (3) ロックおよびロック解除可能なスイング補正 | (11) モーターバルブ (ブームセクションの ON /
OFF 切り替え用) (操作装置) |
| (4) 流量計 (散布量 [L/ha] を測定するため)
(量制御時のみ) | (12) バイパスバルブ |
| (5) 散布液タンク内に戻る散布液を検出するた
めのリターン流量計 (操作端末を備えている
場合のみ) | (13) 散布圧力計のための圧力接続部 |
| (6) 圧力循環システム用の切り替え栓およびバ
ルブ | (14) 圧力解放バルブ。ブームセクションを OFF
にした後、散布ラインにおける過圧を解消し
ます。 |
| (7) 外部清掃 | |
| (8) スペーサー | |

6.1.1 走行安全用留め具のロックおよびロック解除



警告

走行位置で上に旋回させたブームが輸送走行時に不意に展開することにより、人に対してつぶれや衝撃の危険が生じるおそれがあります。

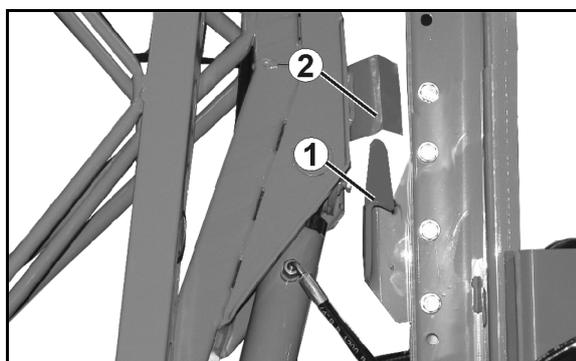
輸送走行を実行する前に、上に旋回して走行位置にあるブームを走行安全用留め具により走行位置にロックしてください。

走行安全用留め具のロック解除

キャッチキャリア (1) がキャッチソケット (2) から外れるまで、高さ調節機能によってスプレーヤーブームを上昇させてください。

→ 走行安全用留め具は、スプレーヤーブームを走行位置からロック解除します。

図は、ロック解除されたブームです。

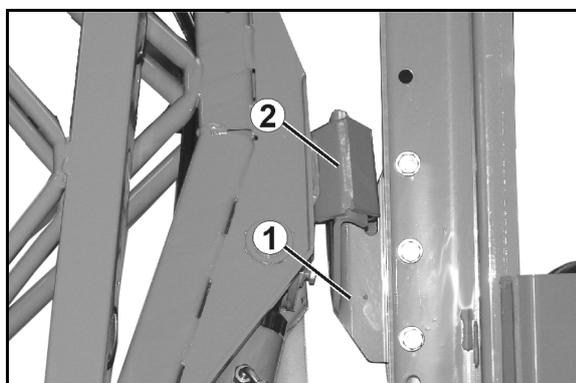


走行安全用留め具のロック

キャッチキャリア (1) がキャッチソケット (2) にはまるまで、高さ調節機能によってスプレーヤーブームを完全に降下させてください。

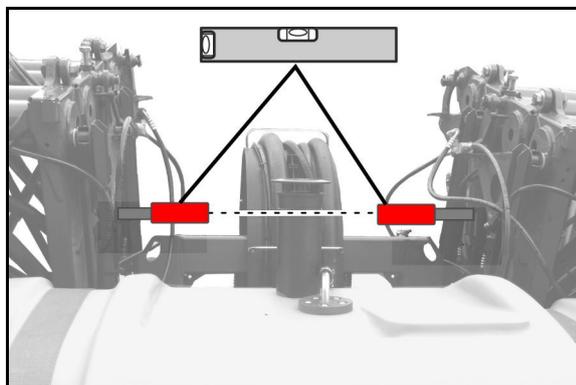
→ 走行安全用留め具は、スプレーヤーブームを走行位置にロックします。

図は、ロックされたブームです。



目視検査で、Super S ブームがロックされているか確認します。

キャッチキャリアがキャッチソケットにはまらなければ、傾き調節でスプレーヤーブームを調整します。



6.1.2 Super S ブーム、トラクター制御装置による展開・折り畳み



Profi-folding : ISOBUS ソフトウェアの取扱説明書を参照してください。



スプレーヤーブーム展開のためにトラクター制御装置 緑色 を操作する前に、装備によっては操作端末で事前選択ボタン「スプレーヤーブームの折り畳み・展開」を押す必要があります。

ISOBUS ソフトウェアの取扱説明書を参照してください！

スプレーヤーブームの展開：

1. トラクター制御装置 黄色 を操作します。
→ ブームを上昇させ、それにより走行位置から解除します。
2. 以下の状態になるまでトラクター制御装置 緑色 を操作します。
→ 両サイドアームが下に畳まれる。
→ 両サイドアームの個々のセグメントが完全に展開する。
→ スイング補正のロックが解除される。



- 各油圧シリンダはブームを作業位置で固定します。
- 展開は常に左右対称で行われるわけではありません。

3. トラクター制御装置 黄色 を操作します。
→ スプレーヤーブームの散布高さを設定します。

スプレーヤーブームの折り畳み：

1. トラクター制御装置 黄色 を操作します。
→ スプレーヤーブームを中程の高さに上昇させます。
2. 傾き調節を「0」にします（備わっている場合）。
3. 以下の状態になるまでトラクター制御装置 緑色 を操作します。
→ 両サイドアームの個々のセグメントが完全に折り畳まれる。
→ 両サイドアームが上に畳まれる。
4. トラクター制御装置 黄色 を操作します。
→ ブームを降下させ、走行位置でロックします。



ブームを折り畳む前に、スイング補正は自動的にロックされます。

スプレーヤーブームを片側だけ展開した状態での作業



油圧式の事前選択折り畳み・展開の場合にのみ可能です。

ISOBUS ソフトウェアの取扱説明書を参照してください。

スプレーヤーブームは完全に展開しています

1. トラクター制御装置 黄色 を操作します。
→ ブームを真ん中の高さに上昇させます。
→ スイング補正は自動的にロックされます。
2. 折り畳むサイドアームを操作端末で事前を選択します。
3. トラクター制御装置 緑色 を操作します。
→ 選択したサイドアームが折り畳まれます。



警告

折り畳んだ後、サイドアームは走行位置まで上昇します。

→ 折り畳み・展開プロセスの中断は適時に行ってください。

4. 傾き調節により、スプレーヤーブームを目標面に対して平行にしてください。
5. スプレーヤーブームと地面の間隔が 1 m 以上になるように、スプレーヤーブームの散布高さを設定してください。
6. 折り畳んだサイドアームのブームセクションを OFF にします。
7. 散布作業の際は、走行速度を十分に落としてください。

片側散布後:

8. 操作端末の事前選択を解除します。
9. 以下の状態になるまでトラクター制御装置 緑色 を操作します。
→ 折り畳んだサイドアームが再び完全に展開する。
→ スイング補正ロック解除
10. すべてのブームセクションを再び ON にします。

6.2 Q plus ブーム

一覧 - Q plus ブーム

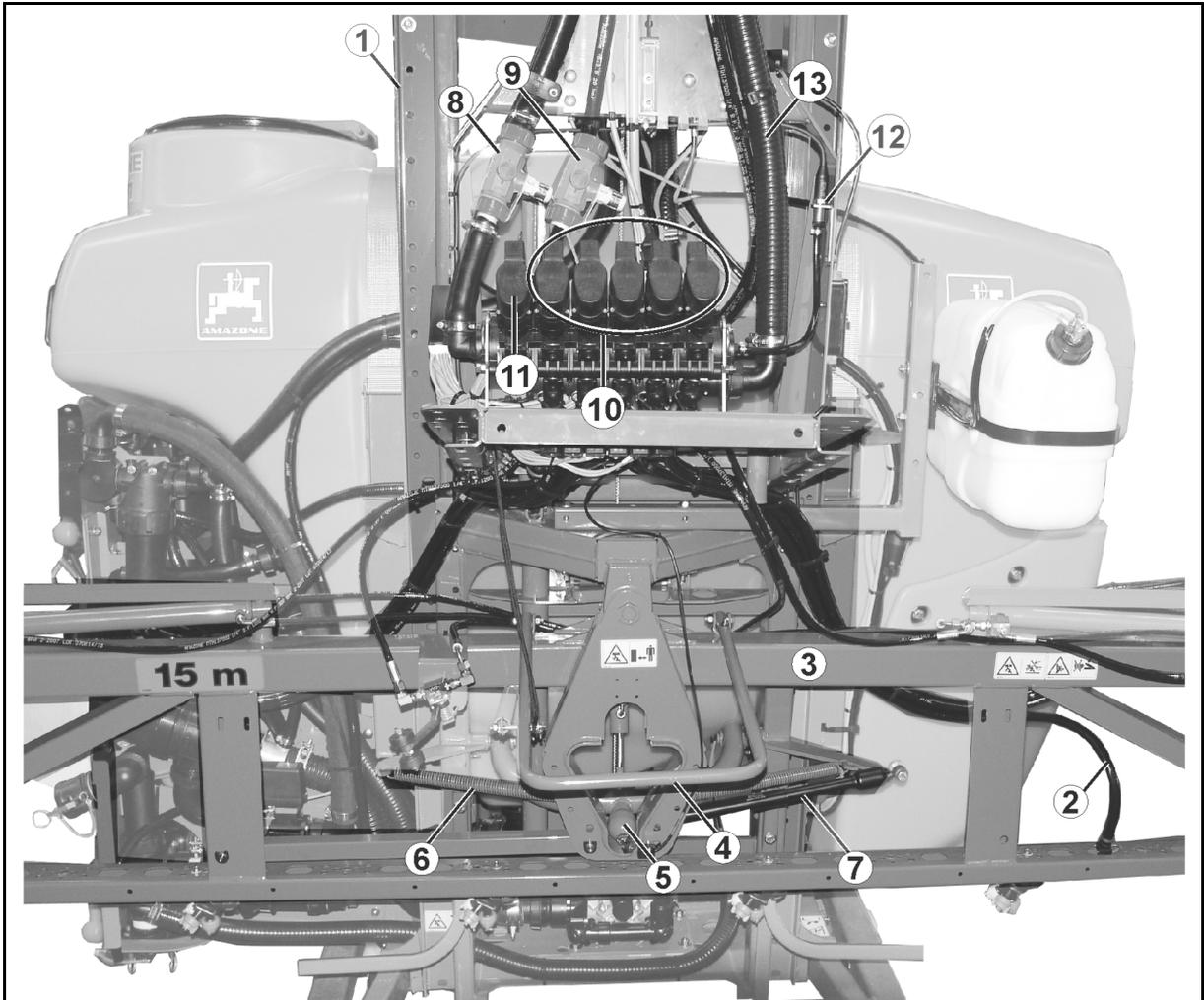


図 3

- | | |
|---|--|
| (1) ブームキャリアフレーム（スプレーヤーブームの高さ調節用） | (8) 流量計（散布量 [L/ha] を測定するため（量制御時のみ）） |
| (2) 散布ライン | (9) リターン流量計（散布液タンクに戻される散布液を測定するため。操作端末のみ） |
| (3) ブーム中央部 | (10) モーターバルブ（ブームセクションの ON / OFF 切り替え用）（操作装置） |
| (4) 折り畳まれたスプレーヤーブームを、不意に展開することがないように走行位置でロックするための移動用ロック機構（ここではロック解除状態）。 | (11) バイパスバルブ |
| (5) ロックおよびロック解除可能なスイング補正 | (12) 散布圧力計のための圧力接続部 |
| (6) ブームを平行に位置あわせするための引張ばね。 | (13) 圧力解放バルブ。ブームセクションを OFF にした後、散布ラインにおける過圧を解消します。 |
| (7) ダンパー | |

6.2.1 走行安全用留め具のロックおよびロック解除



警告

走行位置で折り畳まれたブームが走行中に不意に展開すると、人に対してつぶれや衝撃による危険が生じます。

輸送走行の前に、折り畳んだブームは走行位置において走行安全用留め具でロックしてください。

走行安全用留め具のロック解除

折り畳まれたブームが走行安全用の自動留め具から解放されるまで、折り畳まれたブームを高さ調節機能で上昇させてください（ブームキャリアの長さのおよそ3分の2の高さ）。

→ 走行安全用留め具はスプレーヤーブームを走行位置から解除し、これによりスプレーヤーブームを展開できます。

図は、ロック解除された移動用安全装置を示しています。

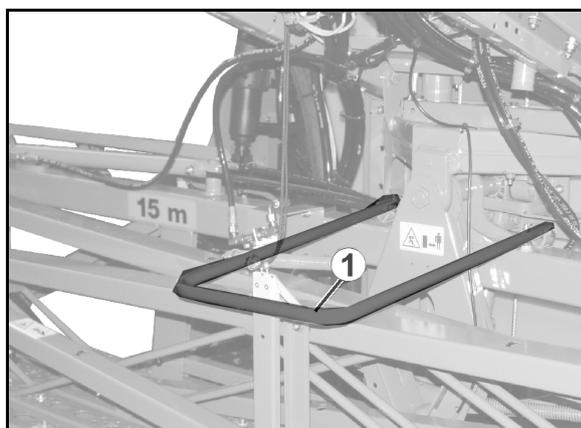


走行安全用留め具のロック

折り畳まれたブームが走行安全用の自動留め具でロックされるまで、折り畳まれたブームを高さ調節機能で下降させてください。（ブームキャリア下端からスプレーヤーブーム下端までの距離はおよそ 30 cm のみになります）。

→ 走行安全用留め具はスプレーヤーブームを走行位置にロックし、折り畳んだブームが不意に展開するのを防ぎます。

図は、ロックされた移動用安全装置を示しています。



6.2.2 Q plus ブーム、トラクター制御装置による折り畳み・展開



スプレーヤーブームを展開するためにトラクター制御装置 (緑色) を操作する前に、装備によっては操作端末で事前選択ボタン「スプレーヤーブームの折り畳み・展開」を押す必要があります。

ソフトウェア ISOBUS の取扱説明書を参照してください。

スプレーヤーブームの展開

折り畳んだブームはロックされ、走行位置にあります。

1. 走行安全用留め具のロックを解除します。これについては「走行安全用留め具のロック解除」
2. 次の状態になるまでトラクター制御装置 (緑色) を操作します。
→ 両サイドアームの個々のセグメントが完全に展開する。
→ スイング補正のロックが解除される。



- 展開時には、まず右側のサイドアームを展開し、その後左側のサイドアームを展開します。
- ロック/ロック解除表示において緑色の区分が見える場合には、スイング補正はロック解除されています。
- 各油圧シリンダはサイドアームを作業位置で固定します。

3. トラクター制御装置 (黄色) を操作します。
→ スプレーヤーブームの散布高さを設定します。

スプレーヤーブームの折り畳み

1. トラクター制御装置 (黄色) を操作します。
→ スプレーヤーブームを真ん中の高さに上昇させます。
2. 傾斜調節を「0」にします (備わっている場合)。
3. 次の状態になるまでトラクター制御装置 (緑色) を操作します。
→ 両サイドアームの個々のセグメントが完全に折り畳まれる。



折り畳み時には、まず左のサイドアームが折り畳まれ、その後右のサイドアームが折り畳まれます。

4. 走行安全用留め具をロックします。これについては「走行安全用留め具のロック」の章 (114 ページの) を参照してください。

6.2.3 右側のサイドアームによる片側での作業

スプレーヤーブームは完全に展開しています。

1. 次の状態になるまでトラクター制御装置 (緑色) を操作します。
→ 左側のサイドアームが完全に折り畳まれる。



左側のサイドアームが折り畳まれる前に、スイング補正は自動的にロックされます。

2. トラクター制御装置 (黄色) を操作します。
→ スプレーヤーブームと地面の距離が 1 m 以上になるように、スプレーヤーブームの散布高さを設定してください。
→ 走行安全用自動留め具により、折り畳まれた左側のサイドアームはロックされます。
3. 左側サイドアームのブームセクションを OFF にしてください。
4. 散布作業では、速度を十分に落としてください。
5. 左側サイドアームを再び展開する前に、走行安全用自動留め具を再びロック解除してください。これについては「走行安全用留め具のロック解除」の章 (114 ページ) を参照してください。

片側散布後:

6. 次の状態になるまでトラクター制御装置 (緑色) を操作します。
→ 折り畳んだサイドアームが再び完全に展開する。
→ スイング補正がロック解除される。
7. すべてのブームセクションを再び ON にします。

6.3 外側サイドアームの削減用ジョイント

削減用ジョイントにより、作業幅を削減するために外側サイドアームの外側エレメントを手動で折りたたむことができます。

ケース 1:

外側ブームセクションの ノズル数	=	折りたたみ式外側エレメントの ノズル数
---------------------	---	------------------------

→ 作業幅を減らして散布する場合には、外側のブームセクションを OFF のままにします。

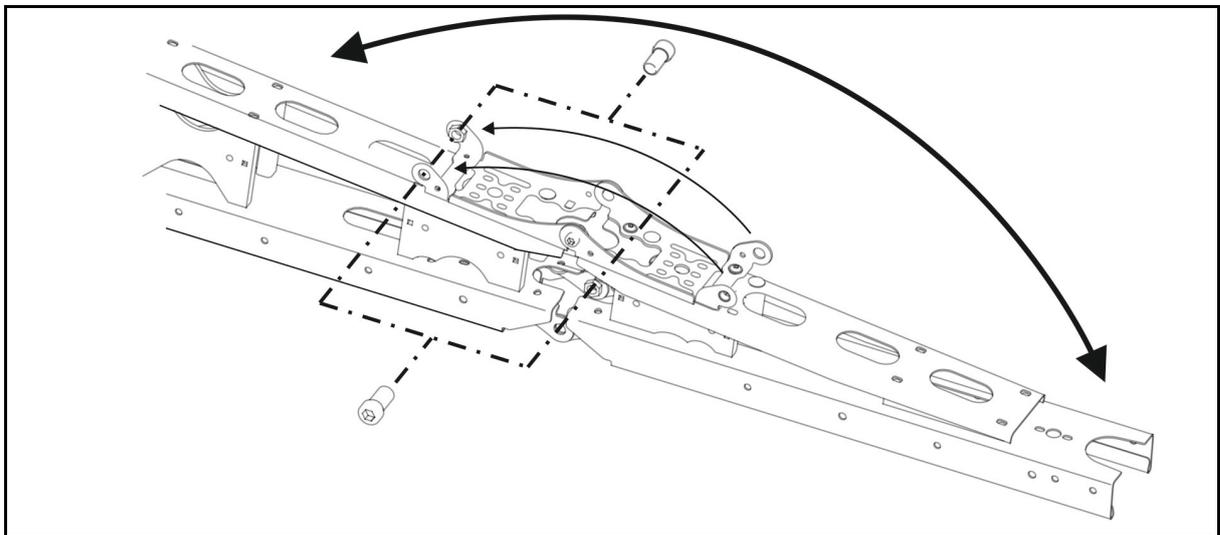
ケース 2:

外側ブームセクションの ノズル数	≠	折りたたみ式外側エレメントの ノズル数
---------------------	---	------------------------

→ 外側ノズルを手動で閉めます（トリプルノズルヘッド）。

→ 操作端末で変更を行います。

- 変更した作業幅を入力
- 外側ブームセクションの変更したノズル数を入力



2本のねじは、折り畳んだり展開した外側エレメントを、それぞれ最終位置で固定します。



注意

ブームを折りたたんだ状態で移動用ロックが作用するように、輸送走行前に外側のエレメントを再び展開してください。

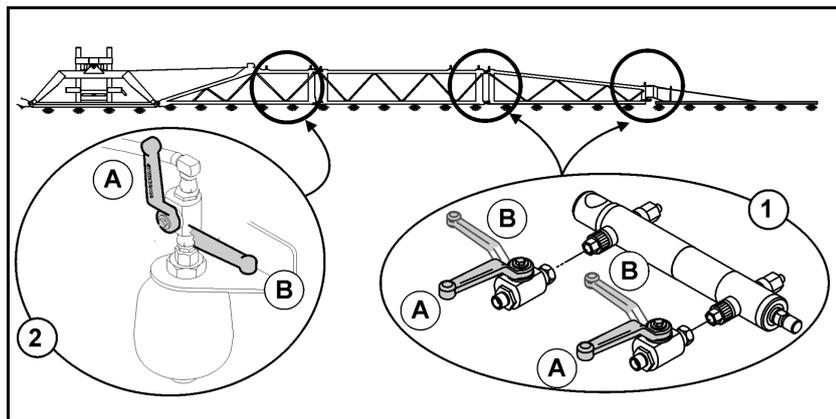
6.4 ブーム幅縮小

ブーム幅縮小により、仕様に応じて作業中に 1 つまたは 2 つのブームを折り畳んだままにすることが可能です。

さらに油圧アクキュムレータを ON にしなければなりません。



該当するブームセクションを、オンボードコンピュータで有効にする必要があります。



- (1) ブーム幅縮小
- (2) 油圧アクキュムレータ UF02 のオプション
- (A) 停止栓（開）
- (B) 停止栓（閉）

縮小した作業幅での作業

1. 油圧でブーム幅を縮小します。
2. ブーム幅縮小のための停止栓を閉じます。
3. ブームダンパーの停止栓を開きます。
4. 該当するブームセクションをボードコンピュータで OFF にします。
5. 縮小した作業幅で使用します。



ブームダンパーの停止栓を閉じます。

- 道路を走行する場合
- 作業幅全体を使用する場合

ブームのセンサ :

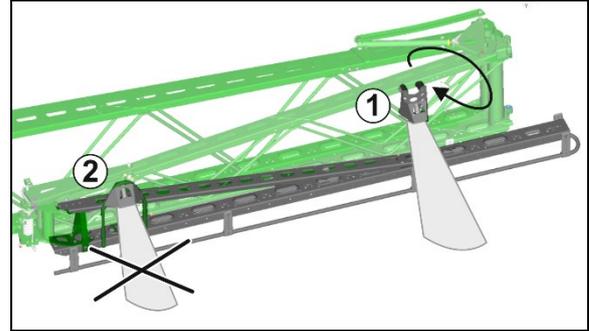
自動ブームガイドを使用し、作業幅を狭くして作業する場合、ブームのサイドアームがセンサーに干渉する可能性があります。

この場合 :

- (1) センサーを 180°回転させて取り付けます。
- (2) DistanceControl plus : 内側のセンサーを取り外します。

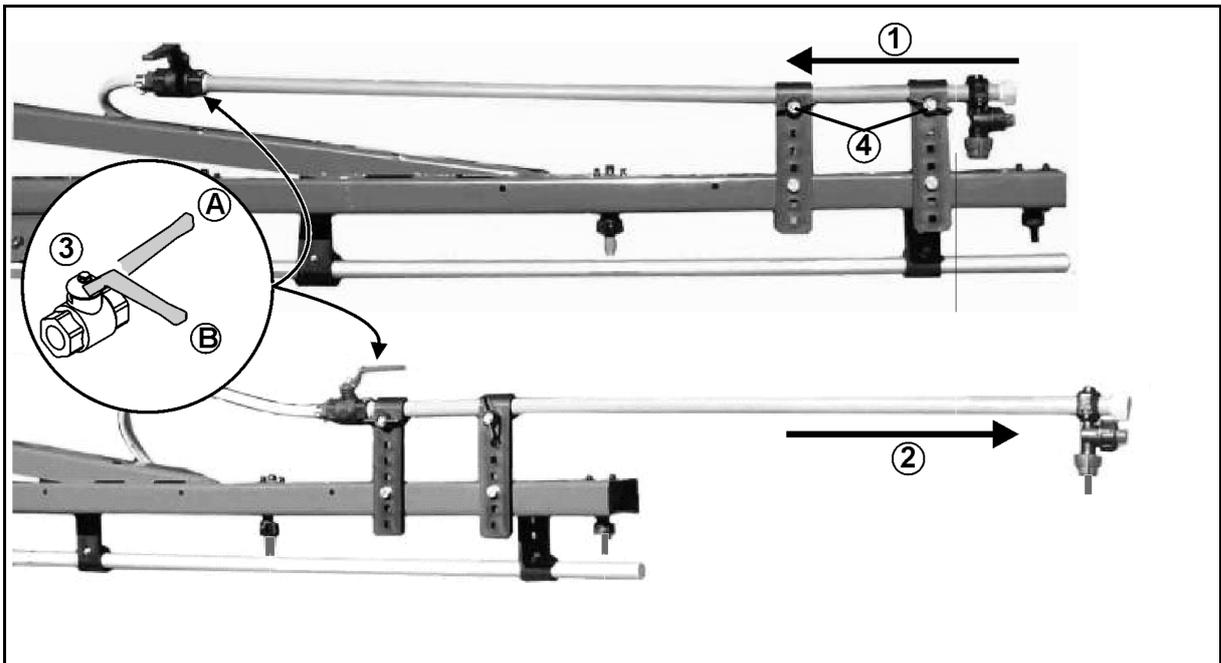
ContourControl : 内側のセンサーを非アクティブにします (ISOBUS ソフトウェア)

。



6.5 延長ブーム

延長ブームにより、作業幅は無段階に最大 1.20 m 拡大されます。



- (1) 延長ブーム (走行位置)
- (2) 延長ブーム (作業位置)
- (3) 外側ノズルの停止栓
 - (A) 停止栓 (開)
 - (B) 停止栓 (閉)
- (4) 蝶ネジ (延長ブームを走行位置または作業位置に固定するため)

6.6 油圧式の傾き調節

例えば轍の深さが異なる場合や車両の片側だけ畝間を走行する場合など、地面の状態が好ましくない場合は、油圧式の傾き調節を使って、スプレーヤーブームを地面または目標面に対して平行にできます。

操作端末に表示されます。

設定は装備に応じて以下で行います。

- 操作端末、あるいは
- トラクター制御装置 ナチュラル色 ベージュ



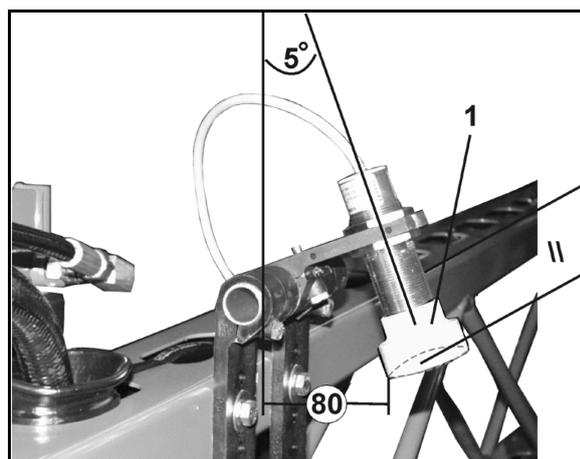
操作端末の取扱説明書を参照。

6.7 DistanceControl / ContourControl

スプレーヤーブーム制御装置のディスタンスコントロールは、自動的にスプレーヤーブームを希望する間隔で目標面と平行に保ちます。

超音波センサーは、地面または作物までの距離を測定します。

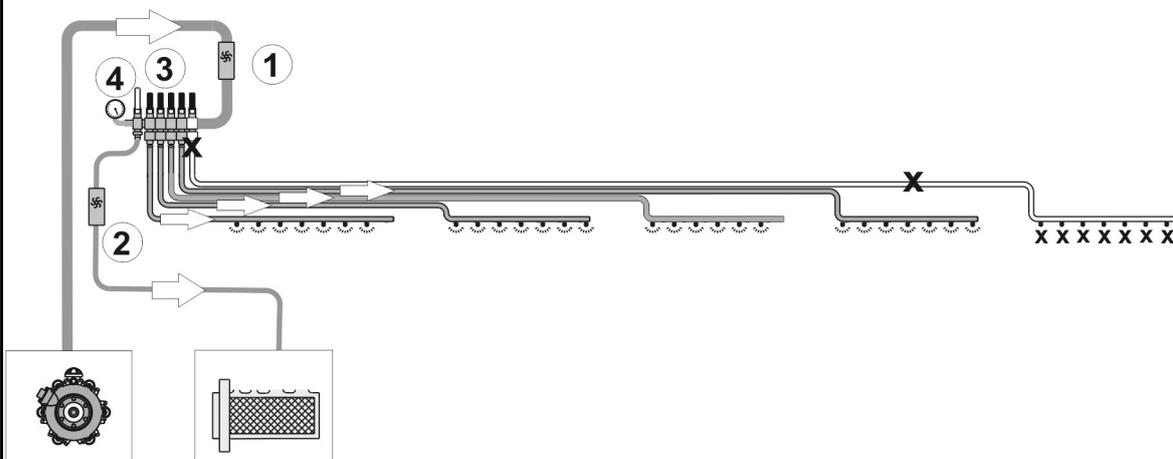
枕地でスプレーヤーブームを OFF にすると、スプレーヤーブームは自動的に約 50 cm 上昇します。ON にすると、スプレーヤーブームはキャリブレーション（較正）された高さに戻ります。



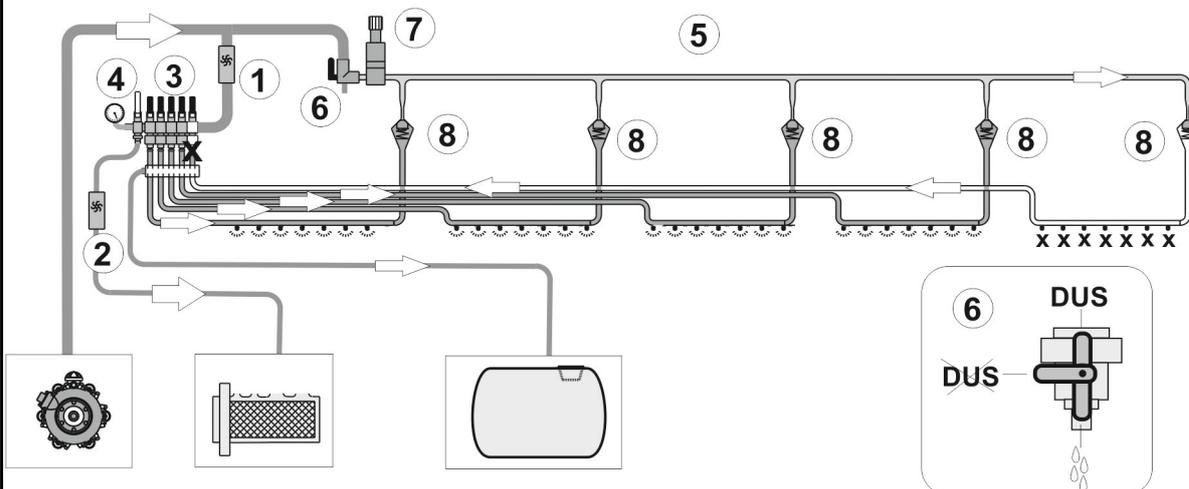
ISOBUS ソフトウェアの取扱説明書を参照してください。

6.8 散布ライン

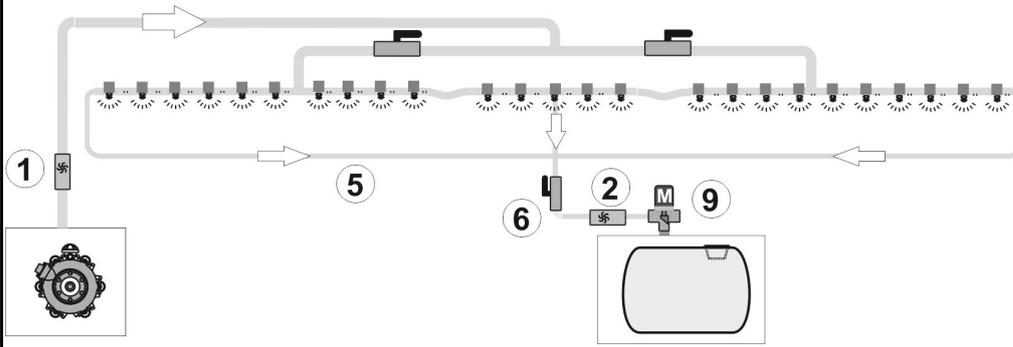
ブームセクションバルブを備える散布ライン



ブームセクションバルブと圧力循環システム DUS を備える散布ライン



個別ノズル切り替えと圧力循環システム DUS Pro を備える散布ライン



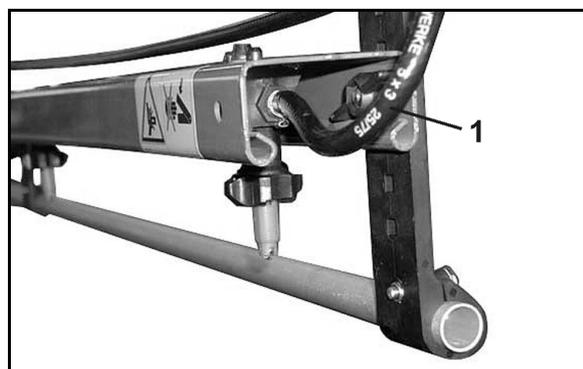
- | | |
|-----------------------|-------------|
| (1) 流量計 | (6) DUS 停止栓 |
| (2) リターン流量計 | (7) 圧力解放バルブ |
| (3) ブームセクションバルブ | (8) 逆止バルブ |
| (4) 散布量が少ない場合のバイパスバルブ | (9) 圧力解放バルブ |
| (5) 圧力循環ライン | |



ブームセクションの切り替え：ドラッグホースを使用する場合は、一般的に圧力循環システムを OFF にします。

圧力循環システムは、

- 散布ラインにおけるコンスタントな液体循環を可能にします。
- 散布液または洗浄水を用いて作業できます。
- すべての散布ラインで未希釈の残留物を減少します。



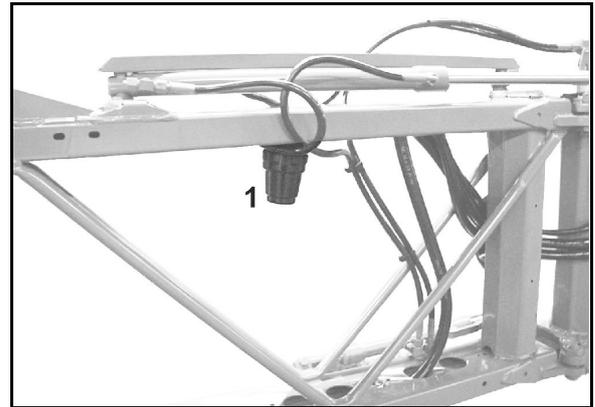
液体のコンスタントな循環により、

- スプレーヤーブームを ON にした直後に、時間遅延なく散布液が全ての散布ノズルに達するので、最初から均一な散布パターンが可能になります。
- 散布ラインの損傷が防止されます。

散布ライン用ラインフィルタ（オプション）

ラインフィルタ（1）

- ブームセクションごとに散布ラインに取り付けられます（ブームセクション切り替え）。
- 左右にひとつずつ散布ラインに取り付けられます（個別ノズル切り替え）。
- 散布ノズルの汚れを防ぐための、さらなる対策となります。



フィルタインサートの概要

- 50 メッシュ／インチのフィルタインサート（青色）
- 80 メッシュ／インチのフィルタインサート（灰色）
- 100 メッシュ／インチのフィルタインサート（赤色）

6.9 ノズル

(1) ノズル本体、バヨネット接続。

- スライダー付きスプリングエレメントのバージョン
- ねじ込まれたスプリングエレメントのバージョン

(2) ダイヤフラム。

散布ライン内の圧力が約 0.5 bar 以下に下がると、スプリングエレメント (3) によってダイヤフラムはノズル本体のダイヤフラムシート (4) に押し付けられます。このため、スプレーヤーブームを OFF にし、ノズルが作動しなくなっても、その後で液体が漏れ出すことはありません。

(3) スプリングエレメント。

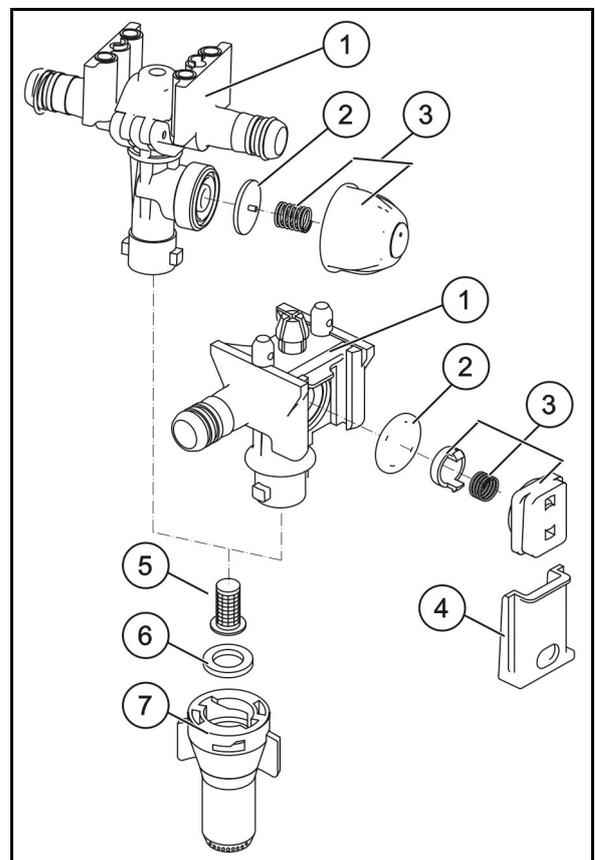
(4) スライダー：

ノズル本体内にダイヤフラムバルブ全体を保持します。

(5) ノズルフィルタ（標準では 50 メッシュ／インチ）は下からノズル本体に取り付けられます。

(6) ゴム製シール。

(7) バヨネットキャップ付きノズル。



6.9.1 マルチノズル

様々なノズルタイプを使用したい場合は、マルチノズルヘッドを用いると便利です。

マルチノズルヘッドを反時計回りに回すと、他のノズルを使用できます。

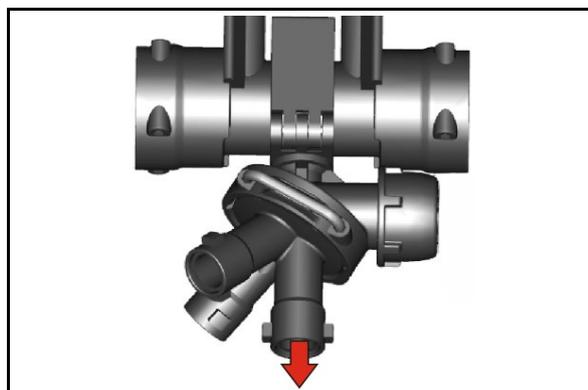
中間位置にすると、マルチノズルヘッドは OFF になります。これにより、ブームの作業幅を縮小することができます。



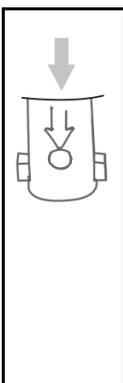
マルチノズルヘッドを他のタイプのノズルに切り替える場合は、その前に散布ラインを洗浄してください。

3 線ノズル (オプション)

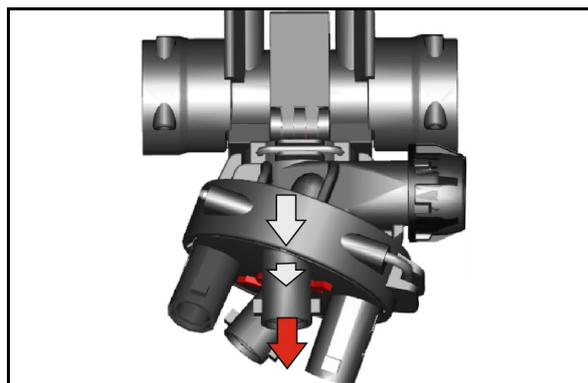
垂直な位置にあるノズルに液体が供給されます。



4 線ノズル (オプション)

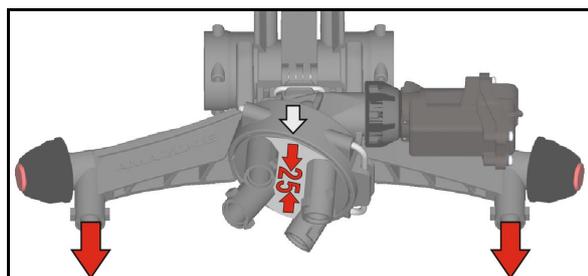


矢印は、液体が供給される、垂直なノズルを示します。

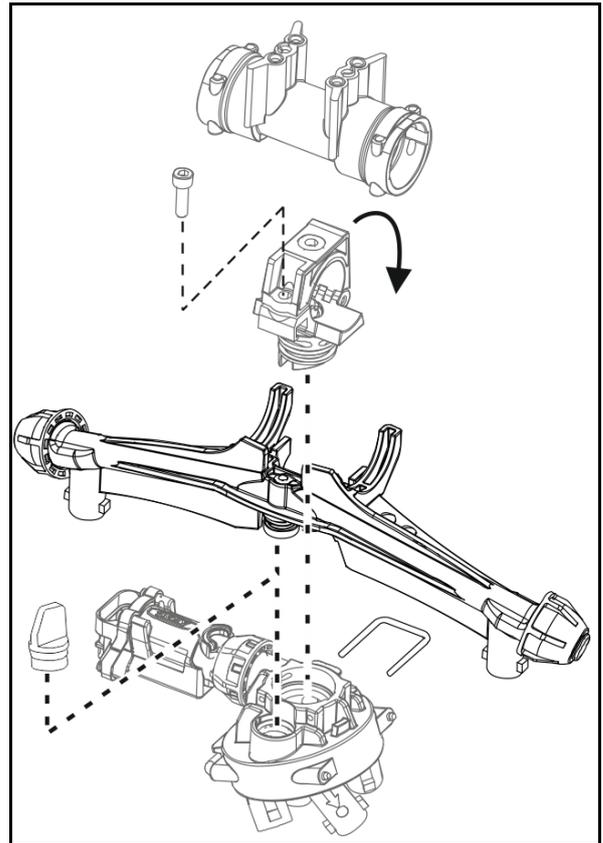


4 線ノズル本体は、25 cm ノズルスレッドを装備できます。その結果、25 cm のノズル間隔を実現できます。

ノズル間隔を 25 cm に設定すると、矢印は 25 cm の文字を示します。



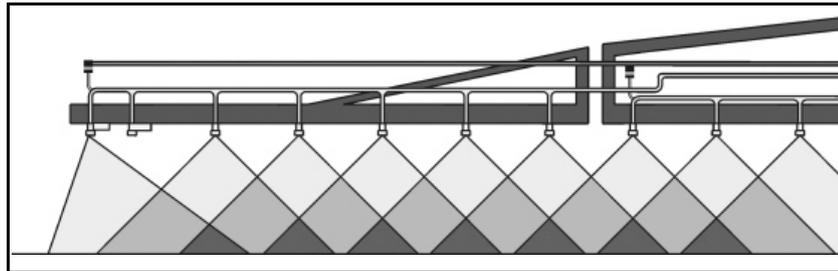
25 cm ノズルスレッドを取り付けます。
25 cm ノズルスレッドを使用しない場合
には、栓で供給を閉じます。



6.9.2 境界ノズル

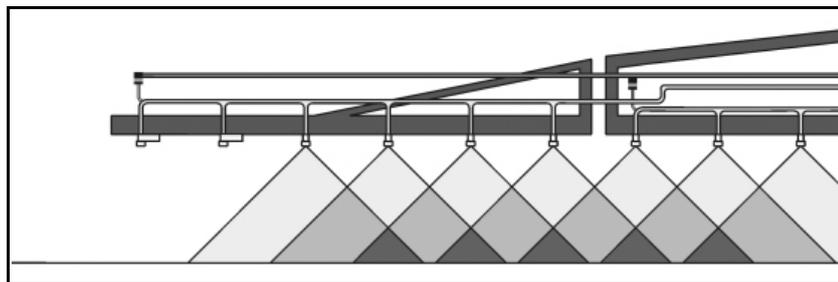
限界ノズル、電動または手動

限界ノズルの切り替えにより、最後のノズルを OFF にし、そこから 25 cm 外側（圃場境界線の位置）の境界ノズルを電動で ON にできます。



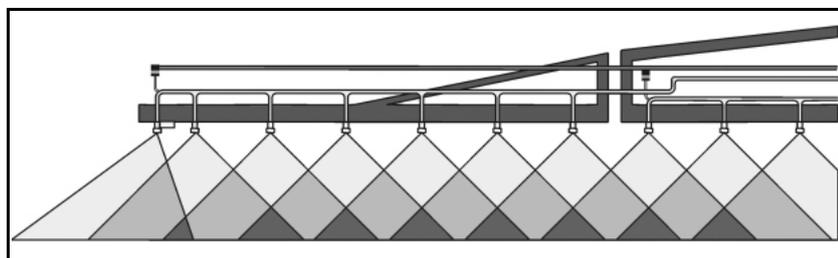
エンドノズル切り替え、電動

エンドノズルの切り替えにより、水源に近い圃場境界線において、トラクターから電動で最大 3 個の外側ノズルを OFF にできます。



追加ノズル切り替え、電動

追加ノズルの切り替えを使用すると、もう 1 つの外側のノズルが ON になり、作業幅が 1 m 拡大します。



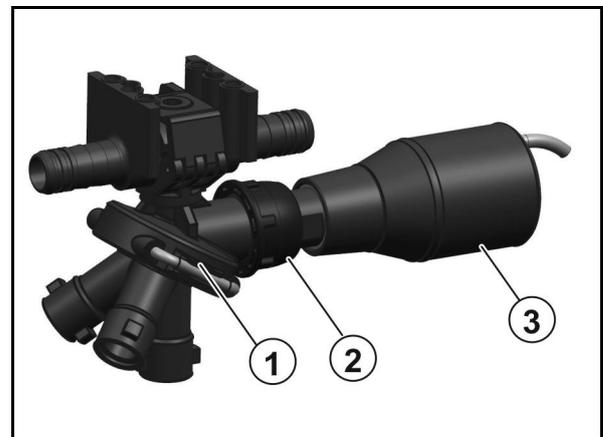
6.10 自動の個別ノズル切り替え

電動個別ノズル切り替えにより、50 cm のブームセクションを個々に切り替えることが可能です。セクションコントロールの自動ブームセクション切り替えとの組み合わせにより、重複を最少範囲に抑えることができます。

6.10.1 個別ノズル切り替え AmaSwitch

セクションコントロールを介して、各ノズルを個別に ON/OFF できます。

- (1) ノズル本体
- (2) ダイアフラムシール付きユニオンナット
- (3) モーターバルブ



6.11 液体肥料についての特別オプション装備

現在、主に 2 種類のタイプの液体肥料が用意されています。

- 硝酸アンモニウム/尿素溶液 (AUS)
(AUS 100 kg あたり 28 kg の N)。
- NP 溶液 10-34-0 (NP 溶液 100 kg あたり 10 kg の N と 34 kg の P_2O_5)。



フラットファンノズルを使って液体肥料を散布する場合は、散布表に記載されている該当する散布量の数値 (L/ha) に、AUS の場合は 0.88 を、NP 溶液の場合は 0.85 を乗じてください (記載されている散布量 (L/ha) は水にのみ適用されます)。

原則として、

植物の肥料焼けを防ぐため、液体肥料を散布するときは粗い液滴にしてください。大きすぎる液滴は葉から滑り落ちてしまい、小さすぎる液滴はレンズの役割を果たして葉焼けの原因となります。肥料が多すぎると、肥料に含まれる塩分濃度によって葉焼けを起こすことがあります。

原則として、例えば 40 kg の窒素を越す液体肥料は散布しないでください (「液体肥料散布換算表」も参照)。穂の肥料焼けは特に悪影響を及ぼすので、開発段階 (EC-39) にあるノズルベースでの AUS の施肥はおやめください。

6.11.1 3 線ノズル

植物の葉よりも根に向けて液体肥料を散布したい場合は、3 線ノズルを使用すると効果的です。

3 つの開口部を備えた投与口がノズルに組み込まれているため、液滴の粗い、ほとんど圧力がかからない状態での液体肥料の散布が可能になります。これにより、好ましくない散布ミストや、細かい液滴の形成が防止されます。3 線ノズルが生み出す粗い液滴は、植物にぶつかる際の衝撃が小さく、植物の表面から滑り落ちます。これにより、焼けを可能な限り防ぐことができます。ただし、遅い追肥には 3 線ノズルは使用せず、ドラッグホースを使用してください。

以下に列挙されたすべての 3 線ノズルについては、黒色の差し込みナットだけを使用してください。

各種 3 線ノズルと使用範囲 (8 km/h 時)

- 3線、黄色、 50 ~ 80 l AUS/ha
- 3線、赤色、 80 ~ 126 l AUS/ha
- 3線、青色、 115 ~ 180 l AUS/ha
- 3線、白色、 155 ~ 267 l AUS/ha

6.11.2 7穴ノズル/FD ノズル

7穴ノズル/FD ノズルの場合にも、3線ノズルと同じ使用条件が当てはまります。3線ノズルとは異なり、7穴ノズル/FD ノズルの場合は、出口が下向きではなく、横向きとなっています。そのため、わずかな衝撃しか与えずに、植物上に非常に大きな液滴を作り出すことが可能です。

以下の7穴ノズルが用意されています。

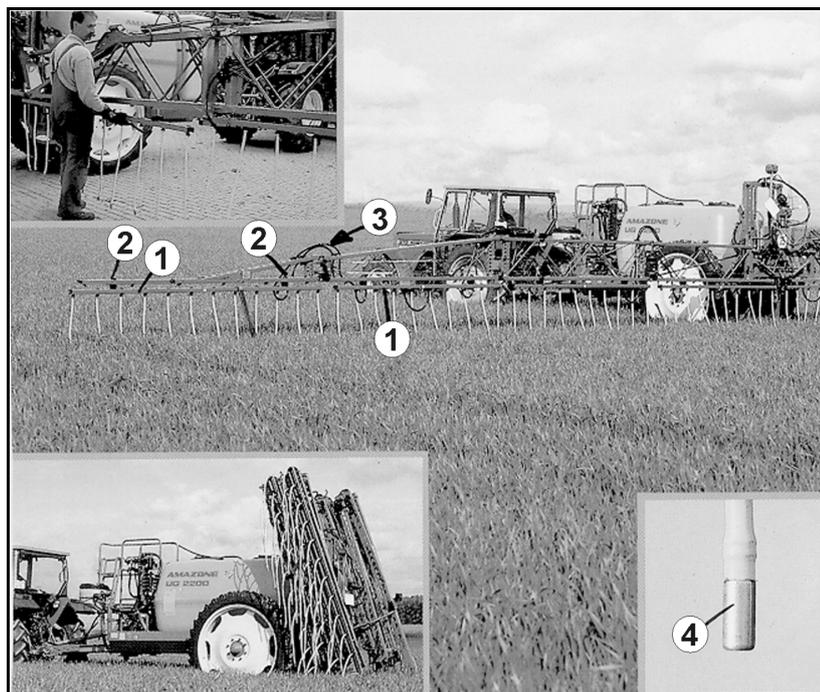
- SJ7-02-CE 74 – 120 l AHL
(8 km/h の場合)
- SJ7-03-CE 110 – 180 l AHL
- SJ7-04-CE 148 – 240 l AHL
- SJ7-05-CE 184 – 300 l AHL
- SJ7-06-CE 222 – 411 l AHL
- SJ7-08-CE 295 – 480 l AHL

以下のFD ノズルが用意されています。

- FD 04 150 - 240 l AHL/ha
(8 km/h の場合)
- FD 05 190 - 300 l AHL/ha
- FD 06 230 - 360 l AHL/ha
- FD 08 300 - 480 l AHL/ha
- FD 10 370 - 600 l AHL/ha*



6.11.3 液体肥料用のドラッグホースユニット



- (1) 番号が振られた各ドラッグホースセクション（ノズルおよびホースの間隔が 25 cm）。走行方向でみて左端に取り付けられているのが No. 1 であり、その横が No. 2 であり、以後番号が続きます。
- (2) ドラッグホースユニットを固定するためのトミーナット
- (3) ホースを連結するためのスリーブプラグ接続。
- (4) 金属製のウェイト（作業中にホースを安定させるため）。



投与ディスクにより散布量 [L/ha] が定まります。

次の投与ディスクを納品できます。

- 4916-26 \varnothing 0.65 50 ~ 104 | AUS/ha (8 km/h の場合)
- 4916-32 \varnothing 0.8 80 ~ 162 | AUS/ha
- 4916-39 \varnothing 1.0 115 - 226 | AHL/ha
 (標準仕様)
- 4916-45 \varnothing 1.2 150 ~ 308 | AUS/ha
- 4916-55 \varnothing 1.4 225 ~ 450 | AUS/ha

これについては「ドラッグホースユニットの散布表」の章 (264 ページの) を参照してください。

7 初期設定

この章には、次の情報が含まれます。

- 機械の初期設定についての情報
- 機械をご使用のトラクターに取り付け可能かどうか/トラクターで牽引可能かどうかを調べる方法



- 機械を初めて作動させる前に、オペレーターは本取扱説明書をよく読み、理解する必要があります。
- 以下の場合、「ユーザーのための安全上の注意事項」の章（34 ページ以降）の内容を守ってください。
 - 機械の連結と連結解除
 - 機械の輸送
 - 機械の使用
- 機械の連結と輸送には、必ず適切なトラクターを使用してください。
- トラクターと機械は、各国の道路交通規則に適合している必要があります。
- 道路交通法を守ることは、オペレーターとユーザーの責任となります。



警告

油圧式または電動式可動部品のエリアで、つぶれ、変形、切断、引き込まれ、および挟まれる危険があります。

折り畳んだり、旋回させたり、押したりするなどの、構成部品の油圧または電気による動作を直接操作するためのトラクターの操作部をブロックしてはいけません。該当する操作部を離すと、各動作は自動停止しなければなりません。これは以下のような装置の動作には当てはまりません。

- 継続して行われる動作
- 自動制御される動作
- 機能に応じてフロート位置または圧力位置を要求

7.1 散布液タンク内の不凍液

機械は、季節や機械のマークに応じて、生分解性の不凍液で、凍結による損傷から保護されます。

不凍液は、初めて使用する際には、散布液と一緒に散布したり、ポンプで排出できます。

ポンプで排出された不凍液は、再利用するか、適切に廃棄します。

7.2 トラクターの適正を確認



警告

トラクターの不適切な使用のため、運転時の損傷、不十分な安定性、不十分なトラクターの操舵力と制動力による危険があります。

- 機械をトラクターに取り付けるか連結する前に、トラクターの適正を確認してください。

機械は、適切なトラクターのみで取り付けまたは牽引することができます。

- 機械を取り付けまたは牽引している状態でもトラクターが必要な制動減速度を得られるかどうか確認するために、ブレーキテストを実行してください。

トラクターの適正要件には、特に次のものがあります。

- 許容総重量
- 許容軸荷重
- トラクターの連結点におけるドロアー許容荷重
- 取り付けたタイヤの許容負荷
- 許容牽引負荷が十分な値であること

これらの情報はトラクターの銘板、車両証、そして取扱説明書を参照してください。

トラクターの前輪軸には、トラクターの自重の 20 % 以上が常にかかっていなければなりません。

機械を取り付けまたは牽引している状態でも、トラクターはトラクターのメーカーが指定した制動減速度を得られなければなりません。

7.2.1 トラクターの総重量、軸荷重、タイヤの許容負荷、必要な最小バラスト値の実際の値の計算



車両証に記載されているトラクターの許容総重量は、以下の値の合計よりも大きくなければなりません。

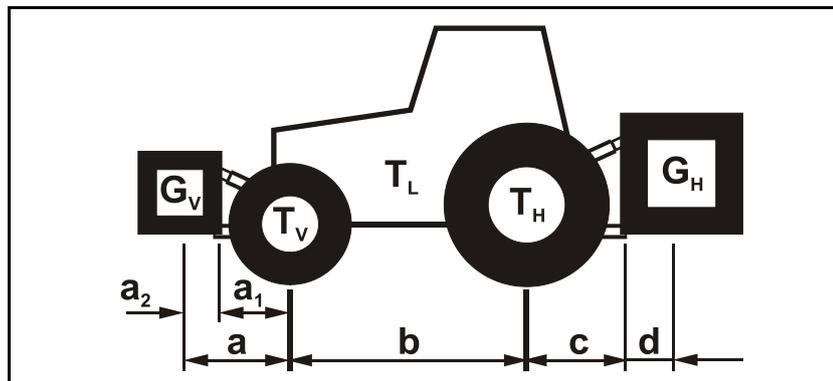
- トラクター自重
- バラスト重量
- 取り付けた機械の総重量または牽引する機械のドロアー荷重



この注記はドイツ国内のみを対象とします。

軸荷重および/または許容総重量を、可能なあらゆる方法を駆使しても守れない場合には、公的な専門家の車両走行についての鑑定をベースに、トラクターのメーカーの同意の下、国の法律に基づく管轄官庁は、§ 70 StVZO に基づく例外許可ならびに § 29 3 項 StVO に基づく必要な許可を出すことができます。

7.2.1.1 計算に必要なデータ



T_L	[kg]	トラクター自重	トラクターの取扱説明書または車両証を参照
T_V	[kg]	トラクターの自重の前輪軸負荷	
T_H	[kg]	トラクターの自重の後輪軸負荷	
G_H	[kg]	リア側に取り付けた機械の総重量またはリアバラスト	機械またはリアバラストの主要諸元を参照
G_V	[kg]	フロント側に取り付けた機械またはフロントバラストの総重量	フロント側に取り付けた機械またはフロントバラストの主要諸元を参照
a	[m]	フロント側に取り付けた機械またはフロントバラストの重心と、前輪軸の中心の間の距離（合計 $a_1 + a_2$ ）	トラクターおよびフロント側に取り付けた機械またはフロントバラストあるいは寸法の主要諸元を参照
a_1	[m]	前輪軸の中心とリフトアーム接続部の中心の距離	トラクターの取扱説明書または寸法を参照
a_2	[m]	リフトアーム接続部の中心と、トラクターの前に取り付けた機械またはフロントバラストの重心の距離（重心距離）	フロント側に取り付けた機械またはフロントバラスト、あるいは寸法の主要諸元を参照
b	[m]	トラクターの軸距	トラクターの取扱説明書または車両証、あるいは寸法を参照
c	[m]	後輪軸中心とリフトアーム接続部中心の距離	トラクターの取扱説明書または車両証、あるいは寸法を参照
d	[m]	リフトアーム接続部の中心とトラクターの後部に取り付けた機械またはリアバラストの重心の距離（重心距離）	機械の主要諸元を参照

7.2.1.2 操舵力を確保するために、トラクターで必要なフロント側最小バラスト値 $G_V \min$ の計算

$$G_V \min = \frac{G_H \cdot (c+d) - T_V \cdot b + 0,2 \cdot T_L \cdot b}{a+b}$$

トラクターのフロント側で必要となる、最小バラスト値 $G_V \min$ の計算した値を表（136 ページ）に記入してください。

7.2.1.3 トラクターの実際の前輪軸荷重 $T_{V \text{tat}}$ の計算

$$T_{V \text{tat}} = \frac{G_V \cdot (a+b) + T_V \cdot b - G_H \cdot (c+d)}{b}$$

計算した実際の前輪軸荷重の数値と、トラクターの取扱説明書に記載されているトラクター許容前輪軸荷重を、表（136 ページ）に記入してください。

7.2.1.4 トラクターと機械の組み合わせの実際総重量を計算

$$G_{\text{tat}} = G_V + T_L + G_H$$

計算した実際の総重量の数値と、トラクターの取扱説明書に記載されているトラクター許容総重量を、表（136 ページ）に記入してください。

7.2.1.5 トラクターの実際の後輪軸負荷 $T_{H \text{tat}}$ を計算

$$T_{H \text{tat}} = G_{\text{tat}} - T_{V \text{tat}}$$

計算した実際の後輪軸荷重の数値と、トラクターの取扱説明書に記載されているトラクター許容後輪軸荷重を、表（136 ページ）に記入してください。

7.2.1.6 トラクターのタイヤの許容負荷

以下の表（136 章）に、許容タイヤ負荷（タイヤメーカーの文書などを参照）の 2 倍の値（タイヤ 2 本）を記入してください。

7.2.1.7 表

	計算に基づく実際の値	トラクターの取扱説明書による許容値	許容タイヤ負荷の2倍 (タイヤ2本)
最小バラスト値 フロント側 / リア側	<input type="text" value=" / kg"/>	--	--
総重量	<input type="text" value=" kg"/>	≤ <input type="text" value=" kg"/>	--
前輪軸荷重	<input type="text" value=" kg"/>	≤ <input type="text" value=" kg"/>	≤ <input type="text" value=" kg"/>
後輪軸荷重	<input type="text" value=" kg"/>	≤ <input type="text" value=" kg"/>	≤ <input type="text" value=" kg"/>



- トラクターの総重量、軸荷重およびタイヤ負荷の許容値を、トラクターの車両証から読み取ってください。
- 実際に算出した値は、この許容値以下でなければなりません (≤)。



警告

不安定であることによる、さらにトラクターの操舵力と制動力が不十分であることによる、つぶれ、切断、閉じ込め、引き込まれ、または衝撃の危険があります。

次の場合には、算出の基礎となったトラクターに機械を連結することはできません。

- 実際に算出した各値のうち、いずれか1つでも許容値を超過している場合。
- 必要なフロント側の最小バラスト値 (G_v min) を得るためにフロントバラスト (必要な場合) をトラクターに固定していない場合。



- トラクターの軸荷重がいずれかの軸においてのみ超過している場合には、フロントバラストまたはリアバラストを使用してトラクターを安定させてください。
- 特別な場合:
 - フロント側に取り付けた機械の重量 (G_V) では安定化のために必要なフロント側の最小バラスト値 ($G_V \text{ min}$) に足りない場合には、フロント側に取り付けた機械に加え、フロントバラストを追加しなければなりません。
 - リア側に取り付けた機械の重量 (G_H) では安定化のために必要なリア側の最小バラスト値 ($G_H \text{ min}$) に足りない場合には、リア側に取り付けた機械に加え、リアバラストを追加しなければなりません。

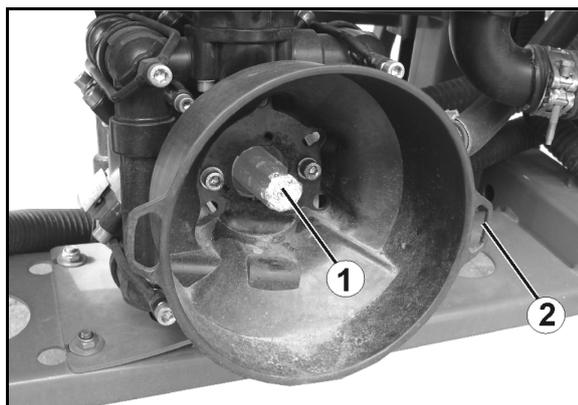
7.3 プロペラシャフトの取り付け



注意

- AMAZONE で指定されているプロペラシャフトだけを使用してください！
- プロペラシャフトは、スプレーヤーを取り付けておらず、タンクの中身が空になっている場合にのみ、取り付けてください。

1. ポンプの入力軸 (1) を清掃し、グリースを塗布します。
2. プロペラシャフトのスプリングピン (1) を押し込みます。
3. スプリングピンがはまり、プロペラシャフトが軸上で固定されるまで、プロペラシャフトを差し込みます。
4. 機械 (2) にチェーン (2) を掛けて、プロペラシャフト保護パーツと一緒に回転するのを防ぎます。



7.4 トラクターにプロペラシャフトの長さを適合させる



警告

以下のような危険があります。

- トラクターに連結されている機械を上昇/下降する際に、プロペラシャフトの長さが適切に調節されていないためにプロペラシャフトが押しつぶされたり両側に引っ張られたりすると、構成部品が破損し、さらに/または破損して飛び出すことにより、ユーザー / 第三者への危険がある。
- プロペラシャフトの取り付けが正しくないか、プロペラシャフトに許可されない設計変更を加えることにより、閉じ込めと巻き込まれの危険がある。

プロペラシャフトを初めてトラクターに連結する前に、あらゆる運転状態でのプロペラシャフトの長さのチェックを専門工場に依頼し、必要に応じて調節してください。

プロペラシャフトの調節をする際には、同梱のプロペラシャフト取扱説明書の記載を必ず守ってください。



プロペラシャフトのこの調節は、その時点で使用しているトラクターに対してのみ有効です。機械を別のトラクターに連結する場合には、場合によってはプロペラシャフトの調節を再度実行する必要があります。



警告

プロペラシャフトの取り付けが正しくないか、プロペラシャフトに許可されない設計変更を加えることにより、引き込まれと挟まれの危険があります。

プロペラシャフトに構造的な変化を加えてよいのは、専門工場だけです。この際、プロペラシャフトメーカーの取扱説明書の記載を守る必要があります。

プロファイルカバーの必要最小長さを考慮してプロペラシャフトの長さを調節することは認められます。

プロペラシャフトのメーカーに取扱説明書で指定されていないプロペラシャフトの設計変更は認められません。



警告

プロペラシャフトが最も長くなる運転位置と最も短くなる運転位置を検出するために機械を上昇および下降させる際に、トラクターの後部と機械の間で押しつぶされる危険があります。

トラクターの3点式油圧システム用操作部での操作は以下に従ってください。

- 所定の操作場所でのみ操作
- トラクターと機械の間の危険エリアにいる場合には、絶対に操作しないでください。



警告

不意に

- トラクターと、連結されている機械が動き出すことにより押しつぶされる危険があります。
- 上昇している機械が降下することにより押しつぶされる危険があります。

プロペラシャフトの調節のためにトラクターと上昇している機械の間の危険エリアに立ち入る前に、機械とトラクターが不意に作動して走り出すことがないように固定し、また上昇している機械が不意に降下することがないように固定してください。



プロペラシャフトは、水平になったときに最も短くなります。機械を完全に上昇させた時、プロペラシャフトは最も長くなります。

1. トラクターと機械を連結します（プロペラシャフトは連結しない）。
2. トラクターのパーキングブレーキを引きます。
3. プロペラシャフトの最も短い動作位置と最も長い動作位置で、機械のリフト高さを検出します。
 - 3.1 このためにトラクターの3点式油圧システムにより機械を昇降させてください。
 所定の操作場所において、トラクター後部でトラクターの3点式油圧システム用操作部を操作してください。
4. 検出したリフト高さにおいて、上昇した機械が不意に降下することがないように固定してください（支持部材を使用したりクレーンで吊り下げるなど）。
5. トラクターと機械の間の危険エリアに立ち入る前に、不意に始

動することがないようにトラクターを固定してください。

6. プロペラシャフトの長さを検出する際や、短縮する際には、プロペラシャフトメーカーの取扱説明書を順守してください。
7. プロペラシャフトの短縮された片側を再びはめ込んでください。
8. プロペラシャフトを接続する前に、トラクターの PTO とポンプの入力軸にグリースを塗布してください。

プロペラシャフトの保護パイプにあるトラクターマークは、プロペラシャフトのトラクター側の接続部を表します。

7.5 トラクター/機械が意図せず作動したり、走り出すことのないように固定してください



警告

機械での作業中に、以下のことによって生じる、つぶれ、変形、切断、閉じ込め、引き込まれ、または衝撃の危険。

- トラクターの3点式油圧システムで上昇させた、固定されていない機械が不意に降下。
- 上昇した、固定していない機械部品の意図しない落下。
- トラクターと機械が不意に始動して走り出すこと。
- 機械に対する作業を始める前に、不意に作動して走り出すことがないように、トラクターと機械を固定してください。
- 以下の場合には、機械での作業（例：設置、調整、故障解決、清掃、メンテナンスおよび修理）は一切禁止されています。
 - 機械の作動時
 - プロペラシャフト/油圧系統が接続された状態でトラクターのエンジンが稼動している場合
 - イグニッションキーをトラクターに差し込んでおり、プロペラシャフト/油圧系統を接続している状態でトラクターのエンジンが不意に稼動する可能性がある場合
 - 不意に走り出すことがないように、各パーキングブレーキを引いておらず、かつ/または輪止めでトラクターと機械を固定していない場合。
 - 可動部品が不意に動作することがないようにブロックされていない場合

こうした作業を実施するときは、固定していない機械部品と接触する危険が高まります。

1. 上昇して固定されていない機械、上昇して固定されていない機械パーツは下降させてください。
- 以下の手段により、意図しない下降を防ぎます。
2. トラクターのエンジンを OFF にします。
 3. イグニッションキーを抜き取ります。
 4. トラクターのパーキングブレーキをかけます。
 5. 機械が不意に動き出すことがないように、以下のように固定します（牽引されている機械の場合のみ）。
 - 平坦な土地においてはハンドブレーキ（備わっている場合）または輪止めによって
 - 起伏の激しい土地または傾斜の場合は、ハンドブレーキと輪止めによって

7.6 油圧系統の設定

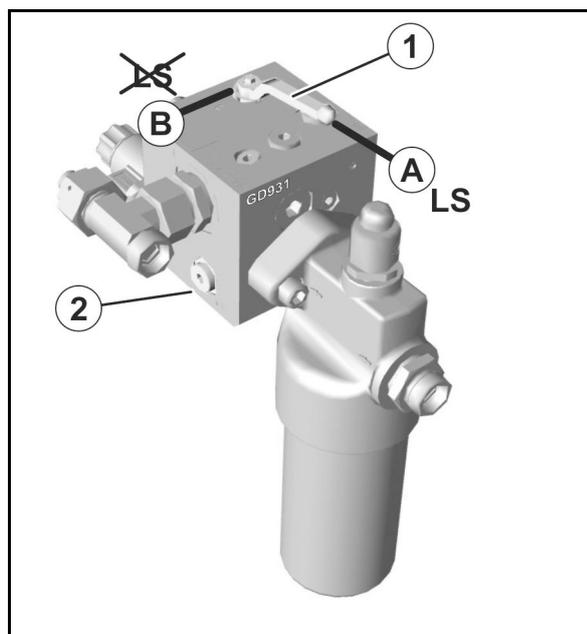


Profi-folding : 油圧ブロックは、機械のフロント右側にあります。



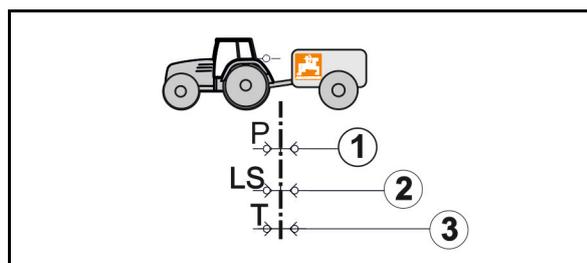
- トラクターと機械の油圧システムは、相互に適合するように必ず調整してください。
- 機械油圧システムの設定は、機械の油圧ブロックにあるシステム設定ねじで行います。
- 油圧オイルの温度が上昇する場合、それはシステム設定ねじの設定が正しくなくて、トラクター油圧システムの圧力解放バルブに負荷がかかり続けているのが原因です。
- 設定は必ず圧力を抜いた状態で行ってください。
- 初期設定時にトラクターと機械の間で油圧機能に異常がある場合には、サービスパートナーに連絡してください。

- (1) 設定栓は、位置 A と B に設定可能
- (2) 負荷感知型制御ライン用の LS 接続



機械側の接続部：

- (1) P - 順流、圧力ホース、プラグ 規格幅 20
- (2) LS - 制御ライン、プラグ 規格幅 10
- (3) T - 逆流、スリーブ 規格幅 20



- (1) 定量ポンプ（ギアポンプ）または可変容量形ポンプを備えたオープンセンター油圧システム

→ 設定 B を選択します。

- !** 可変容量形ポンプ：トラクター制御装置で必要最大オイル量を設定します。オイル量が少なすぎると、機械の正常な機能を保証できません。

- (2) 直接的な負荷感知機能ポンプ接続部と LS 可

変容量形ポンプを備える負荷感知型油圧システム（圧力制御および電力制御の可変容量形ポンプ）。

→ 設定 A を選択します。

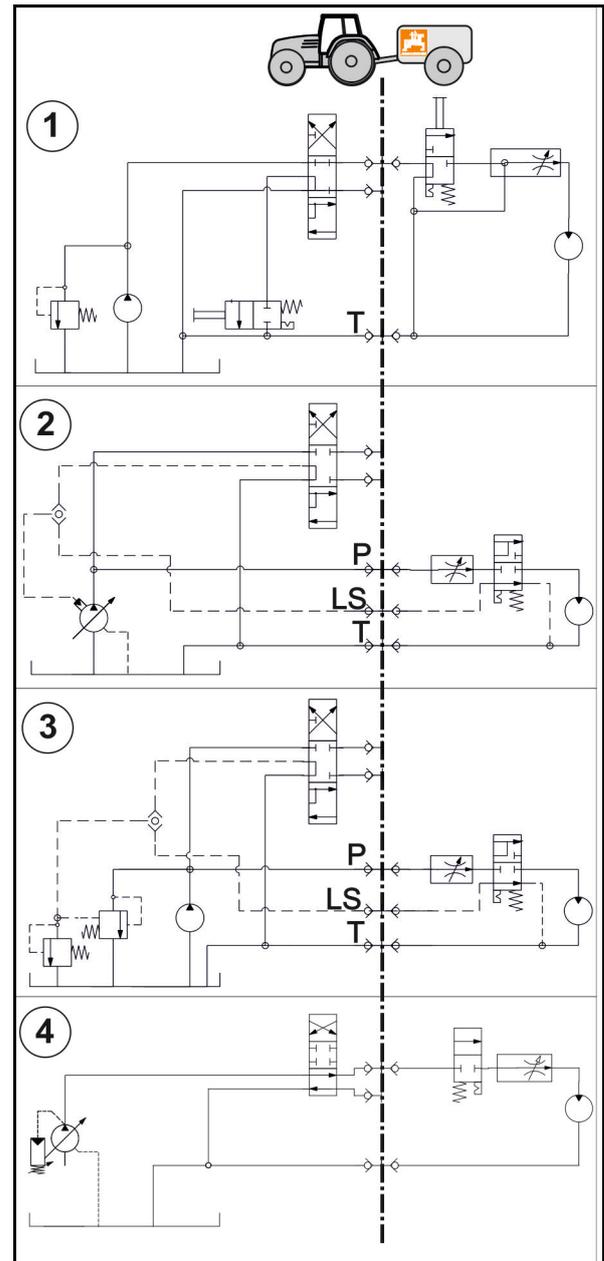
- (3) 定量ポンプ（ギアポンプ）付き負荷感知型油圧システム。

→ 設定 A を選択します。

- (4) 圧力制御式可変容量形ポンプを備えたクローズドセンター油圧システム。

→ 設定 B を選択します。

- !** 油圧システムのオーバーヒートの危険: クローズドセンター油圧システムは、油圧モーターによる稼動にあまり適していません。



8 機械の連結と連結解除



警告

機械の連結および連結解除時に、トラクターの後部と機械の間で押しつぶされる危険があります。

トラクターの3点式油圧システム用操作部での操作は以下に従ってください。

- 所定の操作場所でのみ操作
- トラクターと機械の間の危険エリアにいる場合には、絶対に操作しないでください。

8.1 機械の連結



警告

トラクターの不適切な使用のため、運転時の損傷、不十分な安定性、不十分なトラクターの操舵力と制動力による危険があります。

機械は、適切なトラクターのみで取り付けまたは牽引することができます。これについては「トラクターの適正を確認」の章（132ページ）を参照してください。



警告

機械連結時に機械とトレーラーの間で押しつぶされる危険があります。

機械に向けて走行する前に、機械とトレーラーの間の危険エリアから離れるように周囲の人々に指示してください。

誘導して手伝う人は、トラクターと機械の横にいて、車両の間には停車しているときだけ立ち入ることができます。



警告

機械がトラクターから不意に離れる場合、つぶれ、閉じ込め、引き込まれおよび衝撃の危険があります。

- トラクターと機械の接続には、規定に従い、所定の装置を使用してください。
- 機械をトラクターの3点式油圧システムに連結する場合には、トラクターと機械の接続カテゴリーを必ず一致させてください。
- 機械の連結には、必ず同梱されている上側リンクピンと下側リンクピンを使用してください（純正ピン）。
- 機械を連結する際には、上側リンクピンおよび下側リンクピンに欠陥がないか必ず目視検査してください。上側リンクピンおよび下側リンクピンの磨耗が明らかな場合には交換してください。
- 3点連結式フレームの連結点は、上側リンクピンおよび下側リンクピンをそれぞれリンチピンで、不意に外れることがないように固定してください。
- 始動する前に、上下のリンクフックが正しくロックされているか、目で確認してください。



警告

供給ラインの損傷によりトラクターと機械の間のエネルギー供給が停止する危険があります。

供給ラインを接続する際には、供給ラインの配線に注意してください。供給ラインは、

- すこしたるみがある状態で、かつ取り付けられた機械または牽引する機械のあらゆる動きにおいて、引っ張られたり、折れたり、あるいは擦れることがないようにしなければなりません。
- 他の物体で擦れることがあってはいけません。



警告

最悪の場合死に至る、負傷の危険

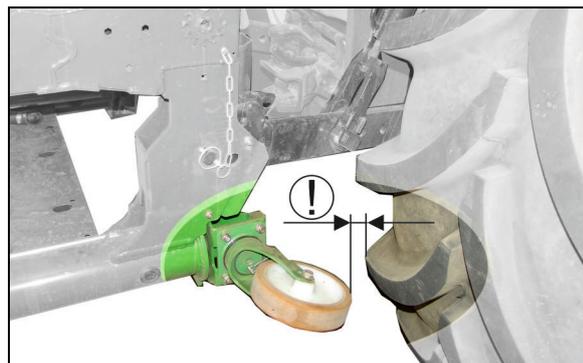
機械に対する作業を始める前に、不意に作動して走り出すことがないように、トラクターと機械を必ず固定してください（142 ページを参照）。


注意

パーキング装置がトラクターのホイールに衝突する危険。

走行前に全ての取り付け位置で、トラクターと機械の間に十分なスペースがあるか点検してください。

パーキングホイールは、常に自由に回転する状態でなければなりません。

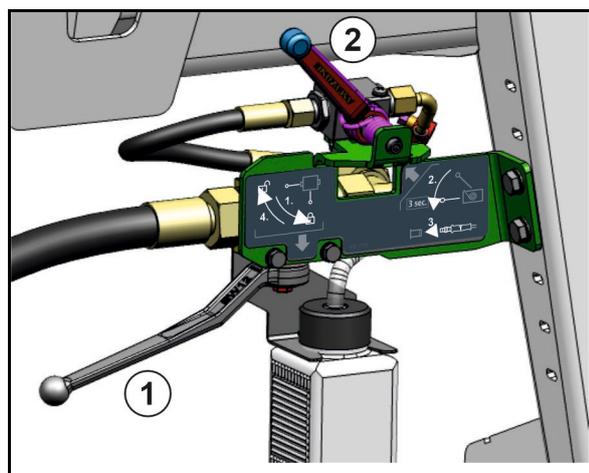


1. トラクターの下側リンクを同じ高さに調節します。
2. ボールスリーブを 3 点リンクの連結ポイントに留めて固定します。
3. 供給ラインを連結するのに十分なスペースが、トラクターと機械の間に生じるように、トラクターを機械に近づけます。



油圧ホースラインを、指定された順序で連結します。

4. 停止栓 (1) を閉じます。
5. オイルリターン流 T を圧抜きするために、停止栓 (2) を 3 秒間開きます。
6. オイルリターン流 T を連結します。
7. 停止栓 (1) を開きます。
8. 圧力ライン P と制御ライン LS を連結します。
9. 他の供給ラインを連結します。
10. プロペラシャフトを連結します。
11. トラクターを機械に近づけます。
12. トラクターの座席から、下側リンクを連結します。
13. トラクターの座席から、上側リンクを連結します。
14. 上側リンクと下側リンクのフックが正しくロックされているか確認します。
15. 機械を走行位置に上昇させてください。
16. 取り付け式スプレーヤーのブームキャリアが垂直になるように、上側リンクの長さを変更してください。
17. パーキングサポートを走行位置にします。



8.1.1 クイックカップリングシステム搭載の機械を連結

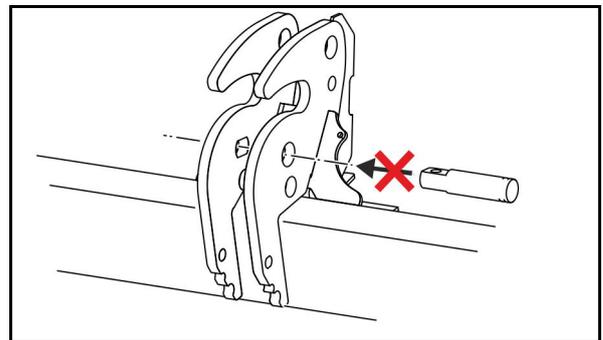
 **危険**
 上側リンク接続が外れることによる事故の危険。

走行前に上側リンクの接続部を目視点検してください。

機械を停めて最大限上昇させれば、上側リンクのアタッチメントがクイックカップリングシステムと衝突することはありません。

 **注意**
 連結時の機械の損傷

クイックカップリングシステムを使用する際は、上側リンクピンを標準的な3点リンクに取り付けられません！

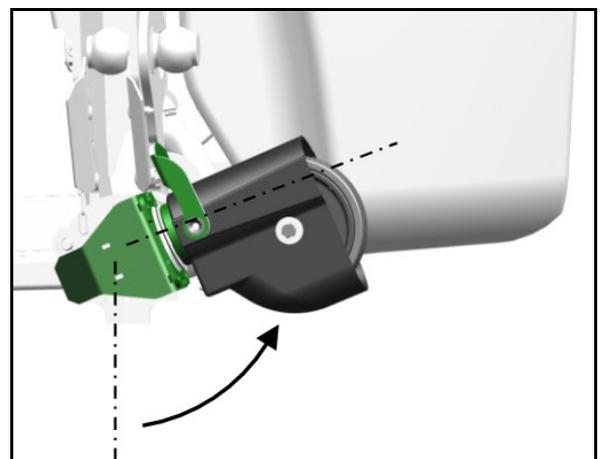


 **危険**
 上側リンク接続が外れることによる事故の危険。

パーキングシステムが走行位置に上昇していないと、走行中に機械から上側リンクが外れる可能性があります。

上昇した前部左側パーキングサポート/搬送ローラーは、クイックカップリングシステムをロックします。

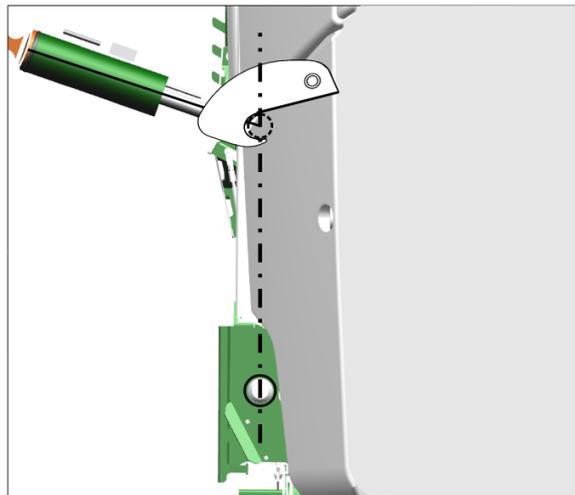
走行前に、パーキングシステムが走行位置になっていることを確認してください。





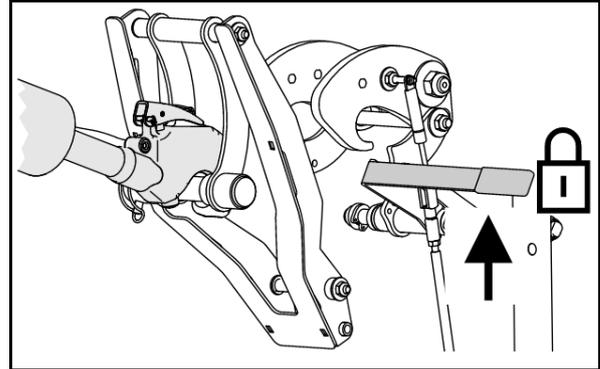
機械をトラクターに連結する前に、上側リンクの最適な長さを調べておいてください。

- トラクターの下側リンクを連結できるためには、ロックされた上側リンクピンが下側リンクピンの真上になければなりません。
- 作業位置に持ち上げられた機械は、垂直に立っていないとダメです。



1. トラクターの下側リンクを、同じ高さに設定します。
2. ボールスリーブを3点リンクの連結ポイントに留めて固定します。
3. ロック解除したシステムが上側リンクを受け入れられるようになるまで、トラクターを機械に近づけます。

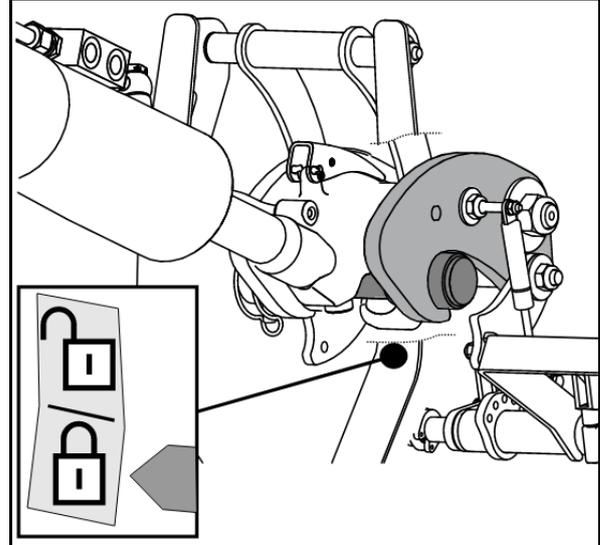
4. 上側リンクの機械側を連結します。
5. 供給ラインを連結します。
6. プロペラシャフトを連結します。
7. 後で安全ラッチを固定するために、ハンドレバーを上げます。



8. カップリングシステムがラッチで上側リンクをロックできるようになるまで、トラクターを機械に近づけます。

→ ポインタは、上側リンクピンが前方にロックされていることを示します。

9. トラクターの座席から、下側リンクを連結します。
10. 機械を、走行位置に上昇させます。

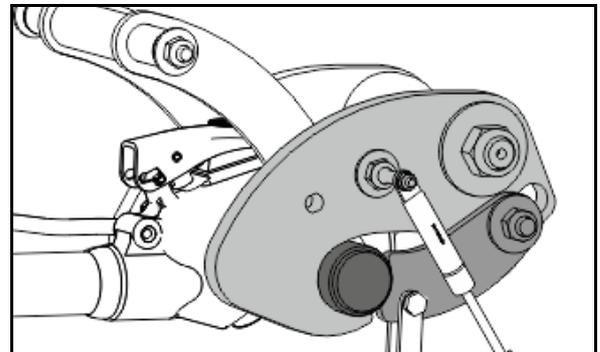


11. パーキングサポートを走行位置にセットし、走行位置をチェックします。

→ 安全ラッチは、上側リンクを後方に固定して、ロックします。

12. 連結システムが上側リンクを、前方および後方に正しくロックしていることを確認します。

13. 作業位置の機械が垂直になっていることを、水準器で確認します。



8.2 機械の連結解除



警告

連結解除した機械の転倒による危険。

- 機械を連結解除する前に、パーキングサポートをサポート位置にします。
- 連結解除した機械は原則としてタンクを空にした状態で、水平で地面が硬い場所に置きます。



警告

最悪の場合死に至る、負傷の危険

- 機械とトラクターの間の危険エリアから離れるように周囲の人々に指示してください。誘導する人と手伝う人のみが、トラクターおよび機械の横に留まることができます。
- 機械に対する作業を始める前に、不意に作動して走り出すことがないように、トラクターと機械を必ず固定してください（142 ページを参照）。

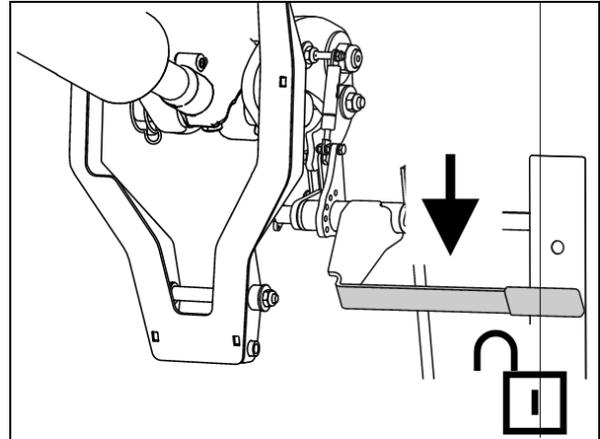
1. パーキングサポートをパーキング位置にします。
2. 機械を、水平で固い場所に置きます。
3. 上側リンクの負荷を軽減します。
4. トラクターの座席から、機械の上側リンクを連結解除します。
5. 下側リンクの負荷を軽減します
6. トラクターの座席から、機械の下側リンクを連結解除します。
7. 供給ラインを連結解除できるようになるまで、トラクターを前進させます。
8. 供給ラインを切り離して、保護キャップで汚染から保護してください。
9. プロペラシャフトを連結解除します。

8.2.1 クイックカップリングシステム搭載の機械を連結解除



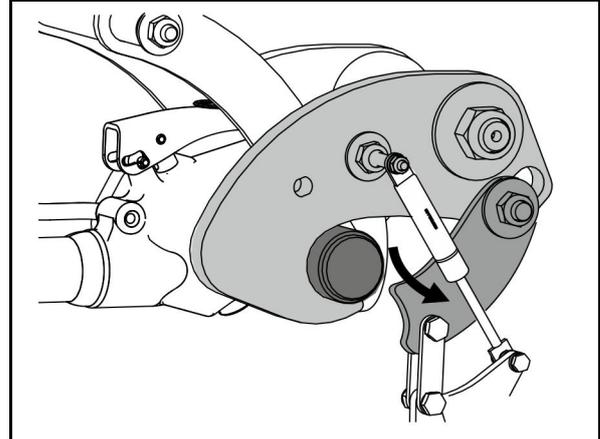
機械をトラクターから連結解除できるように、パーキングサポートはパーキング位置になければなりません。

1. 安全ラッチの固定を解除するために、ハンドレバーを下げます。
2. パーキングサポートをパーキング位置にします。



→ 安全ラッチが、上側リンクの後方への固定を解除します。

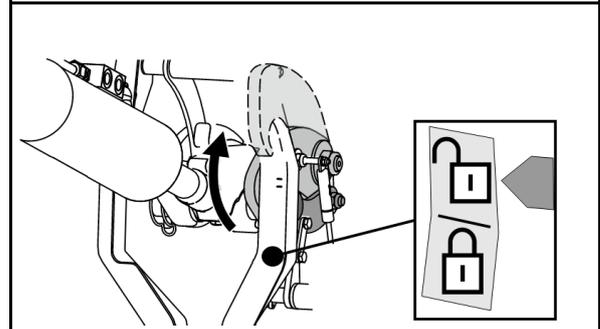
3. 機械を、水平で固い場所に置きます。



4. カップリングシステムが自動的に上側リンクをリリースしない場合は、トラクターをいくぶんバックさせます。

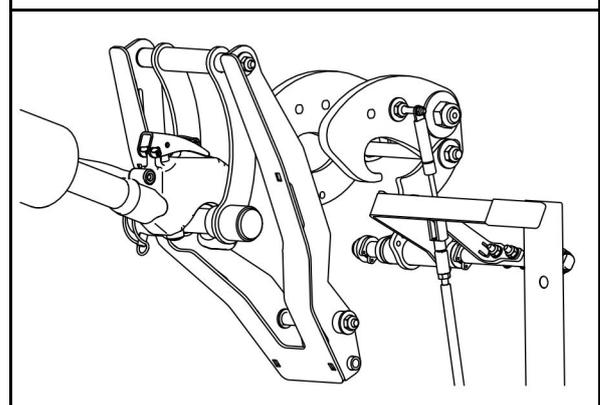
5. 下側リンクの負荷を軽減します

6. トラクターの座席から、機械の下側リンクを連結解除します。



7. トラクターを前進させます :

- 上側リンクが連結された状態で可能な限り (最大 450 mm) 。
 - 供給ラインを連結解除できるようになるまで。
8. プロペラシャフトを連結解除します。
 9. 供給ラインを切り離します。
 10. 上側リンクを連結解除します。
 11. ハンドレバーを再び上げます。



9 輸送走行



警告

取り付けた機械が不意に外れることにより、つぶれ、切断、閉じ込め、引き込まれ、および衝撃の危険があります。

輸送走行前に、上側リンクピンと下側リンクピンが不意に外れることがないように、リンチピンでしっかり固定されているかどうか、目視検査してください。



警告

機械の不意の運動により、つぶれ、変形、切断、閉じ込め、巻き込まれ、引き込まれ、挟まれまたは衝撃の危険があります。

- 可倒式機械の場合、走行時用のロックが正しく働いているか確認してください。
- 輸送走行前に、機械が不意に運動することが無いように固定してください。



警告

転倒または不安定であることによる、つぶれ、切断、閉じ込め、引き込まれ、または衝撃の危険。

- 機械を取り付けた、あるいは機械を牽引するトラクターを、つねに完全に制御できる状態で運転してください。
そのためには、あなた個人の能力、路面 交通 視界 天候の諸条件、さらにはトラクターの走行特性および取り付けた機械または牽引する機械の影響を考慮に入れてください。
- 取り付けた機械または牽引する機械が左右に振られることがないように、輸送走行前に、トラクターのリフトアームの側面のロックを行ってください。

**警告**

トラクターの不適切な使用のため、運転時の損傷、不十分な安定性、不十分なトラクターの操舵力と制動力による危険があります。これらの危険は、重傷や死に至る原因となります。

取り付けた機械または牽引する機械の最大荷重と、トラクターの許容軸荷重および許容ドロアー荷重を遵守してください。必要に応じて、タンクを満タンにせず使用してください。

**警告**

指示に反して、機械の上に乗る、落下する危険。

作動中は、機械の上に乗ったり登ったりすることは禁止されています。

機械に近づく前に、積載場所から離れるように周囲の人々に指示してください。



フロントタンクを使用する場合、トラクターのヘッドライトが覆われます。

その代わりにルーフライトを使用する場合、輸送走行速度は 30km/h を上回ってはなりません。

**注意**

- スプレーヤーブームを輸送位置に動かし、機械的に固定してください。
- 外側エレメントの作業幅を縮小する部品が取り付けられている場合、輸送を行うためにこれを展開してください。
- 走行位置に上げられた混入容器が、不意に下がるのを防ぐために、移動用ロック機構を使用してください。
- 上昇させた梯子が不意に下に倒れることがないようにロックするために、移動用ロック機構を使用してください。
- 延長ブームが取り付けられている場合は、これを走行位置にしてください。
- 他の道路利用者にとって眩しくないように、輸送走行中は作業灯を切ったままにしてください。

10 制御装置のコンフォートパッケージ用ツインターミナル

ツインターミナルを介して、吸引側のマルチウェイバルブを電動で切り替えられます。

ツインターミナルの標準画面：

- 
 散布液タンクの充填レベルおよび攪拌レベルの表示

- 
 洗浄水タンクの充填レベルの表示

操作用に4つのキーを備えています。

機械をONにすると、デフォルトでは吸引側が表示されます：


 散布液タンクから吸引

→ 散布作業



ツインターミナルを介して、吸引装置を切り替えることができます：

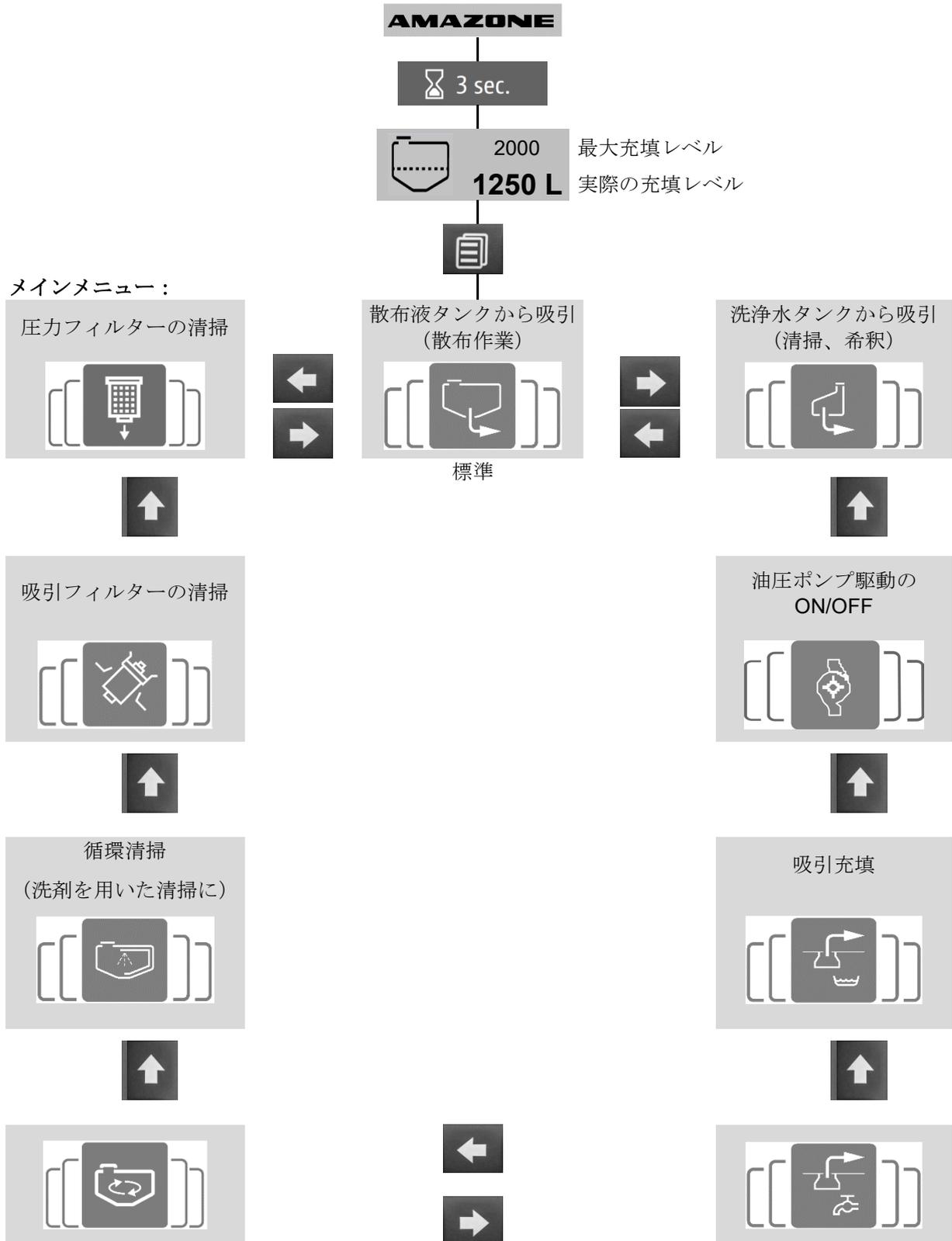
これにより、散布作業だけでなく他の機能もツインターミナルで選択できます（機械および装備により異なります）：

- 吸込口または圧力接続部による充填
- 洗浄水タンクから吸引（清掃および希釈）

TwinTerminal の他の機能：

- アジテーターの設定
- 循環清掃
- 散布液タンクが充填された状態での圧力フィルター清掃

ツインターミナルのスキーム



メインメニューのキー

、 メインメニューで機能を選択

 機能を開始

 ホーム画面へ



設定メニューのキー

、 値を下げる／上げる

 入力を確定

 戻る



11 機械の使用



機械を使用するときは、以下の章の記載を守ってください。

- 「機械上の警告マークとその他の記号」 (22 ページ以降)
- 「ユーザーのための安全上の注意事項」 (34 ページ以降)

この記載を守ることは、あなたの安全にとって重要です。



操作端末と機械制御ソフトウェアの取扱説明書にも注意してください。

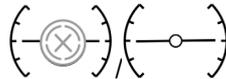
**警告**

ディスタンスコントロール、ContourControl

超音波センサー照射範囲への立ち入りにより、自動モードのスプレーヤーブームが不意に動き、怪我をする危険。



スプレーヤーブームをロックしてください→



- トラクターから離れる前に。
- 部外者がスプレーヤーブームの作動範囲にいる場合。

**危険**

スプレーヤーブームが架空送電線に接触した際の、感電による致命傷。

圃場のマストや生垣、その他の物体が、自動ブームガイドのセンサー検知範囲にさしかかると、スプレーヤーブームが意図せずに上方に旋回し、架空送電線に衝突する可能性があります。

このようなエリアでは、自動ブームガイドを **OFF** にしてください。

**警告**

トラクターの不適切な使用のため、運転時の損傷、不十分な安定性、不十分なトラクターの操舵力と制動力による危険があります。

取り付けた機械の最大荷重と、トラクターの許容軸荷重および許容ドロアー荷重を遵守してください。必要に応じて、タンクを満タンにせず使用してください。



警告

取り付けた機械のトラクターの転倒または不安定であることによる、つぶれ、切断、引き込まれ、挟まれ、または衝撃の危険。

機械を取り付けたトラクターを、つねに完全に制御できる状態で運転してください。

そのためには、あなた個人の能力、路面・交通・視界・天候の諸条件、さらにはトラクターの走行特性および取り付けた機械の影響を考慮に入れてください。



警告

取り付けた機械が不意に外れることにより、つぶれ、切断、閉じ込め、引き込まれ、および衝撃の危険があります。

機械の使用前に、上側リンクピンと下側リンクピンが不意に外れることがないようにリンチピンで固定されているかどうか、必ず目視検査してください。



警告

以下のことによる、つぶれ、変形、切断、閉じ込め、引き込まれ、または衝撃の危険。

- 上昇した、固定していない機械部品の意図しない落下。
- トラクターと機械が不意に始動して走り出すこと。

機械の不具合を直す前に、不意に作動して走り出すことがないように、トラクターと機械を固定してください（142 ページを参照）。

機械の危険区域に立ち入る前に、機械が静止するまで待ってください。



警告

トラクターの PTO のドライブ回転数が許容値を超過すると、部品が破損して飛び出し、ユーザー / 第三者に対する危険が生じる恐れがあります。

トラクターの PTO を ON にする前に、機械の許容駆動速度に注意してください。



警告

閉じ込めと巻き込まれの危険と、駆動するプロペラシャフトの危険エリア内で検知された異物が飛び出る危険があります。

- 機械を使用する前に、プロペラシャフトの安全装置と保護装置が不備なく完全に機能する状態であるか確認してください。
プロペラシャフトの安全装置と保護装置が損傷している場合には、専門工場にすぐに交換させてください。
- チェーンによってプロペラシャフト保護パーツが回転しないよう固定しているか確認します。
- 作動しているプロペラシャフトからは十分に安全な距離を取って離れてください。
- 現場にいる人に対し、駆動しているプロペラシャフトの危険エリアから立ち去るように指示してください。
- 危険がある場合には、トラクターのエンジンを速やかに OFF にしてください。



警告

意図せず農薬／散布液に触れる危険。

- 次の場合に個人用保護具を着用してください。
 - 散布液を準備する際
 - 散布作業時に散布ノズルを清掃 / 交換する場合
 - 散布作業後にスプレーヤーを清掃するためのあらゆる作業時
- 必要な保護服を装着するには、使用する農薬のメーカーの指示、製品情報、使用説明書、安全データシートまたはユーザーマニュアルに従ってください。例えば以下を使用してください。
 - 耐薬品性の手袋
 - 耐薬品性のオーバーオール
 - 耐水性のある靴
 - 安全マスク
 - 呼吸保護
 - 保護メガネ
 - 皮膚の保護剤、その他

**警告**

意図せず農薬／散布液に触れて、健康を損なう危険。

- 以下の作業を行う前に、保護手袋を着用してください。
 - 農薬の取り扱い
 - 汚れたスプレーヤーにおける作業、または
 - スプレーヤーの清掃
- 次の場合に、保護手袋を洗浄水タンクの新鮮な水で洗います。
 - 農薬に触れた直後、必ず
 - 保護手袋を外す前

11.1 散布作業の準備

- 農薬を適切に散布するためには、スプレーヤーが正しく作動する必要があります。試験装置を使い、定期的にはスプレーヤーのテストを行わせてください。不具合が見つかった場合はすぐに除去してください。
- フィルター装置が適正か注意してください。
- 異なる農薬を使用する場合は、その前にスプレーヤーを完全に清掃してください。
- 以下の場合にはノズルラインを予備洗浄してください
 - ノズルを変更する度
 - マルチノズルヘッドを他のノズルに回転させる前「清掃」の章（212 ページ）を参照してください。
- 洗浄水タンクとハンドウォッシュタンクを充填してください。

11.2 散布液を準備



制御装置でツイーターミナルを用いて、散布液の準備を行います。



警告

意図せずに農薬および／または散布液に触れる危険。

- 農薬は、原則的に混入容器を介して、散布液タンクに混入してください。
- 農薬を混入容器に入れる前に、混入容器を旋回させて充填位置にしてください。
- 農薬の使用説明書に記載されている、農薬取り扱いおよび散布液準備の際に、身体と呼吸を保護するための安全規則を守ってください。
- 井戸や地表水の近くでは、散布液の準備を行わないでください。
- 適切な身体保護を行い、適切な行動を取ることで、農薬および／または散布液の漏れや、その結果生じる汚染を防いでください。
- 第三者への危険を回避するため、準備済みの散布液や未使用の農薬、未清掃の農薬缶、未清掃のスプレーヤーなどを放置しないでください。
- 汚れた農薬缶や、汚れたスプレーヤーに、雨が当たらないようにしてください。
- リスクを最小限に抑えるため、散布液準備作業の終了時および終了後には、十分に清潔であることを心がけてください（例えば、使用した手袋は外す前によく洗い、洗浄水や清掃液は正しく廃棄処分します）。



- 指定の水/薬剤の散布量は、農薬の使用説明書に記載されています。
- 薬剤の使用説明書を読み、指定された注意事項を守ってください。



警告

散布液タンクの充填中に、人または動物が意図せず散布液と接触する危険。

- 農薬の取り扱い時や散布液タンクから散布液を排出する際には、個人用保護具を着用してください。必要な個人用保護具のタイプは、使用する農薬についてのメーカーの指示、製品情報、使用説明書、安全データシート、ユーザーマニュアルなどによって異なります。
- 充填中は、絶対にスプレーヤーを放置したまま、その場を離れないでください。
 - 散布液タンクには、決して定格容量以上の充填を行わないでください。
 - 散布液タンクを充填する際は、決してスプレーヤーの許容荷重を超えないようにしてください。各種液体の比重に注意してください。
 - 充填時には常に充填量インジケータを監視し、散布液タンクへの過充填を防いでください。
 - 散布液タンクの充填中はシール面に注意し、散布液が下水道に流れ込まないようにしてください。
- 充填する前に毎回、スプレーヤーに損傷（例：タンクやホースから漏れ）がないか、またすべての操作部が正しい位置にあるかどうか点検してください。



充填時には、スプレーヤーの許容荷重に注意してください。スプレーヤーを充填する場合は、必ず各液体ごとに異なる比重 [kg/L] を考慮に入れてください。

各種の液体の比重

液体	水	尿素	AUS	NP 溶液
密度 [kg/L]	1	1.11	1.28	1.38



ツインターミナル：

制御装置での作業は、ツインターミナルを介して行われます。

ISOBUS 操作端末：

圃場での使用は、トラクターの操作端末を介して行われます。



- 環境にやさしい方法で残留物を廃棄するのは難しいため、必要な補充／充填量は慎重に計算し、散布作業終了時に残留物が残らないようにしてください。
 - 散布液タンクの最後の補充に必要な量を計算するには、「残り散布範囲のための充填表」を参照してください。その場合、算出された補充量からスプレーヤーブーム内にある未希釈の技術的残留物を差し引いてください。
「残り散布範囲のための充填表」の章を参照してください。

手順

1. 農薬の使用説明書を参照して、必要な水および薬剤の散布量を算出してください。
2. 処理する面積に必要な充填／補充量を計算してください。
3. 機械に充填し、薬剤を混入してください。
4. 散布作業を開始する前に、散布剤メーカーの指示に沿って散布液を攪拌してください。



機械はできれば吸引ホースで充填し、充填中に薬剤を注入してください。

そうすることにより、注入される領域が常に水ですすがれます。



- タンクの充填レベルが 20%に達したら、充填しながら薬剤の注入を開始してください。
- 数種類の薬剤を使用する場合
 - 薬剤を注入するごとに、すぐに缶を清掃してください。
 - 注入ラインは、薬剤注入後に毎回洗浄してください。



- 充填中は、散布液タンクから外に泡が出ないように注意してください。

泡抑制剤を追加しても、散布液タンクの過剰な泡形成を抑えられます。



通常アジテーターは、充填から散布終了まで ON になったままです。これに関しては、薬剤メーカーの指示を優先させてください。



- アジテーターの作動中に、水溶性のビニール袋を散布液タンク内に直接入れます。
- 散布の前に液体を循環させ、尿素を完全に溶かしてください。大量の尿素を溶かすと、散布液の温度が比較的大幅に低下するため、尿素はゆっくりとしか溶けません。水の温度を高くするほど、より素早く尿素が溶けきりますようになります。



- 空になった薬剤缶はよく洗い、使用不能な状態にし、回収した後規定に即して廃棄処分してください。他の目的に再使用しないでください。
- 薬剤容器を洗うために散布液しか使用できない場合は、まず散布液を使って下洗いをします。その後、清潔な水が利用可能になった時に（例：次回の散布液タンク充填の準備前に、あるいは前回の散布液タンク充填で生じた残留物の希釈時に）、念入りに洗ってください。
- 空になった薬剤容器は（例えば缶用の洗剤を用いて）丁寧に水洗いし、使用した水は散布液に混ぜてください。



水の硬度が 15° dH（ドイツ硬度）を超える場合、石灰が堆積することが考えられます。このような石灰は、機械の機能を損なう場合がありますので、定期的に取り除いてください。

11.2.1 充填/補充量の計算



散布液タンクの最後の補充に必要な量を計算するには、「残り散布範囲のための充填表」を参照してください（169 ページの を参照）。

例 1 :

以下の条件だとします。

タンクの定格容量	1200 L
タンク内の残留物	0 L
水の消費量	400 L/ha
必要な薬剤 (ha あたり)	
薬剤 A	1.5 kg
薬剤 B	1.0 L

問題 :

面積 3 ha の土地を処理するのに、何 L の水、何 kg の薬剤 A、何 L の薬剤 B を使用する必要がありますか？

答え :

水	400 L/ha	x	3 [ha]	=	1200 L
薬剤 A:	1.5 kg/ha	x	3 [ha]	=	4.5 kg
薬剤 B	1.0 L/ha	x	3 [ha]	=	3 L

例 2 :

以下の条件だとします。

タンクの定格容量	1200 L
タンク内の残留物	200 L
水の消費量	500 L/ha
推奨濃度	0.15 %

問題 1 :

タンクを一杯まで充填するには、何 L または何 kg の薬剤が必要ですか？

問題 2 :

散布後にタンク内に 20L の残留物が残っている場合、処理した面積はどのくらいの広さ (ha) ですか？

機械の使用

問題 1 についての計算式と答え：

$$\frac{\text{水の補充量 [L]} \times \text{濃度 [\%]}}{100} = \text{薬剤の追加量 [L または kg]}$$

$$\frac{(1200 - 200) \text{ [L]} \times 0.15 \text{ [\%]}}{100} = 1.5 \text{ [L または kg]}$$

問題 2 についての計算式と答え：

$$\frac{\text{利用可能な液体の量 [L]} - \text{残留物 [L]}}{\text{水の消費量 [L/ha]}} = \text{処理した面積 [ha]}$$

$$\frac{1200 \text{ [L]} (\text{タンクの定格容量}) - 20 \text{ [L]} (\text{残留物})}{500 \text{ [L/ha]} (\text{水の消費量})} = 2.36 \text{ [ha]}$$

11.2.2 残り散布範囲のための充填表

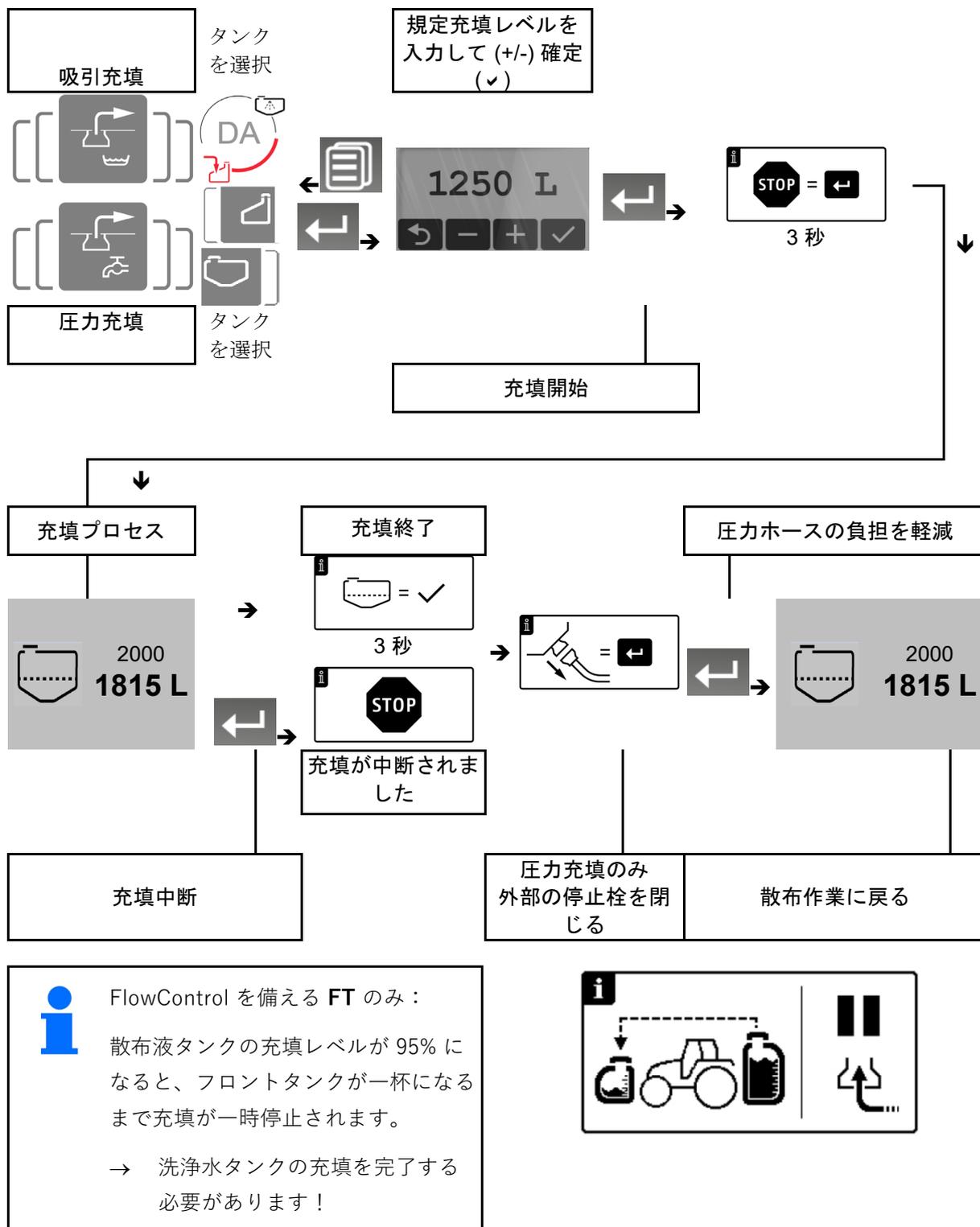


- 指定の補充量は、散布量 100 L/ha についてのものです。散布量が異なる場合は、乗算によって補充量を調整してください。
- ブーム内の残量を考慮してください。

走行距離 [m]	作業幅 [m]													
	15	16	18	20	21	24	27	28	30	32	33	36	39	40
	補充量 [l]													
10	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	4	4	4
20	3	3	4	4	4	5	5	6	6	6	7	7	8	8
30	5	5	5	6	6	7	8	8	9	10	10	11	11	12
40	6	7	7	8	8	10	11	11	12	13	13	14	15	16
50	8	8	9	10	11	12	14	14	15	16	17	18	19	20
60	9	10	11	12	13	14	16	17	18	19	20	22	23	24
70	11	11	13	14	15	17	19	20	21	22	23	25	27	28
80	12	13	14	16	17	19	22	22	24	26	26	29	30	32
90	14	15	16	18	19	22	24	25	27	29	30	32	34	36
100	15	16	18	20	21	24	27	28	30	32	33	36	38	40
200	30	32	36	40	42	48	54	56	60	64	66	72	74	80
300	45	48	54	60	63	72	81	84	90	96	99	108	114	120
400	60	64	72	80	84	96	108	112	120	128	132	144	152	160
500	75	80	90	100	105	120	135	140	150	160	165	180	190	200

11.3 散布液の充填

11.3.1 ツインターミナル充填スキーム



11.3.2 吸込口からの散布液タンク充填



できる限り公共の取水場所からではなく、適した容器から充填してください。

公共の取水場所から吸引ホースを使って散布液タンクに充填する場合は、規則を遵守してください。



吸引充填時のポンプ損傷を避けるために：

吸引ホース／コックの最小直径が一貫して2インチであることを確認します。



警告

吸入口を通じて圧力充填すると、吸引装置が破損します！

吸入口は圧力充填には適していません。これは、充填源が高い位置にある場合にも当てはまります。

機械の使用

1. 正確な水充填量を算出します（これについては「充填／補充量の計算」の章、Seite 167 を参照）。
2. 吸引ホースを吸込口および取水場所と連結します。
3. ポンプを駆動します。

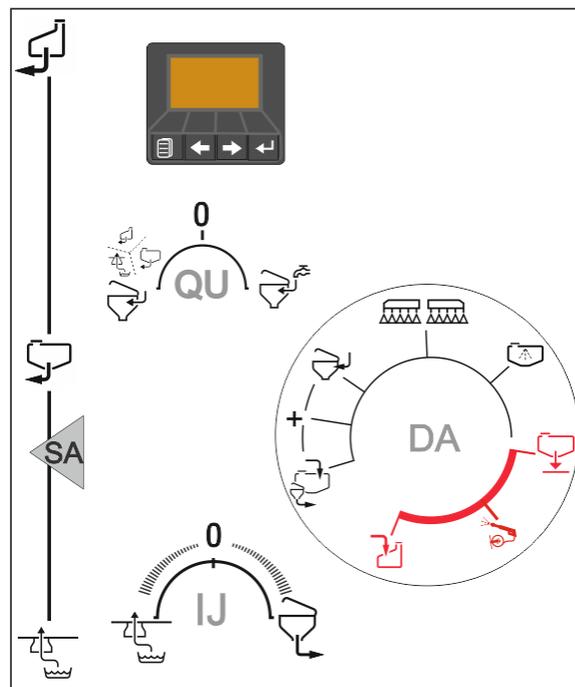
4. 圧力装置 **DA** を  位置にします。
5. 切り替え栓 **IJ** を **0** 位置にします。
6. ツインターミナル :
 - 6.2 吸引充填  を選択します。
 - 6.3 規定充填レベルを入力して確定します。

- 吸引装置 **SA** を  位置にします。
- 散布液タンクの充填は、規定充填レベルに達すると自動的に停止します。

7. 切り替え栓 **IJ** を  位置にします。
- インジェクタ **ON** による吸引力の増加。

 必要に応じて：洗浄水タンクの同時充填（174 を参照）。

8. 充填中の薬剤混入（178 を参照）。



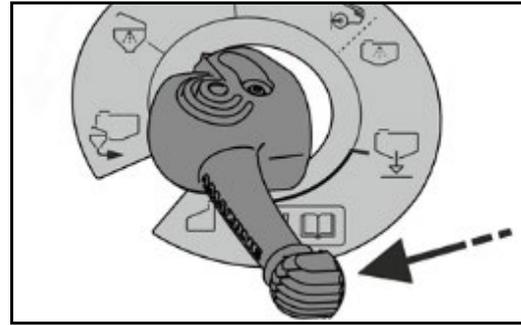
i 規定充填レベルに達するまで混入できない
ようなら、充填を中断してください。

→ 圧力装置をロックします。

(FlowControl では不可)

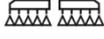
9. 規定充填レベルに達する直前：

切り替え栓 II を 0 位置にします。



タンクへの充填が完了したら：

10. 必要に応じて：吸引ホース内の液体がポンプによって全て吸引されるように、吸引ホースを取水ポイントから引き上げます。

11. 圧力装置 DA を  位置にします。



- ポンプが水を吸引して、初めてインジェクタを ON にできます。
- インジェクタは FlowControl では使用できません。
- インジェクタで吸引した水は、吸引フィルターで濾過されません。

特殊機能：散布液タンクの充填中に、吸引ホースを用いて洗浄水タンクを充填します。

**警告**

散布ポンプを用いて吸引ホースで充填する際の、散布液による洗浄水タンクの汚染。

次の順番を守らなければなりません！

1. 機械を清掃します。
2. 散布液タンクに 600 l の水を充填します。
→ 装置を清掃するために。
3. 洗浄水タンクを完全に充填します。
→ 洗浄水タンクが汚染される危険があるため、決してツイーターミナルを介して充填を中断してはなりません 。
4. 薬剤を混入して、散布液タンクを充填します。
→ 洗浄水タンクが汚染される危険があるため、もう洗浄水タンクの充填を開始してはなりません。

**警告**

洗浄水タンクを吸引充填する際の、危険な薬剤による作物と土壌の損害。

- 予め機械を特に念入りに清掃してください。
- 危険な薬剤により洗浄水タンクの汚染が予想される場合は、吸引充填を禁じます。

→ 装置を清掃するために、まず散布液タンクに 600 l 充填します。

1. 切り替え栓 **IJ** を **0** 位置にします。

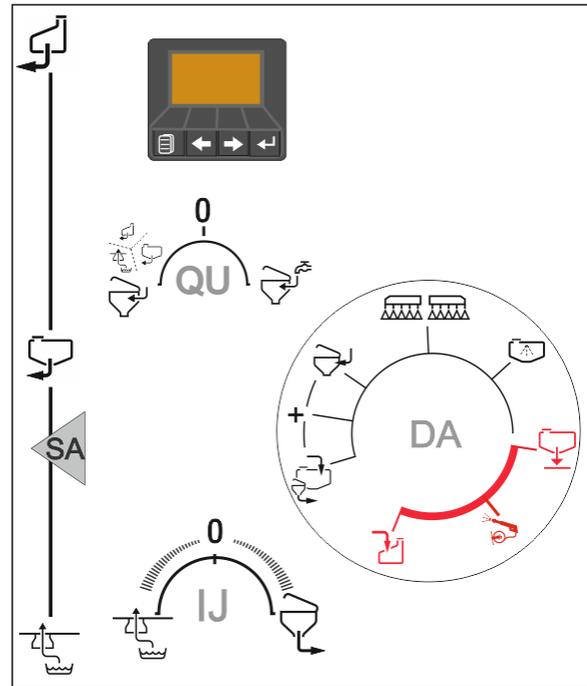
2. 圧力装置 **DA** :  位置を選択。

→ 洗浄水タンクの充填が始まります。

(充填レベルを監視して) 洗浄液タンクが一杯になったら直ちに :

3. 圧力装置 **DA** :  位置を選択します。

→ 散布液タンクの充填を続行して、薬剤を混入します。



11.3.3 圧力接続部による散布液タンクの充填



注意

- 最大許容水圧 : 8 bar
- 充填能力が 500 l/min を超える場合には、充填中は散布液タンクのフタを開けたままにしておきます。

さもないと、散布液タンクが破損することがあります。



注意

散布液または液体肥料による圧力接続部汚染の危険

予め混合された散布液や液体肥料は、圧力接続部を介して充填しないでください。

圧力接続部は、水のみを使用してください

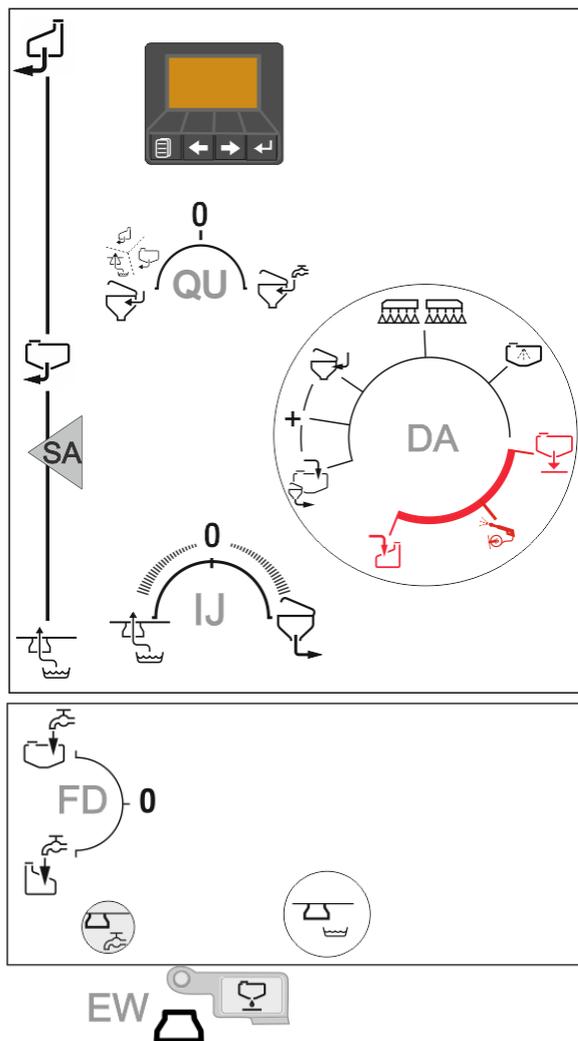


注意

圃場における機械の破損、洗浄水タンクの汚れ、取り扱い時に発生する損害。

圧力接続部は水専用です。

1. 正確な水充填量を算出します（これについては「充填／補充量の計算」の章、Seite 167 を参照）。
 2. 圧力ホースを圧力接続部および給水栓と連結します。
 3. 切り替え栓 **FD** を  位置に
 4. ツインターミナル：
 - 4.1 圧力充填  を選択します。
 - 4.2 規定充填レベルを入力して確定します。
- 散布液タンクの充填は、規定充填レベルに達すると自動的に停止します。
5. 充填中の薬剤混入（178 を参照）。
 6. 規定充填レベルに達するまで混入できないようなら、充填を中断してください。
- 切り替え栓 **FD** を **0** 位置にします。
7. 規定充填レベルに達したら：
 - o 供給側の停止栓を閉じます。
 - o ツインターミナル：圧力ホースの負担を軽減します
 - o 切り替え栓 **FD** を **0** 位置にします。
 - o ホースを充填接続部から外します。

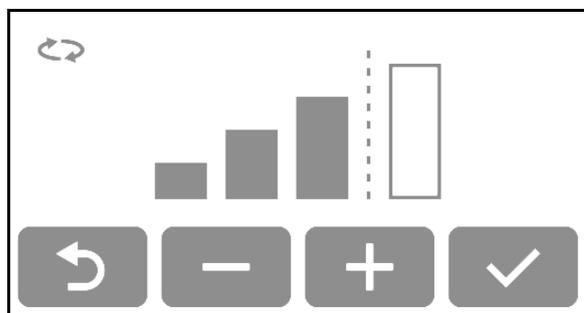


 ホースには、まだ水があります。

11.3.4 アジテーターの設定

混入前にアジテーターを設定してください。

1. ツインターミナル：アジテーター
 -  を選択します（ツインターミナルのスキームを参照）。
 2. 希望する攪拌レベルを選択して、確定します。
-  攪拌レベルは、ツインターミナルに表示されます。



11.4 薬剤の混入



危険

散布剤および散布液との接触による負傷の危険。

保護具を着用してください。

混入容器を介して散布液タンクを充填する間に、薬剤を混入します。

吸引充填中：

- ツインターミナル： を選択します。
- 圧力装置 **DA** を 位置にします。
- 切り替え栓 **QU** を 位置にします。

圧力充填中：

- ツインターミナル： を選択します。
- 圧力装置 **DA** を 位置にします。
- 切り替え栓 **QU** を 位置にします。
(混入口を介して散布液タンクの過充填が起る可能性があります。充填停止や切り替え栓 **FD** が **0** の際にも)。

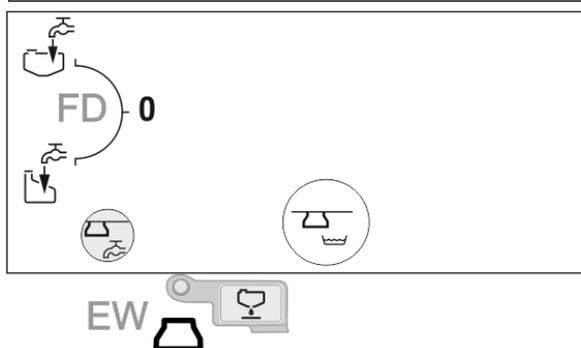
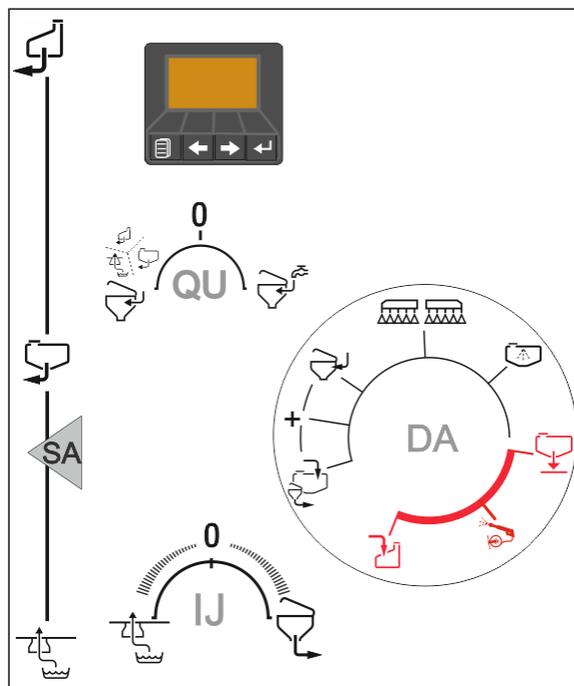
充填後：

1. 圧力装置 **DA** を以下の位置にします。



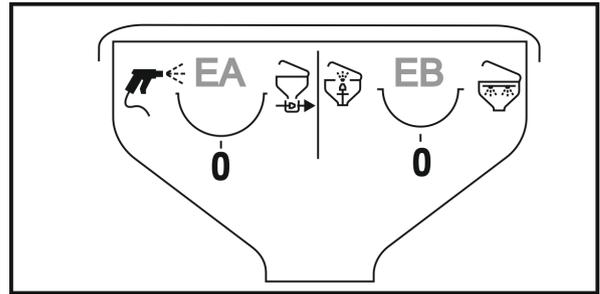
2. それから、吸引装置 **SA** を 位置にします。

3. 切り替え栓 **QU** を 位置にします。



充填プロセス中に薬剤を混入してください。

1. ポンプを駆動します (400 min^{-1} 以上)。
2. 混入容器を下げます。
3. 混入容器のフタを開きます
4. 混入容器内のストレーナー：
 - 液体薬剤に使用します。
 - 粉末薬剤には使用しません。



5. 切り替え栓 **IJ** を  位置にします (吸引力は調節可能)。

6. 粉末薬剤：切り替え栓 **EA** を  位置にします。

液体薬剤：切り替え栓 **EB** を  位置にします。

7. タンク充填のために算出および計測した量の薬剤を、混入容器に入れます。

(最大 60 L)。

8. 混入容器のフタを閉めます。
- 混入容器の中身を完全に吸引します。
9. 切り替え栓 **EB**、**EA** を再び **0** 位置にします。



例えば粉末薬剤使用時にユーザー保護を高めるために、まず薬剤を混入容器に入れて、フタを閉めてから吸引してください。



規定充填レベルに達するまでに混入できないようなら、充填を中断してください。

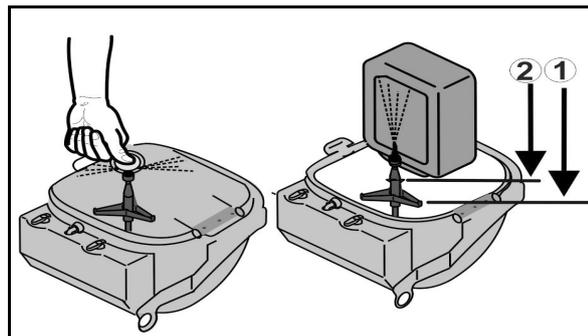
圧力装置 **DA** を  位置にします。

- **FlowControl** ではできません。
- 混入容器が溢れないようにしてください。吸引が中断されました。
- 混入中に規定充填レベルに達した場合、混入容器を洗浄水で清掃する必要があります。

機械の使用

缶の清掃

1. 切り替え栓 **EB** を  位置にします。
 2. 缶その他の容器を缶洗浄装置にかぶせます。まず位置 **1** に、それから位置 **2** に。
 3. 缶を少なくとも **30 秒間** 下方向に押し下します。
- 缶が水ですすがれます。



吸引充填：

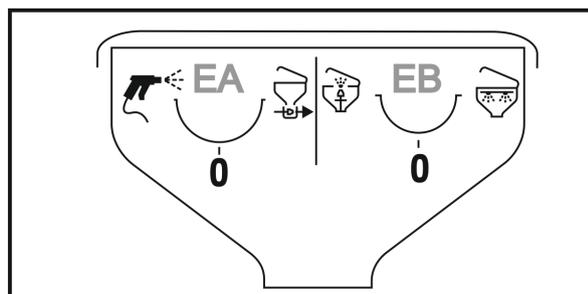
-  圧力装置 **DA**：缶洗浄の出力を高めるために  位置を選択します。

圧力充填

-  切り替え栓 **FD**：缶洗浄の出力を高めるために **0** 位置を選択します。

混入容器の清掃

- 切り換え栓 **EB** を  位置にします。
- リングラインを介して混入容器を清掃します。
- 切り換え栓 **EA** を  位置にします。
- スプレーガンで周囲を清掃します。
- 切り替え栓 **EB** を  位置にし、混入容器を閉じた状態で押しボタンを押します。
- 圧力ノズルを用いた内部清掃



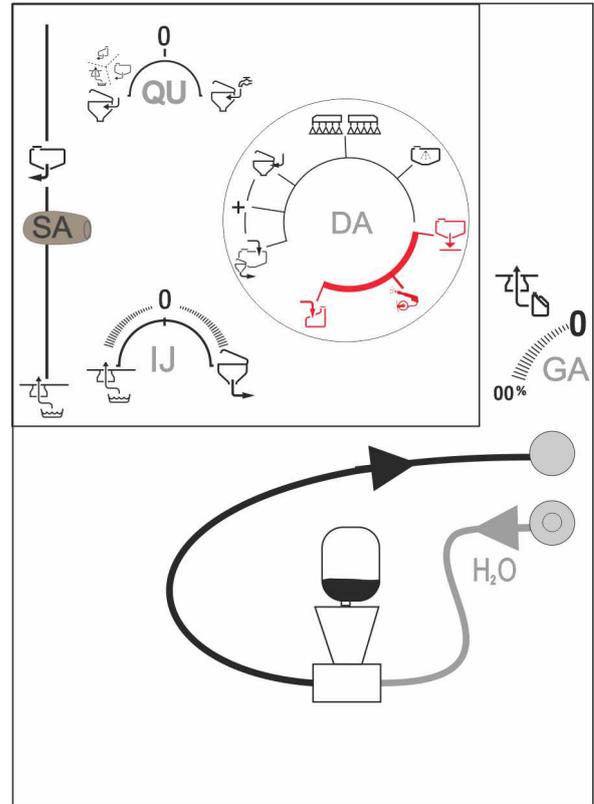
11.5 容器から散布剤を吸引 (Closed Transfer System)

1. ポンプを駆動します。
2. ノンドリップ・プラグカップリングを用いて、散布剤容器を連結します。
3. すすぎ接続を連結します。
4. 切り替え栓 **QU** を次の位置にします

-  混入容器の吸引装置からの液体を使用
-  混入容器の圧力接続部の充填水を使用

5. ツインターミナル:  (散布液を吸引) を選択します。
または: 吸引充填中に吸引します。

6. 圧力装置 **DA** を  位置にします。
7. 切り替え栓 **GA** で吸引を開始して、強度を設定します (0-100%)。
8. 容器から希望する量を吸引したら、切り替え栓 **GA** を **0** 位置にします。



汚染されたコンポーネントの清掃:

1. ツインターミナル:  (洗淨水を吸引) を選択します。
2. 切り替え栓 **GA** で吸引を開始して、強度を設定します (0-100%)。
3. 圧力装置 **DA** を  +  位置にします。
4. 清掃を終了するために、圧力装置 **DA** を  位置にします。

- ツインターミナル:  (散布液を吸引) を選択します。

5. 切り替え栓 **GA** を **0** 位置にします。

11.6 圧力接続部による洗浄水タンクの充填



警告

農薬または散布液による、容認できない洗浄水タンク汚染。

洗浄水タンクには清潔な水だけを充填し、農薬は絶対に入れないでください。



スプレーヤーを使用するときは、つねに十分な量の清潔な水が利用できることを確認してください。散布液タンクを充填するときは、洗浄水タンクも点検・充填してください。

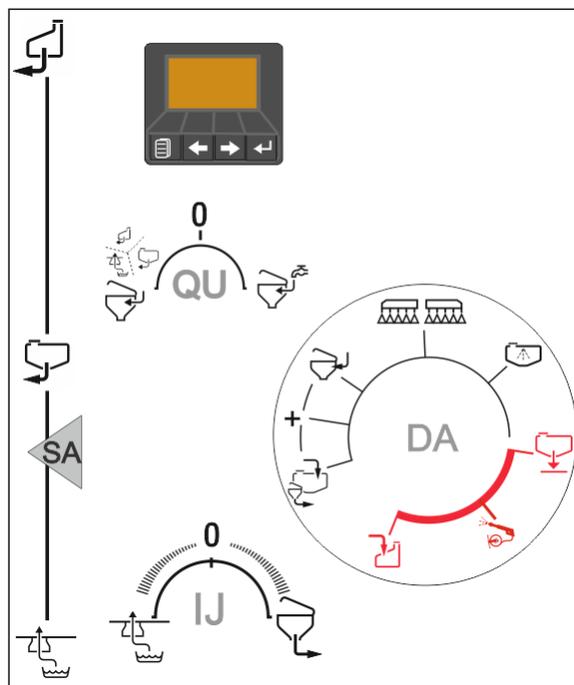


最大許容水圧：8 bar

1. 圧力ホースを圧力接続部と連結します。
2. 切り替え栓 FD を  位置にします。
→ 充填が始まります。
3. 充填中は充填量インジケータに注意してください。
4. 規定充填レベルに達したら：
 - 4.1 供給側の停止栓を閉じます。
 - 4.2 切り替え栓 **FD** を **0** 位置にします。
→ 充填が終わります。
 - 4.3 圧力ホースを減圧して、切り離します。



ホースには、まだ水があります。



11.7 散布作業

散布作業についての特別な注意事項



- 以下の場合には、キャリブレーションを実施してスプレーヤーをテストしてください。
 - シーズンが始まる前。
 - 実際に表示される散布圧と、散布表で指定されている散布圧との間に、ずれがある場合。
- 散布を開始する前に、農薬メーカーの使用説明書に従って、必要な散布量を正確に算出してください（これについては「散布液の準備」の章、163 ページのを参照）。
- 散布を開始する前に、必要な散布量（規定量）を操作端末に入力してください。
- 散布開始前に、以下のことを考慮し、散布表から必要なノズルタイプを選択します。
 - 意図する走行速度
 - 必要な散布量
 - 作物保護を行うために使用する農薬に必須となる噴霧特性（微粒、中程度または粗い）。
「各種ノズル（フラットファン、ドリフト防止、インジェクタ、空気混合の各タイプ）についての散布表」の章（254 ページの）を参照してください。
- 散布開始前に、以下のことを考慮し、散布表から必要なノズルサイズを選択します。
 - 意図する走行速度
 - 必要な散布量
 - 目標散布圧
「各種ノズル（フラットファン、ドリフト防止、インジェクタ、空気混合の各タイプ）についての散布表」の章（254 ページの）を参照してください。
- ドリフトによる無駄を防ぐには、低い走行速度と低い散布圧を選択してください。
「各種ノズル（フラットファン、ドリフト防止、インジェクタ、空気混合の各タイプ）についての散布表」の章（254 ページの）を参照してください。



- 風速が 3 m/s に達したら、追加のドリフト低減対策を取ってください（「ドリフト低減対策」の章（187 ページの）を参照）。
- 均一な横方向の分布は、スイング補正をロック解除した状態でのみ実現されます。
- 平均風速が 5 m/s を超えたら（葉と細い枝が動く状態）、使用を見合わせてください。
- スプレーヤーブームの ON/OFF 切り替えは走行中のみ行うようにすることで、過剰な量の散布を避けてください。
- スプレーヤーブームを ON にしたまま枕地で方向転換したり、不正確な圃場往復をすると、オーバーラップによって過剰な量が散布されますので、おやめください。
- 走行速度を上げる際には、ポンプの最大許容駆動回転数 550 min^{-1} を超過しないように注意してください。
- 散布作業中は、処理面積を踏まえながら、実際の散布液消費量を常にチェックしてください。
- 悪天候により散布作業を中断する場合は、吸引フィルター、ポンプ、バルブ室および散布ラインを清掃してください。これについては 202 ページの を参照してください。



- 散布圧とノズルサイズは、散布液の液滴の大きさと量に影響を与えます。散布圧が高くなればなるほど、噴出される散布液の液滴の直径が小さくなります。液滴が小さいと、好ましくないドリフトが増加しやすくなります。
- 面積に応じた自動散布量制御機能により、走行速度とポンプ駆動回転数は広範囲で自由に選択可能です。
- ポンプ吐出量はポンプ駆動回転数に応じて異なります。スプレーヤーブームとアジテーターに常に十分な流量があるように、ポンプ駆動回転数を選択してください（400～550 min^{-1} ）。その際、走行速度が速い場合および散布量が多い場合に、より多くの散布液を送る必要があることに必ず注意します。



- 通常、アジテーターは、充填から散布終了まで作動し続けます。これに関しては、薬剤メーカーの指示を優先させてください。
- 散布圧が突然急降下するような場合には、散布液タンクが空になっています。
- 散布液タンクの残留物は、圧力損失 25% までは、規定どおりに散布できます。
- 他の条件が変わっていないのに、散布圧が下がった場合は、吸引フィルターまたは圧力フィルターが目詰まりしています。

ブームの負荷に関する特別な注意事項



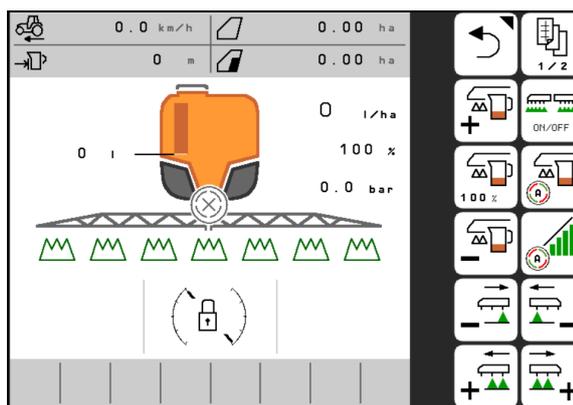
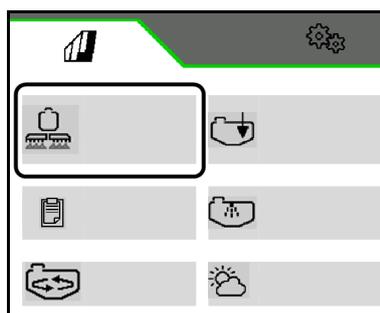
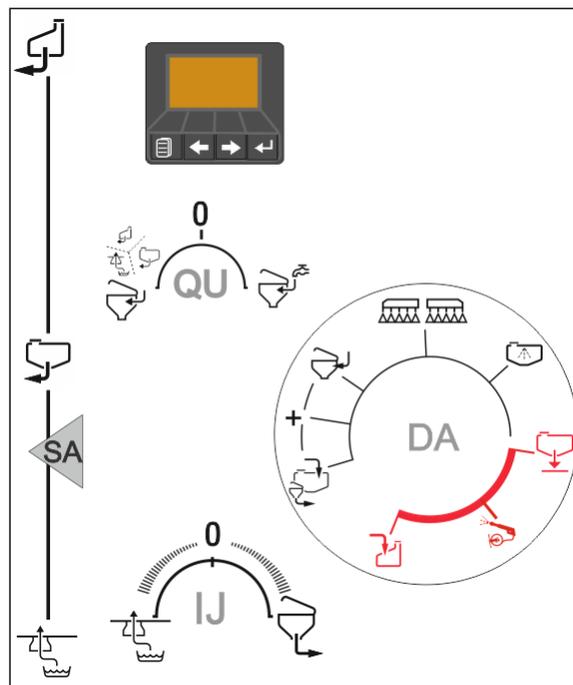
ブームが損傷する可能性があるので、許容ブーム負荷を超えないようにしてください。

機械に優しい運転を行なうため、次に注意してください：

- 枕地の前で走行速度を大幅に落とし、カーブは一定の速度で走行します。
- 半径が狭いカーブは、ゆっくりと通過します（6km/h 未満）。
- 急なステアリング操作やステアリング時の方向転換を避けます（走行路修正など）。
- 走行中にブームを折り畳んだり展開しないようにします。
- 個々のブームエレメントを、必ず最終位置（折り畳まれた状態または展開された状態）にセットします。ブームを部分的に折り畳んだ状態で走行しないようにします。
- 急速かつ突然の方向転換を避けます。

11.7.1 散布液の散布

1. 農薬メーカーの指示に従って、散布液を適切に準備・攪拌します。
 2. 圧力装置 **DA** を 位置にします。
 3. 吸引装置 **SA** を 位置にします。
 4. 操作端末を ON にして、設定をチェックします。
- 作業メニューでスプレーヤーを操作します。
5. スプレーヤーブームを展開します。
 6. ブームガイドを ON にします：
 - ディスタンスコントロール
 - ContourControl
- またはブームを手動で操作します：
- ブーム高さ、 傾き調節
7. ポンプ運転回転数でポンプを駆動します。
- i** 散布量が少ない場合には、エネルギー節約のためにポンプ回転数を減らすことができます。
8. 操作端末でスプレーヤーを ON にします。



11.7.2 アジテーターを ON にした状態での圃場への走行

1. ポンプ駆動を ON にします。
2. 操作端末：攪拌メニューでアジテーターの強度レベルを選択します。
3. ツインターミナル： 沈殿を防ぐために：循環清掃を開始します。

11.7.3 ドリフト低減対策

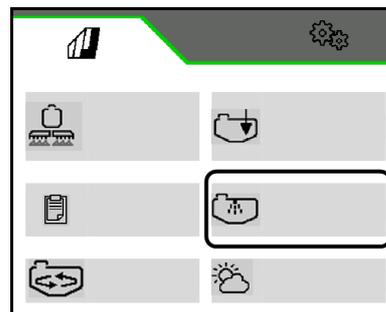
- 処理のスケジュールを早朝または夕方の時間帯にずらします（一般に風が少ないため）。
- より大きなノズル、より多い水散布量を選択します。
- 散布圧を減らします。
- ブームの作業高さを正確に維持します（ノズル間の距離が広がるとドリフトの危険が急上昇するため）。
- 走行速度を下げます（8 km/h 未満にします）。
- いわゆるドリフト防止（AD）ノズルまたはインジェクタ（ID）ノズル（高い割合で粗い液滴を生成するノズル）を使用します。
- 各農薬の距離要件を守ります。

11.7.4 洗浄水を用いた散布液の希釈

1. ポンプを駆動します。

操作端末、清掃メニュー：

2.  洗浄水を用いて散布液を希釈します。
3.  希釈を終了します



洗浄液の必要量の表示に注意してください。



散布液の希釈は、2つの理由から行われます：

- 余剰残留物を取り除くため。

散布液タンク内の余剰残留物は、まず10倍量の洗浄水で希釈さ

れてから、すでに処理された圃場に散布されます。

- 残りの面積を処理するための、散布剤の予備を増やすため。



DUS 搭載機では散布ラインが洗浄されます。改めて散布を開始する際は、濃縮された農薬を散布できるようになるまで2~5分の時間がかかります。

11.7.5 連続内部清掃

連続内部清掃により、散布液タンクの事前清掃が、本来の清掃の前に行われます。

使用後に、散布モードで連続内部清掃を ON にできます。

- トグルスイッチで



-  ISOBUS 操作端末を介して

11.8 残留物

次の 3 種類の残留物が区別されます

- 散布作業終了時に散布液タンク内に残った余剰残留物。
→ 余剰残留物は希釈して散布するか、ポンプで排出し廃棄します。
- 散布圧が 25 % 降下した際に、まだ散布液タンク、吸引装置および散布ラインに残っている技術的残留物。
吸引装置は、吸引フィルター、ポンプおよび圧力コントローラーといったアセンブリから構成されています。技術的残留物の値に注意を払ってください（122 ページを参照）。
→ 技術的残留物は、散布ガンの洗浄中に希釈された状態で圃場に散布されます。
- 清掃後にノズルから空気が排出されても、まだ散布液タンク、吸引装置および散布ライン内に残っている最終残留物。
→ 希釈された最終残留物は、清掃後に排出されます。

残留物の廃棄処分



- 散布ライン内の残留物は未希釈の濃度で散布されます。この残留物は、必ず未処理の圃場に散布してください。この未希釈の残留物を散布するのに必要な距離は、「技術データ - 散布ライン」の章（122 ページ）でご確認ください。散布ラインの残留物の量は、スプレーヤーブームの作業幅によって異なります。
- 散布液タンク内の残量が定格容量の 5% になったら、散布液タンクを完全に空にするために、アジテーターを OFF にしてください。アジテーターが ON になっていると、技術的な残留物の量が、表示されている量より多くなります。
- ユーザー保護の対策は、残留物を空にする際にも適用されます。農薬メーカーの指示を遵守し、適切な個人用保護具を着用してください。

散布ライン内の未希釈の残留物を散布するのに必要な距離（単位：m）を算出するために使用する公式

$$\text{必要な距離 [m]} = \frac{\text{希釈不可能な残留物 [L]} \times 10,000 \text{ [m}^2/\text{ha]}}{\text{散布量 [L/ha]} \times \text{作業幅 [m]}}$$

11.8.1 散布作業終了時における、希釈した残留物の散布

1. 操作端末で散布を OFF にします。
 2. ポンプを駆動します。
 3. 残留物を、10 倍量の洗浄水で希釈します。
 4. アジテーターを OFF にします。
 5. 操作端末で散布を ON にします。
- 可能なら、まず未希釈の散布液を、散布ラインから未処理の圃場に散布してください。
- 希釈した残留物を、すでに作業を行った圃場に散布してください。
- 希釈した残留物をノズルから空気が漏れるまで散布します。
6. 操作端末で散布を OFF にします。
 7. スプレーヤーを清掃してください。



残留物をすでに作業を行った圃場に散布する際には、薬剤の最大許容散布量に注意してください。

11.8.2 ポンプによる散布液タンクの排出

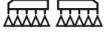
- 適切な排出用ホースで、外部タンクを機械側の排出用接続部に連結します。 2.

ツインターミナル:  (散布液を吸引) を選択します。

- 圧力装置 DA を  位置にします。

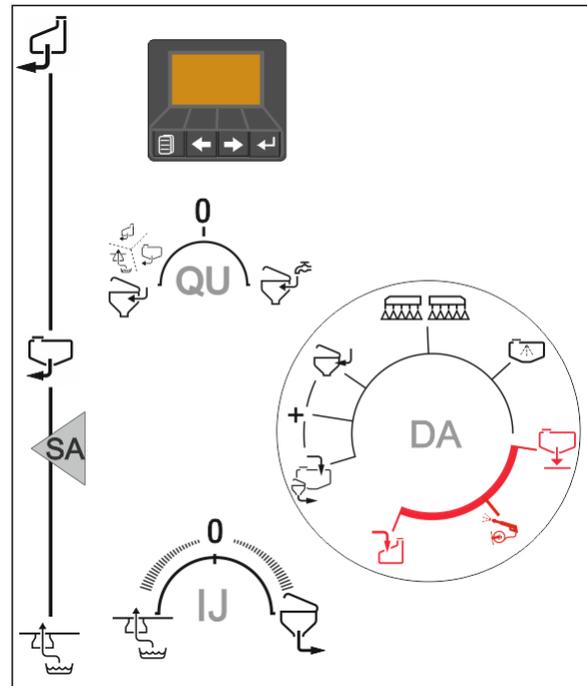
- ポンプを駆動します。

→ 排出が始まります。

- 排出後に圧力装置 DA を  位置にします。

- ポンプ駆動を中断します。

- ホースを連結解除します。



 ホースには、まだ散布液が入っています。



FlowControl : 排出前に、フロントタンクの中身を散布液タンクにポンプで送ります。

→ スプレーヤーの散布液タンクが空だと、フロントタンクは空にできません。

12 使用後の機械清掃



- 作用時間は、散布作業終了後に毎日清掃することなどによって可能な限り短くしてください。散布液は、例えば一晩放置するなど、必要以上に長い時間散布液タンクに入れたままにしないでください。

スプレーヤーの寿命と信頼性は、主にスプレーヤー素材に対する、農薬の作用時間に左右されます。

- 異なる農薬を使用する場合は、その前にスプレーヤーを完全に清掃してください。
- 清掃は、最後に作業を行った圃場で実施してください。
- 清掃は洗浄水タンクの水で行ってください。
- 回収装置（バイオベッドなど）があれば、清掃を農場の建物や庭などで行うことができます。

これについては国内規定を遵守してください。

- 残留物をすでに作業を行った圃場に散布する際には、薬剤の最大許容散布量に注意してください。



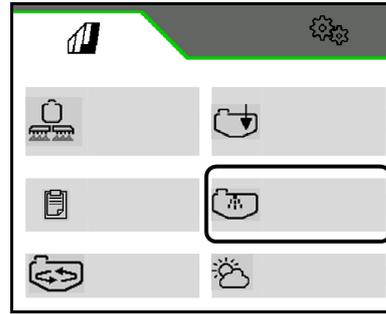
- クイック清掃は毎日実施します。
- 集中清掃を実施します：
 - 危険な薬剤に変更する前に
 - 長期間使用しない場合は、その前に

- 時折洗浄水が散布されることになるので、圃場で走行中に清掃を実施します。
- 洗浄水タンクは、十分に充填されていなければなりません。
- タンク充填レベルが 1% 未満であることが前提条件です（できるだけ空であること）。

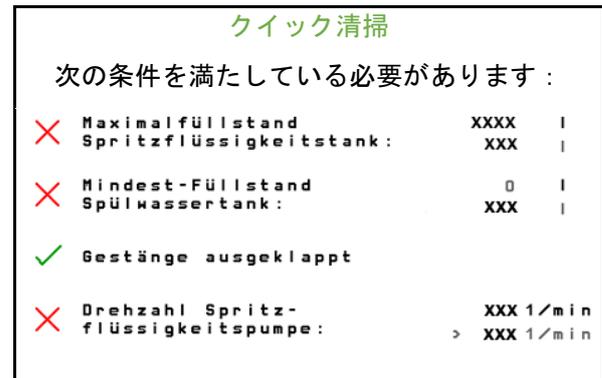
12.1 空のスプレーヤーのクイック清掃

1. ポンプを駆動します。
2. 圧力装置のチェック： 位置。

操作端末、清掃メニュー：

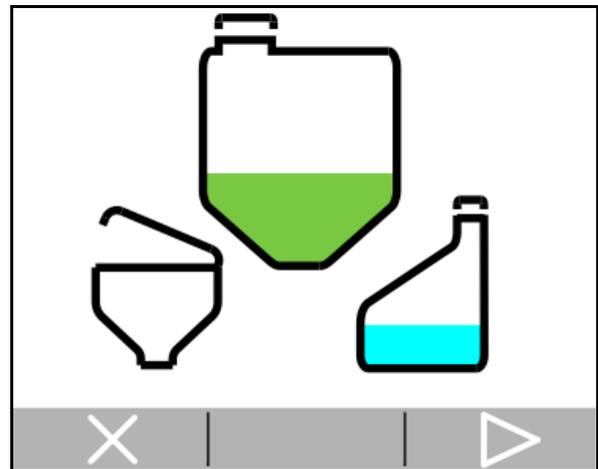


3. 条件を満たしている必要があります。
規定値と実際値を比較してください。



操作端末：

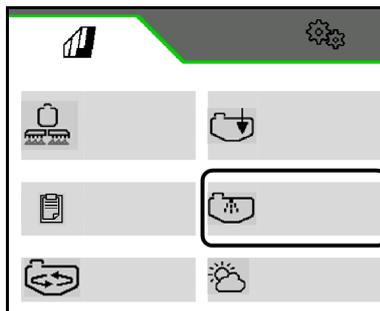
4. > クイック清掃を開始します。
5. 清掃のために希望する洗浄水量を入力します。
→ アジテーターが洗われ、タンク内側清掃が ON になります。
DUS 搭載の機械：散布ラインが清掃されます。
6. > 確定すると同時に始動します。
→ 洗浄水が噴射されます。
散布は、何度か ON/OFF にされます。
7. 最終残留物を排出します（196 ページを参照）。
8. 吸引フィルターと圧力フィルターを清掃します（198 ページ、200 を参照）。



12.2 空のスプレーヤーの集中清掃

1. ポンプを駆動します。

操作端末、清掃メニュー：



2. 条件を満たしている必要があります。規定値と実際値を比較してください。

クイック清掃		
次の条件を満たしている必要があります：		
✗	Maximalfüllstand Spritzflüssigkeitstank :	XXXX XXX
✗	Mindest-Füllstand Spülwassertank :	0 XXX
✓	Gestänge ausgeklappt	
✗	Drehzahl Spritz- flüssigkeitspumpe :	XXX 1/min > XXX 1/min

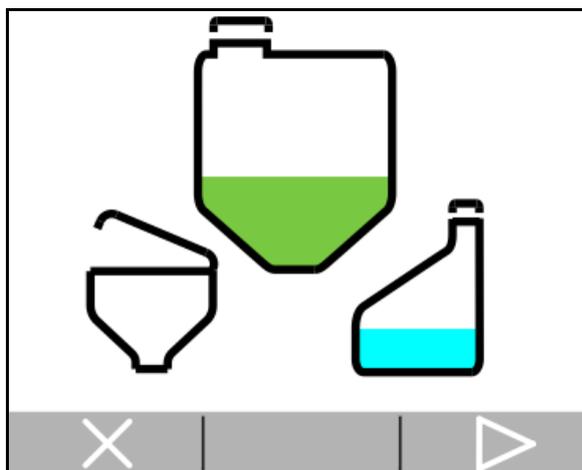
3. > 集中清掃を開始します。
 4. 清掃のために希望する洗浄水量を入力します。
- アジテーターが洗浄され、タンク内部の清掃が ON になります。

DUS 搭載の機械：散布ラインが清掃されます。

5. > 確定すると同時に始動します。

→ 洗浄水が噴射されます。

散布は、何度か ON/OFF にされます。



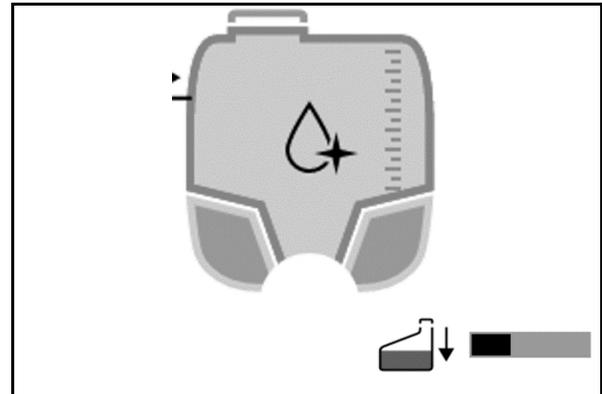
! 集中清掃中：

- 圃場走行中、3 度洗浄水を噴射。

! 集中清掃は約 12 分続きます。

6. 最終残留物を排出します。
 7. 吸引フィルターと圧力フィルターを清掃します。
 8. 必要に応じてブームのラインフィルターとノズルフィルターを清掃します。
- 正常に清掃されると、操作端末に表示されます。

- 清掃中は、清掃の進行状況がグラフで表示されます。



12.2.1 最終残留物の排出



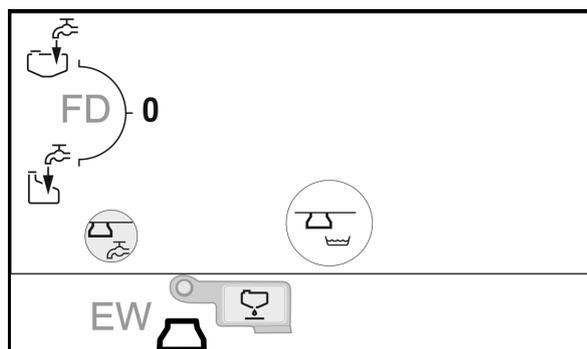
- 圃場で行う場合は、最終残留物を排出します。
→ 法的な規定を遵守してください。
- 農場の建物（または庭）で行う場合は、
 - 吸引装置の排出口の下に適した容器を置き、最終残留物を受けます。
 - 容器で受けた散布液残留物は、該当する法規に従い廃棄してください。
 - 散布液残留物は、適した容器に集めてください。

1. 適した容器を、吸引側の排出口の下に置いてください。

2. 吸引装置 SA の位置をチェック：。

3. 機械下の停止栓 EW を開きます。

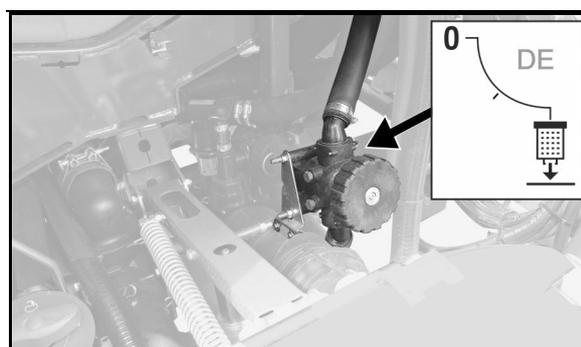
→ 残留物を排出します。



4. 圧力フィルターの停止栓 DE を開きます。

→ 圧力フィルターから残留物を排出します。

5. 停止栓 EW および DE を再び閉じます。



12.3 化学清掃の実施



- 化学清掃は、危険な薬剤変更および長期保管の前にお勧めします。
- 集中清掃後に化学清掃を実施します。

1. 機械を清掃します。
2. 散布液タンクに水を 100 l 充填して、メーカーが定めた量の洗剤を加えます。

! 洗剤を混入するために、散布液タンクに少なくとも 200 l の水が充填されていなければなりません。

3. ポンプを駆動します。

4. ツインターミナル：

循環清掃を開始します（少なくとも 10 分、洗剤メーカーの指示を遵守します）。

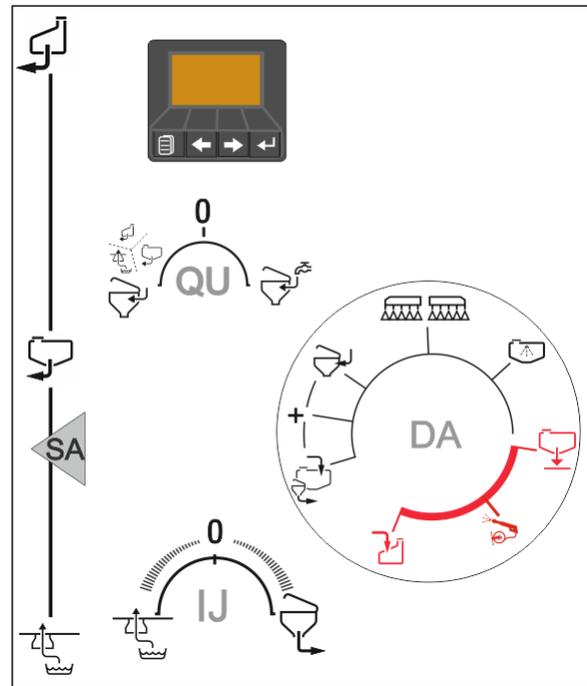
5. ツインターミナル：アジテーター

を選択して、1 分間最大強度で動かします。

6. ツインターミナル：

循環清掃を停止します。

7. 作業済みの圃場に混合液を散布します。



使用可能な洗剤のリスト

製品	メーカー
Agro-Quick	Adama
JET CLEAR	Sudau agro
Proagro Spritzenreiniger	proagro GmbH

12.4 吸引フィルターの清掃



- 吸引フィルターは、スプレーヤーの清掃後に毎日清掃してください。
- 故障したフィルターを交換してください。
- Oリングにグリースを塗布してください。
Oリングが正しく取り付けられていることを確認してください。
- 取り付け後には漏れがないことを確認してください。

散布液タンクが充填された状態で吸引フィルターを清掃する

1. 少なくとも 200 リットル増やした規定量を入力します。

2. 圧力装置 DA を 位置にします。

3. ツインターミナル: 吸引フィルターを選択します。

4. 吸引カップリングにシーリングキャップを取り付け、ツインターミナルで確認します。

5. ポンプを駆動して、ツインターミナルで確認します。

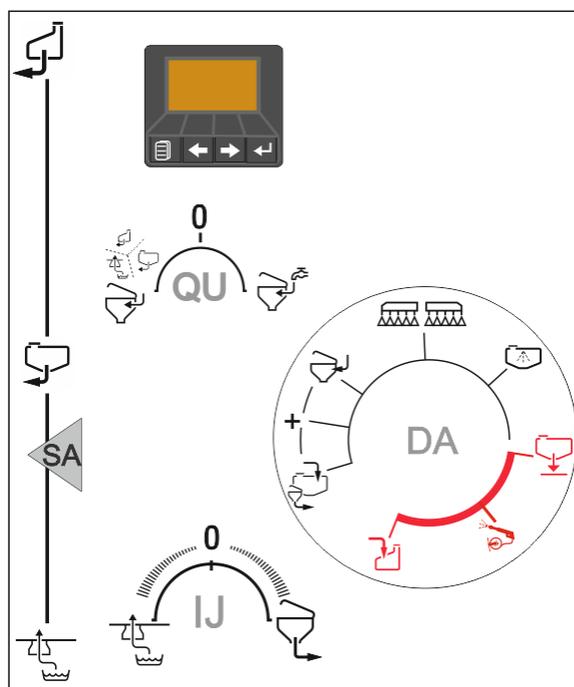
6. 排気バルブで吸引フィルターをエア抜き (20 秒)、ツインターミナルで確認します。

◎ フィルターカップが空になるまで吸引されません。

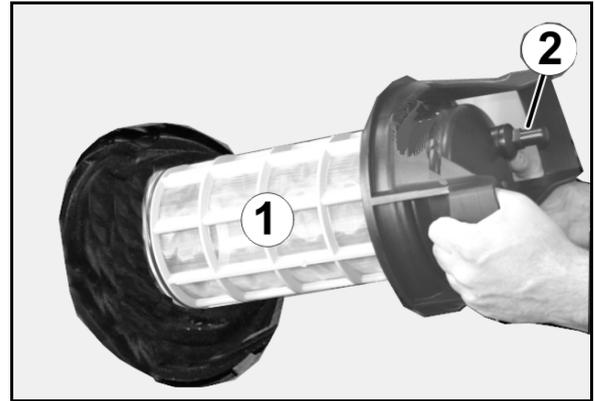
7. 吸引フィルターを取り外して、清掃し、再び取り付けて、ツインターミナルで確認します。

8. ポンプ駆動を中断します。

インジェクタは散布液で汚れています。



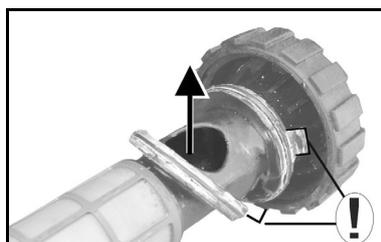
- (1) 吸引フィルター
- (2) 排気バルブ



12.5 圧力フィルターの清掃



- 前もって混入容器を下に倒します。
- 故障したフィルターを交換してください。
- Oリングにグリースを塗布してください。
Oリングが正しく取り付けられていることを確認してください。
- 取り付けの際には、フィルター受けが正しい位置にあることを確認してください。



- 取り付け後には漏れがないことを確認してください。

散布液タンクが充填された状態での圧力フィルター清掃

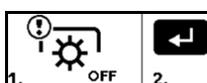


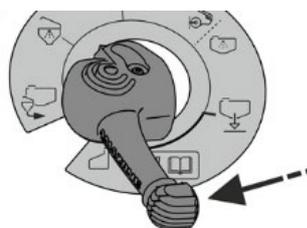
警告
 高速排出による、意図しない散布液タンク排出！
 絶対にポンプを駆動しないでください。

1. ツインターミナル：圧力フィルター

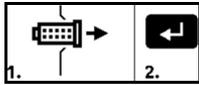


を選択します。

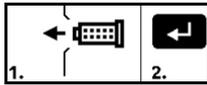
2.  ポンプを OFF にして、
 確認します。
3. 圧力装置 **DA** の液体の流れを止めます。



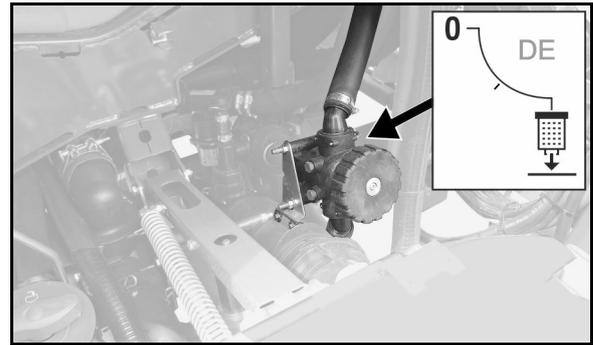
4. 排出口の下にバケツを置きます。
5. 停止栓 **DE** を利用して、圧力フィルターの液体を排出します。
6. ユニオンナットを緩めます。



7. 1. 2. 圧力フィルターを取り外して、確認します。



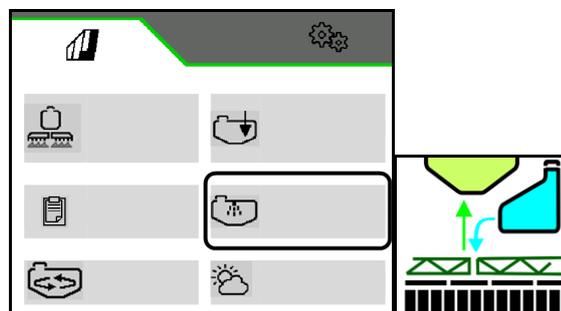
8. 1. 2. 清掃した圧力フィルターを再び取り付けて、確認します。
9. それから操作エレメントを再びホームポジションにします。



12.6 散布液タンクが一杯の状態です散布ブームを洗浄する

(作業中断)

1. 操作端末：清掃メニュー
圃場走行中にブームを洗います。
 - ✓ 散布液の散布をマークします。
2. ブームを洗います。
 - 2.1 始動します。
 - 2.2 > ブームの洗浄を開始します。
 - 少なくとも 50 リットルの洗浄水を走行中に散布します。
 - タンクとアジテーターは、まだ清掃されていません。
 - 2.3 X ブームの洗浄を停止します。
3. 吸引フィルターを清掃します。
4. ポンプ駆動を中断します。



! 散布液タンクとアジテーターは清掃されていません！

散布作業を続行する

1. ポンプを駆動します。
2. 操作端末： 最高撹拌を少なくとも 5 分間 ON にします。



12.7 外部の清掃

! フロントタンク付きの UF : FlowControl は OFF になっていなければなりません。さもないと、フロントタンクの濃度が薄まります。

1. ポンプを駆動します。

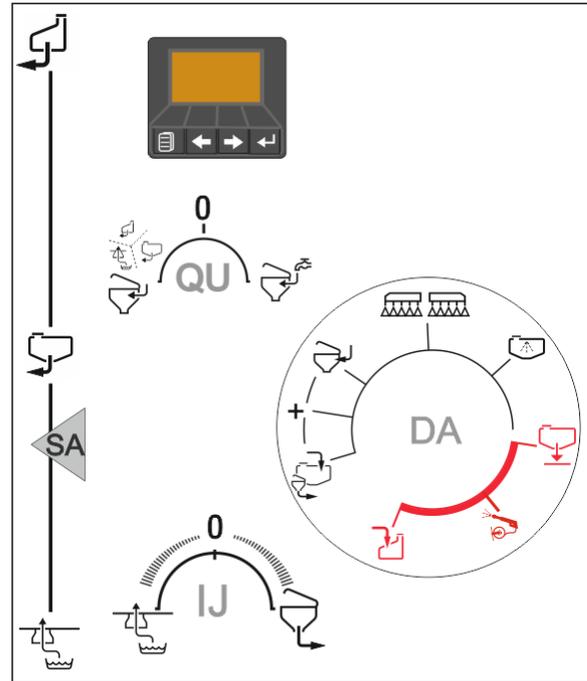
2. ツインターミナル：洗浄水  を選択します。

3. 前に内部洗浄が行われていない場合：洗浄水が利用できるようになるまで、切り替え栓 **DA** を 30 秒間  位置にします。

4. 圧力装置 **DA** を  位置にします。

5. スプレーガンを用いて、スプレーヤーとスプレーヤーブームを清掃します。

6. それから操作エレメントを再びホームポジションにします。



13 不具合



警告

以下のことによる、つぶれ、変形、切断、閉じ込め、引き込まれ、または衝撃の危険。

- トラクターの 3 点式油圧システムで上昇させた機械が不意に降下。
- 上昇した、固定していない機械部品の意図しない落下。
- トラクターと機械が不意に始動して走り出すこと。

機械の不具合を直す前に、不意に作動して走り出すことがないように、トラクターと機械を固定してください（142 ページを参照）。

機械の危険区域に立ち入る前に、機械が静止するまで待ってください。

不具合	原因	対策
ノズルから液体が出ません。	ノズルが詰まっています。	詰まりを取り除いてください（207 ページを参照）。
散布液が流出する	液体回路内の漏れ	 吸引装置で  を選択するか、ツインターミナル経由で設定します。
散布ノズルが液だれする	散布ノズルが汚れているか、損傷しています。	液だれを解決します（207 ページを参照）。
ポンプによって吸引されない	吸引側（吸引フィルター、フィルターインサート、吸引ホース）の詰まり。	詰まりを取り除きます。
	ポンプがエアを噛んでいる。	吸込口の吸引ホース（オプション）のホース接続部に漏れがないか点検します。
ポンプが弱々しい	吸引フィルターとフィルターインサートの汚れ。	吸引フィルターとフィルターインサートを清掃します。
	バルブの固着または損傷。	バルブを交換します。
	ポンプが空気を吸い込んでいます（散布液タンク内の気泡で分かれます）。	吸引ホースのホース接続部に漏れがないか点検します。

円錐状の散布範囲が揺れ動く	ポンプからの吐き出しが不規則。	吸引側と圧力側のバルブを点検あるいは交換します（これについては 236 ページを参照）。
オイルと散布液の混合液がオイル注入口にあるか、オイルの消費がはっきり確認できる	ポンプのダイヤフラムの不具合。	6つのピストンダイヤフラムをすべて交換します（237 ページを参照）。
操作端末： 入力した必要な散布量に達しない	走行速度が速い。ポンプ駆動回転数が低い。	故障メッセージが消えるまで、走行速度を遅くし、ポンプ駆動速度を上げます。
操作端末： スプレーヤーブームに装着された散布ノズルが、許容散布圧範囲から逸脱している	規定の走行速度からの逸脱（これは散布圧に影響を及ぼしません）	走行速度を変え、散布作業向けの規定の範囲内の走行速度に戻します。
洗浄中に散布すると、ノズルから液体が出ないことがあります。	前の散布で散布液タンクを空にしすぎたため、中に洗浄水は全くないか、ほとんどありません。	洗浄中に制御された散布を行うために、走行速度および／または規定散布量を下げます。
洗浄水の供給が不十分	洗浄水ホースのストレーナーが詰まっている	洗浄水ホースを吸引装置から取り外し、プラグソケットを取り外して、ストレーナーを清掃します。
システム内の石灰化	ノズル本体が開かない／閉じない。 散布液タンクと吸引フィルター内の石灰堆積	石灰化を除去するには、特殊な酸性化剤（例えば Sudau Agro 社の PH FIX 5）を使用します（208 ページを参照）。

13.1 ノズルやノズルフィルターの詰まりを取り除く



警告

意図せずに散布液に触れる危険！

- まず、洗浄水でノズルを洗い流してください。
- スプレーヤーブームで作業する際は、個人用保護具を着用してください。



1. 散布を OFF にします。

2. ブームを洗浄して、洗浄水を散布します。

3. 機械を停止します。



4. ブームを、ノズル高さ 1.50 メートルまで上げます。



5. ブームガイドを固定します。

6. エンジンを OFF にします。

7. 機械を固定します。

8. 個人用保護具を着用します。

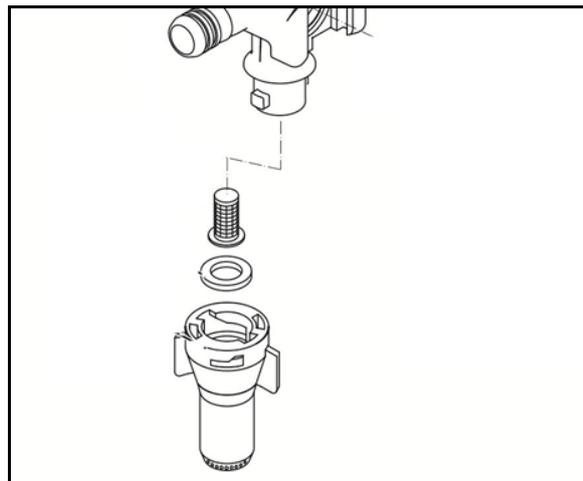
9. ノズルと一緒にバヨネットナットを緩めます。

10. ゴムシールとノズルフィルターを取り外します。

11. 交換用ノズルと交換用フィルターを使用します、
または

ノズルとフィルターを圧縮空気で清掃します。

12. 交換用ノズルと交換用フィルターを、バヨネットナットとゴムシールで取り付けます。
。



13.2 ノズルの液だれを解決する

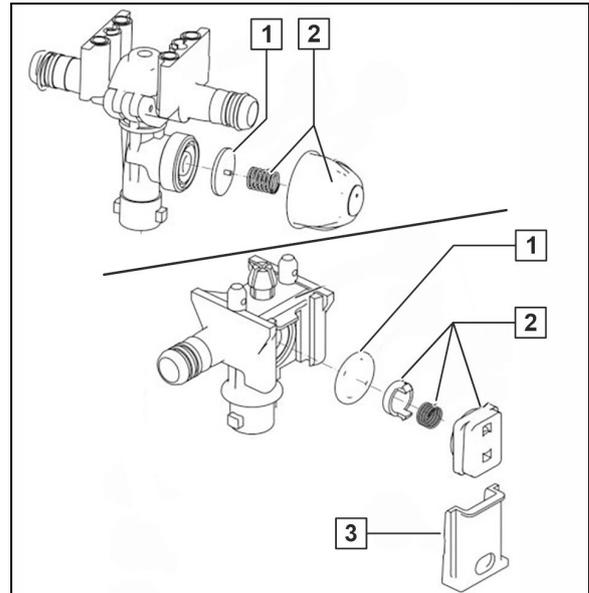


警告

意図せずに散布液に触れる危険。

- ノズル本体で作業する前に、洗浄液でノズルを洗い流してください。

1. スプリングエレメント (2) を取り外します。
2. ダイヤフラム (1) を取り出します。
3. ダイヤフラムシートを清掃します。
4. ダイヤフラムに傷がないかチェックします。
5. ダイヤフラムとスプリングエレメントを取り付けます。
6. 親指で適度な力を加えて、ノズルスライド (3) を押して開きます。



13.3 システム内の石灰化を除去

石灰化がある場合の症状：

- ノズル本体が開かない／閉じない。
- 操作端末のエラー通知
- タンクと吸引フィルター内の石灰堆積

石灰化を除去するには、特殊な酸性化剤（例えば Sudau Agro 社の PH FIX 5）を使用します。



危険

酸性化剤との接触による、健康の危険。

パッケージの使用説明に注意してください！

1. 空のスプレーヤーを完全に清掃します。
 2. 20 ～ 50 リットルの洗浄水を散布液タンクに充填します。
 3. 散布ポンプを駆動します。
 4. 酸性化剤（3 L）を、検査ハッチから散布液タンクに入れます。
- 石灰化除去の規定 pH 値：2 ～ 3
5. 散布ライン内で混合液を 10 ～ 15 分循環させます。
 6. ポンプ駆動を中断します。



7. **AmaSelect** :  ポンプ駆動せずに、手動でノズル選択し、すべてのノズル位置に何度か変更します。
 8. 散布ポンプを駆動します。
 9. さらに数分間、散布ライン内で混合液を循環させます。
 10. 目標 pH 値の 6 ～ 7 に達するまで、混合物を水で希釈します。
- 希釈された混合液は無害で、散布液に加えることができます。

水の硬度と pH 値に関する基本情報

特に微量元素や肥料を取り扱う際には、すべてのバルブの表面が汚れておらず、スムーズに機能するように、水の硬度と pH 値に注意する必要があります。

水の硬度が 15° dH（ドイツの硬度）を超える場合は、ポリリン酸塩ベースの硬度安定剤の使用を推奨します。メーカー情報に従う限り、製品は健康と環境に無害です。

製品例：Aquakorin 社の Folmar P30。

特に、pH 値を上げるホウ素などの微量元素を含む農薬混合物の場合、できた散布液の pH 値は 7 以下に保つ必要があります。

製品例：

- クエン酸
- 次のような酸性化剤：
 - Sudau の pH-Fix
 - Belchim Crop Protection の Spray Plus
 - De Sangosse の X-Change



市販のスプレーヤー洗剤は強アルカリ性なので、スプレーヤー内のスルホニル尿素など残留農薬を中和します。ただし、機械が石灰化している場合、pH 値を上げる作用があるため、石灰除去には逆効果になります。

14 清掃、メンテナンス、修理



警告

以下のことによる、つぶれ、変形、切断、閉じ込め、引き込まれ、または衝撃の危険。

- トラクターの3点式油圧システムで上昇させた機械が不意に降下。
- 上昇した、固定していない機械部品の意図しない落下。
- トラクターと機械が不意に始動して走り出すこと。

機械に対する清掃、メンテナンスまたは修理作業を実施する前に、不意に作動して走り出すことがないように、トラクターと機械を固定してください（142 ページを参照）。



警告

保護されていない危険箇所による、つぶれ、変形、切断、閉じ込め、引き込まれ、または衝撃の危険。

- 機械の清掃やメンテナンス、修理のために取り外した保護装置を取り付けてください。
- 不具合のある保護装置は、新品のものに交換してください。



危険

- メンテナンス・修理を実施する際は、安全上の注意事項（特に42 ページの「スプレーヤーの操作」の章）を守ってください。
- 上昇した位置にある可動機械部品の下でメンテナンス・修理作業を行う場合は、それらの部品が不意に下降しないよう、必ず適切なフィットするロック装置によって固定してください。

初期設定前に毎回：

1. ホース / パイプと接続部に、目に見える欠陥 / 密閉されていない場所がないか確認してください。
2. ホースとパイプにこすり傷があれば修理します。
3. 摩耗または破損したホースとパイプをすぐに交換します。
4. 漏れのある接続部をすぐに取り除いてください。



- 定期的に正しいメンテナンスを行うことで、スプレーヤーを長期間、良好な状態に維持し、早期の磨耗を防ぐことができます。定期的に正しいメンテナンスを実施することは、弊社の保証条件の要件のひとつとなっています。
- 必ず AMAZONE 純正交換部品を使用してください（これについては「交換・磨耗部品および補助装置」の章、20 ページを参照）。
- 必ず AMAZONE 純正交換用ホースを使用し、V2A のホースクランプを使って取り付けてください。
- テスト・メンテナンス作業を実施するには専門知識が必要です。この専門知識は、本取扱説明書には記載されていません。
- 清掃・メンテナンス作業を実施するときは、環境保護対策を守ってください。
- 潤滑油（例：オイル、グリース）を廃棄処分にするときは、法令を順守してください。これらの潤滑油と接触する部品も、これらの法令の対象となります。
- 高圧グリースガンを使って注油する場合は、注油圧力が 400 bar を超えないようにしてください。
- 以下のことは禁止されています。
 - ドリルを使ってシャシーに穴を開けること。
 - フレームにすでに存在する穴を、ドリルを使って拡大すること。
 - 荷重支持部品を溶接すること。
- 特に重要な場所で以下の作業を行う場合は、保護対策（ラインを覆う、ラインを延長するなど）が必要になります。
 - 溶接、ドリル穴あけ、研削作業時。
 - 樹脂製ワイヤーや電気配線の近くで、切断ホイールを使って作業する場合。
- 修理作業を実施するときは、事前にスプレーヤーを完全に水で洗浄してください。
- スプレーヤーの修理作業は、ポンプが停止した状態で実施してください。
- 散布液タンク内で修理作業を行う場合は、その前に必ず念入りに清掃してください。散布液タンクの中には入らないでください。
- いずれのメンテナンス作業においても、機械ケーブルをボード

コンピュータから外し、ボードコンピュータへの電源供給を遮断してください。この指示は特に機械の溶接作業時に当てはまります。

14.1 清掃



- ブレーキ、空気および油圧ホースラインは、特に入念に点検してください。
- ブレーキ、空気または油圧ホースラインには、絶対にベンジン、ベンゼン、石油または鉱油は使用しないでください。
- 清掃後（特に高圧洗浄機/スチームジェットまたは脂溶性溶媒を使って清掃したあと）は、トラクターとスプレーヤーに注油してください。
- 洗浄剤の取り扱いと除去については、法令を順守してください。

高圧洗浄機/スチームジェットを使った清掃



- 高圧洗浄機/スチームジェットを使用して清掃する場合は、必ず以下の点を守ってください。
 - 電気部品は一切、清掃しないでください。
 - クロムめっきした部品は一切、清掃しないでください。
 - 注油箇所、支持箇所、機器銘板、警告表示および接着フィルムに対しては、絶対に高圧洗浄機/スチームジェットの洗浄ノズルを直接向けて清掃しないでください。
 - 高圧洗浄機/スチームジェットの洗浄ノズルと機械の間には、必ず 300 mm 以上の間隔をあけてください。
 - 高圧洗浄機/スチームジェットの設定圧力は、120 bar を超過してはなりません。
 - 高圧洗浄機を使って作業する場合は、安全規則を守ってください。

14.2 冬季の保管および長期間使用しない場合



冬季保管の際には、凍結による損害を防ぐために、全液体回路内に残存する水／散布液を十分な量の不凍液で希釈します。

60 l の不凍液が必要です。

AMAZONE は冬季保管に、プロピレングリコール・ベースの不凍液（Glysofor L など）を推奨します。

液体肥料は、不凍液として不適切であり、機械を損傷する可能性があります。

1. 機械を清掃し、完全に空にします。
2. 必要に応じて、フロントタンク FT をトラクターに取り付け、FlowControl を連結します。
3. 下部タンクのホース接続を用いて洗浄水タンクを排水し、後で再び適切に取り付けます。
4. 散布ポンプを駆動します。

不凍液を洗浄水タンクに吸引：

または：不凍液を洗浄水タンクのタンク開口部から直接充填します

5. 吸引ホースを吸込口に接続して、不凍液の入った容器に入れます。
6. 吸引ホースを吸込口に接続します。
7. 圧力装置 DA を 位置にします。

8. ツインターミナル： 不凍液を吸引します。

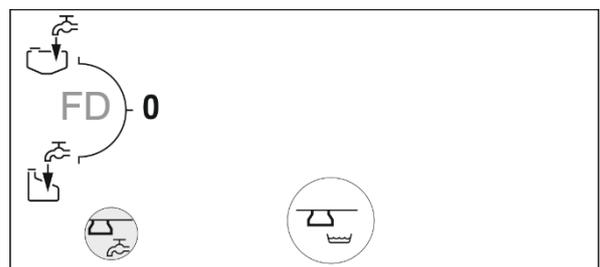
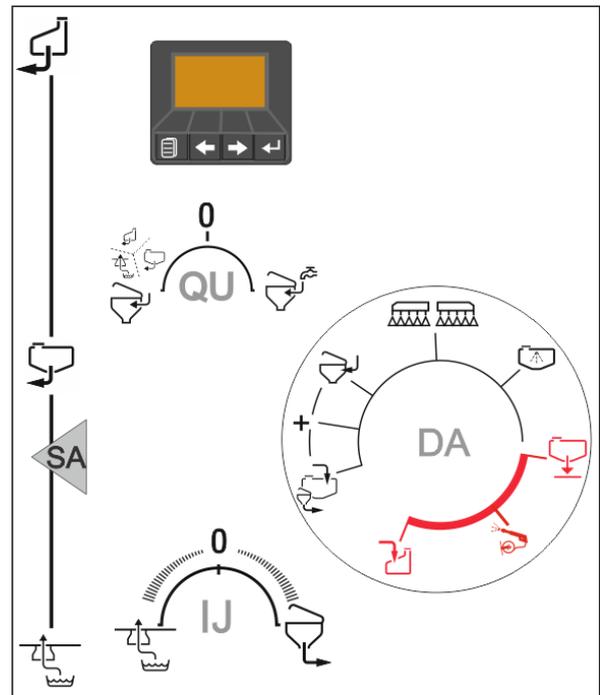
不凍液を散布液タンクにポンプで送る：

9. ツインターミナル： 洗浄水タンクから吸引します。

10. 洗浄水タンクのタンク開口部から充填する

場合：圧力装置 DA を 位置にします（10 秒間）。

11. 圧力装置 DA を 位置にします。



不凍液を行き渡らせる：

12. ツインターミナル： 散布液タンクから吸引します。

13. 不凍液をポンプで液体回路全体に循環させます。

そのために圧力栓 **DA** を次の位置にします：

- 内部清掃（30 秒間）
- 外部清掃装置を混入容器内に噴射します（10 秒間）。
- そして切り替え栓 **IJ** の位置を切り替えます。

それから切り替え栓 **IJ** を 位置にします。

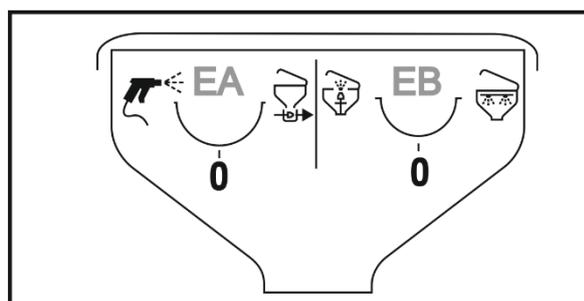
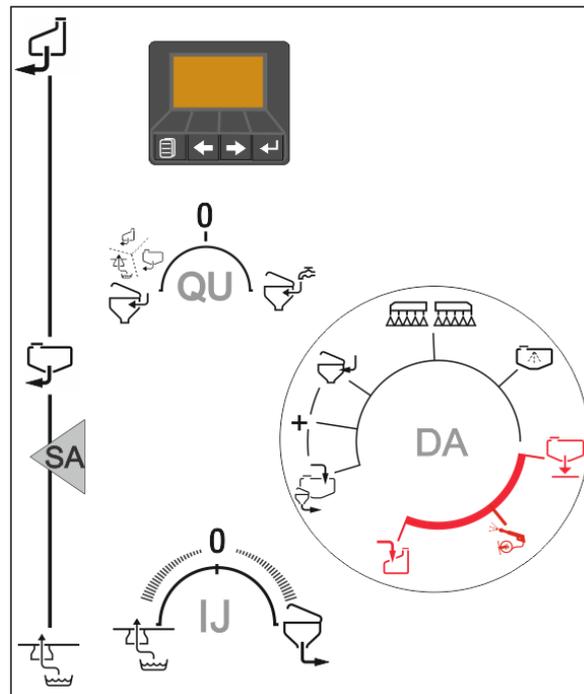
切り替え栓 **QU** を 位置にします。

混入容器で切り替え栓 **EA**、**EB** の位置を切り替えて、対応する機能を 10 秒間操作し、中身を吸引します。

- そしてアジテーターを最大 ON および OFF にします。

→ **DUS**：不凍液を循環させます（1 分間）。

14. ツインターミナル： 循環清掃を有効にします。



FlowControl でフロントタンク **FT** を霜から保護します：

15. モードを手動で選択します。

16. 20 リットルの不凍液を、前方にポンプで送ります。

17. フロントタンクの内容物全体を、後方にポンプで送ります。

不凍液をノズルで散布：

18. ブームを展開します。
19. 不凍液がノズルから出るまで、散布を ON にします。
 - ブームセクション制御：何度か ON/OFF します
20. 限界ノズル／境界ノズルを切り替えます。

 噴射された散布液は容器で受けます。

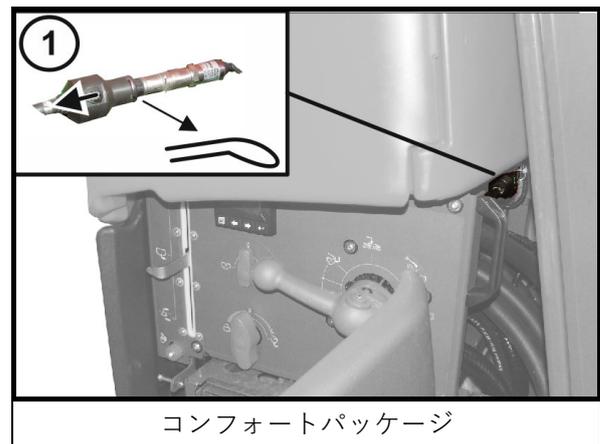
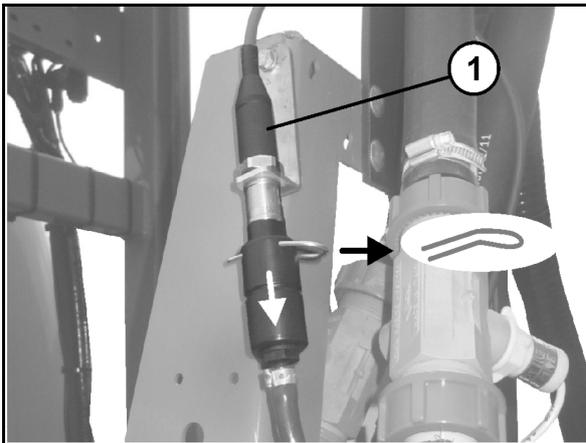
 噴射された散布液に、十分な量の不凍液が含まれているかチェックします。必要なら改めて不凍液を注入して、手順を繰り返します。

不凍液をポンプで排出：

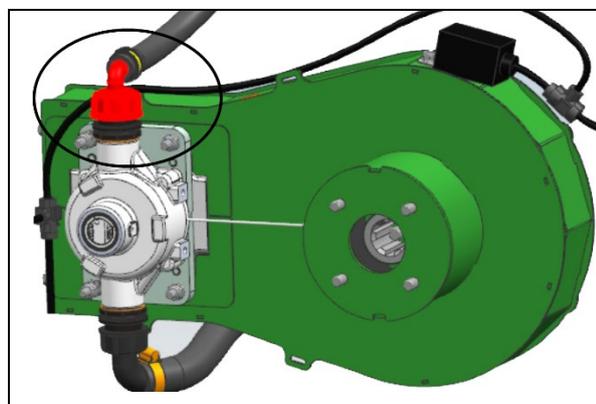
21. ポンプを用いて散布液タンクを空にします。
 - 不凍液と散布液の混合液は、適した容器にポンプで送り、再利用するか専門的に廃棄します。
22. 吸引フィルターインサートおよび圧力フィルターインサートから液体を排出します。

一般的な事柄：

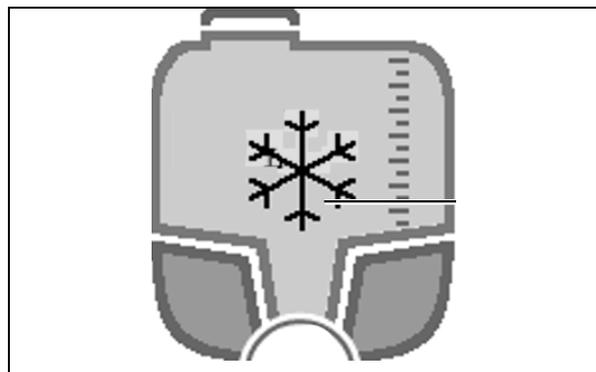
23. 圧力センサーのホースを外して、圧力センサーから液体を排出します (1)。



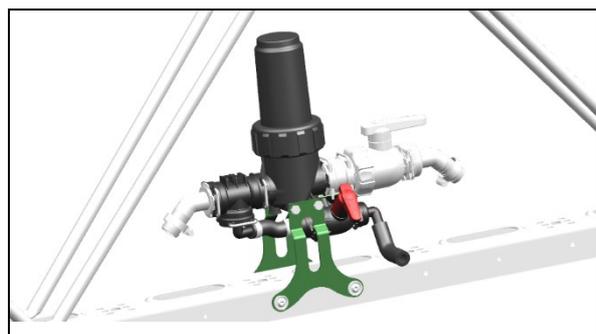
24. ハンドウォッシュ装置から液体を排出し、栓を開いたままにします。
25. プロペラシャフトのユニバーサルジョイントに注油し、長期間使用しない場合には、異形パイプにグリースを塗布します。
26. 油圧シリンダーのピストンロッドに腐食防止処理を施します。
27. 圧力計その他の電子付属品は、凍結しないように保管します。
28. 再び運転開始する前に、ポンプのオイル交換を行います。
29. 上部接続部から少量の植物油を入れて、洗浄水ポンプを保管します。



→ 冬季保管は、操作端末に表示されます。



30. ドレンコックを用いて、ラインフィルターの経路に残っている水を排出します。



14.3 注油規定



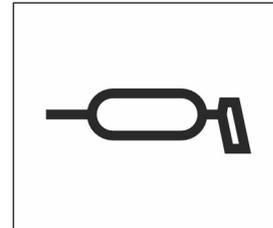
すべてのグリースニップルに注油してください（ガスケットは汚さないようにしてください）。

指定された間隔で、機械に潤滑／グリース塗布します。

汚れが軸受の内部に押し込まれないように、潤滑前に潤滑ポイントとグリースガンを丁寧に清掃します。

汚れたグリースを 軸受から完全に押し出します。

潤滑剤



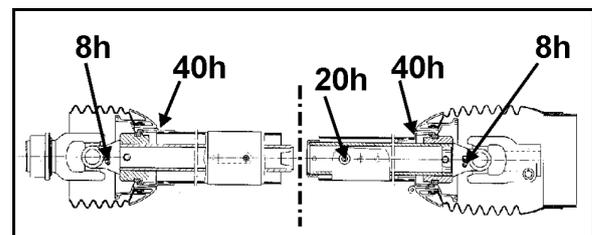
潤滑作業には多目的リチウム 鹸化グリース（EP 添加剤あり）を使用してください。

会社	潤滑剤の名称
ARAL	Aralub HL 2
FINA	Marson L2
ESSO	Beacon 2
SHELL	Retinax A

プロペラシャフトの注油

冬期の運転時には、保護パイプにグリースを塗布し、凍結を防ぎます。

プロペラシャフトに付けられている、プロペラシャフトメーカーによる取付け時の注意事項とメンテナンス注記を遵守してください。



外側ブームのロック

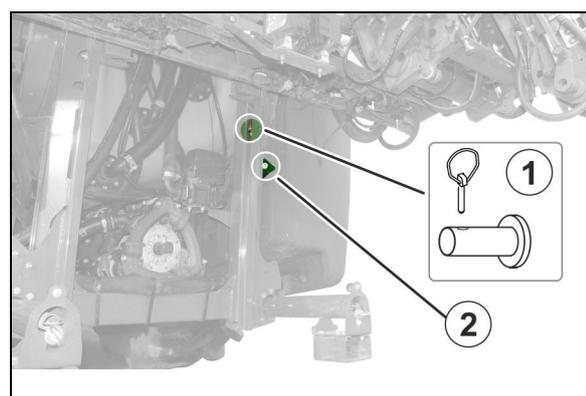
	注油ポイント	間隔	数	
	外側ブームのロック Super (スーパー) S、Super (スーパー) L1、Super (スーパー) L2	100	2	注油ニップル
				

14.4 上昇させたブームの固定

ブームの下で作業する前には、ブームが不意に下降しないように、ロックボルトを用いて固定します。

1. ブームを差し込み位置のあたりまで上昇させます。
 2. ブームをロックボルト (1) で固定します。
- この固定は、スプレーヤーブームの位置を短時間維持するものにすぎません。

- (1) ロックボルトがブームを固定
- (2) パーキング位置のロックボルト



14.5 メンテナンス計画 – 概要



- 初回点検間隔に達したら、メンテナンス作業を実施してください。
- 他社製品については、同梱された製品の説明書に記載されている回数、継続的な整備またはメンテナンス間隔を優先してください。

毎日

構成部品	整備作業	参照ページ	専門工場
ポンプ	<ul style="list-style-type: none"> • オイル量の点検 • 清掃または洗浄 	234	
オイルフィルター (Profi-folding の場合のみ)	<ul style="list-style-type: none"> • 状態の確認 	226	
散布液タンク	<ul style="list-style-type: none"> • 清掃または洗浄 	192	
ノズルライン内のラインフィルター (備わっている場合)		192	
装置		192	
散布ノズル		192	
油圧ホースライン	<ul style="list-style-type: none"> • 異常がないか点検 • 漏れがないか点検 	242	
散布ポンプ	<ul style="list-style-type: none"> • オイル量の点検 • オイルを点検します (オイルが濁ってはいけません) 	234	

3 ヶ月 / 200 運転時間ごと

構成部品	整備作業	参照ページ	専門工場
ラインフィルター	<ul style="list-style-type: none"> • 清掃 • 損傷したフィルターインサートの交換 	192/ 123	
ブーム	<ul style="list-style-type: none"> • サイドアームに亀裂やその兆候がないか点検します。 		

清掃、メンテナンス、修理

毎年 / 1000 運転時間ごと

構成部品	整備作業	参照ページ	専門工場
ポンプ	<ul style="list-style-type: none"> 500 運転時間ごとにオイル交換 	235	X
	<ul style="list-style-type: none"> バルブの点検（必要に応じて交換） 	236	
	<ul style="list-style-type: none"> ピストンダイヤフラムの点検（必要に応じて交換） 	237	
オイルフィルター	<ul style="list-style-type: none"> 交換 	226	X
流量計とリターン流量計	<ul style="list-style-type: none"> 流量計のキャリブレーション リターン流量計を比較 	244	
ノズル	<ul style="list-style-type: none"> スプレーヤーの較正、横方向の分布の点検、必要に応じて、磨耗したノズルの交換 	207	
AmaSwitch	<ul style="list-style-type: none"> 個別ノズル切り替えのダイヤフラムを交換する 	243	

必要に応じて

構成部品	整備作業	参照ページ	専門工場
Super S ブーム	<ul style="list-style-type: none"> 設定の修正 	230 229	
上側リンクピンおよび下側リンクピン	<ul style="list-style-type: none"> ピンに欠陥がないか確認し、磨耗したピンは交換してください。 	247	
マグネットバルブ	<ul style="list-style-type: none"> 清掃 	227	
油圧スロットルバルブ	<ul style="list-style-type: none"> 操作速度の設定 	229	
油圧プラグ	<ul style="list-style-type: none"> 油圧プラグ内のフィルターをすすぐ／交換する 	228	

14.6 油圧系統



警告

油圧系統の高圧油圧油が体内に入り込むことによる感染の危険。

- 油圧系統について作業を実施することができるのは、専門工場だけです。
- 油圧系統の作業を行う前に、油圧系統の圧力を抜いてください。
- 漏れている箇所を探す場合は、必ず適切な補助装置を使用してください。
- 油圧ホースラインの漏れは、絶対に手や指でふさごうとしないでください。

漏れ出た高圧の油圧オイルが皮膚から体内に入り、重傷の原因となる可能性があります！

油圧油によって怪我を負った場合は、ただちに医師の診察を受けてください。感染の危険があります。

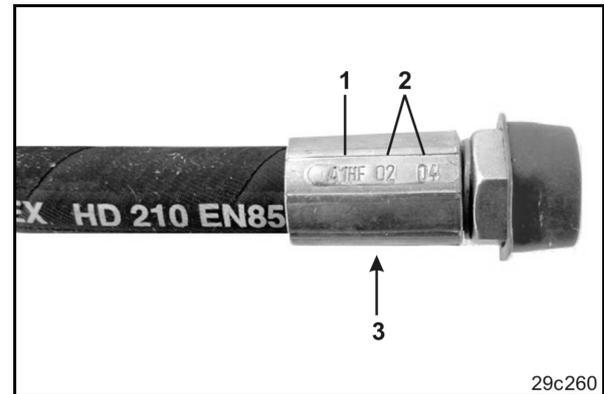


- トラクターの油圧系統に油圧ホースラインを接続するときは、必ずトラクターとトレーラーの両方の油圧系統の圧力を抜いてください。
- 油圧ホースラインが正しく接続されていることを確認してください。
- すべての油圧ホースラインとカップリングに損傷や汚れがないか、定期的に点検してください。
- 油圧ホースラインは、少なくとも毎年1回、正しく作動するかどうか専門工場での点検を受けてください。
- 損傷・磨耗が見つかった場合、油圧ホースラインを交換してください。必ず AMAZONE 純正油圧ホースラインを使用してください。
- 油圧ホースラインは、場合によっては最大2年間の保管期間を含む、6年間の使用限度を超過してはなりません。正しく保管・使用した場合でも、ホースおよびホース接続部は経年劣化するため、使用期間の制限が設けられています。ただし、経験値から使用期間を特定することも可能です（特に、潜在的な危険を考慮に入れる場合）。熱可塑性プラスチック製のホースおよびホース接続部の場合は、他の指針値が決め手となる可能性があります。
- 古いオイルは、適切な方法で廃棄処分してください。廃棄処分についてご不明な点がございましたら、オイルメーカーまでお問い合わせください。
- 油圧油は子供の手の届かないところで保管してください！
- 油圧油が地面や川などに流れないように注意してください。

14.6.1 油圧ホースラインの記号

バルブ部の識別データには、以下の情報が記載されています。

- (1) 油圧ホースラインについてのメーカーのマーク (A1HF)
- (2) 油圧ホースラインの製造日 (02 04 = 2004年2月)
- (3) 最大許容運転圧力 (210 bar)。



14.6.2 メンテナンス間隔

最初の 10 運転時間後、ついで 50 運転時間ごと

1. 油圧系統の全構成部品に漏れがないか点検します。
2. 必要に応じてねじ接続部を締め付けます。

始動する前に毎回：

1. 油圧ホースラインに目に見える欠陥がないかチェックしてください。
2. 油圧ホースラインとパイプに摩耗箇所があれば修理してください。
3. 油圧ホースラインに摩耗や損傷が見つかったら、直ちに交換してください。

14.6.3 油圧ホースライン用の検査基準



ご自身の安全のため、環境への負担を減らすため、以下の点検基準を守ってください。

以下の 1 つ以上の基準に該当するホースは、交換してください。

- 外側の層に損傷があり、プライまで達している（例：こすれ、切断、ひび割れ）。
- 外側の層がもろくなっている（ホースの素材にひび割れができていない）。
- ホース本来の形状とは異なる変形。圧力を抜いた状態と圧力をかけた状態の両方、または曲げたとき（例：層の分離、気泡の形成、締め付け、曲げ）。
- 漏れている箇所。
- 設置要件を満たしていない。
- 寿命（6 年間）を超えている。

この 6 年間を決めるのは、油圧ホースラインの製造日です。製造日が「2004」の場合は、ホースは 2010 年 2 月までしか使用できません。「油圧ホースラインの記号」を参照してください。



ホース / パイプや接続部の漏れの原因の多くは以下にあります。

- O リングやシールの欠落
- O リングの破損や不適切な設置
- もろくなった、あるいは変形した O リングかシール
- 異物
- 不安定なホースクリップ

14.6.4 油圧ホースラインの取り付けと取り外し



以下のものだけを使用してください。

- AMAZONE 純正交換用ホース。この交換用ホースは化学物質、機械的・熱的負荷に耐えます。
- ホース取り付け時には基本的に V2A のホースクランプ。



油圧ホースラインの着脱時には、必ず以下のことを守ってください。

- 清潔性を確保してください。• 油圧ホースラインを取り付ける場合は、すべての作動位置において必ず以下のことが確保されるようにしてください。
 - ホース自体の重み以外には張力がかかっていないこと。
 - 長さ不足による、がたつきの可能性がないこと。
 - 油圧ホースラインに対する外部からの機械的な影響がないこと。

適切に取り回して固定することで、ホースが他の構成部品に当たってこすれたり、ホース同士がこすれるのを防いでください。必要に応じて保護カバーを使って油圧ホースラインを固定してください。縁が鋭利な構成部品には覆いをかけてください。

- 許容曲げ半径を超えてはなりません。



- 油圧ホースラインを可動部品に接続するときは、動きの全範囲において最小許容曲げ半径を下回らないよう、また油圧ホースラインに過度な張力がかからないよう、ホースを適切な長さにする必要があります。
- 油圧ホースラインは、指定された固定ポイントに取り付けてください。その場合、ホースクリップは避けてください（ホースの自然な動きと長さの変化が損なわれるため）。
- 油圧ホースラインをコーティングすることは許可されません。

14.6.5 油圧オイルフィルターの点検

- Profi-folding の場合のみ:

汚染インジケータ (2) 付きの油圧オイルフィルター (1)。

- 緑色 フィルタは正常に機能している
- 赤 フィルタを交換

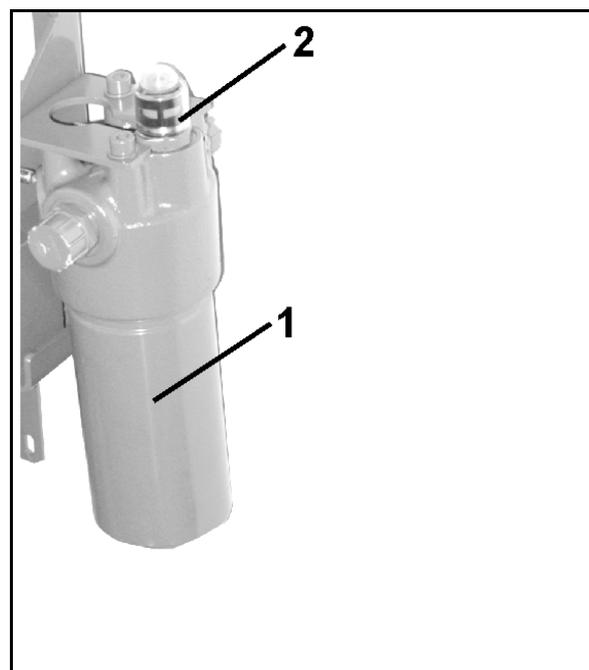
フィルタを取り外すには、フィルタカバーを回して外し、フィルタを取り出します。



注意

あらかじめ油圧システムの圧力を抜いてください。

さもないと高圧で流れ出る油圧オイルによる負傷の危険があります。



オイルフィルタを交換した後、汚染表示器を再び押し込んでください。

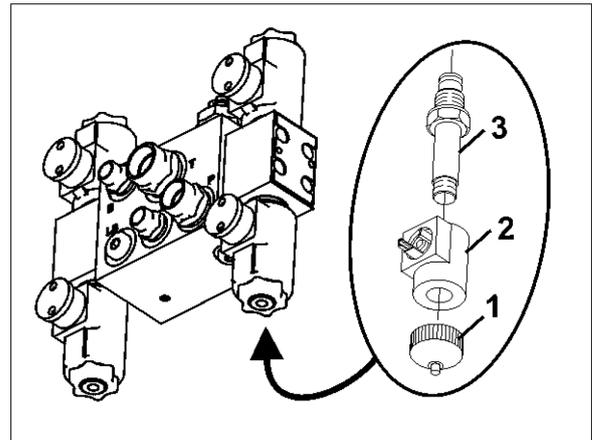
→ 緑色のリングが再び見えるようになります。

14.6.6 マグネット弁の清掃

- 油圧ブロック Profi-folding

マグネット弁の汚れを取り除くには、これを洗浄します。堆積物のためにシャッターの完全な開閉が阻害される場合には、この洗浄作業が必要になることがあります。

1. マグネットキャップ (1) を回して外します。
2. マグネットコイル (2) を取り外します。
3. バルブロッド (3) をバルブ座と共に回して外し、圧縮空気または油圧オイルで汚れを落とします。



注意

高圧で流れ出る油圧オイルによる負傷の危険があります。

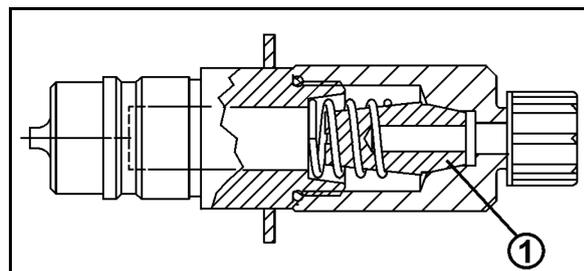
油圧システムでの作業は、必ず圧力を抜いてから行ってください。

14.6.7 油圧プラグのフィルター の清掃 / 交換

Profi-folding の場合は除きます。

油圧プラグにはフィルター (1) が付いています。このフィルターが目詰まりしたら、清掃 / 交換する必要があります。

油圧機能の働きが遅くなった場合、フィルターの清掃 / 交換が必要です。



1. 油圧プラグを回して、フィルターハウジングから外します。
2. 圧力ばねとフィルターを取り外します。
3. フィルターを清掃 / 交換します
4. フィルターと圧力ばねを、再び正しく取り付けます。
5. 油圧プラグを、再びねじ込みます。この際 O リングが正しく取り付けられていることに注意してください。



注意

高圧で流れ出る油圧オイルによる負傷の危険があります。

油圧システムでの作業は、必ず圧力を抜いてから行ってください。

14.7 油圧スロットルバルブの調整

工場出荷時には、それぞれの油圧機能の作動速度が設定されています。

ただし、トラクターのタイプによっては、これらの速度設定の調整が必要になることもあります。

油圧機能の作動速度は、該当する絞りの六角穴付きねじを締める/緩めることで調節可能です。

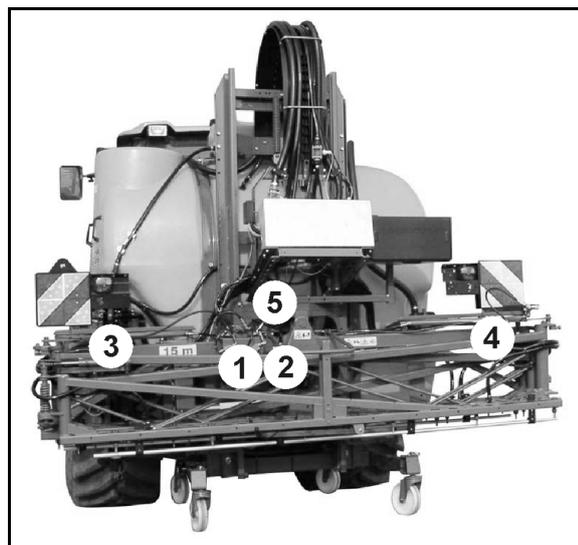
- 作動速度を遅くする = 六角穴付きネジを締めます。
- 作動速度を速くする = 六角穴付きネジを緩めます。



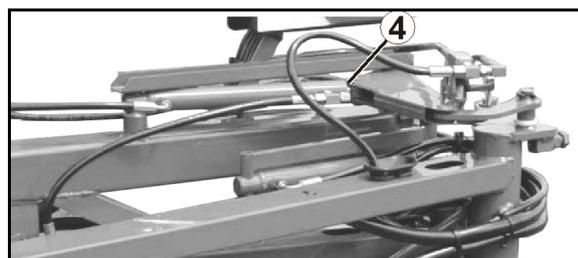
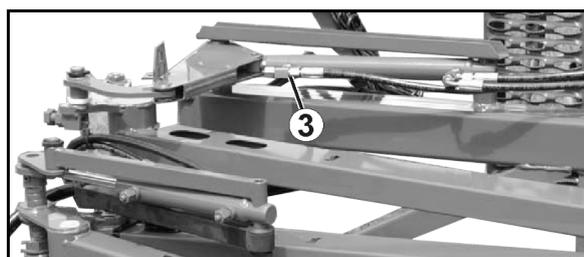
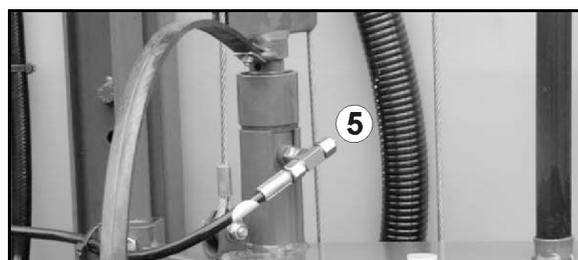
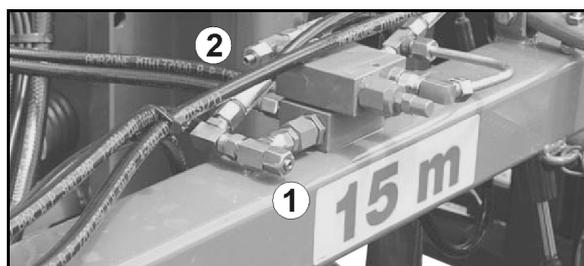
油圧機能の作動速度を調節するときは、必ず絞りペアの2つの絞りを等しく調節してください。

14.7.1 Q Plus ブーム

- (1) 油圧スロットルバルブ - サイドアームを展開。
- (2) 油圧スロットルバルブ - スイング補正をロックおよびロック解除。
- (3) 油圧スロットルバルブ - 左側のサイドアームを折り畳む。
- (4) 油圧スロットルバルブ - 右側のサイドアームを折り畳む。
- (5) 油圧接続部 - 高さ調節（スロットルは高さ調節装置の左側油圧シリンダにあります）。



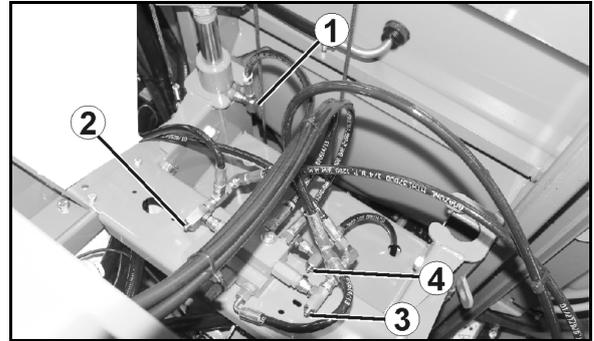
ブームの折り畳み・展開の速度を修正したい場合には、3個の油圧スロットルバルブ(1と3)を常に同じように調節してください。



14.7.2 Super S ブーム

トラクター制御装置による折り畳み・展開

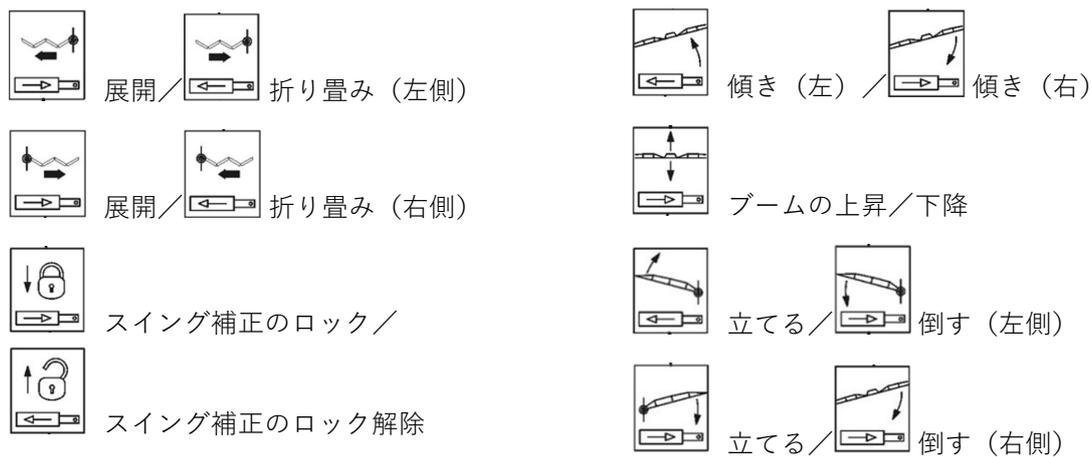
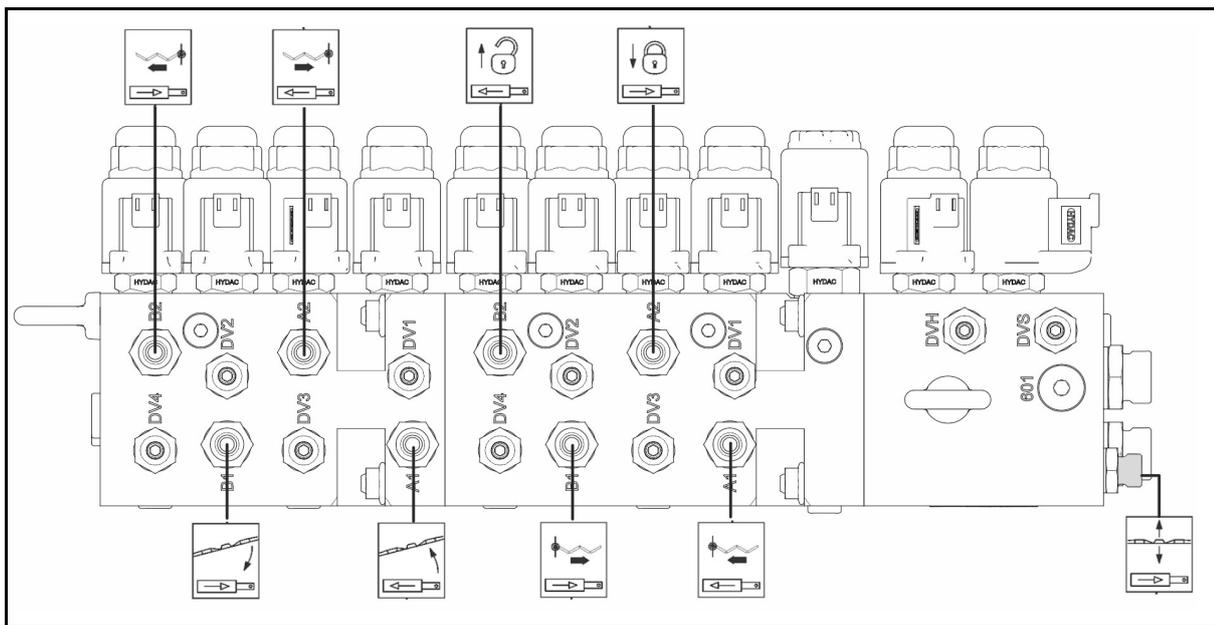
- (1) 油圧スロットルバルブ - 高さを調節。
- (2) 油圧スロットルバルブ - 左側のサイドアームを下に畳む。
- (3) 油圧スロットルバルブ - 右側のサイドアームを下に畳む。
- (4) 油圧スロットルバルブ - スイング補正をロックおよびロック解除。



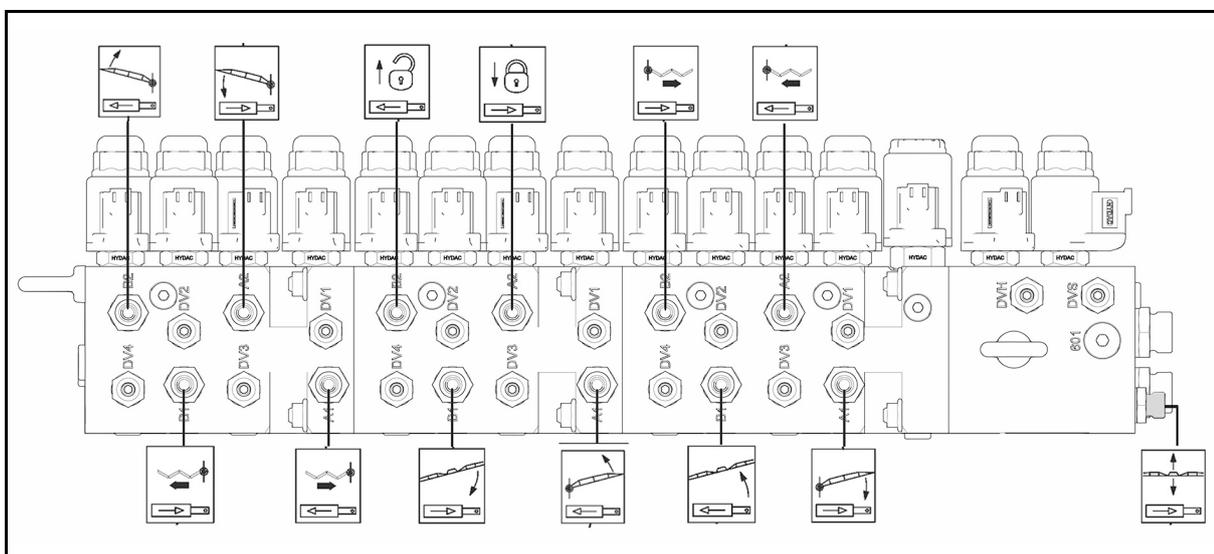
- (5) 油圧スロットルバルブ - サイドアームを展開。
- (6) 油圧スロットルバルブ - サイドアームを折り畳む。



Profi-folding I



Profi-folding II

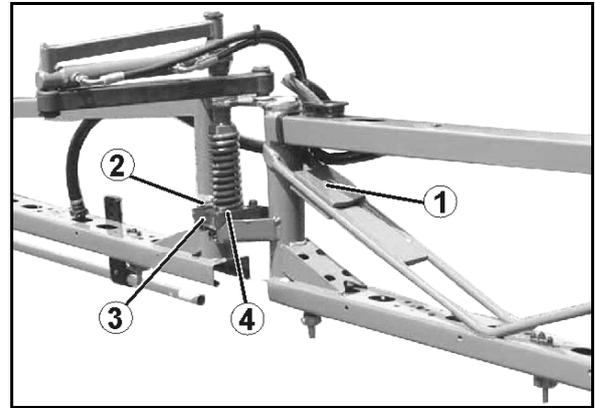


14.8 展開したスプレーヤーブームでの設定

地面に対して平行に位置あわせ

展開され、正しく設定されたスプレーヤーブームでは、すべての散布ノズルが地面に対して同じ高さで、平行でなければなりません。

そうでない場合、スイング補正をロック解除した状態で、展開したスプレーヤーブームをカウンターウェイト (1) を用いて調節します。カウンターウェイトは、サイドアームに適切に取り付けます。



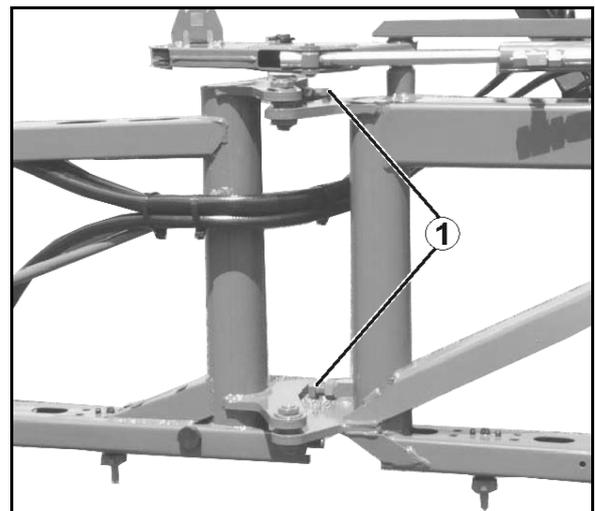
水平方向の位置あわせ

スプレーヤーブームのすべてのブームセクションが、走行方向に向かって一列に並んでいなければなりません。水平方向の位置あわせは以下の場合に必要なことがあります。

- 長時間の使用後
- スプレーヤーブームが地面に強く接触した場合

内側サイドアーム

1. 調整ねじ (1) のロックナットを外します。
2. 内側サイドアームがスプレーヤーブーム中央部と一直線になるまで、調整ねじをストッパーに向けて回します。
3. ロックナットを締め付けます。



外側サイドアーム

1. 取り付けブラケット (3) のねじ (2) を外します。位置合わせは、取り付けブラケットのスロットを利用して、樹脂製クラッチ (4) で直接行います。
2. サイドアームのセクションの位置合わせをします。
3. ねじ (2) を締め付けます。

14.9 ポンプ



警告

意図せずに散布液に触れる危険！

散布剤や散布液と接触した散布ポンプまたはその他のコンポーネントを取り外す前に、洗淨水で機械を洗淨してください。

14.9.1 オイル量の点検



- 20W30 の商標がついたオイルまたは多目的オイル 15W40 だけを使用してください。
- オイル量は適正に維持してください。オイル量は、多すぎても少なすぎても、損傷の原因となることがあります。
- 泡の発生やオイルの濁りは、ポンプのろ過膜が破損していることを表します。

欠陥のあるポンプを駆動しないでください。

1. 水平で作動していない状態のポンプで、オイルレベルがマーク部分に見えるか点検します。
2. オイルが透明か確認します。
3. マーク部分にオイルレベルが見えない場合は、カバーを外してオイルを補充します。



14.9.2 オイル交換

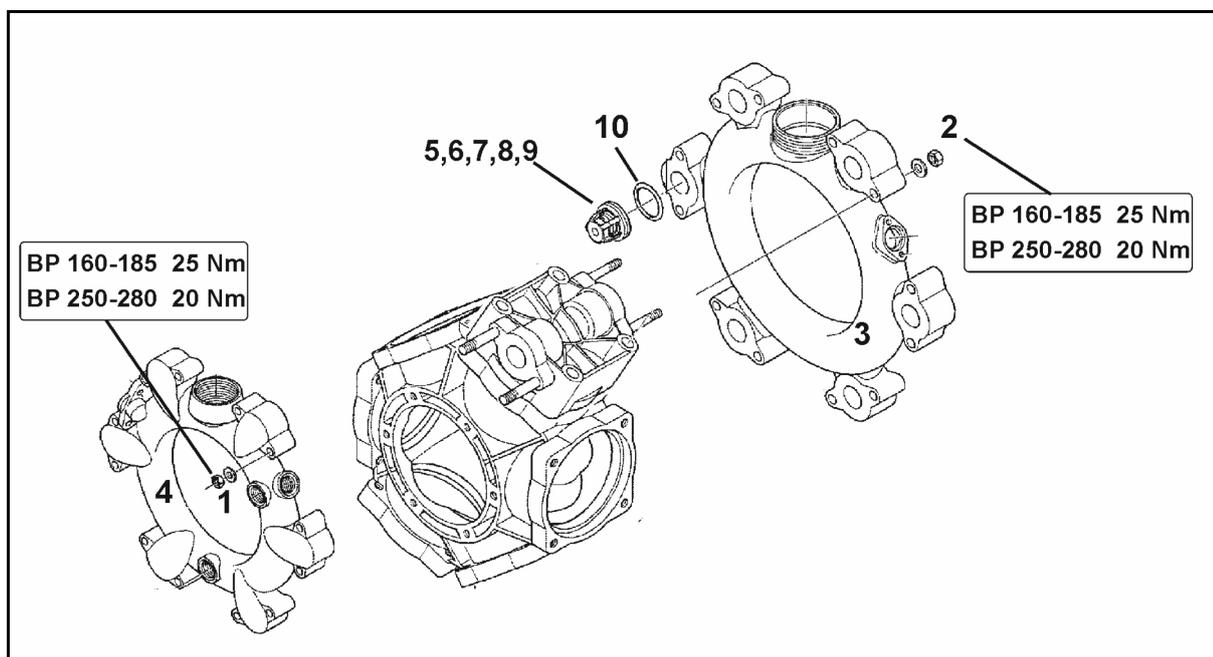
1. ポンプを取り外します。
2. カバーを取り外します。
3. オイルを排出します。
 - 3.1 ポンプを逆さまにします。
 - 3.2 使用済みオイルがすべて流れ出るまで、手でドライブシャフトを回転させます。

さらに、排出ねじからオイルを排出することも可能です。ただし、この方法だとポンプに若干のオイル残留物が残るため、最初の方法を推奨します。
4. ポンプを平らな場所に置きます。
5. ドライブシャフトを左右に交互に回転させ、新しいオイルをゆっくりと充填します。
6. ポンプを取り付けます。
7. ポンプを短時間駆動します。
8. のぞき窓のマークにオイルが見えるまで、残りのオイルを注入します。

14.9.3 吸引側および圧力側のバルブの点検と交換



- バルブアセンブリ (5) を取り外す前に、吸引側と圧力側のバルブの取り付け位置に注意してください。
- 取り付け時には、バルブガイド (9) が損傷していないことを確認してください。損傷していると、バルブの固着の原因となる可能性があります。
- ねじ (1) は、必ず対角線順に指定のトルクで締め付けます。ねじの締め付けが不適切だと、歪みが生じ、漏れの原因となります。

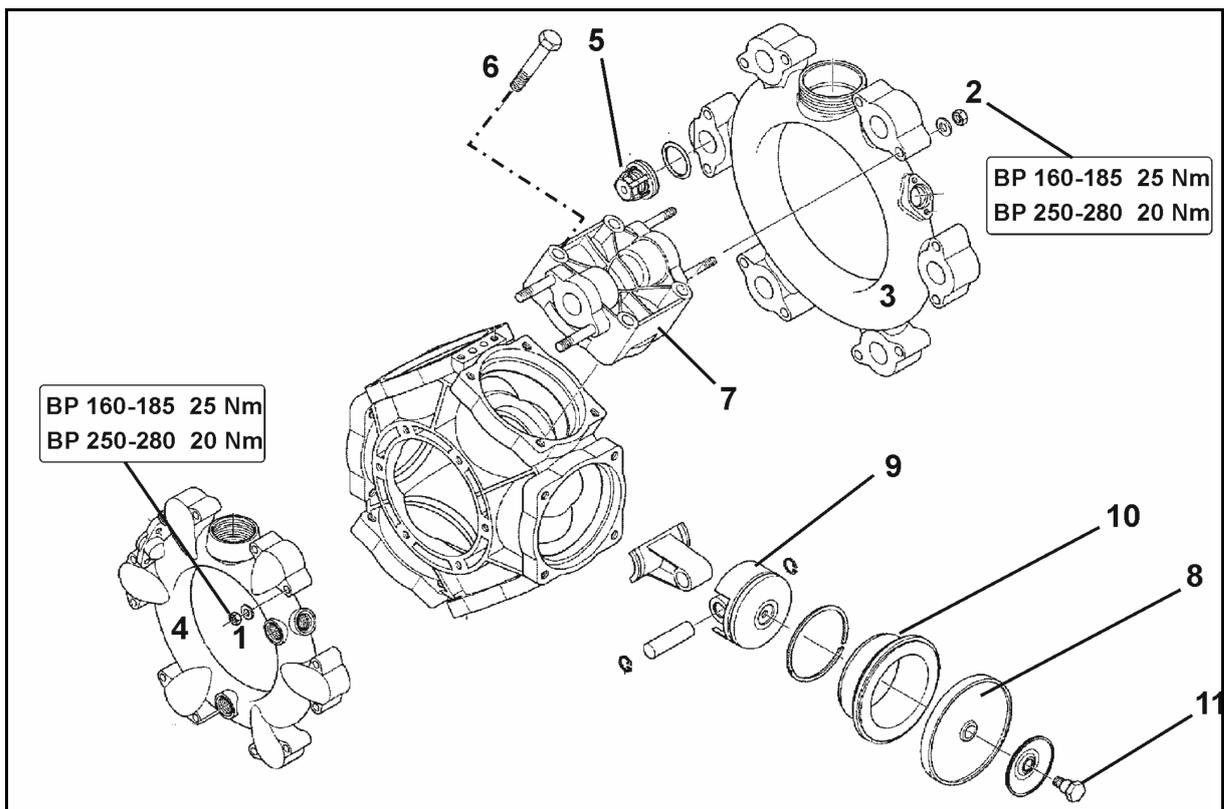


1. 必要ならポンプを取り外します。
2. ナット (1、2) を取り外します。
3. 吸引管と圧力管 (3 と 4) を取り外します。
4. バルブアセンブリ (5) を取り外します。
5. バルブ座 (6) とバルブ (7)、バルブスプリング (8)、バルブガイド (9) に損傷や摩耗がないか点検します。
6. O リング (10) を取り外します。
7. 損傷部品を交換します。
8. 点検および清掃後に、バルブアセンブリ (5) を取り付けます。
9. 新しい O リング (10) を取り付けます。
10. 吸引管 (3) と圧力管 (4) を、ポンプハウジングにフランジで固定します。
11. ナット (1、2) を 25 Nm (BP 160-185) / 20 Nm (AR 250-280) のトルクで対角線順に締め付けます。

14.9.4 ピストンダイヤフラムの点検と交換



- 少なくとも年に1度ピストンダイヤフラム (1) を取り外して、完璧な状態にあるか点検してください。
- バルブアセンブリ (5) を取り外す前に、吸引側と圧力側のバルブの取り付け位置に注意してください。
- ピストンダイヤフラムは、各ピストンごとに個別に点検し、交換してください。点検したピストンを再び完全に取り付けるまで、次のピストンは取り外さないでください。
- 点検するピストンは必ず上方に旋回させ、ポンプハウジング内のオイルが流出しないようにしてください。
- 歪みや破裂、穴が見つかったピストンダイヤフラムが1つだけでも、原則としてすべてのピストンダイヤフラム (6) を交換してください。



ピストンダイヤフラムの点検

1. 必要ならポンプを取り外します。
2. ナット (1、2) を取り外します。
3. 吸引管と圧力管 (3 と 4) を取り外します。
4. バルブアセンブリ (5) を取り外します。
5. ナット (6) を外します。
6. シリンダーヘッド (7) を取り外します。
7. ピストンダイヤフラム (8) を点検します。
8. 損傷したピストンダイヤフラムを交換します。

ピストンダイヤフラムの交換



- 油圧シリンダーの窪み/穴の位置が正しいことを確認してください。
- シリンダーヘッド側 (7) でリムが見えるように、止めワッシャーとねじ (11) で、ピストンダイヤフラム (8) をピストン (9) に固定してください。
- ナット (1、2) は、必ず対角線順に指定されたトルクで締め付けます。ねじの締め付けが不適切だと、歪みが生じ、漏れの原因となります。

1. ねじ (11) を外し、ピストンダイヤフラム (8) を止めワッシャーと共にピストン (9) から取り外します。
2. ピストンダイヤフラムが破損している場合は、オイルと散布液の混合液をポンプハウジングから排出します。
3. ポンプハウジングからシリンダー (10) を取り出します。
4. 汚れを落とすために、ディーゼル燃料または灯油でポンプハウジングを念入りに洗ってください。
5. すべてのシール面を清掃してください。
6. シリンダー (10) を再びポンプハウジングに取り付けてください。
7. ピストンダイヤフラム (8) を取り付けます。
8. シリンダーヘッド (7) をポンプハウジングにフランジで取り付け、ねじ (6) を対角線順に均等に締め付けます。
ねじ接続部に対して、中程度の接続強度用の接着剤を使用してください。
9. 点検および清掃後に、バルブアセンブリ (5) を取り付けます。
10. 新しい O リングを取り付けます。
11. 吸引管 (3) と圧力管 (4) を、ポンプハウジングにフランジで固定します。
12. ナット (1、2) を 25 Nm (BP 160-185) / 20 Nm (AR 250-280) のトルクで対角線順に締め付けます。

14.10 スプレーヤーのキャリブレーション

以下の場合には、キャリブレーションを実施してスプレーヤーをテストしてください。

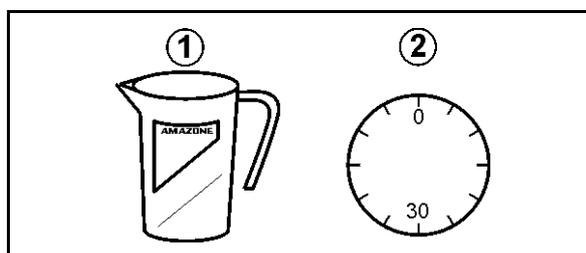
- シーズンが始まる前
- ノズル変更ごと
- 散布表の設定上の注記の確認のため
- 実際の散布量と必要散布量 [L/ha] で相違がある場合。

実際の散布量と必要散布量 [L/ha] に相違が生じる原因は、以下によって発生することが考えられます。

- 実際の走行速度と速度計に表示される走行速度の相違、および/または
- 散布ノズルの自然な磨耗

キャリブレーションのために必要な付属品：

- (1) クイックチェックカップ
- (2) ストップウォッチ



個々のノズル出力による、停止状態での実際の散布量の検出

3 個以上のノズルにおいて、ノズル出力を検出します。ここでは、左右のサイドアームおよびスプレーヤーブームの中央部にあるノズルをそれぞれ次のように確認してください。

1. 操作端末：
 - 1.1 必要な散布量を操作端末に入力します。
 - 1.4 シミュレートされた速度を入力します。
2. 散布液タンクに水を充填します（約 1000 l）。
3. アジテーターを ON にします。
4. 散布を ON にして、すべてのノズルが問題なく機能するか確認します。
5. 複数のノズルにおいて、個々のノズル出力 [L/min] を検出します。
 そのために、クイックチェックカップを正確に 30 秒間ノズルの下に保持します。
6. 散布を OFF にします。
7. 次の方法で、個々のノズルの平均出力 [L/ha] を突き止めます。
 - クイックチェックカップ上の表を使用。
 - 計算する。
 - 散布表を使用。

例：

ノズルサイズ

意図する走行速度

左側サイドアームのノズル出力:

左側サイドアームのノズル出力:

中央でのノズル出力

中央でのノズル出力

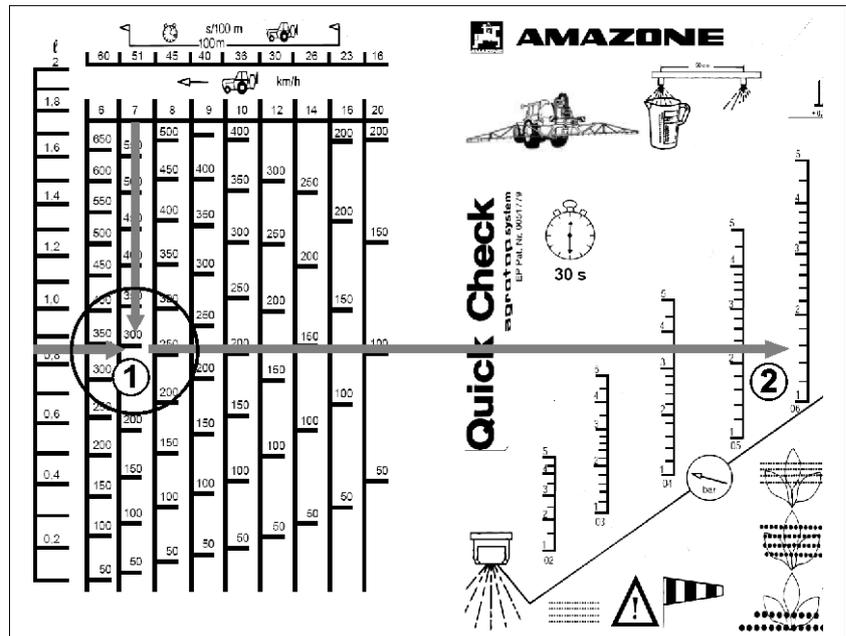
右側サイドアームのノズル出力:

右側サイドアームのノズル出力:

計算した平均値:

計算した平均値:

1. クイックチェックカップにより個々のノズル出力 [L/ha] を検出



(1) → 検出された散布量 290 l/ha

(2) → 検出された散布圧 1.6 bar

2. 個々のノズル出力 [L/ha] を算出

$$\frac{d \text{ [l/min]} \times 1200}{e \text{ [km/h]}} = \text{散布量 [l/ha]}$$

- o d: ノズル出力 (計算した平均値) [L/min]
- o e: 走行速度 [km/h]

$$\frac{1.7 \text{ [l/min]} \times 1200}{7 \text{ [km/h]}} = 291 \text{ [L/ha]}$$

3. 個々のノズル出力 [L/ha] を散布表から読み取る

散布表から (254 ページ参照) :

→ 散布量 291 l/ha

→ 散布圧 1.6 bar

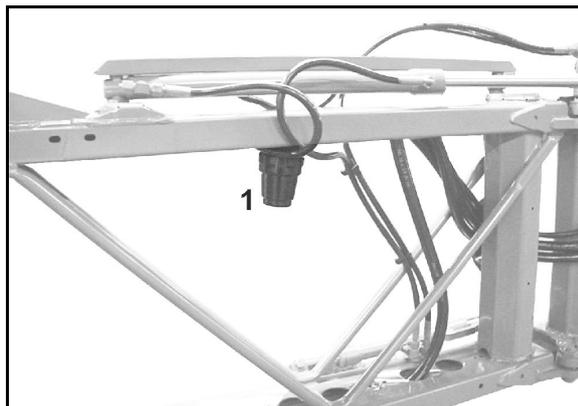


散布量と散布圧の検出値が設定値と一致しない場合:

- 流量計をキャリブレーションします（ソフトウェア ISOBUS の取扱説明書を参照）。
- すべてのノズルで磨耗や詰まりがないか確認します。

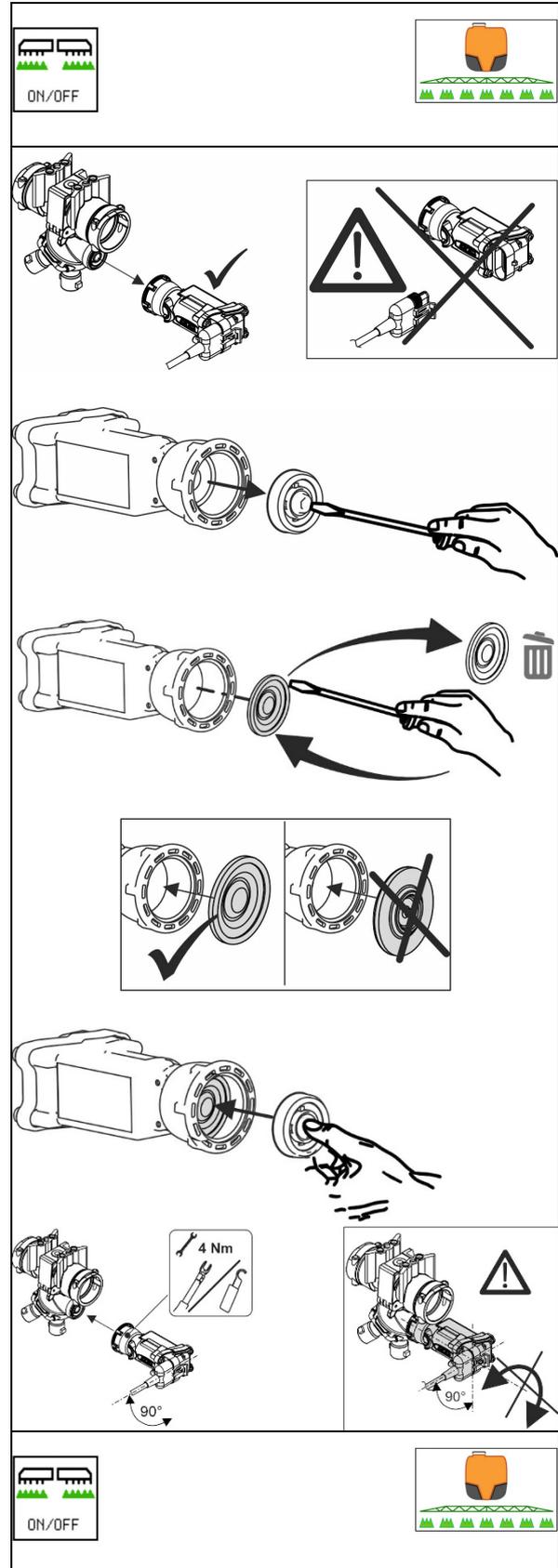
14.11 ラインフィルター

- 使用状況に応じて 3~4 カ月に 1 度、ラインフィルター (1) を清掃してください。
- 損傷したフィルターインサートを交換します。



14.12 個別ノズル切り替えのダイヤフラムを交換する

1. 操作端末で、スプレーヤーを ON にします。
。
2. ユニオンナットを用いて、AmaSwitch モーターを取り外します。接続ケーブルは取り外しません。
3. ディスクも一緒に取り外します。
4. ダイヤフラムを交換します。
→ その際、ダイヤフラムが正しい位置になるように注意します。
5. ディスクを再び取り付けます。
6. ユニオンナットを用いて、モーターを再び取り付けます。
→ その際、モーターと一緒に回転しないようにします。
7. 操作端末で、スプレーヤーを OFF にします。
。



14.13 スプレーヤーのテストに関する注意事項

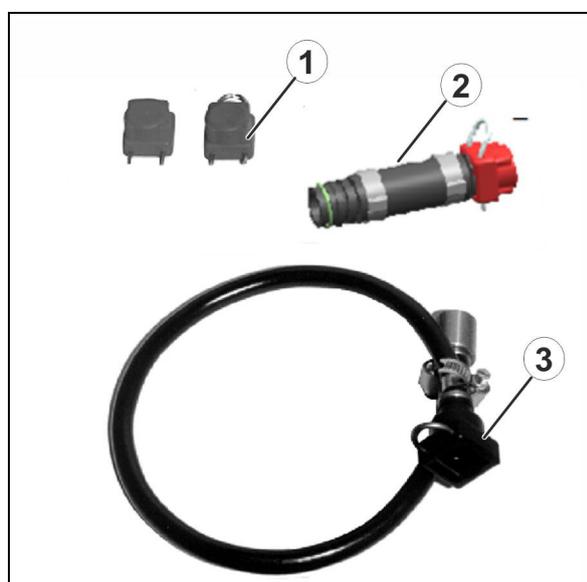


- 散布テストを実施することが許可されているのは認定センターだけです。
- 法律により、以下のとおりに散布テストを実施する必要があります。
 - 初期設定の遅くとも 6 カ月後（購入時に実施しなかった場合）、ついで
 - その後は 2 年ごと。

スプレーヤーテストキット（オプション）、注文番号：114586

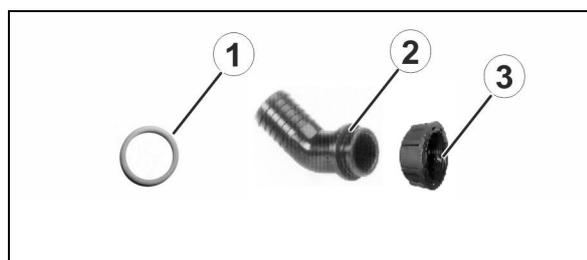
圧力計のテスト

- (1) 押し込み式キャップ（注文番号：913954）と
プラグ（注文番号：ZF 195）
- (2) ブラインドホース（注文番号：116059）
- (3) 圧力計接続部
（注文番号：7107000）



流量計のテスト

- (1) O リング（注文番号：FC 122）
- (2) ホース接続部（注文番号：GE 095）
- (3) スリーブナット（注文番号：GE 021）



ポンプのテスト

圧力ホースを測定装置に接続するための点検用ホースおよび圧力解放バルブ用のブラインドキャップ（注文番号：122580）

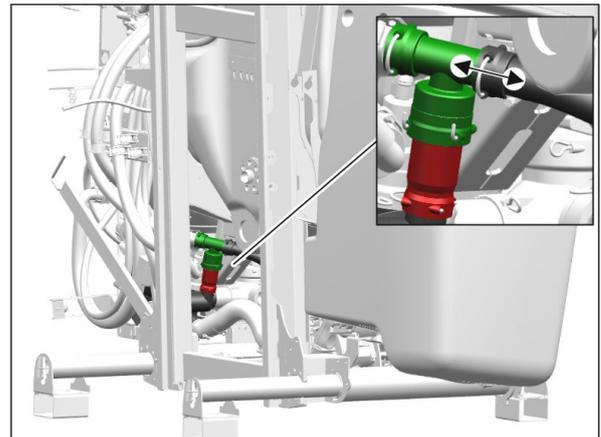


ポンプのテスト - ポンプの性能（吐出量、圧力）のテスト

1. ブームを上昇させ、固定します。
2. 圧力ホースを圧力解放バルブから取り外します。

i 一部のホースは圧力解放バルブを覆ってしまう可能性があります。

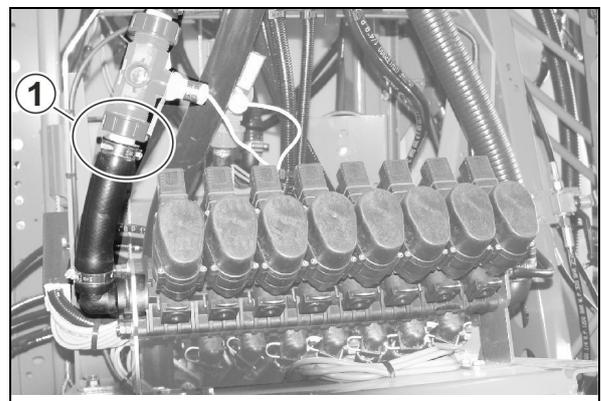
3. ブラインドキャップを圧力解放バルブにかぶせます。
4. 点検用ホースを圧力ホースに取り付けます。
5. 点検用ホースを測定装置に取り付けます。
6. 点検を実行します。



流量計のテスト

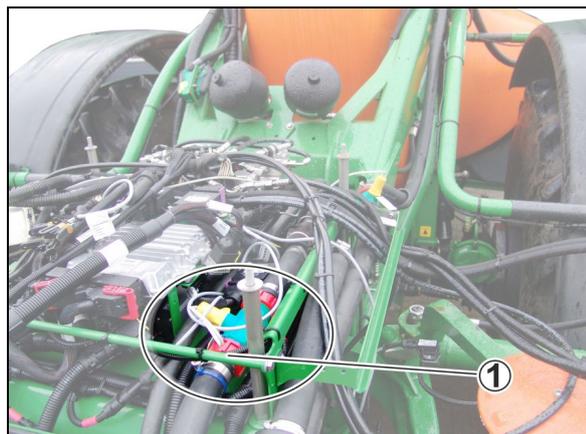
セクションコントロール

1. 流量計後方のスリーブナット (1) を外します。
2. プラグソケット（注文番号：919345）をスリーブナットで固定して、テスト装置に接続します。
3. 散布を ON にします。



個別ノズル切り替え DUS pro

1. 流量計後方のスリーブナット (1) を外します。
2. プラグソケット (注文番号 : 919345) をスリーブナットで固定して、テスト装置に接続します。
3. 散布を ON にします。



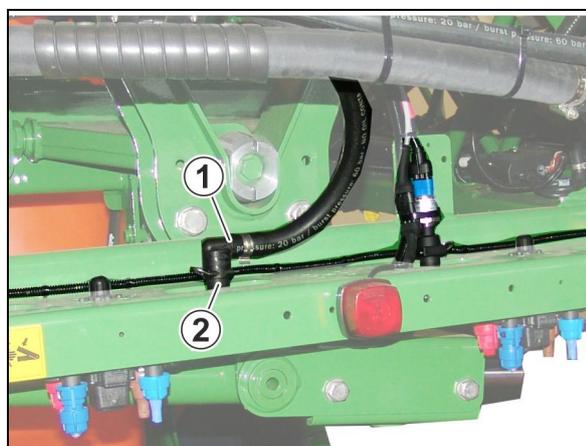
圧力計のテスト

セクションコントロール

1. 任意の散布ラインをブームセクションバルブから引き出して、ブラインドホース (注文番号 : 1166060) で閉じます。
2. ソケットを用いて、圧力計接続部をブームセクションバルブに接続します。
3. めねじの中に 1/4 インチの点検用ゲージをねじ込みます。
4. 散布を ON にします。

個別ノズル切り替え DUS pro

1. 圧力センサー横のリターンライン (1) を引き抜いて、ブラインドホース (注文番号 : 1166060) で閉じます。
2. 圧力計接続部 (注文番号 : 7107000) を散布ライン (2) と接続します。
3. めねじの中に 1/4 インチの点検用ゲージをねじ込みます。
4. 散布を ON にします。



14.14 上側リンクピンおよび下側リンクピンのチェック



危険！

機械がトラクターから不意に離れる場合、つぶれ、閉じ込め、挟まれおよび衝撃の危険があります。

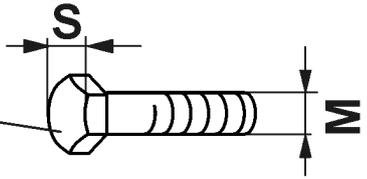
交通安全上の理由から、損傷した上側リンクピンおよび下側リンクピンは直ちに交換してください。

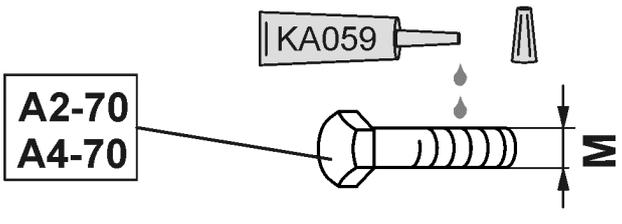
上側リンクピンおよび下側リンクピンの点検基準

- ・ 亀裂がないか目視検査
- ・ 破損がないか目視検査
- ・ 変形した状態にないか目視検査
- ・ 摩耗の目視検査と測定。許容される摩耗は 2 mm です。
- ・ ボールスリーブの摩耗を目視検査
- ・ 必要に応じて：取り付けボルトが緩んでいないかチェック

摩耗基準を満たしている場合は、上側リンクピンまたは下側リンクピンを交換します。

14.15 ボルト締め付けトルク

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 8.8 10.9 12.9 </div> 		 Nm		
M	S	8.8	10.9	12.9
M 8	13	25	35	41
M 8x1		27	38	41
M 10	16 (17)	49	69	83
M 10x1		52	73	88
M 12	18 (19)	86	120	145
M 12x1.5		90	125	150
M 14	22	135	190	230
M 14x1.5		150	210	250
M 16	24	210	300	355
M 16x1.5		225	315	380
M 18	27	290	405	485
M 18x1.5		325	460	550
M 20	30	410	580	690
M 20x1.5		460	640	770
M 22	32	550	780	930
M 22x1.5		610	860	1050
M 24	36	710	1000	1200
M 24x2		780	1100	1300
M 27	41	1050	1500	1800
M 27x2		1150	1600	1950
M 30	46	1450	2000	2400
M 30x2		1600	2250	2700



M	M4	M5	M6	M8	M10	M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
 Nm	2,4	4,9	8,4	20,6	40,7	70,5	112	174	242	342	470	589



コーティングされたねじの締付けトルクは異なります。
メンテナンスの章にある締付けトルクについての特別な指定を遵守してください。

14.16 スプレーヤーの廃棄



スプレーヤーは廃棄する前に、（内側と外側の）全体を入念に清掃してください。

次の部品はエネルギーの再生利用*に回せます：散布液タンク、混入容器、洗浄水タンク、清浄水タンク、ホース、プラスチック製付属品。

金属部品は廃棄できます。

個々の材質の廃棄について定めた各法規則に従ってください。

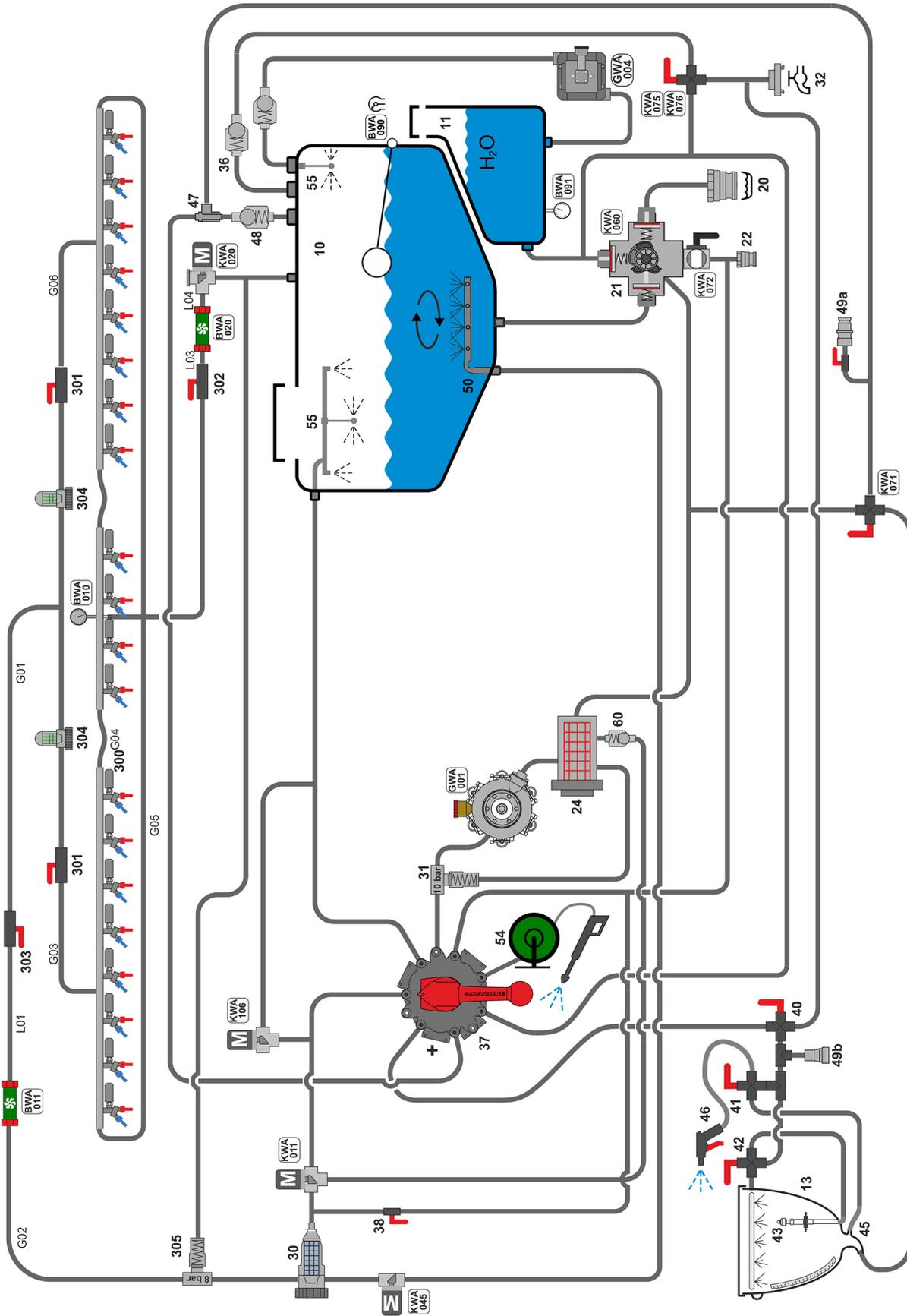
* エネルギーの再生利用は、

燃焼することでプラスチックに含まれたエネルギーを回収し、同時にこのエネルギーを使用して電力および / または蒸気やプロセス加熱を得るためのものです。エネルギー再生利用は、複数の材質からなる汚れたプラスチック（特に汚染物質に接触したプラスチック）に適しています。

15 液体回路

番号	説明
BWA010	散布ラインの圧力
BWA011	散布ラインの流量センサー
BWA020	リターン流量センサー
BWA090	散布液タンクの充填レベル
BWA091	充填レベルリンス水タンク
GWA001	散布液ポンプ
GWA002	攪拌ポンプ
GWA004	洗浄水ポンプ
KWA011	散布量制御バルブ
KWA020	リターン流量制御バルブ
KWA040	補助アジテーターバルブ
KWA060	吸引栓バルブ
KWA071	インジェクタ制御バルブ
KWA072	メインタンク排出制御バルブ
KWA075	制御バルブ散布液タンク 圧力充填
KWA076	清浄水タンク制御バルブ圧力充 填
KWA085	制御バルブスプレーライン前方
KWA086	制御バルブ後部へのスプレーラ イン
KWA106	制御バルブ内部清掃
KWA 201-211	ブームセクションバルブ 1-11
KWA230	圧力制御バルブ DUS

個別ノズル切り替え / 洗浄水ポンプ



16 散布表

16.1 各種ノズル（フラットファン、ドリフト防止、インジェクタ、空気混合の各タイプ）についての散布表、散布高さ 50 cm



- 散布表に記載されている散布量[L/ha]は、水にのみ有効です。記載の散布量を AUS 向けに変換するには 0.88 を、NP 溶液向けに変換するには 0.85 を乗じてください。
- 図は、適切なノズルタイプを選択するためのものです。ノズルタイプは以下のものによって決めます。
 - 意図する走行速度
 - 必要な散布量および
 - 必要な農薬の微粒化特性（微細な液滴、中程度の液滴、粗い液滴）
- 図は以下のために用いられます。
 - ノズルサイズの決定
 - 必要な散布圧の決定
 - スプレーヤーの較正のための必要な個別のノズル出力の決定

各種ノズルタイプおよびサイズの許容圧力範囲

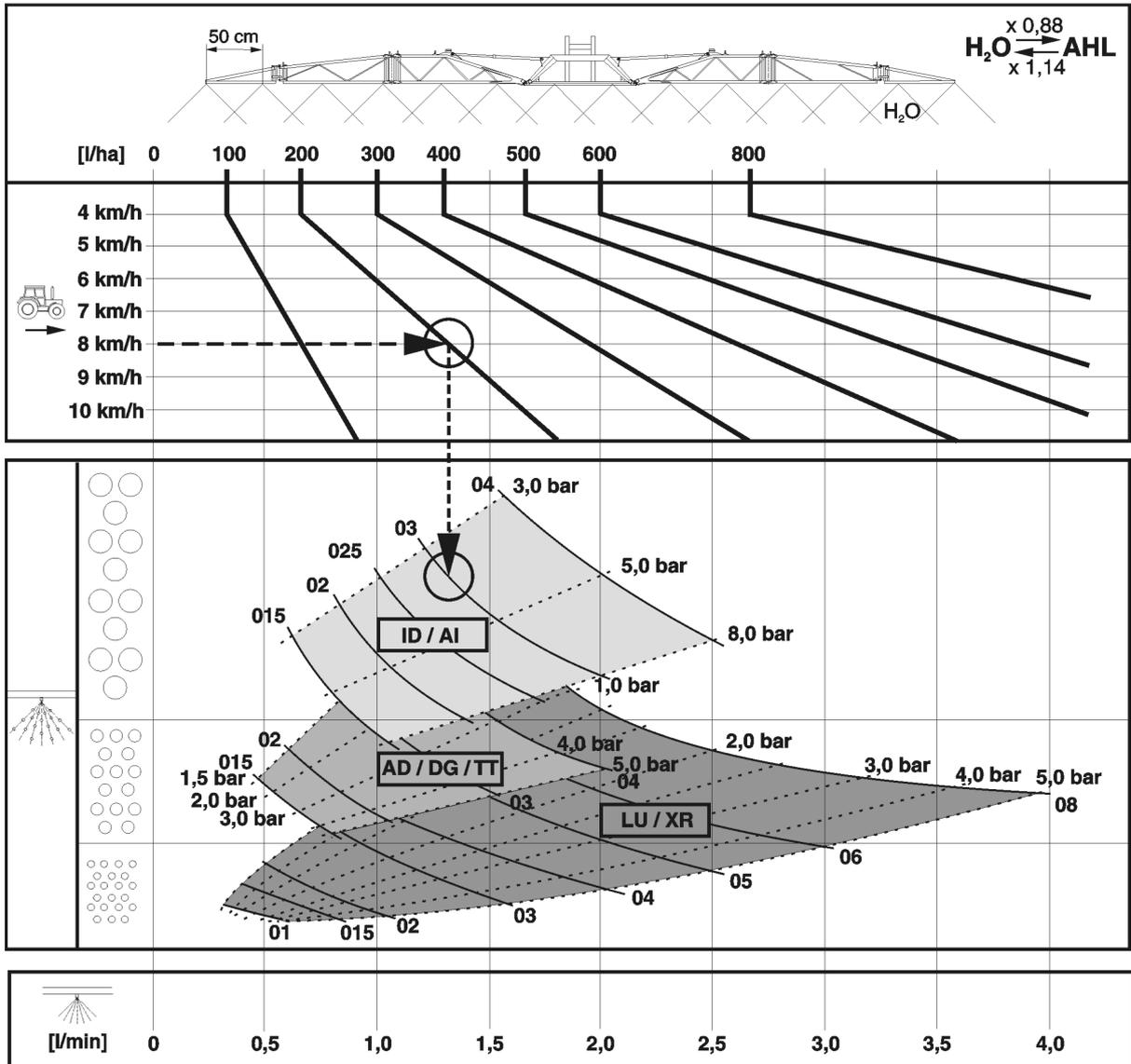
ノズルタイプ	メーカー	許容圧力範囲[bar]	
		最小圧力	最大圧力
XRC	TeeJet	1	5
AD	Lechler	1.5	5
Air Mix	agrotop	1	6
Air Mix OC		2	4
IDK / IDKN	Lechler	1	6
ID3 0.1-0,15		3	8
ID3 0.2-0,8		2	8
AI	TeeJet	2	8
TTI		1	7
AVI Twin	agrotop	2	8
TD Hi Speed	agrotop	2	10



ノズル特性の詳細については、ノズルメーカーのウェブサイトをご参照してください。

www.agrotop.com / www.lechler-agri.de / www.teejet.com

ノズルタイプの選択



例：

必要な散布量：	200 L/ha
意図する走行速度：	8 km/h
必要な農薬の微粒化特性：	粗い液滴 (少ないドリフト)
必要なノズルタイプ：	?
必要なノズルサイズ：	?
必要な散布圧：	? bar
スプレーヤーの校正のための必要な個別のノズル出力：	? L/min

ノズルタイプ、ノズルサイズ、散布圧および個別のノズル出力の決定

1. 必要な散布量 (200 L/ha) と意図する走行速度 (8 km/h) のために、動作点を決めます。
2. 下げ振りなどを使用して、動作点から垂直な線を下に引きます。基準点の位置に応じて、この線は各種ノズルタイプの特性図を通ります。
3. 必要な噴霧特性 (小さな / 中程度の / 大きな液滴) を踏まえて、実施する作物保護手段に最も適したノズルタイプを選択してください。

上の例で選択したノズル:

ノズルタイプ: AI または ID

4. 散布表に切り替えます。
5. 意図する走行速度 (8 km/h) の列で、必要な散布量 (200 L/ha) または必要な散布量に最も近い数字 (ここでは例えば 195 L/ha) を探します。
6. 必要な散布量 (195 L/ha) の行で、
 - o 該当するノズルサイズを読み取ります。適切なノズルサイズを選択します (例: 「03」)。
 - o このノズルサイズの列と、必要な散布量の行とが交わる場所で、必要な散布圧を読み取ります (この例では 3.7 bar)。
 - o スプレーヤーの較正のための必要な個別のノズル出力を読み取ります (1.3 L/min)。

必要なノズルタイプ:	AI / ID
必要なノズルサイズ:	'03'
必要な散布圧:	3.7 bar
スプレーヤーの較正のための必要な個別のノズル出力:	1.3 L/min

16.2 液体肥料向けの散布ノズル

ノズルタイプ	メーカー	許容圧力範囲[bar]	
		最小圧力	最大圧力
3 ジェット	agrotop	2	8
7 穴	TeeJet	1.5	4
FD	Lechler	1.5	4
ドラッグホース	AMAZONE	1	4

16.2.1 3 線ノズルについての散布表、散布高さ 120 cm

AMAZONE - 3 線ノズル（黄色）の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 水 AUS (L/min)		AUS 散布量 (L/ha)								
			km/h								
			6	7	8	9	10	11	12	14	16
1.0	0.36	0.32	64	55	48	43	39	35	32	28	24
1.2	0.39	0.35	69	60	52	47	42	38	35	30	26
1.5	0.44	0.39	78	67	59	53	47	43	39	34	30
1.8	0.48	0.42	85	73	64	57	51	47	43	37	32
2.0	0.50	0.44	88	75	66	59	53	48	44	38	33
2.2	0.52	0.46	92	78	69	62	55	50	46	39	35
2.5	0.55	0.49	98	84	74	66	57	54	49	52	37
2.8	0.58	0.52	103	88	77	69	62	56	52	44	39
3.0	0.60	0.53	106	91	80	71	64	58	53	46	40

AMAZONE - 3 線ノズル (赤色) の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力		AUS 散布量 (L/ha)								
	水 (L/min)	AUS (L/min)	6	7	8	9	10	11	12	14	16
1.0	0.61	0.54	108	93	81	72	65	59	54	47	41
1.2	0.67	0.59	118	101	88	78	70	64	59	51	44
1.5	0.75	0.66	132	114	99	88	79	72	66	57	50
1.8	0.79	0.69	138	119	104	92	83	76	69	60	52
2.0	0.81	0.71	142	122	107	95	85	78	71	61	54
2.2	0.84	0.74	147	126	111	98	88	80	74	63	56
2.5	0.89	0.78	155	133	117	104	93	84	78	67	59
2.8	0.93	0.82	163	140	122	109	98	87	82	70	61
3.0	0.96	0.84	168	144	126	112	101	92	84	72	63

AMAZONE - 3 線ノズル (青色) の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力		AUS 散布量 (L/ha)								
	水 (L/min)	AUS (L/min)	6	7	8	9	10	11	12	14	16
1.0	0.86	0.76	152	130	114	101	91	83	76	65	57
1.2	0.94	0.83	166	142	124	110	99	91	83	71	62
1.5	1.05	0.93	186	159	140	124	112	102	93	80	70
1.8	1.11	0.98	196	167	147	131	117	107	98	84	74
2.0	1.15	1.01	202	173	152	135	121	110	101	87	76
2.2	1.20	1.06	212	182	159	141	127	116	106	91	80
2.5	1.26	1.12	224	192	168	149	135	122	112	96	84
2.8	1.32	1.17	234	201	176	156	141	128	117	101	88
3.0	1.36	1.20	240	206	180	160	144	131	120	103	90

散布表

AMAZONE - 3線ノズル（白色）の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力		AUS 散布量 (L/ha)								
	水 (L/min)	AUS (L/min)	6	7	8	9	10	11	12	14	16
1.0	1.16	1.03	206	177	155	137	124	213	103	89	78
1.2	1.27	1.12	224	192	168	149	134	222	112	96	84
1.5	1.42	1.26	252	217	190	168	151	138	126	109	95
1.8	1.56	1.38	277	237	207	184	166	151	139	119	104
2.0	1.64	1.45	290	249	217	193	174	158	145	125	109
2.2	1.73	1.54	307	263	230	204	185	168	154	132	115
2.5	1.84	1.62	325	279	244	216	195	178	163	140	122
2.8	1.93	1.71	342	293	256	228	205	187	171	147	128
3.0	2.01	1.78	356	305	267	237	214	194	178	153	134

16.2.2 7穴ノズルの散布表

AMAZONE 7穴ノズル SJ7-02VP（黄色）の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS 散布量 (L/ha)								
	水 (L/min)	AUS (L/min)	6	7	8	9	10	11	12	14	16
1.5	0.55	0.49	98	84	74	65	59	53	49	42	37
2.0	0.64	0.57	114	98	86	76	68	62	57	49	43
2.5	0.72	0.64	128	110	96	85	77	70	64	55	48
3.0	0.80	0.71	142	122	107	95	85	77	71	61	53
3.5	0.85	0.75	150	129	113	100	90	82	75	64	56
4.0	0.93	0.82	164	141	123	109	98	89	82	70	62

AMAZONE 7穴ノズル SJ7-03VP（青色）の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS 散布量 (L/ha)								
	水 (L/min)	AUS (L/min)	6	7	8	9	10	11	12	14	16
1.5	0.87	0.77	154	132	116	103	92	84	77	66	58
2.0	1.00	0.88	176	151	132	117	106	96	88	75	66
2.5	1.10	0.97	194	166	146	129	116	106	97	83	73
3.0	1.18	1.04	208	178	156	139	125	113	104	89	78
3.5	1.27	1.12	224	192	168	149	134	122	112	96	84
4.0	1.31	1.16	232	199	174	155	139	127	116	99	87

AMAZONE 7 穴ノズル SJ7-04VP (赤色) の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS 散布量 (L/ha)								
	水 (L/min)	AUS (L/min)	6	7	8	9	10	11	12	14	16
1.5	1.17	1.04	208	178	156	139	125	113	104	89	78
2.0	1.33	1.18	236	202	177	157	142	129	118	101	89
2.5	1.45	1.28	256	219	192	171	154	140	128	110	96
3.0	1.55	1.37	274	235	206	183	164	149	137	117	103
3.5	1.66	1.47	295	253	221	196	177	161	147	126	110
4.0	1.72	1.52	304	261	228	203	182	166	152	130	114

AMAZONE 7 穴ノズル SJ7-05VP (茶色) の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS 散布量 (L/ha)								
	水 (L/min)	AUS (L/min)	6	7	8	9	10	11	12	14	16
1.5	1.49	1.32	264	226	198	176	158	144	132	113	99
2.0	1.68	1.49	298	255	224	199	179	163	149	128	112
2.5	1.83	1.62	324	278	243	216	194	177	162	139	122
3.0	1.95	1.73	346	297	260	231	208	189	173	148	130
3.5	2.11	1.87	374	321	281	249	224	204	187	160	140
4.0	2.16	1.91	382	327	287	255	229	208	191	164	143

AMAZONE 7 穴ノズル SJ7-06VP (灰色) の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS 散布量 (L/ha)								
	水 (L/min)	AUS (L/min)	6	7	8	9	10	11	12	14	16
1.5	1.77	1.57	314	269	236	209	188	171	157	135	118
2.0	2.01	1.78	356	305	267	237	214	194	178	153	134
2.5	2.19	1.94	388	333	291	259	233	212	194	166	146
3.0	2.35	2.08	416	357	312	277	250	227	208	178	156
4.0	2.61	2.31	562	396	347	308	277	252	231	198	173

散布表

AMAZONE 7 穴ノズル SJ7-08VP (白色) の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS 散布量 (L/ha)								
	水 (L/min)	AUS (L/min)	6	7	8	9	10	11	12	14	16
1.5	2.28	2.02	404	346	303	269	242	220	202	173	152
2.0	2.66	2.35	470	403	353	313	282	256	235	201	176
2.5	2.94	2.60	520	446	390	347	312	284	260	223	195
3.0	3.15	2.79	558	478	419	372	335	304	279	239	209
4.0	3.46	3.06	612	525	459	408	367	334	306	262	230

16.2.3 FD ノズルの散布表

AMAZONE FD-04 ノズルの散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS 散布量 (L/ha)								
	水 (L/min)	AUS (L/min)	6	7	8	9	10	11	12	14	16
1.5	1.13	1.00	200	171	150	133	120	109	100	86	75
2.0	1.31	1.15	230	197	173	153	138	125	115	99	86
2.5	1.46	1.29	258	221	194	172	155	141	129	111	97
3.0	1.60	1.41	282	241	211	188	169	154	141	121	106
4.0	1.85	1.63	326	279	245	217	196	178	163	140	122

AMAZONE FD-05 ノズルの散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS 散布量 (L/ha)								
	水 (L/min)	AUS (L/min)	6	7	8	9	10	11	12	14	16
1.5	1.41	1.24	248	213	186	165	149	135	124	106	93
2.0	1.63	1.44	288	247	216	192	173	157	144	123	108
2.5	1.83	1.61	322	276	242	215	193	176	161	138	121
3.0	2.00	1.76	352	302	264	235	211	192	176	151	132
4.0	2.31	2.03	406	348	305	271	244	221	203	174	152

AMAZONE FD-06 ノズルの散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS 散布量 (L/ha)								
	水 (L/min)	AUS (L/min)	6	7	8	9	10	11	12	14	16
1.5	1.70	1.49	298	255	224	199	179	163	149	128	112
2.0	1.96	1.72	344	295	258	229	206	188	172	147	129
2.5	2.19	1.93	386	331	290	257	232	211	193	165	145
3.0	2.40	2.11	422	362	317	282	253	230	211	181	158
4.0	2.77	2.44	488	418	366	325	293	266	244	209	183

AMAZONE FD-08 ノズルの散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS 散布量 (L/ha)								
	水 (L/min)	AUS (L/min)	6	7	8	9	10	11	12	14	16
1.5	2.26	1.99	398	341	299	265	239	217	199	171	149
2.0	2.61	2.30	460	394	345	307	276	251	230	197	173
2.5	2.92	2.57	514	441	386	343	308	280	257	220	193
3.0	3.20	2.82	563	483	422	375	338	307	282	241	211
4.0	3.70	3.25	650	557	488	433	390	355	325	279	244

AMAZONE FD-10 ノズルの散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 (ノズルあたり)		AUS 散布量 (L/ha)								
	水 (L/min)	AUS (L/min)	6	7	8	9	10	11	12	14	16
1.5	2.83	2.49	498	427	374	332	299	272	249	214	187
2.0	3.27	2.88	576	494	432	384	345	314	288	246	216
2.5	3.65	3.21	642	551	482	429	385	350	321	275	241
3.0	4.00	3.52	704	604	528	469	422	384	352	302	264
4.0	4.62	4.07	813	697	610	542	488	444	407	348	305

16.2.4 ドラッグホースユニットの散布表

AMAZONE 投与ディスク 4916-26 (直径 0.65 mm) を使用した場合の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力投与 ディスクごと		AUS 散布量 (L/ha)								
	水	AUS (L/min)	6	7	8	9	10	11	12	14	16
			km/h								
1.0	0.20	0.18	71	61	53	47	43	37	36	31	27
1.2	0.22	0.19	78	67	58	52	47	43	39	34	29
1.5	0.24	0.21	85	73	64	57	51	47	43	37	32
1.8	0.26	0.23	92	79	69	61	55	50	46	40	35
2.0	0.28	0.25	99	85	74	66	60	54	50	43	37
2.2	0.29	0.26	103	88	77	68	62	56	52	44	39
2.5	0.31	0.27	110	94	82	73	66	60	55	47	41
2.8	0.32	0.28	113	97	85	76	68	62	57	49	43
3.0	0.34	0.30	120	103	90	80	72	66	60	52	45
3.5	0.36	0.32	127	109	96	85	77	70	64	55	48
4.0	0.39	0.35	138	118	104	92	83	76	69	59	52

AMAZONE 投与ディスク 4916-32 (直径 0.8 mm) を使用した場合の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 投与ディスクごと		AUS 散布量 (L/ha)								
	水	AUS (L/min)	6	7	8	9	10	11	12	14	16
			km/h								
1.0	0.31	0.27	110	94	82	73	66	60	55	47	41
1.2	0.34	0.30	120	103	90	80	72	66	60	52	45
1.5	0.38	0.34	135	115	101	90	81	74	68	58	51
1.8	0.41	0.36	145	124	109	97	87	79	73	62	55
2.0	0.43	0.38	152	130	114	101	92	83	76	65	57
2.2	0.45	0.40	159	137	119	106	96	87	80	69	60
2.5	0.48	0.42	170	146	127	113	102	93	85	73	64
2.8	0.51	0.45	181	155	135	120	109	98	91	78	68
3.0	0.53	0.47	188	161	141	125	113	103	94	81	71
3.5	0.57	0.50	202	173	151	135	121	110	101	87	76
4.0	0.61	0.54	216	185	162	144	130	118	108	93	81

AMAZONE 投与ディスク 4916-39 (直径 1.0 mm) (標準) を使用した場合の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 投与ディスクごと		AUS 散布量 (L/ha)								
	水 (L/min)	AUS (L/min)	6	7	8	9	10	11	12	14	16
1.0	0.43	0.38	153	131	114	101	92	84	77	66	57
1.2	0.47	0.41	167	143	124	110	100	91	84	72	62
1.5	0.53	0.47	187	160	141	126	112	102	94	80	71
1.8	0.58	0.51	204	175	154	137	122	112	102	88	77
2.0	0.61	0.53	216	185	162	144	130	118	108	93	81
2.2	0.64	0.56	227	194	170	151	136	124	114	97	85
2.5	0.68	0.59	240	206	180	160	142	132	120	103	90
2.8	0.71	0.62	251	215	189	168	151	137	126	108	95
3.0	0.74	0.64	262	224	197	175	158	143	131	112	99
3.5	0.79	0.69	280	236	210	186	168	153	140	118	105
4.0	0.85	0.74	302	259	226	201	181	165	151	130	113

AMAZONE 投与ディスク 4916-45 (直径 1.2 mm) を使用した場合の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 投与ディスクごと		AUS 散布量 (L/ha)								
	水 (L/min)	AUS (L/min)	6	7	8	9	10	11	12	14	16
1.0	0.57	0.50	202	173	151	135	121	110	101	87	76
1.2	0.62	0.55	219	188	165	146	132	120	110	94	83
1.5	0.70	0.62	248	212	186	165	149	135	124	106	93
1.8	0.77	0.68	273	234	204	182	164	148	137	117	102
2.0	0.81	0.72	287	246	215	192	172	157	144	123	108
2.2	0.86	0.76	304	261	228	203	183	166	152	131	114
2.5	0.92	0.81	326	279	244	217	196	178	163	140	122
2.8	0.96	0.85	340	291	255	227	204	186	170	146	128
3.0	1.00	0.89	354	303	266	236	213	193	177	152	133
3.5	1.10	0.97	389	334	292	260	234	213	195	167	146
4.0	1.16	1.03	411	352	308	274	246	224	206	176	154

散布表

AMAZONE 投与ディスク 4916-55 (直径 1.4 mm) を使用した場合の散布表

圧力 (bar)	ノズル出力 投与ディスクごと		AUS 散布量 (L/ha)								
	水 (L/min)	AUS (L/min)	6	7	8	9	10	11	12	14	16
1.0	0.86	0.76	304	261	228	203	183	166	152	131	114
1.2	0.93	0.82	329	282	247	219	198	180	165	141	124
1.5	1.05	0.93	372	319	278	248	223	203	186	160	139
1.8	1.15	1.02	407	349	305	271	245	222	204	175	153
2.0	1.22	1.08	432	370	324	288	259	236	216	185	162
2.2	1.27	1.12	450	385	337	300	270	245	225	163	168
2.5	1.35	1.19	478	410	358	319	287	261	239	205	179
2.8	1.43	1.27	506	434	380	337	304	276	253	217	190
3.0	1.47	1.30	520	446	390	347	312	284	260	223	195
3.5	1.59	1.41	563	482	422	375	338	307	282	241	211
4.0	1.69	1.50	598	513	449	399	359	327	299	257	225

16.3 硝酸アンモニウム/尿素溶液 (AUS) 液体肥料噴霧換算表

(濃度 1.28 kg/L、すなわち液体肥料 100 kg につき約 28 kg の N (窒素)、または液体肥料 100 L あたり 36 kg の N、ただし 510° C 時)

窒素 kg	窒素溶液 L														
10	27.8	35.8	52	144.6	186.0	94	261.2	335.8	136	378.0	485.0				
12	33.3	42.9	54	150.0	193.0	96	266.7	342.7	138	384.0	493.0				
14	38.9	50.0	56	155.7	200.0	98	272.0	350.0	140	389.0	500.0				
16	44.5	57.1	58	161.1	207.3	100	278.0	357.4	142	394.0	507.0				
18	50.0	64.3	60	166.7	214.2	102	283.7	364.2	144	400.0	515.0				
20	55.5	71.5	62	172.3	221.7	104	285.5	371.8	146	406.0	521.0				
22	61.6	78.5	64	177.9	228.3	106	294.2	378.3	148	411.0	529.0				
24	66.7	85.6	66	183.4	235.9	108	300.0	386.0	150	417.0	535.0				
26	75.0	92.9	68	188.9	243.0	110	305.6	393.0	155	431.0	554.0				
28	77.8	100.0	70	194.5	250.0	112	311.1	400.0	160	445.0	572.0				
30	83.4	107.1	72	200.0	257.2	114	316.5	407.5	165	458.0	589.0				
32	89.0	114.2	74	204.9	264.2	116	322.1	414.3	170	472.0	607.0				
34	94.5	121.4	76	211.6	271.8	118	328.0	421.0	175	486.0	625.0				
36	100.0	128.7	78	216.5	278.3	120	333.0	428.0	180	500.0	643.0				
38	105.6	135.9	80	222.1	285.8	122	339.0	436.0	185	514.0	660.0				
40	111.0	143.0	82	227.9	292.8	124	344.0	443.0	190	527.0	679.0				
42	116.8	150.0	84	233.3	300.0	126	350.0	450.0	195	541.0	696.0				
44	122.2	157.1	86	238.6	307.5	128	356.0	457.0	200	556.0	714.0				
46	127.9	164.3	88	242.2	314.1	130	361.0	465.0							
48	133.3	171.5	90	250.0	321.7	132	367.0	471.0							
50	139.0	178.6	92	255.7	328.3	134	372.0	478.0							



AMAZONEN-WERKE

H. DREYER SE & Co. KG

Postfach 51
D-49202 Hasbergen-Gaste
Germany

Tel.: + 49 (0) 5405 501-0
e-mail: amazone@amazone.de
<http://www.amazone.de>

